

# 第1章 研究の全体概要

## I 研究の目的

関西地域（京阪神）の社会文化的特殊性を重視し、それに対応する遠隔教育、とくに、当面その地域の中核を担うであろうと予想される学習センターのあり方を具体的な地域社会を視野にいれながら研究、検討する。

放送大学の全国化、とくに学習センターなどの地域施設の展開にあたっては、その運営形態や設備の内容に関して多様なあり方が検討されなければならないが、そのひとつが地方自治体との連携による学習センターの開設の試みである。本研究では、地方自治体との連携によって、実験的な学習センターを開設し、その運営、実施をとおしてこのような形態による学習センター開設に必要な要件を整理すると同時にその可能性を見極め、実施に必要な具体的なノウハウの獲得を試みるものである。

また、同時に学習センターの地域展開にあたっては、当該地域の地域社会の特性に対する十分な配慮が必要となる。本研究では、実際に放送大学番組ビデオを使用した実験講座を開講し、当該する地域の学習要求・需要に関する十分なニーズ調査を行なうことによって、遠隔高等教育の実現に参与する同地域の社会構造や学習要求の特性、教育インフラストラクチャーの構造とその有効活用の方途を明らかにし、将来の学習センター設置のための基本的条件の析出と手法の検討をおこなう。

地域特性を把握するための学習要求の調査にあたっては、すでに関西地区の一般居住者に対するマス・サンプルによる意識調査が衛星放送利用に関する需要調査が行なわれているので、そのデータを効率的に活用し、分析を進める。

## II 研究の方法

**A** 地元の大学・地方自治体との連携による実験ビデオ学習センターを開講する。原則的にAV装置を完備した既存教育施設を実験の場（3ヶ所程度）とし、ビデオによる放送大学講座の開講（1ヶ所2科目程度）とそれに併せた面接授業（2回程度）を開講し、受講者の反応および地域特性を受講者への集団面接調査等によって明らかにし、今後の検討課題を整理する。対象施設としては、大学・地方公共団体などのAV施設を活用する。

**B** 在関西の学識経験者、放送大学、放送教育開発センター関係者によって構成される研究委員会を組織し、関西地区における遠隔高等教育およびビデオ学習センターのあり方について研究、討議し、提言をおこなう。

研究委員会の下に分析評価委員会をおき、各種調査の設計と分析を行なう。

C 文献調査を行なう。1次データの収集再分析（対象地域における高等教育のインフラストラクチャーと社会・障害教育の歴史と現状に関する基礎的データの収集と分析を行なう。）

D 有識者インタビュー調査を行なう。在関西の教育関係者、学識経験者、経済人、マスコミ関係者、各種社会団体の指導者層に対するキーインフォーマント・インタビュー調査を行ない、関西地域における遠隔高等教育のあり方についての意識、ニーズ、コメントなどの定性的なデータを収集する。なおこの調査は、地元の状況を熟知している在阪研究機関に依頼された。

### Ⅲ 研究組織

#### A 研究参加者（敬称略）

##### ●放送教育開発センター教官

若松 茂 （教授、研究主査）  
山中 速人 （助教授、研究代表者）  
広瀬 洋子 （助教授）

##### ●研究委員

##### 在阪研究者より

麻生 誠 （大阪大学人間科学部学教授・前学部長、座長）  
塩原 勉 （大阪大学人間科学部学部長）  
井上 忠司 （甲南大学教授）  
高田 康孝 （愛知学泉大学教授）  
端 信行 （国立民族学博物館助教授）  
園田 英弘 （日本文化研究センター助教授）  
池田 寛 （大阪大学助教授）

##### 放送大学より

小尾 信弥 （放送大学副学長）

##### 実施協力自治体より

山本 敏秀 （大阪府教育委員会社会教育課主幹）  
正田 吉之 （沼田市教育委員会教育次長）  
小巖 恕久 （尼崎市立中央公民館長）  
八十田和正 （尼崎市立中央公民館長）\*平成元年度に参加されましたが、途中、おしくも急逝されました。

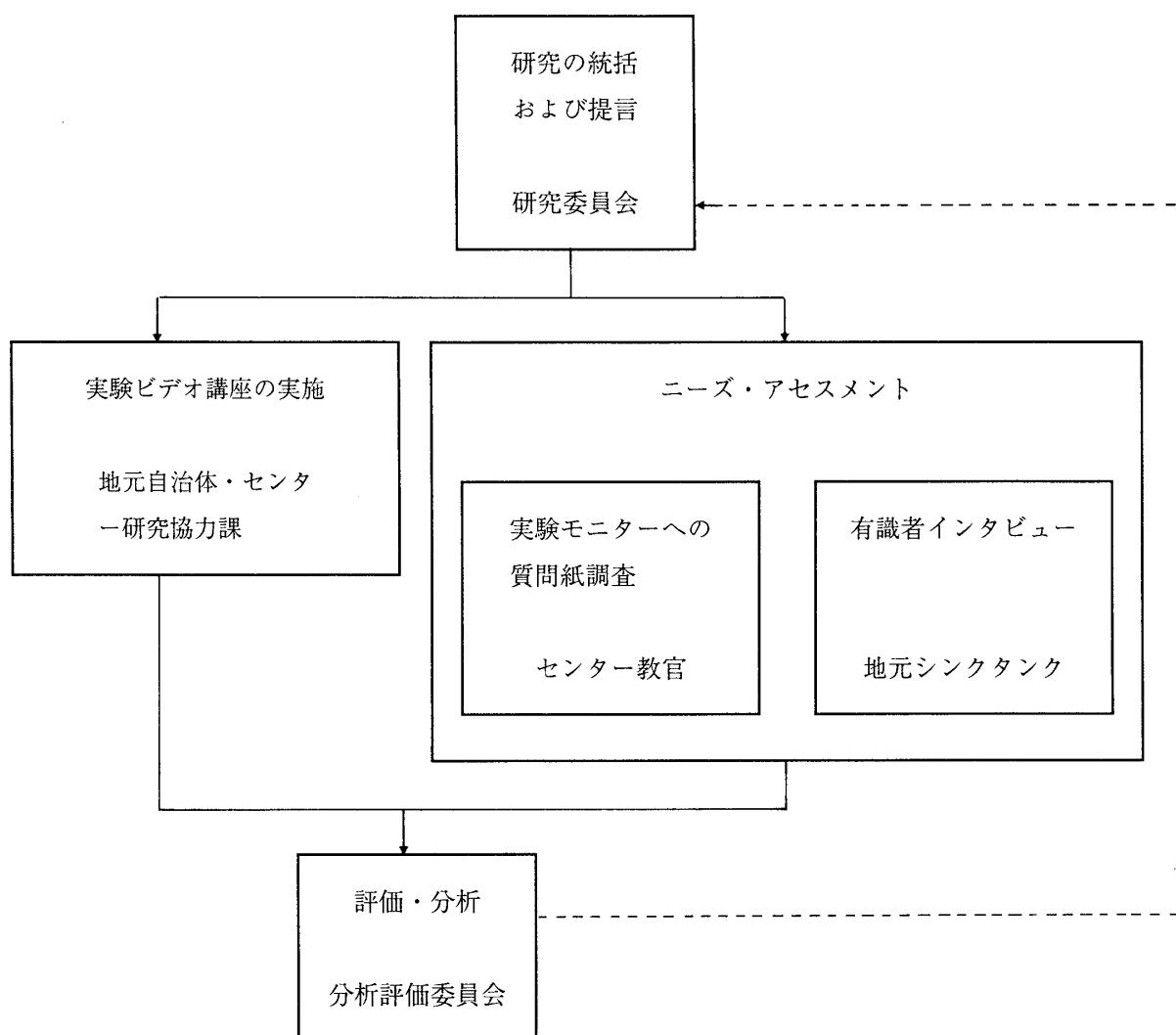
##### ●分析評価委員

高坂 健次 （関西学院大学教授）  
柳原 佳子 （吉備国際大学助教授、元兵庫県家庭問題研究所主任研究員）  
立木 茂雄 （関西学院大学助教授）

## B 組織構成と役割

研究組織は、以下のような構造をもち、研究の統括および最終的な提言の作成は親委員会ともいうべき「研究委員会」が行ない、その下に実験ビデオ講座の実施を担当する協力地方自治体および放送教育開発センター研究協力課連携協力第2係が位置づけられ、また、ニーズアセスメント調査に関しては、放送教育開発センター教官スタッフが担当し、有識者インタビュー調査については、地元シンクタンク（ソーシャルコミュニケーション研究所）が担当した。そして、実験終了後の分析評価に関しては分析評価委員会を別個に組織し、平成2年度の1年間にわたって、分析評価の作業を行なった。

本報告書は、この分析評価委員会の活動によって得られた結果を中心にまとめられている。



## 第2章 「実験ビデオ講座」の研究概要と経過

### I 「実験ビデオ講座」に関する研究概要

本研究プロジェクトの中核として地方自治体との連携による「放送大学番組利用による実験ビデオ講座」を開講し、その運営、評価を通して、関西地域における遠隔高等教育の可能性を模索することが本実験研究の課題であった。

この課題を満たすため、以下のような要領で実験ビデオ講座の開設がはかられた。

#### A ビデオ講座の実施概要

##### 1 開講科目

地球と宇宙（地球編）

地域社会学

##### 2 参加自治体（開講場所）

① 大阪府（府立立文化情報センター）

② 池田市（①生涯教育センター、②中央公民館、市立図書館）

③ 尼崎市（教育総合センター）

##### 3 応募資格

18歳以上

##### 4 期 間

平成元年10月より年末年始を除く15週間

##### 5 学習方法

各科目はビデオテープの放送教材（各15回、1回45分）と印刷教材（テキスト）からなり、視聴期間内に放送教材を各科目ごとに決められた時間に視聴（定時視聴）するとともに、貸与される印刷教材を使って学習する。定時視聴を見逃した受講者には、個別視聴も可能。視聴および印刷教材の貸与は無償。

##### 6 面接講義

講座の理解をより深めるため、専門の講師による面接講義を途中2回開講。

##### 7 オリエンテーション

開講にあたって、放送教材による学習の特徴や学習方法のポイントなどについて、より深く理解するため、2科目共通のオリエンテーションを行なう。

##### 8 受講認定証

ビデオ講座への60パーセント以上の出席率と2回の面接講義への出席数を満たした受講者に対して、当放送教育開発センターが発行する受講認定書を授与する。

##### 9 募集人員

- 募集：各科目35～40名、

## B 調査項目・変数群

つぎに、今回の調査研究において分析の対象とする変数・項目を以下のようなものに設定した。

### 1 属性

01.性別、02.年齢、03.受講地、04.受講科目、05.職業、06.学歴、07.家族構成、08.生活レベル

### 2 先有傾向

09.動機・目的、10.期待、11.情報ソース、12.他の生涯学習機会への参加経験

### 3 実験後評価

#### ①学習過程

13.ビデオ視聴頻度、14.視聴パターン（定時：随時：集団：個別）、15.面接講義出席、16.補助面接授業への出席（池田市）、17.予習・復習の程度  
18.参加者間の交流の有無

#### ②運営過程

19.募集方法の効果、20.会場立地の利便性、21.オリエンテーションの効果、22.開講時間（利用の利便性、定時再生頻度）、23.個別視聴機器の操作度、24.対人サービス

#### ③学習効果

25.ビデオ内容評価（学生科目評価調査と共通項目）  
26.面接講義評価（放送大学学生意識調査と共通項目）  
27.期待の達成度、28.成績

#### ④その他

29.将来の放送大学への入学意志

そして、これらの項目を明らかにするため、実験終了後に①受講者を対象とする質問紙調査、②実施協力地方自治体担当者に対する面接調査、③面接講義担当講師に対する聞き取り調査を行なうこととした。

## II 実験実施概況

実験講座は、1989年10月第1週より開始され、翌年2月に終了した。この実験ビデオ講座に対して、各自治体ごとに登録者、修了者を集計したのが7頁の表である。応募者に関しても当初の予定をほぼ満たす人数が確保できた。とくに池田市では、2クラスが開設され、きわめて高い関心と呼んだ。

以下、各自治体でのとりくみを概略する。

## A 各自治体の募集概要と実施状況

### 1 大阪府立文化情報センター

大阪府立文化情報センターでは、同センターにおける他の講座とまったく同等の条件で本ビデオ講座を開講することを基本的な前提として実験が行なわれた。ただ、実験に先だっては、資料1のようなプレスリリースを府庁の記者クラブを通じて配布し、募集の徹底をはかった。このパブリシティ活動に対し、毎日新聞が同紙紙面で、本ビデオ講座の開講について報道した。(資料2)しかし、予定していた府広報紙への掲載に関しては、8月が休刊月にあたるため、掲載することができなかった。

募集の要項としては、資料3のような資料が配布された。

### 2 池田市

池田市に関しては、応募が多数を予想されたため、会場が2ヶ所開設された。池田市におけるビデオ講座の実施要領は資料4に示すとおりである。また、受講者の学習参加を促進するため、面接講義の回数を5回に増やす一方、ビデオ視聴後のディスカッションを担当者が司会をつとめながら実施するなど、独自の取り組みが行なわれた。

資料5は、開講を報じる新聞記事の文面である。

開講後の受講状況は資料6の通りである。

また、同市独自で今後の受講希望を調査するためのアンケートを実施するなど、意欲的な取り組みが進められた。(資料7)

### 3 尼崎市

尼崎市に関しては、尼崎市立教育センターを会場に実施された。資料8は、募集時に配布された要項と開講日程である。尼崎市でも、受講者の動機づけを高めるため、放送教育開発センターからの面接講師以外に、各回ごとにチューターを依頼し、ビデオ教材の視聴の前後、内容を補足したり、質問や疑問に回答するなど、きめ細かな対応がとられた。

資料9は、尼崎市の実施担当者によって記録された受講回ごとに出席率がどのように変動したかを示す資料である。このような出席率調査を並行して実施することによって、参加促進の対策が採られた。

最後に、資料10は、尼崎市でのビデオ講座開講を報じる新聞記事の文面である。

## B 応募者／修了者数の比較

講座に登録を行なった受講者と修了の認定を受けることができた修了者は以下の通りである。

	応募者		修了者	
	地球と宇宙	地域社会学	地球と宇宙	地域社会学
大阪府	45	41	34	25
池田市①	30	37	24	36
②	45	36	29	28
尼崎市	36	37	25	26
のべ総数	156	151	112	115
総数	312		227	

## 資料 1

報道資料提供

教育記者クラブ 同時提供  
府政記者クラブ  
豊中記者クラブ  
尼崎記者クラブ 8/17(13:30)

問い合わせ先  
社会教育課 山本、根本  
TEL 3464

# 放送大学実験ビデオ講座受講生募集

## —大阪地域で初めて開講—

○ 放送教育開発センター（国立の大学共同利用機関）は、このたび、関西の地方公共団体と共同で放送大学のビデオ番組を使った実験講座を開き、生涯学習に関する地域特性やニーズを調査研究することになりました。

放送大学は、広く社会人や家庭婦人に大学教育の機会を提供するため、生涯学習機関として設置されたが、放送が受診できる関東地域以外の人々は放送大学で学ぶ機会がありません。

大阪府教育委員会では、池田市、尼崎市とともに、生涯学習時代にふさわしい企画として、放送教育開発センターの事業に協力し、放送大学への関心を高めていただこうと考え、この講座を開講することとし受講生を募ることになりました。

- 1 開講科目 ①「地域社会学」地域社会の歴史・構造について考える。  
②「地球と宇宙（地球編）」宇宙の一員としての地球について考える。
- 2 開講機関 10月初旬から翌年2月19日までの5ヶ月間  
この間にビデオ視聴15回と面接授業2回を受講し、アンケート調査に答える。
- 3 開講時間（開催場所異なる） 府立文化情報センターの場合、火曜日または木曜日の午後6時30分及び7時30分からの45分間。
- 4 受講料 無料。受講者には、テキストを無償配布し、規定の回数以上を受講した者には認定証を授与する。
- 5 応募資格 18歳以上の者であればだれでも応募できる。
- 6 応募方法 応募の方は（大阪府立文化情報センター）に問い合わせること。  
池田市教育委員会生涯教育推進室  
尼崎市立中央公民館

○ 応募機関、応募方法、問合せ先

[大阪府立文化情報センターの場合]

平成元年8月21日（月）～9月18日（月）の間に往復はがきに

①氏名②住所・電話番号③職業④生年月日⑤受講科目（複数科目の受講も可）

をご記入のうえ下記にお送りください。なお返信用はがきに住所、氏名の記載をお願いします。

\*募集人員 各科目35人 受講者の決定は先着順とします。

\*大阪府立文化情報センタービデオ講座担当（TEL 06-444-1011）

〒530 大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル5階

[池田市、尼崎市の施設の場合]

平成元年9月5日（火）～20日（水）の間にそれぞれの施設に直接申し込んでください。

\*池田市教育委員会生涯教育推進室（TEL 0727-51-1111内線436）

池田市城南1-1-1

\*尼崎市立中央公民館ビデオ講座担当（TEL 06-482-1750）

尼崎市西難波町6-14-34



## 放送大学講座 ビデオ使い開始

大阪府など10月から

放送大学(本部・千葉市)

の番組を制作、研究している  
放送教育開発センター(同)

と、大阪府、池田市、尼崎市  
各教委は十七日、生涯教育審

組のビデオを使った講座を今  
年十月から来年二月まで計四  
カ所で開設すると発表した。

放送大学の番組受信は関東地  
域に限られており、関西の社  
会人や主婦らにも学ぶ機会を  
提供しようという狙い。

開講場所は大阪府立文化情  
報センター(大阪市北区中之

島三の二)▽池田市生涯教育  
センター(池田市天神一の九)

▽同市中央公民館(同市菅原  
町一の二)▽尼崎市立教育機  
関センター(尼崎市三反田町

一の二)。週一、二回開講場  
所に集まり番組のビデオ(四  
十五分)やテキストで学習。

同様の講座は関東以外では  
広島県内で二カ所あるだけ。  
この講座で放送大学への関心  
を高め、平成九年度までに

関西地域での放送大学の視聴を  
目指したいとしている。

受講は十八歳以上で、無料。

募集人員は各科目三十五人。

応募は大阪府立文化情報セン

ターの場合は二十一日から来

月十八日の間に在校はがきで

住所(氏名、生年月日、職業、  
電話番号、受講科目を書いて

同センター(06・444・

1011)まで。池田市内二

カ所は来月二十日に同市

教委(0727・522・11

11内線436)に、尼崎

市の場合は同期間に同市立

中央公民館(08・482

・1750)に電話で申し  
込む。

(毎日新聞  
8/18付)

資料3

「放送大学番組による実験ビデオ講座受講生募集要項」

放送教育開発センターは、放送を利用した教育の内容方法等について研究・開発を行っている国立の大学共同利用機関です。このたび、関西の地方公共団体と共同で放送大学のビデオ番組を使った実験講座を開き、生涯学習に関する地域特性やニーズを調査研究することになりました。

広く社会人や家庭婦人に大学教育の機会を提供するため生涯学習機関として設置された放送大学では、現在26,000人余りが学んでいますが、放送が受信できる関東地域以外の人々は、放送大学で学ぶ機会がありません。そのため、放送大学では受講できる地域を拡大する努力を続けてきています。放送大学と緊密な連携のもとに研究・開発を進めている放送教育開発センターとしては、この実験ビデオ講座の開催を契機に、関西地域の皆様に放送大学への関心を高めていただきたいと考えています。

生涯学習に興味のある方や開講料に関心をお持ちの皆様の応募をお待ちしております。

記

- 1 主催 放送教育開発センター、大阪府教育委員会、池田市、池田市教育委員会、尼崎市・尼崎市教育委員会
- 2 開講科目 ①地域社会学（主任講師 放送大学客員教授、放送教育開発センター所長 加藤秀俊）  
②地球と宇宙（地球編）（主任講師 放送大学教授 奈須紀幸、放送大学副学長 小尾信彌）
- 3 募集人員 各施設とも1科目35名（定員になり次第締め切ることがありますので、お早めにお申し込みください）
- 4 応募資格 18歳以上の方ならどなたでも応募できます。

開講場所	大阪府立文化情報センター	池田市生涯教育センター 池田市中央公民館 (池田市立図書館)	尼崎市立教育総合センター
開講機関	平成元年10月5日(木) ↓ 平成2年2月19日(月)	平成元年10月6日(金) ↓ 平成2年2月19日(月)	平成元年10月4日(水) ↓ 平成2年2月19日(月)
開講時間	定時視聴(裏面の日程のとおり) 個別視聴(自由視聴) 10:00~21:00 10:00~17:00(土曜・祝日) 日曜、年末年始は休みます	定時視聴(裏面の日程のとおり、 生涯教育センター、中央公民館で) 個別視聴(自由視聴) 市立図書館で行います 図書館の開館日(10:00~18:00)	定時視聴(裏面の日程のとおり)

- 6 学習方法
  - ・各科目は、ビデオテープの放送教材(1回45分、15回)と印刷教材(テキスト)からなっており、放送教材を決められた時間に視聴(定時視聴)するとともに、配布される印刷教材を使って学習します。
  - ・定時視聴当日都合のつかない場合は、個別に視聴(自由視聴)することもできます。
  - ・定時視聴等の日程は裏面のとおりです。
- 7 面接講義  
講座の理解を深めるため、専門の講師による面接講義を期間の半ばに2回開催します。
- 8 受講料  
無料(なお、印刷教材(テキスト)は、無償で配布されます。)
- 9 オリエンテーション  
開講に当たって、放送教材による学習の特徴や学習方法のポイント、今回の受講講座の趣旨などについて理解を深めていただくため専門の講師によるオリエンテーションを行います。
- 10 受講認定証  
講座の6割以上及び面接講義に出席した受講者には、受講認定証を授与します。
- 11 アンケート調査  
受講者全員にアンケート調査を実施いたしますので、ご協力をお願いします。
- 12 応募期間、応募方法、問合せ先

[大阪府立文化情報センターの場合]

平成元年8月21日(月)～9月18日(月)の間に往復はがきに

①氏名②住所・電話番号③職業④生年月日⑤受講科目(複数科目の受講も可)

をご記入のうえ下記にお送りください。なお返信用はがきに住所、氏名の記載をお願いします。

\*大阪府立文化情報センタービデオ講座担当(TEL 06-444-1011)

〒530 大阪府北区中之島3-2-18 住友中之島ビル5階

[池田市、尼崎市の施設の場合]

平成元年9月5日(火)～20日(水)の間にそれぞれの施設に直接申し込んでください。

\*池田市教育委員会生涯教育推進室(TEL 0727-52-1111内線436)

池田市城南1-1-1

\*尼崎市立中央公民館ビデオ講座担当(TEL 06-482-1750)

尼崎市西難波町6-14-34

13 定時視聴等の日程

\*大阪府立文化情報センター  
10月5日～2月8日までの火曜日と木曜日（オリエンテーション、定時視聴15回、面接授業2回）

10月	5(木)	19(木)					
11月	2(木)	7(火)	14(火)	16(木)	21(火)	28(火)	30(木)
12月	5(火)	7(木)	12(火)	14(木)	19(火)		
1月	16(火)	18(木)	23(火)	30(火)			
2月	6(火)	8(木)					

\*両科目ともオリエンテーションは10月5日(木)18:30から行います。  
\*地域社会学の定時視聴は18:30～19:15  
\*地球と宇宙の定時視聴は19:30～20:15  
\*面接講義の日には定時視聴は行いません。  
\*面接講義の日程は調整中です。

\*受講認定証授与式は、大阪府立文化情報センターで2月19日(月)18:30から行います。

\*池田市生涯教育センター  
地域社会学 10月7日～12月23日、1月20日～2月3日の土曜日 13:30～15:00  
地球と宇宙 10月8日～12月24日、1月21日～2月4日の日曜日 13:30～15:00

\*池田市中央公民館  
地域社会学 10月6日～12月22日、1月12日～2月2日の金曜日 18:30～20:00  
地球と宇宙 10月9日～12月25日、1月8日～1月29日の月曜日 18:30～20:00  
\*オリエンテーションは10月6日に中央公民館で行います。  
\*受講認定証授与式は大阪府立文化情報センターで2月19日(月)18:30から行います。

\*尼崎市教育総合センター  
10月4日～12月20日、1月17日～2月14日の水曜日  
地域社会学は13:30～15:00  
地球と宇宙は19:00～20:30  
\*オリエンテーションは10月4日の上記期間に行います。  
\*受講認定証授与は大阪府立文化情報センターで2月19日(月)18:30から行います。

14 講義概要

科目名	講義概要	講義のテーマ	
主任講師名			
地域社会学 加藤 秀 俊 放送大学客員教授 放送教育開発センター所長	地域社会の成立は比較的あたらしいが、原始的村落から都市における、もろもろの地域社会には、歴史的背景や行政をふくめてそれぞれの特色がある。この番組は、地域社会の構造・組織をあきらかにすることを目的とする。	1 地域社会学への招待 2 農耕と定着 3 地域と血縁 4 土地の神様 5 村・町・都市 6 地域と宗教 7 地域と水域 8 現代の農村社会	9 現代の漁村社会 10 現代の山村社会 11 開拓地の地域社会 12 都市の近隣社会 13 歴史の中の地域社会 14 未来への挑戦 15 主張する地域社会

科目名	講義概要	講義のテーマ	
主任講師名			
地球と宇宙(地球編) 奈須 紀 幸 (放送大学教授) 小尾 信 彌 (放送大学副学長)	われわれの住む地球は宇宙の一員である。地球は固定地球とその上をおおう水圏および気圏よりなる。まず宇宙の中における地球の位置づけを認識し、ついで地球についての諸々の事象に探求の目を向ける。現在、われわれが目にする地球に加えて地球の歴史についても学ぶ。以上何れも基本・基礎的な立場にたって考究する。	1 宇宙の中の地球 2 地球の層圏 3 地球科学の発展 4 大 気 5 海 洋 6 固体地球 7 岩石と鉱物 8 地層	9 地質時代 10 固体地球の表層 11 プレートテクトニクス 12 地震 13 火山 14 地球の歴史 15 日本列島

#### 資料4

## 放送大学番組による『実験ビデオ講座』実施要領

放送大学は、生涯学習時代を迎えた今日に即応して、テレビ・ラジオを通じて学習する新しい大学として誕生しました。

18歳以上なら誰でも無試験で入学することができ、社会の各層の異なる学習要求に応えられるよう幅広い学問分野にわたる豊富な授業科目をそろえています。

放送大学では、現在、電波のとどく関東地域で2万6千余人の学生が学んでいますが、今後、受講できる地域を全国に拡大していく努力をつづけています。

この度、池田市では関西地域で初めて国の放送教育開発センターと協力して、放送大学の番組を利用した『実験ビデオ講座』を開講し、生涯学習に関する地域特性や固有のニーズを調査するとともに学習者の学習領域を広げ深めていくものとする。

【主 催】 池田市・池田市教育委員会・放送教育開発センター

【開講科目】 ① 地域社会学 ② 地球と宇宙（地球編）

【開講場所】 定期視聴講座 池田市生涯教育センター（昼間の部）

池田市天神1丁目9番3号 ☎0727-61-0438

池田中央公民館（夜間の部）

池田市菅原町1番1号 ☎0727-51-0988

個人視聴学習 池田市立図書館

池田市五月丘1丁目10番12号 ☎0727-51-2508

【開講期間】 平成元年10月6日～平成2年2月19日（15回）

【学習方法】 各科目ともにビデオテープの放送教材（1回45分）の視聴とテキストによる学習

【面接講義】 講座の理解を深めるため、専門の講師による面接講義を期間の半ばに2回開講します。

【学習内容】 学習内容および日程については、別紙を参照してください。

- 【受講認定】 講座の6割以上および面接講義に出席した受講者には、受講認定証を授与いたします。
- 【アンケート調査】 受講者全員にアンケート調査を実施いたしますので、ご協力をお願いします。
- 【その他】
- ①受講者は、会場で指定の名札をつけてください。
  - ②ビデオ放映は、係員がおこないますので時間におくれないようにご集合ください。
  - ③図書館を利用する場合は、必ず事務所に連絡し係員の指示に従い出席の確認の後、学習を進めてください。
  - ④各会場とも、駐車場が十分ではありませんので、電車またはバスにてご参加ください。
- 【問い合わせ】 池田市教育委員会 生涯教育推進室  
☎ 563 池田市城南1丁目1番1号 ☎0727-52-1111内線436・438

会場案内図 (略)

## 放送大学『実験ビデオ講座』学習内容・日程表

### ◆ 地球と宇宙（地球編）◆

**【講義概要】** われわれの住む地球は宇宙の一員である。地球は固定地球とその上をおおう水圏および気圏よりなる。まず、宇宙の中における地球の位置づけを認識し、ついで地球についての諸々の事象に探求の目を向ける。現在、われわれが目にする地球に加えて地球の歴史についても学ぶ。以上何れも基本・基礎的な立場にたつて考究する。

会場	中央公民館		生涯教育センター		
回	月日	時間	学習内容	月日	時間
1	10月9日(月)	18:30~20:00	宇宙の中の地球	10月8日(日)	13:30~15:00
2	10月16日(月)	18:30~20:00	地球の層圏	10月15日(日)	13:30~15:00
3	10月23日(月)	18:30~20:00	地球科学の発展	10月22日(日)	13:30~15:00 面接講義 放送大学副学長 小尾信彌
4	10月30日(月)	18:30~20:00	大気	10月29日(日)	13:30~15:00
5	11月6日(月)	18:30~20:00	海洋	11月5日(日)	13:30~15:00
6	11月13日(月)	18:30~20:00	固体地球	11月12日(日)	13:30~15:00
7	11月20日(月)	18:30~20:00	岩石と鉱物	11月19日(日)	13:30~15:00 面接講義 神戸大学教授 藤井直之
8	11月27日(月)	18:30~20:00	地層	11月26日(日)	13:30~15:00
9	12月4日(月) 面接講義 神戸大学教授 石井健一	18:30~20:00	地質時代	12月3日(日)	13:30~15:00
10	12月11日(月)	18:30~20:00	固体地球の表層	12月10日(日)	13:30~15:00 面接講義 神戸大学教授 藤井直之
11	12月18日(月)	18:30~20:00	プレートテクトニクス	12月17日(日)	13:30~15:00
12	12月25日(月)	18:30~20:00	地震	12月24日(日)	13:30~15:00
13	1月8日(月)	18:30~20:00	火山	1月21日(日)	13:30~15:00
14	1月22日(月) 面接講義 神戸大学教授 石井健一	18:30~20:00	地球の歴史	1月28日(日)	13:30~15:00
15	1月29日(月)	18:30~20:00	日本列島	2月4日(日)	13:30~15:00
閉講式	2月19日(月)	18:30	大阪府文化情報センター		

## ◆ 地域社会学 ◆

### 【講義概要】

地域社会の成立は比較的あたらしいが、原始的村落から都市における、もろもろの地域社会には、歴史的背景や行政をふくめてそれぞれの特徴がある。この番組は地域社会の構造・組織をあきらかにすることを目的とする。

会場	中央公民館			生涯教育センター		
	月日	時間	学習内容	月日	時間	講師
1	10月6日(金)	18:30~20:00	地域社会学への招待	10月7日(土)	13:30~15:00	
2	10月13日(金)	18:30~20:00	農耕と定着	10月14日(土)	13:30~15:00	
3	10月20日(金)	18:30~20:00	地域と血縁	10月21日(土)	13:30~15:00	面接講義 若林良和
4	10月27日(金)	18:30~20:00	土地の神さま	10月28日(土)	13:30~15:00	面接講義 若林良和
5	11月10日(金)	18:30~20:00	村・町・都市	11月4日(土)	13:30~15:00	
6	11月17日(金)	18:30~20:00	地域と宗教	11月11日(土)	13:30~15:00	
7	11月24日(金)	18:30~20:00	地域と水域	11月18日(土)	13:30~15:00	面接講義 若林良和
8	12月1日(金)	18:30~20:00	現代の農村社会	11月25日(土)	13:30~15:00	
9	12月8日(金)	18:30~20:00	現代の漁村社会	12月2日(土)	13:30~15:00	
10	12月15日(金)	18:30~20:00	現代の山村社会	12月9日(土)	13:30~15:00	
11	12月22日(金)	18:30~20:00	開拓地の地域社会	12月16日(土)	13:30~15:00	
12	1月12日(金)	18:30~20:00	都市の近隣社会	12月16日(土)	13:30~15:00	
13	1月19日(金)	18:30~20:00	歴史の中の地域社会	1月27日(土)	13:30~15:00	面接講義 若林良和
14	1月26日(金)	18:30~20:00	未来への挑戦	2月3日(土)	13:30~15:00	面接講義 若林良和
15	2月2日(金)	18:30~20:00	主張する地域社会	2月10日(土)	13:30~15:00	面接講義 若林良和
閉講式	2月19日(月)	18:30	大阪府文化情報センター			

# 池田で放送大学ビデオ講座

来月開講  
希望募る

放送大学の実験ビデオ講座が

池田市で十月から始まることになり、同日は受講希望者を募集している。同大学は生涯学習機関として設置されたが、放送の受信できる関東地域以外の人には学ぶ機会がなかった。このため、放送講座のビデオを活用した視聴覚講座を企画、実験的に関西で初めて池田市を三カ所で開催される。

開講科目は「地域社会学」と「地球と宇宙・地球編」の二教科。期間は十月六日から来年二月十九日まで。会場は生涯学習教育センターと市立中央公民館。「地域社会学」は土曜日の午後二時半からと、毎金曜日の午後六時半からの二クラス。「地球と宇宙」は毎日曜日の午後一時半からと、毎月曜日の午後六時半からの二クラスで、授業はそれぞれ一時間半、各クラス三十五人。ビデオ放送による視聴覚が、講師が中心になり、質疑を許すこともある。受講料は無料。

料で、テキストは支給される。申し込みは二十日まで、昼間のコースは生涯学習センター、夜間コースは市立中央公民館へ。問い合わせは生涯学習推進推進室(0727・522・11)へ。

朝日新聞  
9/8付

## 放送大学のビデオ実験講座 10月から開講

放送教育開発センター(本部・千葉市)と府教委、池田市の教委は十月から、放送大学のビデオ放送による実験講座(本部・千葉市)のビデオ番組で受けたい放送大学の事業拡大で、兵庫県では尼崎市教委も

同時に開講する。講座は放送大学で開講している約三百科目の中から、特に受講者に人気のある「地域社会学」「地球と宇宙(地球編)」の二科目を明確。府教委は府立文化情報センター

に向けて、生涯学習へのニーズなどを調査・研究するのが狙い。大阪では初めての試み

府教委は二十一日から、池田市教委は来月五日から受講者を募集する。十八歳以上が対象で定員は公民館とも一回三十五人。受講料は無料。受講者にはテキストを無償配布し、規定の回数以上受講すれば認定証が授与される。

産経新聞  
8/21付



## 資料6

## 放送大学（実験ビデオ講座）受講調査資料

—池田市—

科 目	全 体 集 計		生涯教育センター（昼間の部）		中央公民館（夜間の部）	
	地域社会学	地球と宇宙	地域社会学	地球と宇宙	地域社会学	地球と宇宙
申込者数	71	74	37	29	34	45
受講者数	70	68	37	28	33	40
男女別						
男	48	44	26	14	22	30
女	22	24	11	14	11	10
地域別						
市内	43	41	23	21	20	20
市外	27	28	14	8	13	20
平均年齢	54.9	52.3	59.5	56.0	49.9	49.5
60%以上 出席者	(1月23日現在)					
受講出席率	85.0%	76.2%	96.4%	83.2%	70.9%	71.5%
個人視聴 利用者 (利用回数)	27 (66)	29 (75)	17 (35)	14 (34)	10 (31)	15 (41)

## 資料7

## 実験ビデオ講座受講生アンケート集計結果

(池田市生涯教育センター実施分)

## 1. ビデオ教材への希望

教材名	男	女	計	順位
(1) 生命科学	17	19	36	2位
(2) 衣生活の科学	1	2	3	
(3) 社会生活と法	23	10	33	3位
(4) 太陽系の科学	25	12	37	1位
(5) 情報科学	19	7	26	
(6) 物質工学	14	0	14	
(7) 言葉とコミュニケーション	17	10	27	5位
(8) 食物総論	13	15	28	4位
(9) 日本語教授法	10	13	23	
(10) 母子保健	2	3	5	
合計	141	91	232	—

但し、数字は得点

## 2. 次年度の受講予定

1. 受講したい	男	18	女	14	計	32
2. 受講しない	〃	0	〃	0	〃	0
3. わからない	〃	6	〃	1	〃	7
合計	〃	24	〃	15	〃	39

但し、数字は人数

## 3. 要望・希望

- (1) 「宗教学」を研究したい。
- (2) 実施時期を9月～12月にしてほしい。
- (3) 来年度も是非続けてほしい。
- (4) 教科書以外に参考文献を用意していただくとありがたい。
- (5) 面接講義をもっと充実してほしい。
- (6) 面接講義が少ない。放送と教科書との関係が全くない。
- (7) 現地見学などが実施できればよいと思う。
- (8) 質疑応答の時間をもっととってほしい。
- (9) 日曜日にこの時間帯を残してほしい。

## ビデオ放送大学講座アンケート集計

(池田市中央公民館実施分)

### 1. 希望教材 (数字は得点)

	男	女	計
1. 生命科学	45	1	46……………2位
2. 衣生活の科学	2	3	5
3. 社会生活と法	21	4	25……………4位
4. 太陽系の科学	50	3	53……………1位
5. 情報科学	21	0	21……………5位
6. 物質工学	9	0	9
7. 言葉とコミュニケーション	22	6	28……………3位
8. 食物総論	12	2	14
9. 日本語教授法	6	5	11
10. 母子保健	4	0	4
合 計	192	24	216

### 2. 次年度は (数字は人数)

	男	女	計
①受講したい	24	2	26
②受講しない	1	0	1
③わからない	7	2	9
合 計	32	4	36

### 3. 要望・希望について

- ①面接講義の回数の増加を
- ②ビデオに関連のある講師を
- ③実写モデルを導入してほしい
- ④週2回の講座に
- ⑤1日に2本分のビデオを見たい
- ⑥1回のテープは60分～ぐらい
- ⑦現行のままで良い
- ⑧毎回ディスカッションの場がほしい
- ⑨開始時間を7時～7時30分に
- ⑩ビデオと関連のするテキストに、予習効果がない

## 資料 8

# 放送大学番組による『実験ビデオ講座』受講者募集について

放送大学は、生涯学習時代を迎えた今日に即応して、テレビ、ラジオを通じて学習する新しい大学として誕生しました。

18歳以上なら誰でも無試験で入学することができ、社会の各層の異なった学習要求に応えられるよう幅広い学問分野にわたる豊富な授業科目をそろえています。

放送大学では、現在、電波のとどく関東地域で2万6千余りの学生が学んでいますが、今後、受講できる地域を全国に拡大していく努力を続けています。

この度、放送教育開発センターが、関西圏に住む人々を対象に放送大学の授業番組を実際に受講していただく、実験講座を開講し、生涯学習に関する地域特性や固有のニーズを尼崎市で調査することになりました。

つきましては、次の要領で受講者を募集いたします。生涯学習に興味ある方やこのような講座を受講してみようという意欲のある方は、ふるってご応募ください。

【主 催】 放送教育開発センター（文部省大学共同利用機関）  
尼崎市・尼崎市教育委員会

【開 講 科 目】 （1）地域社会学 （2）地球と宇宙

【募 集 人 員】 各科目35名（応募者多数の場合は、抽選により決定します。）

【応 募 資 格】 18歳以上の方ならどなたでも応募できます。

【開 講 期 間】 平成元年10月4日（水）～平成2年2月14日（水）  
毎週 水曜日 17回

【開 講 時 間】 （1）地域社会学 午後1時30分～午後3時  
（2）地球と宇宙 午後7時～午後8時30分

- 【開講場所】 尼崎市教育総合センター  
【JR立花駅下車、線路沿東へ800m、徒歩7～8分】
- 【学習方法】 各科目とも、ビデオテープの放送教材（1回45分、15回）の視聴と話し合いによる学習を行います。
- 【学習内容】 学習内容については、裏面を参照してください。
- 【面接講義】 講座の理解をより深めるため、専門の講師による面接講義を期間の半ばに2回開講します。
- 【受講料】 無料（なお、教材テキストは無償で支給されます。）
- 【オリエンテーション】 開講にあたって、放送教材による学習の特徴や学習方法のポイント、今回の実験講座の趣旨などについて、より理解をいただくためのオリエンテーションを行います。
- 【受講認定】 講座の6割以上および面接講義に出席した受講者には、受講認定書を授与いたします。
- 【アンケート調査】 受講者全員にアンケート調査を実施いたしますので、ご協力をお願いします。

〔申込期間〕 平成元年9月5日（水）～9月20日（水）

〔申込方法〕 申込書に必要事項を記入のうえ申し込んでください。

〔申込先〕 市内の各公民館

〔問い合わせ先〕

尼崎市立中央公民館事業係

電話 482-1750

（尼崎市西難波6丁目14番34号）

放送大学番組による

『実験ビデオ講座』学習内容

地域社会学		
<p><b>【講義概要】</b>                      地域社会の成立は比較的あたらしいが、原始的村落から都市における、もろもろの地域社会には、歴史的背景や行政をふくめてそれぞれの特色がある。                      この番組は、地域社会の構造・組織をあきらかにすることを目的とする。</p>		
月 日	時 間	学 習 テ ー マ
10月 4日 (水)	13:30~15:00	地域社会学への招待
10月11日 (水)	13:30~15:00	農耕と定着
10月18日 (水)	13:30~15:00	地域と血縁
10月25日 (水)	13:30~15:00	土地の神さま
11月 1日 (水)	13:30~15:00	村・町・都市
11月 8日 (水)	13:30~15:00	面接講義
11月15日 (水)	13:30~15:00	地域と宗教
11月22日 (水)	13:30~15:00	地域と水域
11月29日 (水)	13:30~15:00	現代の農村社会
12月 6日 (水)	13:30~15:00	現代の漁村社会
12月13日 (水)	13:30~15:00	現代の山村社会
12月20日 (水)	13:30~15:00	面接講義
1月17日 (水)	13:30~15:00	開拓地の地域社会
1月24日 (水)	13:30~15:00	都市の近隣社会
1月31日 (水)	13:30~15:00	歴史のなかの地域社会
2月 7日 (水)	13:30~15:00	未来への挑戦
2月14日 (水)	13:30~15:00	主張する地域社会

## 地球と宇宙

### 【講義概要】

われわれの住む地球は宇宙の一員である。地球は固定地球とその上をおおう水圏および気圏よりなる。

まず、宇宙の中における地球の位置づけを認識し、ついで地球についての諸々の事象に探求の目を向ける。

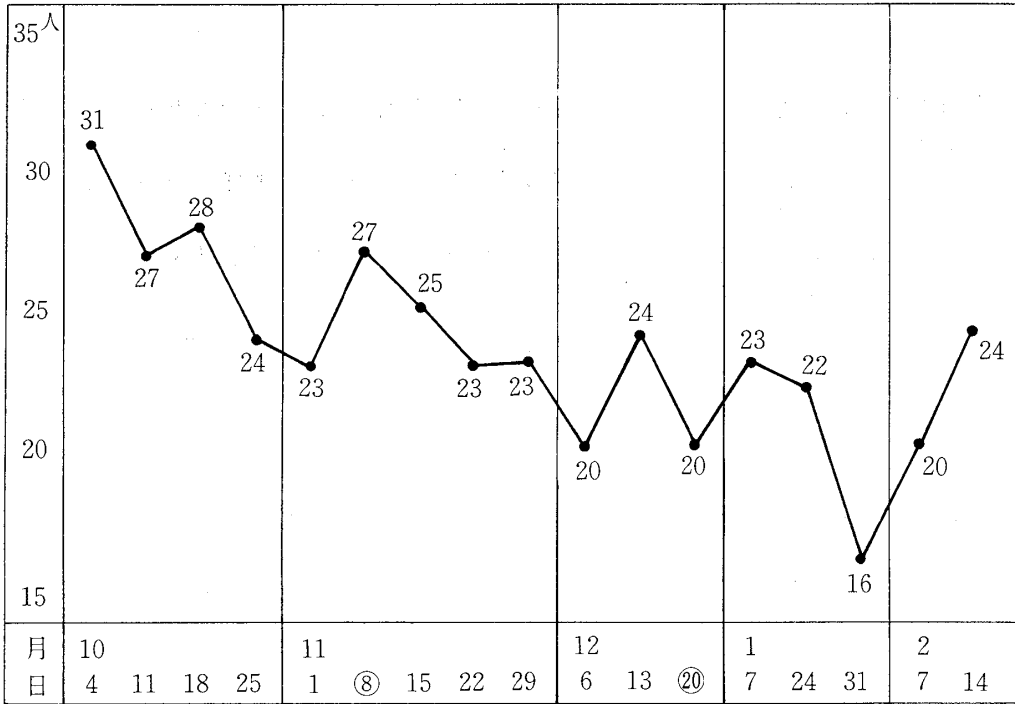
現在、われわれが目にする地球に加えて地球の歴史についても学ぶ。

以上何れも基本・基礎的な立場に立って考究する。

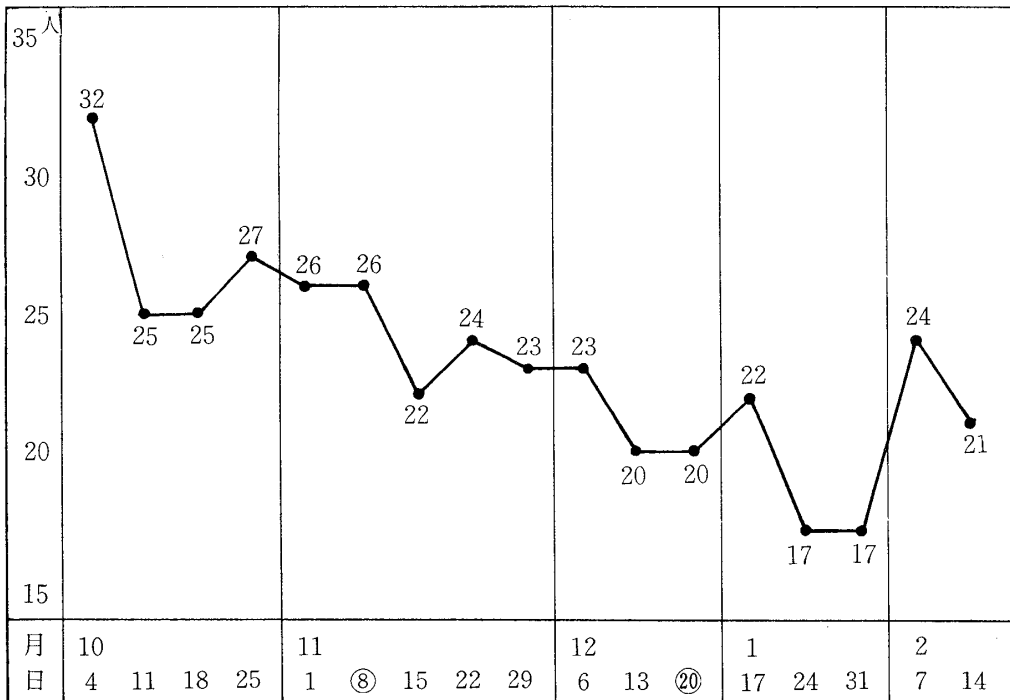
月 日	時 間	学 習 テ ー マ
10月 4日 (水)	19:00~20:30	宇宙の中の地球
10月11日 (水)	19:00~20:30	地球の層圏
10月18日 (水)	19:00~20:30	地球の科学の発展
10月25日 (水)	19:00~20:30	大気
11月 1日 (水)	19:00~20:30	海洋
11月 8日 (水)	19:00~20:30	面接講義
11月15日 (水)	19:00~20:30	固体地球
11月22日 (水)	19:00~20:30	岩石と鉱物
11月29日 (水)	19:00~20:30	地層
12月 6日 (水)	19:00~20:30	地質時代
12月13日 (水)	19:00~20:30	固体地球の表層
12月20日 (水)	19:00~20:30	面接講義
1月17日 (水)	19:00~20:30	プレートテクトニクス
1月24日 (水)	19:00~20:30	地層
1月31日 (水)	19:00~20:30	火山
2月 7日 (水)	19:00~20:30	地球の歴史
2月14日 (水)	19:00~20:30	日本列島

資料9

実験ビデオ講座出席状況(地球と宇宙)



実験ビデオ講座出席状況(地域社会学)



○印は面接講義 1月24日、1月31日の天候は雪、2月14日の天候は雨が断続的に降っていた。



ビデオで学ぶ大学講座

尼崎市三反田町1丁目の市立教育総合センターで4日、放送大学の実験ビデオ講座「ビデオで学ぶ大学講座」が始まった。千歳市にある放送大学学園の授業をビデオを通して学ぶもので、関西地域では初めての実施。

☆市立教育総合センターで開講

来年2月中旬までの毎週水曜日の計17回、「地域社会学」と「地球と宇宙」の2科目を学ぶ。生徒は尼崎市だけでなく、宝塚、西宮市の37人で、主婦とお年寄りが中心。この日の授業では、ビデオを見ながら社会構造の多様性について学んだ。参加者のひとり、田淵俊明さん(69)＝尼崎市下坂部1丁目＝は「ビデオで勉強するので、少し勝手に進もうが、目でも学べるためよく理解できる」と語っていた。

10朝日新聞  
5付

10毎日新聞  
5付

ビデオで学ぶ大学講座  
市民ら熱心に受講

尼崎教育総合センター



ビデオ講座に参加した市民たち。中にはカセットレコーダーを持ち込む人も

○市立教育総合センターで放送大学「地域社会学」の授業を受ける市民ら。昭和六十年に大学学園(千歳市)の授業をビデオで流す実験講座「ビデオで学ぶ大学講座」が四日、尼崎市立教育総合センター(三反田町)で始まり、市民37人が第一回目の授業を受けた。授業は、昭和六十年に放送を開始し、現在、電波が広く関東地域の主婦3万6千人が学んでいる放送大学の「地域社会学」を拡大して、同大学の番組を制作、放映している国立放送教育開発センターが尼崎市と協力して実験的に放映する。関西地域では初めての試みで、今週中大阪府、池田市でも開講される予定。この日の授業には、尼崎市、宝塚市や西宮市などの市民も参加。国立放送教育開発センターの山田進太郎(49)が講師を務めた。放映は、市立教育総合センターの視聴覚室で行われ、二月十四日までの計十回にわたって、「地域社会学」と「地球と宇宙」の二科目を学習する。

7ナモク  
943

放送大学

実験講座スタート

毎週水曜、来年2月まで



ビデオ講座を熱心に受講する市民ら

会学の第一回講座が四日のビデオで放映され、参加者らは熱心に見入っていた。また午後七時から「地球と宇宙」の第一回を放映した。

放送大学は社会人や主婦を対象に東京、前橋の二工局で昭和六十年に放送を開始。計七十科目の番組があり、学園での試験で必要な単位を取れば、一般の大学卒業と同じ資格を得られる。現在、万六千人が学んでおり、今春、第一期生として約六百人の卒業生を送り出した。

関東地域のテレビ、ラジオでだけオンエアされている放送大学学園(甲田和衛学長)の講義をビデオで学ぶ「実験ビデオ講座」が四日、尼崎市立教育総合センターで開講した。将来の関西地区での放送に備え、番組制作、研究している国立・放送教育開発センター(加藤秀俊所長)が同市、市教委の協力で初めて取り組んだ。

実験講座は、地域社会学と「地球と宇宙」の二科目(定員各三十五人)で、来年二月まで毎週水曜日、計十七回行われる予定。尼崎、西宮、宝塚市からも二十、七十歳代の幅広い市民から受講の申し込みがあった。

この日は午後一時半から第一研修室で開講式があり、同開講センターの山田進太郎(49)が講師を務めた。このあと地域社

10読売新聞  
5付

### Ⅲ 実験・研究の手法および経過に関する討議

麻生 誠	(大阪大学教授、座長)
小尾信弥	(放送大学副学長)
塩原 勉	(大阪大学人間科学部長)
井上忠司	(甲南大学教授)
高田康孝	(愛知学泉大学教授)
端 信行	(国立民族学博物館助教授)
園田英弘	(日本文化研究センター助教授)
池田 寛	(大阪大学助教授)
柳原佳子	(吉備国際大学助教授)
立木茂雄	(関西学院大学助教授)
山本敏秀	(大阪府教育委員会社会教育課主幹)
正田益嗣	(池田市生涯学習大学事務局長)
小巖恕久	(尼崎市立中央公民館長)
八十田和正	(元尼崎市立中央公民館長)
杉田直順	(尼崎市立中央公民館事業係長)

実験研究と並行して、研究委員会が開催され、実験の進め方、評価調査の手法等に関して検討が重ねられた。以下は、研究委員会の討議過程を報告するものである。

#### A 第1回研究委員会

[内容]

- 1 所長発話：大阪プロジェクト開始にあたって—自治体とどう連携するか
- 2 座長発話：第一回研究会の開催にあたって—放送大学キャンパスは地域社会
- 3 第一回研究会の開催にあたって：新型学習センターの概要と研究会の位置づけ
- 4 実験の概要説明
  - ①学習方法と実験地域
  - ②実験に伴う調査について

- 1 所長発話：大阪プロジェクト開始にあたって——自治体とどう連携するか

山中 それでは、加藤所長が臨席されましたので、一言ご挨拶をお願いいたします。

加藤 今度の大阪プロジェクトは、非常に新しい試みであります。この放送教育開発センターは大学共同利用機関ですので、これまで提携先を大学に求めて研究活動を行って参りました。今年の広島大学との共同プロジェクトは、その1例です。けれども今回の場合は私どもとしては

初めての試みでございます。大阪府並びに阪神間の地方公共団体にお願ひし、それに大阪大学をはじめとするいくつかの大学の先生方に委員会をつくっていただき、研究を進めていくとうかがっております。自治体が方々でお進めになっていらっしゃる生涯学習プログラムとどういふふうに連動していけるか、最初の実験でございます。私もできるだけお手伝いさせていただきます。皆様のご協力で、いい共同研究を花開かせていただきたいと思います。

(このあと関係者の自己紹介)

山中 ありがとうございます。つぎに、座長の麻生先生から挨拶をお願いいたします。

## 2 座長発話：第一回研究会の開催にあたって—放送大学キャンパスは地域社会

麻生 皆様方のお力をお借りして、有意義な研究会にしてゆきたいと思っております。なるべくリラックスして、いろいろな考えを出し合ってやっていこうということが第一点です。また、この研究会は、放送大学の全国化のための大事な基礎資料になると考えます。というのも、衛星を使って放送するのが8年～10年先になり、その間、全国化の方法を探っていきたいということで、この研究会が発足したのだと思います。放送大学の発足以来、私も客員としてお手伝いさせていただいているんですが、今年、最初の卒業生が出たということは、私にとって大きなことであります。卒業生は544名で、5.2%の卒業率です。この人々の属性はきわめて多様で、中卒者が7名、障害者が5名いるという、普通の大学では考えられない、日本の教育史上画期的なことです。こういう貴重な財産というか成果が今度出てまいりましたので、少し自信をもって全国化に取り組んでいくことが大切かと思ひます。放送大学にはキャンパスがなく、キャンパスは地域社会であり、自治体のご協力が大切になります。私個人といたしましては、放送大学には地域に根ざし、地域の文化を大事にし、多様な全国化を目指すべきだと思ひます。今回の研究はそのための第一歩です。よろしくご協力をお願いいたします。

## 3 第一回研究会の開催にあたって：学習センター研究の概要と研究会の位置づけ

山中 では、まず私の方から今回の研究プロジェクトの概要を簡単に説明させていただきます。それからこれまでに放送開発センターで行ってきた学習センターに関する研究で分かったことを簡単に報告します。その後、当センターより本日特別に御出席いただきました岩永先生が、衛星放送を使った放送大学の講義を展開した場合にどのような需要があるのかという調査を7大都市で行っており、その中から大阪地区の特徴というものをご報告いただきます。

このプロジェクトの目標は、放送大学が全国化する際に必要な基礎的データを収集することです。特にそれぞれの地方によって学習ニーズの構造が違いますので、何ヶ所かの地域に実験ビデオ学習センターを作って、実際に番組をモニターの方に見ていただき、評価をしていただき、どんなニーズがあるのかを掴みたいと考えます。もう1つは、こういう研究会を開き、特に関西圏でご活躍されている先生方、実施していただく自治体の関係者の方々に集まっていただき、関西の側からの地元の要件を出し合っていただきたいと思います。つまり、放送大学が関西に来た場合、関西の特殊性に対してどう配慮するのか、どのようにすれば効果的に学

習が進むのか、などの話合いができればと思います。ただ、今回の実験学習センターがそのまま定着して放送大学の施設になるというものではありませんので、ご配慮願います。また、今まで関西ではこのような放送大学の番組は流されておりませんので、この実験を通して、遠隔高等教育というものにご理解をいただきたいとも考えております。

次に今回のプロジェクトの研究の内容をご説明します。ポイントは3つあります。1つは文献資料の研究です。2つ目は、放送大学番組による実験ビデオ講座です。これを3ヶ所の地方自治体のご協力を得て実施いたします。地元の人々に実際番組を見ていただいて、その反応を分析したいと考えております。これと並行して、有識者インタビューを予定しています。これは約40名の有識者の方々を対象に、全国化されたとき、関西地区としては、どういうニーズや要望があるのか、留意点は何なのかということなどを伺うために、ヒアリングインタビューを行っていきたいと考えています。3つ目に研究会の開催がございます。今日がその第1回です。ここで、この全体の研究を進めていくための助言をいただき、大きな方針を決定して、将来の関西地区における放送教育の姿というものについて話し合っていたいただきたいと思います。最終的には話合いの経過等が報告書の形ですべて刊行されて、それが実際のこれからの政策決定に反映されていくことになると考えております。

#### 4 実験の概要説明

##### ①学習方法と実験地域

山中 では、つぎに簡単に今回の実験のあらましを説明申し上げます。

実験は、中之島の文化情報センター、池田の図書館、尼崎の総合教育センターの3カ所で行います。そこでビデオを集団視聴、ないしは個別視聴していただくことによって、放送大学の科目を学習していただくという形になります。今回は、科目を2科目、設定したいと思います。1科目が15回で形成されますので、1週間に1回としますと15週、それが2コースということになります。受講者数は、1カ所、1科目、35名を考えております。2科目ありますので、70名、全体で210名ということになります。

それでは学習方法なんですが、45分間のビデオ番組を毎週見いただきます。どういう所で見ていただくのかは、それぞれの施設のリーフレットのコピーを資料の中に入れてありますので、ご覧下さい。大阪は府立文化情報センターのセミナー室で、池田市は図書館のビデオブース、ないしはその関連教室で、尼崎市も同じような形で、集団視聴と個別視聴ができるようになっています。今回のビデオ視聴は、2つの形式を考えているからです。定時の集団視聴と随時の個別視聴との組合せになります。定時の集団視聴は、一定の時間に番組が始まり、1つないしは多数のビデオモニターで集団で視聴して学習するものです。これは規則的に毎週なん回か、各々の施設のご都合で流していただきたいと思います。これに組み合わせて、随時の個別視聴ができるということが条件になっております。これはいわゆるビデオブースといわれるものです。先ほど、放送大学の千葉学習センターでも見ていただきましたが、個別のブースでヘッドホーンを使用し、自分の好きなときに好きな番組を見られるという形を考えております。こ

れに加えて面接授業というものがあります。7－8週の段階で、中間に1回を計画しております。(注：その後2回に変更された。)これはあくまでも動機づけが目的となります。また、テキストは、センターの方で貸与しますので、番組と並行して学習していただきたいと思います。関西ではまだ、放送大学の番組が放送されていませんので、以上のような視聴形態にならざるを得ないと考えました。ここのところが若干、変則的です。面接授業は放送大学でも実施しております、1科目で5回、1回が3時間ぐらいというように、非常に面接授業にウェイトを置いているものもあります。しかし、ほとんどの科目は面接授業なしの受講という形をとっております。また放送大学では、中間のあたりで通信指導が行われていて、これに通らないと単位認定試験受験資格がないという形になっています。これは記述式ないしは択一式のアサインメントを自宅で行い、放送大学に送り返していただいて、採点するというものです。今回の場合の面接授業はどちらかという、このような通信指導に近く、動機づけが目的となります。10月から2月ごろまでビデオ視聴を行い、11月から12月に面接授業が1回入ります。開講時にはオリエンテーションも行う予定です。また、事前と事後に評価調査を行いたいと思っています。これは質問紙形式の評価調査です。

次に地理的にもう一度実験の行われる地域を確認しておきたいと思います。これで見ますと、今回の実験の予定地は、池田、中之島、尼崎です。地理的に大阪府域全体から見ると今回の実験予定地は、やや北接地域ないしは都心地域に偏っています。尼崎は今回、大阪圏を阪神間の神戸以東も含めて考えましたので、入ったものです。予定地の下見を行ったときに、この他にも、堺、岸和田、藤井寺など、いわゆる大阪の南の方の地域、泉州のあたり、河内の辺りも候補地として考えたのですが、自治体の協力が得られなかったり、施設面での問題等で、こぼれてしまいました。そういう意味では、伝統的に、生涯学習とか、社会教育の地盤の厚い、北接地域、都心部、阪神間という地域が、実験の主なフィールドになってしまいました。大阪地域は伝統的に南北問題があるといわれておりますので、南にもポイントをとれなかったことは、残念であると考えますが、今回の実験としては、これが限度でした。

## ② 実験に伴う調査について

山中 次に、実験をする中でどういうことを調べたいのかということで、調査項目案を示したいと思います。この調査は、全受講生に対する質問紙調査という形になります。いくつかのポイントがありますが、事前調査では「属性」と、「受講の動機」「目的」「期待(心理面)」「情報のソース」「他の学習経験の有無」等が、調査項目です。

事後の調査としては、学習過程の項目として「ビデオをどのくらい見たか」そのときの「視聴パターン」「面接講義に出席したか」「予習復習は行われたか」実験の「参加者間で交流が行われたか」等を調査します。実験センターの運営に関する項目としては、「募集方法はどの程度効果があったか」「会場の利便性はどうか」「オリエンテーションは効果があったか」「定時の開講時間はどの程度の頻度で行われたか」「個別視聴のビデオブースの機器の操作が良かったか」「対人のサービスが良かったか」等を調査します。最後に学習効果がどの程度あがったかについての評価調査をしたいと思います。つまり、ビデオの内容、面接授業、期待の到達

度等に対する評価調査です。その他の項目としては、将来放送大学が全国化された場合に、「受講生として登録する意志があるか」ということも、聞いてみたいと思っております。またできれば、学力試験を行って、大阪地区の受講生の成績とこれまでの放送大学の受講生のものとを比較してみたいと思っております。以上が調査のだいたいのディテールなんですけれども、予定される受講生210名を母集団としてその全体に行いたいと思っております。

しかし、本来の大阪の研究の目的のもう一つの大事なポイントは大阪の特殊なニーズ、及び大阪の受講生が放送大学の番組にどのような反応を示すのかを調べることです。たとえば、それぞれの番組に対する内容評価については、放送大学の学生を母集団とした調査結果がすでにおこなっておりますので、これと比較いたしまして共通の科目に対する反応をみることによって、大阪の特徴というものを明らかにしていきたいと考えております。

## B 第2回研究委員会

[内容]

- 1 研究の目的の確認
- 2 実験経過報告
  - ① ビデオによるオリエンテーションと講義、実験会場の紹介
  - ② 尼崎市
  - ③ 大阪府
  - ④ 池田市
- 3 有識者インタビューについて

### 1 研究の目的の確認

山中 それでは第2回の大阪地区新型学習センターモデル実験の研究会を開きます。この文化情報センターで実験講座を開催していきまして、個別視聴のビデオブースもあちらの方にあります。実験の進行の状況や雰囲気を見ていただけますので、ここで研究会を開かせていただきました。大阪府の方には、ご無理をお願いいたしました。どうもありがとうございました。第1回目の研究会議事録は、もう既に皆さんのお手元にお送りいたしましたので、今回はそれに続くところから始めたいと思います。では、座長の方から簡単に開会のご挨拶をお願いいたします。

麻生 大阪大学の麻生です。今日はお忙しいところをお集まりいただきまして有難うございます。実験がスタートしましたので、その手ごたえみたいなものを中心に話したいと思っております。その後は調査報告で、この二つがメインテーマです。宜しくお願いいたします。

山中 ありがとうございます。この研究の目的を再度確認しますと、放送大学の番組を全国化するにあたって、関西地区でのニーズ動向を把握しようというものです。関西にはどのような学習ニーズがあり、関西の人はどんな形で放送大学と接したかというような、最も基礎的な資料を集めることが、今回の実験の目的です。昨年度行いました調査の結果では、大阪地域では衛星放送を使った放送大学へのニーズはそれほど高くないし、NHKの視

聴率調査などを見ますと、大阪地区の視聴率は極めて低調ですので、研究班としては、大阪、特に関西圏にはまた違った学習ニーズ、あるいはメディアに対する需要パターンがあるのではないかというような仮説をたてて、この研究を始めたわけです。今回の実験形態は、大阪府・池田市・尼崎市と3つの地点で模擬的な実験ビデオ学習センターを開設して、そこに参加して下さっている受講生の方々に対して、番組に対する評価調査とニーズ調査とを行ないます。前回の大量調査の時の反省で、実際見ていないとどうも実態を掴んでいただけないというので、今回こういう形の実験をしまして、実際に15週受講していただいた被験者の方からきちっとした評価とニーズを聞くということが、実験の趣旨になっています。

この10月の4日から、尼崎、大阪、池田の順でオリエンテーションを行なって、実際に実験がスタートしました。つまり、毎週一度づつ足を運んでいただいて、放送大学の講座をビデオで流し、それを視聴するという形の遠隔学習です。科目は「地域社会学」と「地球と宇宙」で、途中で面接授業を2回挟みます。それぞれの地域でチューターをつけていただいたり、いろいろな工夫をいただいていますので、あとでそれぞれの自治体の方から、ご報告いただければと思います。それから最終的な評価調査についてのお話をしたいと思っておりましたが、調査表がまだ仕上がっていません。これは次回の研究会まで申し訳ありませんが日延べさせていただきます。実は放送大学の一般学生に対する評価調査と調査表の中味を同じものにして比較をしたいと考えていたのですが、今年度の評価調査の枠組みが日程の遅れで決っておりませんので、今日は評価調査の内容を持っていくことができませんでした。それから有識者インタビューを並行して考えていますので、その人選等についてご確認いただけます。そしていちばん最後に、関西地区というものが、生涯学習、特にこの放送大学のような遠隔メディアを使った学習というものに、どういうふうな特殊なパターンを持っているのか、また関西でそういうものをするときに、いったいどういうことが予見として必要なのか、突っ込んでいろいろな意見を頂戴できれば、実りあるものになると考えております。以上、長くなりましたが、それが今日のしたいの進行です。

## 2 実験経過報告

### ① ビデオによるオリエンテーションと講義、実験会場の紹介

山中 私の方で7分ほどのビデオテープを用意しました。これは尼崎、大阪府、池田市の順番で、オリエンテーションと第1回の講義の模様を収録したものです。(ビデオ映写をしながら)これが尼崎の実験会場で、総合教育センターです。ここは二つの複合施設になっていて、下の方は障害者センターになっています。JRの立花駅から歩いて5分くらいのところです。集団視聴を主として、このように「地域社会学」の講義を始めました。尼崎市の特徴は、チューターの方を番組の視聴に並行してつけておられるということです。オリエンテーションのあと、第1回目の講座が始まりました。45分の番組が終了すると、そのあとでチューターの方を囲んで、番組についての質疑応答などを行なっています。チューターになって下さっているのは、神戸大学の大学院の方です。内容をよく理解しておられるようで、適材を得たと思っています。これが夜の部で、「地球と宇宙」です。こちらのチューターの方は、高校の地学の先生だった

方で、社会教育においても地球物理などを講義することには慣れていらっしゃるそうです。いちばん最初に番組の見方についての簡単な説明がありまして、それから番組の視聴が始まりました。ビデオを流している途中に関連するような図をどんどん黒板にお書きになって、補助的な働きをよくしてくださっておられました。割とお歳を召した方が多いという印象を受けました。次は大阪府で、このときはオリエンテーションだけでしたので、その模様をご覧になっていただきたいと思います。受講者層を見ていただくつもりでみなさんの顔を映してみました。若干若い方、それからビジネスマンと呼んでもいいような方も受講されています。平均年齢は尼崎よりも少し若いかなというふうに思いました。これは教科書を配っている模様です。夜の部で6時半からスタートしました。次は池田市ですが、開講式と第1回目の「地域社会学」の講義をしました。これは両方の科目について、一度に説明しているところです。ここは市庁舎に隣接しております、公民館の会場でございます。ざっと実験開始の模様を見ていただいたのですが、それではその後、どういうふうに全体が進んでいるのかを5分くらいで、尼崎、大阪、池田の順でご説明いただければと思います。ではお願いします。

## ② 尼崎市

**杉田** 10月4日に第1回目の開講をいたしました。定員は35名といういことで募集いたしました。応募状況は「地球と宇宙」の方が36名、「地域社会学」の方が37名となっています。平均年齢が「地域社会学」の方が59歳、「地球と宇宙」の方が若干若くて56歳、いちばん若い方は「地域社会学」の方が22歳、「地球と宇宙」の方が25歳の男性です。それで、蓋を開けてみましたところ、それぞれ5名の欠員がありました。この間2回目を行なったのですが、また5名ずつそれぞれ減りまして、これは最後までいくのかなあと若干心配しているところです。それで私共としましては、ビデオを見てそのまま帰っていただくということでは、15回のプログラムをこなすのは大変なのではないかと思ひまして、チューターの方に、解説をしていただいたり、興味を湧くように動機づけをしていただいたりしております。

**山中** どうもありがとうございました。宜しく願いいたします。尼崎市の場合は集団提示視聴が中心で、随時個別視聴の方は設備の関係で集団提示視聴ができない場合に限ってということにしています。それでは、大阪府教育委員会の山本さん、お願いします。

## ③ 大阪府

**山本** 10月の5日に開講式を迎えまして、オリエンテーションをしましたが、会場の都合で第一回の授業はまだ行なっておりません。ですから、どういう状況になるかというのはまだわかりませんが、受講生の確保状況について報告します。お手元の資料に、8月17日付の毎日新聞の記事がありますが、このように「報道への記者レク」という形で大阪府の教育長の方から行ないました。通常、大阪府がやっているような講座ですと、教育長の方から記者にレクチャーをするというようなことはなく、「こういう講座がありますよ」という投入だけなんです。しかし今回は、池田市さん、尼崎市さんと大阪府教育委員会とが一緒にこの放送教育開発センターの授業に取り組むという大阪地区では初めてのプロジェクトですので、教育長にレクをしてもらいました。その結果、この毎日新聞と、8月の21日に産経新聞、それから9月の14日に



読売新聞、それとNHKのテレビで8月の18日の朝6時50分のニュースでとりあげられました。受講生につきましては、「地域社会学」、「地球と宇宙」、それぞれ35人ずつの募集をしたわけですが、結果的に若干増えまして、38-39人という応募になりました。ただし、2科目を受講なさる方が19人おりますので、実際の人数は58人です。このうち、オリエンテーションにお越しいただいた人が48人くらいです。それからまだ平均年齢はだしていませんが、年齢層はだいたい40代、30代のところが中心で、70代の方も4-5人いらっしゃいまして、10代の方は、18歳の方がお二人いました。地区別にみますと、大阪市内が多いということ、あとは三島地区というのは、大阪の北東部の方、高槻市とか、茨城市というところですか。それから北河内地区という、皆川とか枚方のあたりも多いようです。この地区は京都に抜ける京阪鉄道の終点のあたりの地区です。それからもちろん、兵庫県、奈良県、京都、滋賀県、こういうところの方は、お住まいからお越しいただくというのではなくて、通勤の帰りにお出になる方たちではないかと考えています。全体的には、文化情報センターで従来からいろいろな大学の公開講座をやっていますが、その受講生とダブルのような形で、ここの常連さんが、この講座も受講していることが多いようです。

山中 どうもありがとうございました。大阪府の文化情報センターの場合は個別視聴については、既にここで公開されているビデオブースのサービスの中に組み込んでいただくという形でお願ひしています。それでは最後に、池田市さん、お願ひいたします。

#### ④ 池田市

正田 池田の場合は、3ヵ所に分けて実施しています。特に夜間の部を行なっているところは、駅から歩いて3分程度のところですか。両科目、35名定員で、70名募集しました。昼間の方は、生涯教育センターで行なっています。それから個人視聴については、図書館のブースを使っています。いずれも定数の70名には達しています。まだ入れてほしいという方もいらして、「テキストがある限り、または「テキストがなくても視聴できればいいので、どうぞお越し下さい」というような受け入れ体制でやっているような状況です。いずれも一回目の講義が修了しただけですので、今後のことはまだわかりません。参加者の内容は、140名のうち、男性が93人、女性が47名で、今までのいわゆる社会教育における学習パターンとはかなり異なり、圧倒的に男性が多いということがいえると思います。しかもこれは、夜間、昼間にかかわらず男性が多いのです。それから地域別では、池田市内が140人のうち85人、市外が55人です。市外からは、おとなりの川西、宝塚、箕面、豊中、吹田とほとんどこの近辺の方にお越しいただいています。平均年齢をしてみると、「地域社会学」が54.9歳、「地球と宇宙」が54.3歳です。おもしろいことに、夜間と昼間の差がかなりありまして、夜間の方は平均年齢がどちらも49歳、昼間の方が、「地球と宇宙」の方が55歳、「地域社会学」の方が59歳というようになっています。夜間と昼間、また科目によって、かなり男女、地域などで微妙なちがいがでてくるようです。さらに年齢分布では、10代が1、20代が8、30代が15、40代が27、50代が29、60代が43、70代が18になりました。受講形態としては、15回の学習を展開していく過程で、はじめはチューターをつけていただきたかったのです。けれども、生涯学習の観点に立てば、自由に受講者に勉強していただけるような雰囲気作りをした方がいいのではないかと思います。一切チューター

はつけないことにしました。ただしあとで受講者自身が学級活動といいますか、自由に学級を運営していく方向を模索しようと考えています。もうひとつはこれも予想外の反応ですが、むしろ個人視聴への申し込みの方がとても多いのです。定時視聴の方と重なっているのかどうかはよくわからないのですが、まだ一週間きりたっていないにもかかわらず、二回も三回も見ている方が多いのです。落ち着いて見られる環境なので好評のようです。ただ単に欠席したから見られなかったものを見るというのではなく、さらに繰り返して見ておられるようです。また、図書館を利用するついでに見るのではなく、このビデオを見るために来るのです。それで、ビデオを利用した学習活動のあり方をもっと考えなくてはいけないのではないかと思うようになりました。

### 3 有識者インタビューについて

山中 どうもありがとうございました。それぞれ15回の長丁場を、特にお正月を中に挟んで、また寒い季節を迎えますので、続けてやったださるのにご苦勞があらうかと思いますが、宜しくお願いいたします。資料のいちばん最後の二枚は、尼崎市と池田市について、当日新聞で報道されたもののコピーでございます。わりと注目をさせていただいているようで、今日も尼崎市については毎日新聞に載っていましたが、こういうプロジェクトがあるということに関西の人に広く知っていただきたいと思います。このあと面接授業が二回あります。6割以上出席して、面接授業を二回出た方に、修了証（受講認定書）を発行するということになっていまして、その授与式もします。さてこの実験と並行してヒアリング調査をしています。実験によって一般の人達のニーズを探ると同時に、委員になっていただいている先生方以外に、いろいろな関西の有識者の方にインタビュー調査をして、関西地区における遠隔高等教育の今後のあり方、それから関西独自のニーズはどのような方向にあるのか、関西地区としてはどのような希望があるのかということをお調べしたいと思います。資料に20名ばかり、候補者を挙げています。これは関西のいろいろな研究者の方とか、シンクタンクの研究員とかに聞いて公約数を出したものです。ご検討いただいて、こんな方もぜひ聞いてもらいたい、この人はこういうことについてもっとくわしいのではないかというようなことがありましたら、ぜひお聞かせいただきたいと思ひます。

麻生 これは、行政側はなぜ入れなかったのですか。

山中 そうですね。これはたぶん、尼崎市の方とか、池田市の方とかに伺えばわかるということでこの候補者リストには入れなかったのだと思ひます。

麻生 大学以外の学校の先生には聞かないのですか。それからインタビューの時間はどのくらいとるのですか。

山中 一時間位のインタビューができればと思ひます。どちらかという、フリーインタビューのようなもので、お話を主に聞くという形になるかと思ひます。いわゆる社会調査のインタビューではなくて、むしろ意向調査というような形で考えています。まだアポイントをとっておりませんので、あくまでも候補とお考えください。それではまた何かございましたら、ぜひ私の方にご連絡いただきたいと思ひます。このインタビュー調査をセンターの教官が大阪に来

て行なうのは予算的にも大変ですので、これは地元の研究機関に委託しようと考えています。その結果は最後の研究会あたりで先生方のお手元にもお渡しできるかと思っています。

### C 第3回研究委員会

[内容]

- 1 座長発話：第3回研究会の開催にあたって
- 2 実験経過報告
  - ① 池田市
  - ② 尼崎市
- 3 有識者インタビューの経過報告

山中 本日は雪のちらつく寒い中、出席していただきましてありがとうございました。きょうは池田市の生涯教育センターの会議室をお借りしまして、第3回目の委員会を開かせていただきます。

それでは今日の議題でございますが、簡単にご説明いたします。いちばん最初に麻生先生の方から、前回のまとめと今回への引き継ぎ等、簡単にお話をいただきます。次に池田市と尼崎市の方から実験の経過を報告していただきます。それから今回並行して行っております、有識者インタビュー調査の経過報告を行います。それに続きまして今回の実験終了後に行います、評価調査の検討をしたいと思います。これらのことに前半の50分位をあてて、残りの一時間で将来放送大学が全国化した場合には、関西地区の特殊性を考えた上でどういうふうな学習センター像が求められているのかということ、前回に引き続いてお話し合いたいと考えております。では、麻生先生の方から一言お願いいたします。

#### 1 座長発話：第3回研究会の開催にあたって

麻生 今日寒いところをお集まりいただきましてありがとうございました。大阪のプロジェクトというのは市レベルの社会教育と放送大学というものが手を結んで、どのような放送大学のエクステンションができるかというところが一番の問題点だと思います。いろいろ問題が出てくるとは思いますが、私の個人的な見解としては社会教育と放送大学の連携というのは、放送大学の単位を個別に履修できるようにするとか、一定の限定をつけた形でエクステンションをするのがいいと考えています。いろいろなイメージがあると思うので、その延長上にどのような学習センターが考えられるかということも同時に話し合っていきたいと思っています。また有識者調査とか、これからいろいろな調査が行われていくのですが、その辺の分析をよろしく願います。それから特に今日は池田市の正田先生にはお忙しいところをいろいろお骨折りいただきまして、ほんとうにありがとうございました。簡単でございますけれど、ご挨拶にかえさせていただきます。

山中 どうもありがとうございました。それでは順番に池田市の正田さんの方から今回の実験の経過等につきまして、簡単にお話し合いたいと思います。

## 2 実験経過報告

### ① 池田市

正田 今回の実験ビデオ講座の全体集計は、「地域社会学」の申し込みが71名で、実際に受講した人は70名、「地球と宇宙」は74名の申し込みで、実際に受講した人は68名です。この生涯学習センターでは土曜日、日曜日の午後の時間帯に行っております。この時の「地域社会学」の申し込み者は37名で、37名の受講、「地球と宇宙」が29名の申し込みに対して28名の受講です。それからこの隣の中央公民館では、夜間の時間帯で6時半から行っていますが、「地域社会学」が34名に対して33名、「地球と宇宙」が44名に対して40名ということで始めました。この男女別内訳は、男性の方が多いです。これは社会教育の中でこれまでにやってきたパターンとは全く違うものです。だいたい女性が圧倒的にどの講座でも多いのですが、この実験ビデオ講座では、男性が非常に積極的に参加しているという、いままでには見られないひとつの姿がここにあります。地域的には、単に池田市ということに限らないで箕面、豊中などこの近辺の市からもたくさん来ていただきたいということで発足したわけです。新聞等に発表いたしましたが、若干PRの点で十分な効果があがらなかったようです。現在の段階では、生涯学習センターでは「地域社会学」ですと、市内が43名、市外が28名で、「地球と宇宙」もだいたい同じようなパターンです。次に中央公民館の夜間は、市外の受講者は昼間は池田市で勤務されているように思われます。たとえば官庁街におられる方とか、先生も多いようです。特に小学校とか中学校の先生が多いようで、いうならば現職教育という形できていらっしゃるという姿が見られます。それから平均年齢ですが、全体ではだいたい45歳前後というようになります。特に生涯学習センターの方は土・日の昼間ですが、「地域社会学」で59.5歳、「地球と宇宙」が56.6歳です。夜間の方はやはりさすがに10歳程度年齢が若くなって参りまして49.9歳ということです。もう今日も開講されましたが、あと二回ほどで終る予定になっております。1月23日現在の出席状況は所定の60%以上です。そして面接講義に二回以上の参加者は、全体ではだいたい「地域社会学」で85%、そして「地球と宇宙」で76%ということです。そして特にこの会場でやっております、昼の部は「地域社会学」が96.4%、ほとんどの方が所定のコースを修了していただけるという状況です。「地球と宇宙」の方も83.2%です。中央公民館の夜間の部は、時期的にみても寒い時期に入っているのですが、それでも70%をオーバーしているということです。そして私が個人的に非常に興味を持っておりました個人視聴ですが、全体集計ですと141回、つまり延べ141人が中央公民館、あるいはこここのセンターの図書館に来まして個人で学習しているということです。また、一回この実験のビデオを見た人がさらに何回もセンターや公民館に足を運んでビデオを見て復習しているということがわかり、私達としては非常に感激しています。それからこの中には講座に申し込んで所定の講義を受けて修了証書をもらおうとする人だけではなくて、この講義の受講者から聞いておもしろいということで、ビデオだけ見にきている人も入っているということです。

それから私の方で独自に企画してアンケートをとりました。実験が終わってから平成二年度にはどういう対応をしていくのかということもありまして、今既に放送教育振興会の方で発売さ

れているビデオ教材で、これならば確実に購入できると予測した10科目についてアンケートという形で希望を聞いてみたものです。これによりますと希望科目の一位が「太陽系科学」、二位が「生命科学」、三位が「社会生活と法律」、四位が「植物」、五位が「コミュニケーション」というようになっております。答えてくれましたのは受講者の39名の方々のうち32名につきましては「受講したい」と答えておられ、「受講しない」という方は一人もいないわけですが、まあ「わからない」という方が7名いるわけですが、続けて受講していきたいという考えを持っているようです。またこの講座に関しての意見とか希望を自由に書いていただいておりますので、後ほどご覧いただきたいと思っております。それから男女の違いで科目が違って来たり、夜間の方と昼間の方とでかなり希望科目が変わってくることもあるようです。最後に「今後に対しての要望・希望」ということですが、時期的なこと、教科書と講座・ビデオとの関係、あるいは講義の持ち方等たくさん書いてあります。多くの方はやはり続けていただきたい、そして面接講義をできるだけ入れていただきたいというように書いています。それからひとつ意見としまして、「テキストとビデオの内容がまるで違う部分があったり、ビデオを見ながらテキストを見ると具合がうまくいかない」というものがありました。特に「地域社会学」の場合はビデオの画面とテキストがかなり変わっておりますので、そういうことを指しているのだと思っております。簡単でございますが以上です。

山中 どうもありがとうございました。これまで私たちが他の地域でやってきました実験からいいますと、だいたい受講生は登録をした後、次第に減っていくというパターンだったのですが、今のご報告を聞いていますと、非常に熱心な学生さんが多いなと思っておりました。そうするためにはそれぞれの自治体で、ただ単にビデオを見るだけではなくてそれなりのご苦勞を重ねていただいて、ドロップアウトを低く押えてくださっているのではないかと思います。それでは小巖さんの方から尼崎での経過をお願いいたします。

## ② 尼崎市

小巖 尼崎では「地域社会学」は昼間、「地球と宇宙」は夜やっております。募集状況は、定員35名に対して「地域社会学」は37名、「地球と宇宙」は36名です。そして出席の平均はだいたい24名から25～26名というところです。それから年齢層は、40代から50代の方が非常に多いようです。まだ平均をとってはいませんがそういう状況がみられます。また先ほども指摘されましたが、「地域社会学」の中でテキストとビデオの内容が異なるというご意見もいただいております。それから自分達のコミュニティーといいますか、都市の中のいろいろな問題をとりあげてほしいという希望がありました。といいますのはビデオの中で農村の問題がとりあげられていて、一般的な都市社会学における農村の問題とかいろいろなところが出てきますが、そういった点が、自分達が住んでいる地域のこととは直接関係がなくて少し違和感があるということのようです。「地球と宇宙」に関しては比較的みなさん熱心で非常に興味を持っていらっしゃるようです。実施している場所は尼崎市の教育総合センターです。尼崎市という街は働く人が多いということがありまして、こういう企画に参加することが非常にむずかしいという状況なのですが、その中でみなさん励んでいらっしゃるというのが私の印象です。次回は書類にしまして皆さんにお渡しするようにいたしますが、今日はこのくらいで報告とさせていただきます

す。

山中 どうもありがとうございました。尼崎市の方は付け加えますと、毎回のビデオ講座の集団視聴の際にチューターをつけて、その先生方が後でまとめたり質問に答えたりということを行っていただけます。それがかなり出席率の維持とか理解の増進に役立っているのではないかと考えております。尼崎で「地域社会学」の面接授業を柳原先生にお願いいたしましたので、ちょっとコメントをいただけますでしょうか。

柳原 はい、私は前半の面接授業を担当したのですが、高齢の男性が非常に多いのでびっくりしました。70代、80代になっておられる方も結構いらっしゃいます。これまでいわゆる社会教育機関の中での講座といいますと、ほとんどがおばちゃん、おばあちゃんだったのですが、いよいよ男が出てきたかという印象をまず持ちました。しかも高齢者ですがまだまだ意気盛んで、職場をリタイアしたけれども学習意欲はあるという、へたをすると中年層よりも元気な方もいたという印象です。それからその高齢男性がどうもタイプとして二種類に分かれるような印象を持ちました。それはひとつには「リタイアしたけれどもまだまだ元気や、若いもんには負けん」という形の非常に血気盛んなとても頑張るタイプのおじいさんたちです。この方達はビデオを見るときも同じようで、鉛筆をしっかりと握って寸分も漏らさずに情報をキャッチしていこうというような意欲に満ちた方が多いのです。それともうひとつのタイプの方達はとても静かなおじいさんという印象を受けました。こちらからの働きかけに対して、リアクションがないのです。講演のベンチに腰掛けて鳩を見ているような感じで私をご覧になるので、「いろんな座る場所があるんだろうなあ」というふうに思っていました。それから若い方達もいらしたんですが、中年の女性の方達は40代から50～60代までいらっしゃいました。この方達は非常に講座慣れしているといいますか、昼間の講座というものは今まではほとんどこういうおばちゃん達の独壇場でしたから、こういう場面でこのテーマに関してはどういう処理をすればよくて、この場面ではこういうコメントを言ったらいいんだということをごく適切に御存知で、もうほとんど指導の必要がないというか、つまり地域社会の中で自分が社会参加していくにはどうしたらいいかということをおきまえて参加しているという感じの方達でした。そして、論文の集め方とかその場面での処理の仕方も非常にお上手でした。ただこれは先ほども池田の方や尼崎の方もおしゃっていただいたことですが、教育方向といいますか、プログラムの進行の流れがややこの方達の求めておられるものと合っていないという感じを持ちました。実はこの間こんなことをおじいさん達にいわれたんです。「板書して下さい」、「要点をまとめて板書してもらわんとわしらわからへん」というふうにおっしゃるんですね。要は放送教材で見た情報を自分の関心に添って整理して行って、それをたとえば印刷教材で補強して、ある一定の自分自身の知識にしていくという、どちらかといいますと自主的な処理の仕方がわからなくて、先生がまとめて必要なことを与えてくれるのを待ちになっているんです。ですからそういう意味ではメディア教育というものと、いわゆる教室での授業というものをどういうふうな形でミックスしていったらいいのかということをとっても考えさせられましたのが前期の時の面接授業でした。そんなところです。

山中 どうもありがとうございました。いろいろなタイプの人がいるというお話でした。

小巖 ちょっといいですか。今、高齢者が多いという話でしたけれども、これは公民館講座と

いうものの特徴なんです。ひとつには尼崎市では高齢者はバスが無料ですので、公民館講座の案内を新聞に出しますと自分達が受けたいものを全部まわって受けているというのが現実なんです。ですからお年寄りの方の方がいろいろなことをよく知っていて、また各講座によく参加しているというような傾向がみられます。

山中 はい。それぞれの開いていただいている施設の持っている顧客と申しますか、常連と申しますか、まあそういった層を今回基盤として、ビデオ講座を実施させていただいておりますので、そういった層の持っている特徴というものがビデオ講座に反映しているのかなというふうに考えています。池田と尼崎の経過を簡単にご説明いただいたのですが、先生方の方で何かこの点は是非伺ってみたいというものがございましたら、質問をしていただきたいと思います。

若松 ちょっとひとつよろしいですか。池田市の方からお伺いしたいのですけれども、希望科目の調査を拝見いたしますと、自然科学系と申しますか、ことばは「生涯教育」と申しますより「継続教育」と申すか、仕事に関連して必要なものという印象を受けるんですね。「太陽系の科学」「生命科学」「社会生活と法」「食物総論」と非常に自然科学に偏っているというような感じがします。こういう希望を男性と女性に分けますと、女性の中年層の公民館の講座の常連の方も、こういうような希望になるのでしょうか。

山中 今の若松先生のご質問に池田市の正田さん、お願いいたします。

正田 そうですね、女性と男性の差がいくらかあるといえると思います。たとえば全体的には「太陽系の科学」が非常に人気があるわけなのですが、男性の方は圧倒的に多いのですが女性の方は「食物総論」というところや「生命科学」のところが多いようです。ですからこれはもっと細かく見ていく必要がありますけれども、科目設定の時に男女別というところと少しことばがおかしいですが、女性のための講座と男性のための講座というようなこともやっぱり必要かもしれないですね。たとえば「食物総論」なんかをとりあげますとやはり女性が多く集まります。逆をいいますと、「社会生活と法」というようなものをとりあげますと男性が多く女性が少ない。このあたりをもう少し分析する必要がありますけれども、科目によって一概にいえないというふうになるような気がします。ただ私の方の「太陽系の科学」が圧倒的に多いというのは、今年ここでも「宇宙」をやっているものですから、姉妹編としてみなさん捉えてられて、地球に対して宇宙も勉強したい、そういうことがあるのではないかと思いますね。

山中 特に今回の「地球と宇宙」は「地球編」でございますので、きっと「宇宙がでてくるかと思っていったら地球までだった」というのがあるかと思います。それで要求がぐっと高まるのではないのでしょうか。私の方から少し付け加えますと、10番の「母子保健」は一般の調査では以外と評定が高いのですが、おそらく年齢層の関係や社会教育講座には参加しにくい、乳幼児を抱えておられるようなお母さん方では多いのでしょうか、今回のように出てきて受講するパターンの中では少ないのかなというふうな印象を持ちました。まだ講座は続きますので、今後とも宜しくお願いいたします。大阪府の教育委員会の山本さんは今日はどうしてもご都合がつかないということですので、残念ですが経過報告は次回にお願いいたします。

若松 もうひとつだけよろしいですか。教材の希望科目調査では、この他には特にありませんでしょうか。

正田 これを選定いたしますとき、仮に平成二年度にはこのビデオ講座の実験が修了してビデオを貸していただけないとしても、私どもの方で確実に入手できるものということを基準にしました。私共は既に予算要求をしております、貸していただけないとしてもビデオ教材を買う用意はできています。希望を聞いておきながら、視聴することができないようなことがもし起こるといけませんから。ですから入手できる教材がもっともっと多ければ選択肢もたくさん並べられて、もっともっといろいろな意見も出たと思います。

山中 ここにございますのが、現在市販されております放送大学のビデオ教材です。著作権をクリアーして、一般の社会教育機関でも使えます。30万円ほど出ていますが、この分だと思えます。4単位科目では60万円というものもあります。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

### 3 有識者インタビューの経過報告

山中 有識者インタビューをこのプロジェクトに並行して行っておりますので、中間報告を行います。関西地区の学識経験者、経済人、文化人、放送関係者を対象にいたしまして有識者インタビューをしました。関西地区では放送大学についてそれほど詳しく知っておられる方はいないだろうということが予想されましたので、生涯教育の一般論から入りまして、だんだん関西圏における生涯教育のあり方、それから放送大学のあり方というようにインタビューの内容を広げていくという手法で行いました。形式はきわめてフリーな会話形式によるインタビューです。この20名の学識経験者に対するインタビュー結果を別冊にいたしまして、報告集を作る予定にしております。インタビューの間に簡単なまとめの見出しを挿入して読みやすくなるように工夫してまとめるつもりでいます。とりあえず現在集まっております5名の方を含めまして、これまでの16名の方々の印象のようなものを発表いたします。このインタビューは委託研究で発注しまして大阪のS C Iという民間の研究所に依頼しました。そこでの報告によりますと、「放送大学」については、だいたい半分位の人が「知っている」ということでした。けれども内容的には、NHKの市民大学講座と混同されている方がかなりおられるということです。しかし一方、経済界の方で、わざわざ放送大学に資料請求をして、非常に強い関心を持っていらっしゃる方もおられたということです。さて次にどういう要望があるのかということ伺いましたが、こういうふうな遠隔手法による生涯教育について否定的な意見を持っておられる方は極めて少なかったということです。ただこれは関西の地域性かもしれませんが、「教える側の発想」ではなくて、「受ける側の発想」に立った講座とか放送大学の番組編成というものをやってもらいたいという意見が多かったようです。それから卒業資格にあまりこだわらない方がいいのではないかと、むしろ勉強したいものだけを受講できるような単科履修の方がニーズが高いのではないかとのご意見でした。しかし全般的に識者を含めまして関西地区の住民の放送教育というものについての一般的なイメージは、NHKの教育テレビであるということです。ですからどうしてもNHKの教育テレビというものを前提にして発想をしてしまうという「限界」を持っているように思ったということです。それから同じ放送教育でもマスコミュニケーションというのは一方向なんだけれども、「双方向」というものを求めているというこ



とです。「トゥーウェイにしておかないとうまくいかないのではないか」という意見が多数を占めたということです。次にどういう「施設展開」をするのがいいのかということですが、「都心部にひとつシンボリックな中核的な施設があって、それからそれぞれの地域に分かれた、地域のニーズにあった施設がこまめに配置されている」という状況がいいのではないかとのご意見をサントリー財団の佐野さんからいただいたそうです。また企業関係者からの提言としては、「企業内教育とのドッキングを是非考えてもらいたい」ということで、「企業ごとにその企業の特殊なニーズに合わせた集団視聴のようなものができるとうい」ということでした。全般的にはまだまだ関西地区での認知が低いので、意見がかなりまちまちで非常に個性が強くなったインタビューであったということです。以上が簡単なインタビュー調査のまとめですが、今後も随時まとめていきます。

#### D 第4回研究委員会

[内容]

- 1 座長発話：第4回研究委員会の開催にあたって
- 2 実験経過報告：尼崎市

山中 今日では遠路お越しいただきましてありがとうございました。会場を貸してくださいました尼崎中央公民館のみなさま、ありがとうございました。今回は新型学習センターの実験研究プロジェクトの第4回研究委員会です。今年度の研究委員会はこれが最後になります。地方自治体のご協力を得ましてこれまで半年間に渡って行ってきました、放送大学の番組を利用した学習センターのモデル実験も、2月の19日に無事に修了式を迎えることができました。ご協力をいただきました自治体の方々、本当にありがとうございました。今日の討議のテーマは、実験経過報告と評価調査、有識者インタビューの中間報告とフリーディスカッションです。この順番で進めていきたいと思ひます。それでは麻生先生からひとことお願いいたします。

- 1 座長発話：第4回研究委員会の開催にあたって

麻生 大阪の研究は自治体が社会教育の一環として、放送大学とドッキングしてサービスを行うということでした。これは新しいパターンで、従来は地域の大学と提携いたしました。今回の研究は、自治体と放送大学とがどのような領域でドッキングして行えば、両方のサービスをさらに拡充していけるかというところがポイントです。まず制度的な面としては、こういう地域的、部分的な試みをつみあげながら試行錯誤していきやり方が望ましいと思ひます。次に支援体制の面としては、その自治体に対する国とか府県の支援と、自治体そのものが学習者に対する支援とをどういふふうにとるのかというような、いくつかの条件を考慮する必要があると思ひます。ですから、自治体と放送大学のドッキングで行う放送大学のエクステンションというものが成功するためのいくつかの提言を、この実験の最後にまとめたいと思ひます。

山中 どうもありがとうございました。座長から今日のミーティングの課題をいただいたように思ひます。それでは、尼崎市の担当の澄田さんが資料を用意してくださいましたので、実験

の状態がどうだったのか発表していただきたいと思います。

## 2 実験経過報告：尼崎市

杉田 受講者と修了者の状況を年齢別に表にしました。受講者の大半の高齢者の方たちは、ほとんど全員が修了しています。中年の方達の中にドロップアウトが多かったようです。それから「地球と宇宙」の方は、もともとこういうことに興味のある方が多く受講されたようで、夜の講座にしてはドロップアウトの数が少なかったと思っています。また、市外から来ている方が、案外最後まで続けておられることがわかります。これははじめの動機が強いのでしょうか。それぞれの回の出席状況をみていただきますと、四回から五回目頃の出席状況を最後まで確保できたように思えます。ただ、社会教育ではよくみられる現象ですが、天候にかなり左右されています。

山中 ありがとうございます。次の課題に入っていきたいと思いますが、何かご質問等、ありますか。

若松 尼崎では広報はどういうふうになされたのですか。

杉田 日刊紙に載せました。またNHKが、阪神でやるということで放送してくれました。尼崎市独自ではチラシを刷りました。阪神間の公民館に配りましたのと、市内の公共施設に置いてもらいました。あとは口コミです。

山中 それぞれの自治体の担当者の方で出していただいた資料が他にもありましたら、また報告書の中に盛り込みたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以下、委員会は討議に移った。研究委員会に報告された本実験研究の方法や経過に関する議論は以上の通りであった。

## 第3章 評価調査の結果

実験に関する評価調査は、大きくつぎの3つの部分から構成されている。

- I 実験受け入れ自治体に対する評価調査（質問紙・インタビュー調査）
- II 面接担当講師聞き取り調査
- III 受講者アンケート評価調査（受講者アンケート調査関連質問・自由記述を含む）

Iは、本実験研究の特徴のひとつである地方自治体との連携協力による実験的な地域学習施設の運営という側面に関して、実験に参加した自治体の関係者から今回の実験に関してさまざまな側面からの評価を得ることを目的として行なわれた。

IIは、今回取り上げた2つの科目「地球の宇宙」と「地域社会学」の面接講師を担当してくださった幾人かの面接担当講師の方々から、実際の講義経験を踏まえた実験の評価を得ようとするものである。

そして、最後のIIIは、今回の実験講座に受講者として参加した人々の対して、さまざまな項目にわたって評価調査を行なったものである。この調査には、定量的な分析の手法を用いたものと自由記述を中心とした定性的な評価に関するものの2つを設けた。

以下は、これら3つの評価調査の結果である。

### I 実験受け入れ自治体に対する評価調査結果

山本敏秀	（大阪府教育委員会社会教育課主幹）
正田益嗣	（池田市生涯学習大学事務局長）
小巖恕久	（尼崎市立中央公民館長）
木村光男	（尼崎市立中央公民館社会教育主事）

この調査は、実験ビデオ講座の運営にあたった地元地方自治体の担当者を代表して上記の3名の方々にあらかじめ質問紙を送り回答を記述していただき、さらに、それをもとに、山中が訪問し追加的にインタビューを行なってその結果をとりまとめたものである。

質問票の質問項目にそって、3つの自治体の担当者の回答を大阪府、池田市、尼崎市の順にまとめて記述し報告した。

#### A 実験ビデオ講座の実施をお引受けくださるに至った経過に関して

1. 実験を引き受けることのメリットはどのようなものだとお考えになりましたか。

大阪府：

- ①放送大学のビデオを無償で手に入れることができると考えた。
- ②目新しい事業に取り組むことができる。
- ③放送教育開発センター、放送大学とのつながりがもてる。

池田市：

市民の学習機会の場と新しい教育方法の拡張が可能だと考えた。

尼崎市：

- ・公民館講座として新しい展開が見いだせるのではないかと考えられた。
- ・生涯学習時代における個人学習の支援方法がどのように展開できるかを知ることができると考えた。
- ・放送大学の学習センターを誘致できれば、生涯学習の推進に大きなインパクトとなる。

2. 実験受け入れを決定されるまでに、障害や問題になった条件、あるいは困ったことをあえて挙げてとすれば何だったでしょうか。

大阪府：

- ①受け入れ場所の職員の説得（業務量の増加が予想された）
- ②予算措置が行われていない事業への経費支出（5～10万円程度）
- ③受講生が集まるかどうかの不安（施設の職員。泉南府民センターではことわられた）
- ④実施部局をどこにするかという問題——教育委員会かあるいは生涯学習の総合調整機能をもつ文化課か

池田市：

放送大学について認識を持ってもらうために行う、市民に対するPRの時期が遅れた。

尼崎市：

- ・公民館サイドで実験講座を受けるだけでよいのか、市として受け入れをどう考えるかの調整に苦慮した。
- ・年度当初から考えられていた講座ではなかったため、チューターの謝礼の財源確保と執行段階における経理担当との折衝に苦慮した。

3. 講座の開催に使用した施設は、どこだったでしょうか。（集団視聴、個別視聴、その他）

大阪府：

大阪府文化情報センター（集団視聴、個別視聴とも）

池田市：

中央公民館 —— 集団視聴  
生涯教育センター —— 集団視聴  
図書館 —— 個別視聴

尼崎市：

尼崎市教育総合センター・第一研修室 —— 集団視聴  
尼崎市立中央公民館応接室 —— 個別視聴

4. 実験の実施を引き受けられた担当主体（部局）は、どちらでしたか。

大阪府：

大阪府教育委員会

池田市：

教育委員会

尼崎市：

尼崎市教育委員会・社会教育部、中央公民館

5. 必要な人員は何人で、どのように充ちなさいましたか。

大阪府：

開催日——1～2人（集団視聴開催日のみ）

準備作業（広報、受付、問い合わせ）——2W×1人程度

池田市：

スタッフ12人（関係部課の管理職で充当）

①教育次長—②教育部長—③生涯教育推進室長— ④社会教育課長—⑧担当係長

⑤中央公民館長—⑨副館長

⑥生涯教育センター長—⑩副所長

⑦図書館長—⑪副館長

他1名

尼崎市：

2人——中央公民館事業係で対応

6. 受け入れにあたって、予想される経費は、どのように用意なさいましたか。

大阪府：

既定予算の枠内で執行（会議費・接待費）

池田市：

予算化した。市長局が積極的にとりくんだので、補正予算で150万円を組んだ。議会でもとりあげられた。「やりっぱなしではなく、継続させよ」という議会の反応であった。

尼崎市：

他の公民館講座費用から充当

・チューター謝礼——260,000円

・その他 —— 41,200円

・計 ——301,200円

7. 実験の実施・運営のための組織（担当の構成）を簡単に図示いただけませんか。

大阪府：

○企画、広報、調整、応接（集団視聴日の1/2程度）社会教育課（主幹、社会教育主事）

○事業実施

府立文化情報センター (社会教育主事)

池田市：

チーフ	副チーフ	社会教育課	事務担当
教育長	教育次長	教育部長	
	担当課	中央公民館	集団視聴実施担当
	生涯教育推進室長		
	協力・連絡	生涯教育センター	同上
	調整		
		図書館	個別視聴実施担当
	市長部局	企画課	

尼崎市：

	管理課
中央公民館	
	事業係 (実施)

8. 実験講座のシステムを知ったとき、講座を維持する上で、困難と思われた点がありましたら、お聞かせください。

大阪府：

受講生が継続して受講し続けるかどうか不安 (ビデオだけの一方通行なので)

池田市：

特になし

尼崎市：

- ビデオ視聴だけで長期の講座の維持は困難だと思われたので、回ごとにチューターをつけ、解説を入れることにより、受講生の理解を深め、受講生の意欲の維持に努めた。
- 年末・年始等、長期間講座を休むと欠席者がふえるので、早くから学習意欲の喚起に努めた。

9. そのほか、実験受け入れの過程で、お気づきの点があれば、なんでもお聞かせください。

大阪府：

- 前年度7～8月に事前の意向調査を行うべきだ。
- 募集期間は4～5月が良い。(夏は高校野球が紙面をとるので、広報活動がよくなる——特に「朝日新聞」)
- 広報のタイミングが悪かった (8月に府広報は休み)

池田市：

PRの徹底を図るための時間的、経費的準備

尼崎市：

- ビデオ視聴だけでは長期講座の維持はむずかしい。(家庭での視聴ではないので)
- 単位の認定があれば、受講意欲がもっと高まったであろうと考える。
- チューターを入れることにより、内容の理解が深まった。

## B 実験の実施過程について

1. 科目選択や科目数について、ご意見があれば、お聞かせください。

大阪府：

バラエティのある科目選択のため、5科目程度で実施すべきと思う。少なかった。

池田市：

選択科目をもっと多くすること。その内容を担当者が知る機会を設けること。

尼崎市：

- 受講生に興味のある科目（「地球と宇宙」）などの選定がむずかしい。
- 実験としては2～3科目でよかった。

2. 今回、センターが用意した講座システム（15回のビデオ教材と2回の面接講義、オリエンテーション、修了証の授与）について、どのように考えられますか。ご意見をお聞かせください。

大阪府：

- 修了生には修了証だけではなく、放送大学のバッチやネクタイピンなど記念品をあげたかったが、予算がなかった。
- 回数（15回）は、多いように感じた。

池田市：

一応成功したと思われる。

尼崎市：

- 講座内容がハイレベルであるので、解説が必要。
- 面接講義については、流れを熟知した講師が必要である（全体的な流れの講義が必要）。
- 修了証の授与のとき、記念講演を入れたことは良かった。参加者も喜んでいた。

3. センターが示した講座システム以外で、それぞれの自治体で独自にいろいろな試みをつけ加えられたようですが、どのような試みをなさいましたか。その理由を併せてお聞かせください。

大阪府：

- 講座そのものには、特に加えていない。
- 記念品として記念写真を配布した。

池田市：

- より幅広く、各階各層の人々を対象にするために、昼間、夜間の各講座を設け、また、図書館の施設利用による重層的な学習方法（形態）を考案した。
- 面接講義を2回追加した。

尼崎市：

チューターをつけた。この理由については前述のとおり。

4. 受講者の募集について、どのような広報手段をおとりになりましたか。媒体の種類、工夫した点などをお聞かせください。

大阪府：

- 資料提供（新聞・テレビなどへ）
- 市町村教育委員会への協力要請

池田市：

- ①新聞・広報紙に掲載
- ②団体・機関へのチラシによる呼びかけ
- ③団体・機関・公民館等の受講者への口頭による呼びかけ

尼崎市：

- チラシの配布、公民館講座受講終了者に対する案内文：内容の送付
- 尼崎広報紙での掲載
- 日刊紙への掲載依頼
- 近隣公民館へのチラシ・要項の配布

5. 応募状況は、他の社会教育講座などと比較して、どうだったでしょうか。

大阪府：

他の講座と大差はなかった。

池田市：

- ①（池田市からみて）他の市町村を含めて、かなり広いエリアから受講者が集まった。
- ②夜間講座では男性が多かった。
- ③教員、会社員、公務員等、現職にある人々が多く見られた。

尼崎市：

公民館講座とほぼ同じ状況であった。（「地球と宇宙」については定員に達するのは早かった）

6. 応募者の特徴や傾向をお聞かせください。

大阪府：

- 比較的若い人がいた。
- 文化情報センターの常連の人は比較的少なかった。
- 勤務時間終了時のサラリーマンが多かった。

池田市：

今までの社会教育講座では体験できない、新しい学習形態に関心を持っている人が多かった。

尼崎市：

- 地域社会学については、本市で地域教育向上事業を実施しており、その中で地域教育とは何か、悩んでいるときであったためか、主婦層の参加が多かった。
- 「地球と宇宙」については、通常の公民館講座より成人・青年層の参加があった。また女性の参加もあった。



7. 講座の運営は、実際にどう進められましたか。

大阪府：

講義の開始のときと終了のときに、担当者があいさつをした。

池田市：

毎回、司会者が中心になって講座を次のパターンで運営

- ①講座を始めるにあたってのあいさつ
- ②集団視聴
- ③視聴後の感想や意見の交換
- ④連絡事項等の伝達
- ⑤講座を終るにあたってのあいさつ

尼崎市：

1日に2講座

- ・「地域社会学」は午後（13：30～15：00）に実施。  
最初にビデオ視聴（45分）をし、チューターの内容の解説・質疑
- ・「地球と宇宙」は夜間（19：00～20：30）に実施。  
その日の学習内容を説明し、ビデオ視聴（45分）、質疑および補足説明

8. 運営上、なにか問題になったことがあるとすれば、何だったでしょうか。

大阪府：

面接講義の講師が急に来れなくなり、日程変更をした。

池田市：

放送内容についてその場における疑問や意見に対して、即座の対応ができなかった。適当なチューターをつけるとか、その科目にある程度通じている人を司会者にすることが望ましい。

尼崎市：

とくになし。

9. 受講者のやる気を維持し続けるために、途中で何か対策を打ちましたか。それは、どんな対策でしたか。

大阪府：

（記述なし）

池田市：

面接講義の充実（2回追加）

尼崎市：

- ・「地球と宇宙」の場合、年表を作らせたり、標本・資料を提示しながら実施。
- ・早め早めに出席をうながすように声をかけた。

10. 放送教材（およびテキスト）に何かお気づきの点があれば、お聞かせください。

大阪府：

もう少しスーパーインポーズを多用した方が内容が理解しやすい（現場の職員の意見）

池田市：

分量が多い。密度が高い。テンポが早い。特に「地球と宇宙」はテキストの分量も多かった。

尼崎市：

講師の出番が多く、受講者側にとって忍耐のいる教材である。映像の中にもっと動きのあるシーンやシュミレーションを入れることが必要（講師はなるべく声だけにする）。

11. 面接講義で何かお気づきの点があれば、お聞かせください。

大阪府：

- 受講生は大変楽しみにしていたようだ。
- できれば放送教材の講師自身が来てほしい。

池田市：

放送内容と講義の内容とが必ずしも十分な関連があったといえない。しかし、どちらがよいともいえない。

尼崎市：

講師が講座の進行状況を把握できないため、面接講義が流れの中からはみ出した感があった。

12. 集団視聴と個別視聴を今回は併用しましたが、それぞれについて、ご意見をお聞かせください。

大阪府：

個別視聴数も予想以上にあり、併用は必要だと思う。本来は個別視聴が主、集団視聴が従でいくべきだろう。

池田市：

放送内容をさらに深めていくような、キメ細かい併用のプログラムは必要。

尼崎市：

- 今回の学習は本来的に個別視聴で実施されるものと考えているが、集団視聴をしたことにより、仲間づくりができたメリットは大きい。個別視聴であれば、学習者の意志が強くなければ、継続しにくい。
- 両方を併用すると、欠席したときの学習があとで補足できるメリットがあり、学習の継続性がたもてる。

13. 受講者の学習グループについて何かお気づきの点があれば、お教えてください。（たとえば、主催者が意識的にグループづくりを進めた、とか、自然発生的にグループができていたとか）

大阪府：

自然発生的にグループができ、集団視聴後、談話を楽しんでいた。

池田市：

自由に参加し、自由に学習し、自らがコントロールしていくという傾向が強く、グループづくりは特に行わなかった。

尼崎市：

今回はグループ化を考えていなかったが、友達ができ、公民館講座と一緒に参加するような成果はある。

14. 受講者の学習の仕方や行動などで気がついたことがあればお聞かせください。

大阪府：

放送による一方通行のわりには、熱心であったように思う。

池田市：

全体的に自分できちんと学習しているように思われる。

尼崎市：

- 1～2回受講してから、自分の子供にも学習させてほしいとの要望があり、親子で学習する姿がみられた。
- 予習をしている受講者が数人みうけられた。また、ノートをとり、家でワープロで整理をしている受講者もみられた。

15. その他、講座の実施過程でお気づきの点があれば、何でもお聞かせください。

大阪府：

(記述なし)

池田市：

担当者は相当な準備と努力が要求されると思う。

尼崎市：

公民館講座も同じであるが、今回のような長期講座は主催者も受講者も忍耐が必要で担当者と受講者がともに学習するという意識づくりが大切である。

## C 実験終了後の感想など

1. 実施担当者として、負担になったようなことは何かありませんでしたか。

大阪府：

- 期間（10～2月）が長く、大変であった。
- 短期間で集中してやる方が担当者としては、楽である。

池田市：

専任の担当者ではないために、時間調整がむずかしかった。

尼崎市：

- 講座の実施場所が公民館でなかったため、気分的につかれた。
- 夜間の長期講座であったため、チューターの健康、接待が負担に感じられた。

2. 実施者として、やりがいがあったと感じたことは何かございましたか。

大阪府：

受講生の喜びの声。

池田市：

新しい市民の学習のあり方の可能性を感じたこと。また、市民自身がそれを強く望んでいることを知ったことの驚き等。

尼崎市：

- 修了者が想定していたより多く、また修了者から参加してよかったといった声を多く聞くことができたこと。
- このような講座を来年もしてほしいとの希望があったこと。
- 受講者同士、友だちをつくり、今でも連絡をとりあい、おつきあいをしていると聞くと、やってよかったと思う。

3. このようなビデオ講座は、市民の教育ニーズを満たす上で、どのような位置づけを与えることができるでしょうか。

大阪府：

ハイレベルな教養講座

池田市：

いま行われているような社会教育講座と少なくとも同等の位置づけが必要。たとえば、公民館の講座を受けるときのように、気軽に取り組めるところまで開かれていくべきである。

尼崎市：

- 生涯学習時代における学習方法のあり方として、個人学習の支援が必要である。
- 本市、公民館においても、個人学習支援のため、公民館にビデオブースの設置を要求していく考えを持った。
- 高度、専門的な学習ニーズを満たすには、このような講座は必要と考えられる。

4. この実験は、今回で終了しましたが、その後、同様の事業を続けておられることがあれば、どのような事業を続けておられるかお聞かせください。

大阪府：

続けていない。

池田市：

実験講座と同等の姿で継続実施している。

尼崎市：

- 現在、同様の事業は実施していないが、講座展開にビデオ教材を取り入れることを奨励している。(各公民館・分館にビデオ機器を整備した)
- ビデオブースを置くなどして、個人学習を支援するための方策を今後講じていきたい。

5. 実験を通して、放送大学について、どのような印象をお持ちになったかお聞かせください。

大阪府：

早く関西地区での放送開始を望みたい。

池田市：

今後できるだ早い機会にあらゆる地域のあらゆる人に手軽に受講できるようになれば…と思った。そういう市民の要望が強かった。

尼崎市：

- 尼崎市が生涯学習を推進していくためには、放送大学が本市に誘致できれば、「まち」のイメージチェンジとなり、住民の学習意欲がもっと高まると考えられる。また本市は、交通の利便もよく、大阪・神戸の学習要求者を包括することができる条件が整っている。
- 放送大学そのものが関西では認知度が低いが、多くの科目を設けているので、学習需要の掘り起こしができる。

6. これからもこのようなビデオ講座を継続して実施するとすれば、どのような条件が必要でしょうか。自治体の内部の条件、センター側あるいは大学側に期待する条件があればお聞かせください。

大阪府：

- 自治体の条件 ——生涯学習事業の取り組み姿勢
- センター側の条件——事業の計画的実施、自治体との十分な調整（時間的余裕）
- 大学側の条件 ——受講者の受講メリットの付与

池田市：

現在の段階では困難と思う。

尼崎市：

- 個人学習をどのように支援していくかの条件整備をおこなうこと。
- センター・大学・公民館がもっと連絡を強めていく体制づくり。
- グループ化を進める。他の受講生がどう考えているのかを知ることができるなど、もう少し人間関係を深めるような方策が必要ではないか。

## D 今後の希望について

1. 地方自治体との連携による放送大学の姿を考えるとすれば、地方自治体と放送大学の関係のあり方には、どのような姿が考えられますか。（具体的な提案やご意見をお聞かせください）

大阪府：

- 地方自治体（各市町村）のニーズをきいた放送番組の制作
- 大学公開講座（一定期間）の開催
- 行政啓発事業に関連した講座番組の放送（ビデオ視聴）

池田市：

より緊密な連携は必要。その前に、相互の情報交換がもっと必要。

尼崎市：

- 放送大学側が教材指導者を提供し、公民館が受講生の募集、施設の提供を担当して、講座の展開を図っていく、二人三脚で実施していければと考える。
- 社会教育現場サイドの声を公民館が集約し、その声を反映したビデオづくり。

- 地方自治体が所有する学習情報の共有。

## 2. 関西圏における放送大学の展開について、ご意見などがあればお聞かせください。

大阪府：

- 将来的には2チャンネル方式で、東京制作分と内容を競わすため、関西での制作・放送を行う。
- 放送衛星があがるまでの間、各府県の1～2ヶ所で自治体の協力を得て、ビデオ学習講座を開催し、ある程度の固定客を確保しておく。

池田市：

- どんな方法をとってでも、早期に実施されるべきと思う。

尼崎市：

- テーマや教材等を関西の中から取り出し、講座を展開すれば、受講生の理解も深まり、関西における放送大学の存在意義も大きいものがある。
- 学習センターを設置する場合には、鉄道、バス等の利便性等の利用圏域人口を考慮して、受講生が通学しやすいという点で決定されるべきである。

## 3. その他、全般をとおして、お気づきの点があれば、なんでもお聞かせください。

大阪府：

(記述なし)

池田市：

- 池田市の場合、実験講座をそのまま同じような方法で継続的に実施しているが、さらに継続し、発展させていくためには、センターや放送大学当局との連携・協力体制が充分に行われる必要があると思われる。それが不十分の場合、やがて消滅するのではないかと思う。

尼崎市：

- 開発センターには、多品種のソフトの提供をお願いしたい。

## Ⅱ 実験ビデオ講座における面接講義の概要と評価

### ——「地域社会学」を中心とした実施報告——

若林良和（放送教育開発センター助手）

#### 《内容・目次》

1. 序
2. 面接講義の実施概要
3. 講義内容の概要
4. 講義に対する評価
5. 結びにかえて～講義に対する所感

#### 1. 序

放送大学番組による実験ビデオ講座（開講科目「地域社会学」・「地球と宇宙－地球編－」）において、ビデオ視聴の実験期間中に専門の講師による面接講義を開催した。面接講義の主目的は、ビデオテープの放送教材（1回45分、15回分）と印刷教材（テキスト）を活用して学習している受講生に対して、その講座内容に関する理解を深めることにあった。ここでは、開講科目となった2科目のうち、「地域社会学」を中心にして、面接講義の実施結果を報告したい。

#### 2. 面接講義の実施概要

面接講義はビデオ視聴の開催場所3ヶ所（大阪府：府立文化情報センター、池田市：市立生涯教育センター、尼崎市：市立教育総合センター）において、それぞれ2回、開催した。（なお、池田市では、2会場でビデオ講座が開催されたが、もう一方の市立中央公民館においても、池田市の依頼により、市立生涯教育センターと同じ要領で、面接授業を2回行なった。また、尼崎市では、独自の試みとして、ビデオ視聴のたびにチューターによる解説を行っていた。）

講義の実施日程と担当講師は次のとおりである。「地域社会学」は10月下旬より1月下旬までの間に2名の講師が、「地球と宇宙－地球編－」は10月下旬より12月下旬までに3名の講師が、それぞれ担当した。（表1参照）

表1 面接講義の実施概要

	実施場所・実施時間	実施日	担当講師	受講生	修了生
地域社会学	大阪府立文化情報センター 18:30~21:30	11月14日(火) 1月23日(火)	佛教大学講師 若林良和	41	25
	池田市立生涯教育センター 13:30~16:30	10月21日(土) 11月18日(土)	佛教大学講師 若林良和	37	36
	池田市立中央公民館 18:30~21:30	12月15日(金) 1月19日(金)	佛教大学講師 若林良和	36	28
	尼崎市立教育総合センター 13:30~16:30	11月8日(水) 12月20日(水)	兵庫県家庭問題研究所主任研究員 柳原桂子	37	26
地球と宇宙	大阪府立文化情報センター 18:30~21:30	11月7日(火) 12月7日(火)	放送大学教授 奈須紀幸	45	34
	池田市立生涯教育センター 13:30~16:30	10月22日(日) 11月19日(日)	放送大学副学長 小尾信彌	30	24
	尼崎市立教育総合センター 13:30~16:30	11月8日(水) 12月20日(水)	神戸大学教授 藤井直之	36	25

注1) 担当講義の所属・職位は、面接講義担当時のものである。  
注2) 受講生、修了生は、ともに人数を示す。

このうち、「地域社会学」についての面接講義開催日をビデオ視聴進行の状況との関連で見れば、面接講義用教室や担当講師の都合により、その実施段階を統一することができなかった。つまり、大阪府では、第3回と第14回、池田市の生涯教育センターでは、第2回と第7回、池田市の中央公民館では、第9回と第12回、尼崎市では、第5回と第10回の、それぞれのビデオ視聴が終わった段階で、面接講義を開催したのである。(表2参照)



表2 「地球社会学」のビデオ視聴日と面接講義実施日

回	学 習 テ ー マ	大阪府立 文化情報センター		池田市立 生涯教育センター		池田市立 中央公民館		尼崎市立 教育総合センター	
		ビデオ	面接講義	ビデオ	面接講義	ビデオ	面接講義	ビデオ	面接講義
1	地域社会学への招待	10/19		10/7		10/6		10/4	
2	農耕と定着	11/2		10/14		10/13		10/11	
3	地縁と血縁	11/7	11/14	10/21	10/21	10/20		10/18	
4	土地の神さま	11/16		10/28		10/27		10/25	
5	村・町・都市	11/21		11/4		11/10		11/1	11/8
6	地域と宗教	11/28		11/11		11/17		11/15	
7	地域と水域	11/30		11/18	11/18	11/24		11/22	
8	現代の農村社会	12/5		11/25		12/1		11/29	
9	現代の漁村社会	12/7		12/2		12/8		12/6	
10	現代の山村社会	12/12		12/9		12/15	12/15	12/13	12/20
11	開拓地の地域社会	12/14		12/16		12/22		1/17	
12	都市の近隣社会	12/19		1/20		1/12		1/24	
13	歴史のなかの地域社会	1/16		1/27		1/19	1/19	1/31	
14	未来への挑戦	1/18	1/23	2/3		1/26		2/7	
15	主張する地域社会	1/30		2/10		2/2		2/14	

### 3. 講義内容の概要

#### 1) 講義の主旨

原則的には、放送材料と印刷材料を用いて学習している受講生に対して、「社会学」、「地域社会学」に関する理解を更に深めてもらうことにある。

実際のレベルでは、次の3点に留意して講義を行った。

- (1)「地域社会学」を初めて学ぶ受講生が多いため、その前提となる「社会学」の学問的性格・特徴をできるだけ平易に略説する。「社会学」という学問のイメージをつかめるよう、また、社会学的なものの方・捉え方が少しでも理解できるように配慮する。
- (2)放送教材、印刷教材が具体的な事例による、実証的な内容になっているため、面接授業では、その背景となる「地域社会学」の研究史、理論的系譜を踏まえて、簡潔に説明する。
- (3)講義に際しては、ただ単に、理論的、抽象的なレベルで説明を行なうだけでなく、放送教材や印刷教材で取り上げられた事例とは、別に、オリジナルな事例（近海・遠洋漁業と地域社会：三重県尾鷲市、石炭産業と地域社会：福岡県筑豊地域、織物産業と

地域社会：京都市西陣地域)を提示して、受講生の理解が深まるように配慮する。

## 2) 講義の具体的内容

講義の具体的な内容は4つのセクションに分け、それぞれのテーマは次のとおりである。

セクション1－社会学入門

セクション2－村落社会学の軌跡

セクション3－都市社会学の発展

セクション4－地域社会学の成立

(＊ 第1回面接講義でセクション1・2を、第2回面接講義でセクション3・4を口述する。

＊ 各セクションの講義時間は45分～60分程度である。)

では、各セクションの主題と内容を簡単に紹介しておく。

### 〈セクション1：社会学入門〉

主題： 地域社会学を学ぶ場合に、その前提となる社会学についての理解を深め、社会学という学問の基本的な性格がイメージできるようにする。講義の様々な制約上、社会学に関する特徴を体系的、かつ、総括的に解説することは困難であり、社会学の研究対象や研究方法を通して4つの点を取り上げ、概説する。さらに、社会学の効用と調査方法についても触れる。

講義上のキーワード：社会現象、社会の諸領域、総合学、  
現代生活、現代人、現代学、  
集団、組織、集団学、  
人間関係、社会関係、関係学、  
予測の可能性、実用的効用、技術的効用、  
抽象的把握、書斎科学、理論的研究、  
具体的把握、野外科学、実証的研究、  
統計法、数理解釈、定量的分析、  
事例法、価値・意味解釈、定性的分析、  
学際的思考

### 〈セクション2：村落社会学の軌跡〉

主題： まず、地域の2類型としての都市と村落（農村）を20の指標をもとにして概念的に規定した上で、その現在の意味を考える。次に、日本における村落類型論の系譜を紹介した上で、日本の伝統的な農村社会の特質を概説する。

講義上のキーワード：自然村、行政村、鈴木栄太郎、  
同族型村落、講組型村落、福武直、  
ムラとイエ、超世代の家督相続、家本位制度、  
家長権、同族団、村落共同体、地主－小作関係、

〈セクション3：都市社会学の展開〉

主題： 都市社会学の研究史のなかで、戦後、日本の都市社会学に大きな影響を与えたアメリカ都市社会学のアウトラインを紹介し、その上で、日本における都市社会研究の課題を整理する。

講義上のキーワード：シカゴ学派、都市問題、社会病理現象、人間生態学、アーバニズム、パーク、ワース、レッドフィルード、地域権力構造、地域集団、町内会、都市化（生活の都市化、地域の都市化）向都離村現象、過疎化、過密化、近郊化、スプロール化

〈セクション4：地域社会学の成立〉

主題： 1960年代以降の高度経済成長がもたらした地域社会の構造的な変容過程を説明する。地域開発過程の進行に伴い、地方自治体の役割が増大し、地方行政と住民生活との関連に注目した分析が必要になったことを略述する。

講義上のキーワード：都市と農村の結婚、自治体行政、広域行政、団体自治、住民自治、住民参加、地域住民組織、住民運動、シビルミニウム、混住化、ネオ・ルーラリズム、インナー・シティ問題

#### 4. 講義に関する評価

講義に対する受講生の評価は、面接講義の最後に担当講師が受講生に課したレポートの記述から、順に列挙する。(コメントの後にある( )のうち、大阪府は府立文化情報センター、池田市は市立生涯教育センター、ないし、市立中央公民館のことであり、受講生名はイニシャルで表記する。)

**【地域社会学・社会学に対するイメージや感想】**

- ・奥の深さが理解できた。放送教材や印刷教材で取り扱っているものは、ほとんど定性的分析であると思う。(大阪府、E. I.)
- ・実証的な把握を大切する学問だというのを、改めて感じた。(大阪府、S. U.)
- ・学問のイメージが私なりにつかめたように思える。とてつもなく広がりのある感じ。(大阪府、Y. O.)
- ・社会学は多面的な角度で研究するので、大きな魅力を感じる。(大阪府、K. S.)
- ・漠然とした感じがする。でも、取り上げ方ひとつで、社会学になることもわかった。

(大阪府、M. S.) (大阪府、I. M.)

- ・この講座が定性的なものであったので良かった。(大阪府T. S.)
- ・講義での分類・整理の仕方が、はっきりしているのでわかりやすい。(大阪府、T. S.)
- ・「地域社会学」を狭義にとらえていたが、講義を聞いて、私のやっている仕事の面からでもアプローチできるような気がした。(大阪府、M. W.)
- ・全体として、概念に縛られているように思う。新たな視点で見たい (大阪府、U. S.)
- ・統計から社会を読んだり、フィールドワークを主とした分析などはおもしろい。(大阪府、I. O.)
- ・とても幅広い学問だと思う。(大阪府、I. O.) (大阪府、M. O.) (大阪府、R. S.) (大阪府、A. T.)
- ・身近なものに感じた。(大阪府、K. N.) (大阪府、T. S.) (大阪府、S. M.) (大阪府、S. M.)
- ・生活の香りがする学問のような気がします。(大阪府、S. M.)
- ・学問の一つのジャンルの成立過程にとっても興味が持てた。(大阪府、S. M.)
- ・自分自身、もっと多面的に、巨視的に、物事を見なければならぬと思った。(大阪府、K. N.)
- ・民衆レベルの学問というイメージがする。いろんな形で、いろんな人物が協力してける学問のような感じがする。(大阪府、N. M.)
- ・今、生きている社会全般が対象となり、我々の生活に密着していて、とっつきやすい。楽しそうでもあり、大変な感じがするけれど、素晴らしい学問だと思う。できるだけ、実生活にも使っていきたいと考えている。(大阪府、A. T.)
- ・自分の周囲で見渡せば、さぞ面白かろうと思います。(大阪府、S. M.)
- ・地域社会学の調査方法のもっと具体的なものを示してほしい。(池田市、M. T.)
- ・一つの地域に住んでいる以上、自分も何かを果たして、社会に役立つことが大切なことなので、ここで学んだことを契機にして、何かを産み出してやろうという意欲が湧いてきました。(池田市、A. I.)
- ・ここでの成果をできる限り、実生活に活用したいし、関係する本を読んで学んでいきたい。(池田市、A. T.)
- ・いろんな土地柄も理解できたし、いろんな概念も知ったことだし、自分の視点を持って学んでいきたい。(池田市、Y. T.)

#### 【面接講義と放送教材・印刷教材の関連】

- ・放送教材、印刷教材、面接講義の内容がバラバラのような気がする。その反面、内容に幅があって良く、いろんな刺激を受ける。(池田市、M. H.) (池田市、H. S.) (池田市、Y. T.)
- ・放送教材は1回につき、2本視聴し、その分、面接講義を増やしてもらいたい。(池田市、S. U.)

- ・放送教材と印刷教材では、内容の上で異なっている。それを埋めるための面接講義のような気がする。それにしても、面接講義の回数が少なすぎる。(池田市、H. M.)  
(池田市、K. O.) (池田市、A. S.)
- ・面接講義と放送教材の内容は離れているように思う。面接講義は、年寄りの私には、ちょっとむずかしい。(池田市、S. Y.)
- ・印刷教材を読んで、ビデオを拝見するが、関連性がはっきりと理解できない点があり、その点について質問したいと思う時に聞くことができないが残念である。ビデオ3回に1度くらい面接講義があり、ポイントを解説してもらえると良い。(池田市、H. H.)
- ・印刷教材のうち、各章の最後に紹介されている参考文献は有り難いけれど普通の本屋さん売っているのが少ない。(池田市、S. U.) (池田市、S. Y.)
- ・面接講義は最低3～4回ほしい。(池田市、M. O.)
- ・視聴している人達の間で、グループを作り、テーマ研究して、相互に発表しあえると良いと思う。(池田市、T. K.)
- ・面接講義はもっと、つっこんだ専門的な内容があれば、なお良い。(池田市、S. S.)
- ・1回の面接講義を、もう少し長くほしい。(池田市、Y. T.)
- ・ビデオに出てくる各地域の実情に引き込まれ過ぎて、論理的なものや抽象的なものにまで頭がまわらない。そのことが面接講義を受けてわかった。(池田市、K. N.)
- ・印刷教材・放送教材ともに、その概略をのみこめるように考えられて作られていると思うが、実際、思ったより系統的にとらえられていないものだと感じていた。もっと、早期に面接講義を受講しておきたかった。この講義を何らかのキッカケにしたいと思う。(池田市、T. Y.)
- ・放送教材はわかり易く、数え切れないほどの興味深い例があってよいと思います。でも、印刷教材との関連がはっきりしません。(池田市、M. T.)
- ・面接講義は最初の段階でもらったほうが良かったかなと思った。そうすれば、もっとビデオの内容が理解しやすいと感じた。(池田市、M. A.)
- ・印刷教材と面接講義は難しいが面白い。放送教材は受動的に見ているだけで、それに、情報量が多過ぎて困る。(池田市、S. H.)
- ・大学の普通の授業もかなり一方通行なものが多いが、この講座が関東のようにいつも定期的に行われると、何か今までの大学のイメージが一変してしまうように思われる。普段は、顔を合わすことのない人達が面接講義等のスクーリングの時に集まってくる。そこで、何らかの会話を交わし、交流も行われるだろうが、また、短時間で帰っていく。心の通い合いというもの本当に生まれるのだろうか。確かに、今の大学でも、圧倒的に知らない人達が一つの講義に集まってきて、さほどの交流もないのだが、自分達の属するゼミなり、サークルなりがあって、その交流は大きなものである。何か冷たいものを感じるのは自分の感覚が古いのだろうか。あるいは、学問とは、所詮、そういう部分が多いものかとも思うのだが。しかし、社会人になって、こうした学習の場が与えられることに非常に感謝している次第ですが。(池田市、H. K.)
- ・放送教材では、「地域社会学」の目的が不明確であるが、その分、印刷教材や面接講

義で補うことができた。(池田市、S.S.)

## 5. 結びにかえて ～講義に対する所感

最後に、結びにかえて、受講生の評価などを踏まえて担当講師としての所感を述べておく。

- ① 受講生のレポートを見る限りにおいて、面接講義の位置付けは理解されており、その目的は、ほぼ達成することができたと見て良いだろう。
- ② 講義内容については、当初の目標通り、一定の成果があったと思われる。社会学・地域社会学に対するイメージを、受講生はそれなりに把握したとみられる。たとえば、日常性、多様性、多面性、実証性、実用性、さらには、概念化、一般化、抽象化といった言葉をつかみとったと言えるだろう。このことは、受講生自らが今従事している仕事に応用したり、また、実生活に活用したりする意欲の芽生えや、さらに、関心を持って学習を継続する意志のあらわれなど、自己啓発のきっかけを与えたということができると思う。よって、少なくとも、社会学・地域社会学について啓蒙的なレベルでは、十分なものであったと言えるだろう。
- ③ 時間的制約には大変、きびしいものを感じた。放送大学で担当している「地域社会学」の面接授業(135分、5回)の、半分以下の時間であるため、内容をかなり凝縮するなり、断片的にせざるを得なかった。放送大学の面接授業でさえ、時間的不足を感じているだけに、内容が説明不足になった点多々あったと思われる。受講生からも、面接講義の開催回数の少なさを指摘する声が多く聞かれ、もう少し、時間的余裕が必要であった。
- ④ 面接講義の実施時期については、既に見たように各開講場所によって、さまざまである。受講生の指摘にあるように、ビデオ視聴との関連からすると、早めに実施したほうが効果的であったかもしれない。たとえば、回数については、少なくとも3回は行ない、最初のビデオ視聴の前に社会学・地域社会学についてのイントロダクション的なものを、次に、ビデオ視聴の中間の時期(およそ7~8回目ごろ)に、それまでの総括と学問的意味付けをし、最後に、ビデオ視聴が全て終わった段階で、全体的な質問と総括、討論を行えば、より効果的なものになったであろう。面接講義は放送教材、印刷教材をサポートするとともに、新たな問題を提示する機会になったと位置付けることができよう。
- ⑤ 放送教材・印刷教材が受動的で、一方通行的にならざるをえない反面、面接講義は唯一、異なった形態をとることができるものである。したがって、受講生との“相互作用”の場とし、受講生のニーズを的確に把握していくことが重要になる。たとえば、単に、受講生のビデオやテキストに関する質問のコメントに限らず、文献紹介や関連施設の活用方法などのアドバイスも必要である。実際、面接講義の最後に、社会学や地域社会学の分野で入手しやすい文献のリストを配布したり、関連する公共施設の利用について説明して、さらに学習を深めていく手がかりを示した。

### Ⅲ 受講者アンケート評価調査の概要と結果

受講登録をしたもの全員を対象に質問紙法による受講評価調査を行なった。調査期日は、質問紙の配布が1990年2月であった。受講修了証を受けた受講者に対しては、修了証の授与式当日に質問紙を手渡しし、受けなかった者については、郵送によって質問紙を送付し回収した。

地区別の有効回収数と比率は以下の通りであった。

	受講者総数		有効回収数		有効回収率 %	
	「地と字」	「地社学」	「地と字」	「地社学」	「地と字」	「地社学」
府立文化情報センター	45	41	16	22	35.6	53.7
池田市	75	73	49	45	65.3	61.6
尼崎市	36	37	23	21	63.9	56.8
全体延べ	156	151	88	88	56.4	58.3
全 体	312		149		47.8	

#### A 単純集計結果

●最初に、あなたご自身についての質問にお答えください。

01. 性別                      パーセント (実数)

- 1 男                      61.9(103)
- 2 女                      30.9(46)

02. 年齢

無回答                      (1)

- 1 24歳以下              3.4(5)
- 2 25～34歳              5.4(8)
- 3 35～44歳              18.2(27)
- 4 45～54歳              13.5(20)
- 5 55歳以上              59.5(88)

03. あなたの受講地はどこですか。

- 1 大阪府立文化情報センター 16.8(25)
- 2 池田市                      55.0(82)
- 3 尼崎市                      28.2(42)

05. 講座を受講された施設まで通うのにだいたい何分くらいかかりますか。

無回答                      (2)

- 1 15分未満                29.3(43)
- 2 15分～30分未満        26.5(39)
- 3 30分～45分未満        21.8(32)
- 4 45分～1時間未満        10.9(16)
- 5 1時間以上                11.6(17)

06. あなたが今回受講した科目はどれですか。

- 1 「地球と宇宙(地球編)」だけ 40.9(61)
- 2 「地域社会学」だけ        40.9(61)
- 3 両科目とも                18.1(27)

07. あなたの職業は主として次のどれに最もあてはまりますか。

ひとつだけお答えください。

1	管理職（つとめ）	11.5(17)
2	専門・技術・研究・教育職（つとめ）	12.8(19)
3	販売・サービス・事務職（つとめ）	10.8(16)
4	その他の勤め	0.0(0)
5	自営	2.7(4)
6	自由業（開業医、弁護士、僧侶等）	0.7(1)
7	専業主婦	16.2(24)
8	学生	0.7(1)
9	年金生活	43.2(64)
10	その他（ ）	1.4(2)

08. あなたが最後に卒業された学校はどれですか。（中退、在学中は卒業と見なしてください）

1	小学校・旧制高等小学校・新制中学卒	8.1(12)
2	旧制中学・新制高校卒	33.6(50)
3	旧制高校・師範・高専・大学卒（短大・大学院をふくむ）	55.7(83)
4	その他（具体的に）	2.7(4)

09. あなたのご家族の形態は以下のどれに最もあてはまりますか。

1	単身	8.7(13)
2	家族と同居（配偶者なし・1世帯）	8.7(13)
3	夫婦（配偶者と2人）	31.5(47)
4	夫婦と子供	40.9(61)
5	親と夫婦と子供	7.4(11)
6	その他（ ）	2.7(4)

●つぎに、今回のビデオ講座の受講をお決めになった時点をつりかえって、以下の質問にお答えください。

10. あなたが今回ビデオ講座の受講を希望されたのは、どのような理由からですか。

	あ て は ま る	や はあ まて る	はあ まま らり なあ いて	あ て らは なま い		
(1) 仕事のために必要な知識を獲得したいと思ったから ……	4	3	2	1	平均	1.58
	7.5	12.5	11.7	68.8	%	
	(9)	(16)	(15)	(88)	無回答(21)	
(2) 専門的な知識を身につけたいと思ったから ……………	4	3	2	1	平均	2.17
	15.0	25.2	22.0	37.8	%	
	(19)	(32)	(28)	(48)	無回答(22)	
(3) 自分の関心ある分野の知識を深めたいと思ったから ……	4	3	2	1	平均	3.34
	54.5	32.1	6.7	6.7	%	
	(73)	(43)	(9)	(9)	無回答(15)	



	あ て は ま る	や や は あ て ま る	は あ ま ら な あ い	あ て は ま い		
(4) 勉強すること自体が好きだから .....	4	3	2	1	平均	3.19
	40.2	43.9	10.6	5.3	%	
	(53)	(58)	(14)	(7)	無回答	(17)
(5) 一般的な教養を身につけたいと思ったから .....	4	3	2	1	平均	3.33
	48.0	38.6	11.8	1.6	%	
	(61)	(49)	(15)	(2)	無回答	(22)
(6) 新時代に適応したいと思ったから .....	4	3	2	1	平均	2.61
	24.2	29.7	28.9	17.2	%	
	(31)	(38)	(37)	(22)	無回答	(21)
(7) 自分の新たな可能性を試したいと思ったから .....	4	3	2	1	平均	2.39
	17.3	27.6	32.3	22.8	%	
	(22)	(35)	(41)	(29)	無回答	(22)
(8) いままでの不勉強を取り戻したいと思ったから .....	4	3	2	1	平均	2.25
	17.1	23.3	27.1	32.6	%	
	(22)	(30)	(35)	(42)	無回答	(20)
(9) 余暇を有効に利用したいと思ったから .....	4	3	2	1	平均	2.70
	33.6	25.8	18.0	22.7	%	
	(43)	(33)	(23)	(29)	無回答	(21)
(10) 新しい友人を見つけたいと思ったから .....	4	3	2	1	平均	1.75
	4.0	14.3	34.9	46.8	%	
	(5)	(18)	(44)	(59)	無回答	(23)
(11) 一緒に学習する家族・友人・知人がいたから .....	4	3	2	1	平均	1.43
	6.3	8.7	6.3	78.6	%	
	(8)	(11)	(8)	(99)	無回答	(23)
(12) 放送大学というものに興味があったから .....	4	3	2	1	平均	3.30
	49.6	35.7	10.1	4.7	%	
	(64)	(46)	(13)	(6)	無回答	(20)
(13) 周囲(友人や職員など)からすすめられたから .....	4	3	2	1	平均	1.39
	4.8	9.5	5.6	80.2	%	
	(6)	(12)	(7)	(101)	無回答	(23)
(14) 生涯学習の一助としようと思ったから .....	4	3	2	1	平均	3.04
	43.9	30.3	11.4	14.4	%	
	(58)	(40)	(15)	(19)	無回答	(17)
(15) 今回開講された科目に興味があったから .....	4	3	2	1	平均	3.52
	64.7	25.6	6.8	3.0	%	
	(86)	(34)	(9)	(4)	無回答	(16)

11. 開講当初、あなたがこの講座に期待していたものは何ですか

	あ て は ま る	や は あ ま て る	は あ ま ら な い	あ て は ま い	平均	
(1) 視野の広がり	4 67.7 (90)	3 27.8 (37)	2 2.3 (3)	1 2.3 (3)	3.61	無回答(16)
(2) 学問的な深み	4 33.8 (44)	3 40.0 (52)	2 18.5 (24)	1 7.7 (10)	3.00	無回答(19)
(3) 学ぶことの楽しさ	4 48.9 (64)	3 38.2 (50)	2 6.9 (9)	1 6.1 (8)	3.30	無回答(18)
(4) 大学の講義の雰囲気	4 17.1 (22)	3 25.6 (33)	2 24.0 (31)	1 33.3 (43)	2.26	無回答(20)
(5) モノを考えるヒント	4 33.3 (44)	3 38.6 (51)	2 16.7 (22)	1 11.4 (15)	2.94	無回答(17)
(6) 講師や受講者同士のふれあい	4 12.5 (16)	3 34.4 (44)	2 33.6 (43)	1 19.5 (25)	2.40	無回答(21)
(7) 新しい知識の獲得	4 74.6 (103)	3 18.1 (25)	2 6.5 (9)	1 0.7 (1)	3.67	無回答(11)

12. この講座について何から知りましたか。あなたがこの講座を知るに至った情報源にすべて○をつけてください。

- 1 新聞
- 2 テレビ・ラジオ 28.2(42)
- 3 自治体広報紙誌 3.4(5)
- 4 社会教育・生涯学習施設での掲示 48.3(72)
- 5 ビラ・ちらし 36.9(55)
- 6 関係自治体の職員 16.1(24)
- 7 友人・知人 4.0(6)
- 8 その他具体的に (

13. あなたは今回のビデオ講座を受講する以前に次に挙げるような社会・生涯学習の機会をどの程度利用されていましたか。

	よく 利用 する	利 と 用 す ど る き	た か こ つ と て が 利 あ 用 し る	た 一 こ 度 も は 利 な い	平均	
(1) NHKなどの放送教育講座	4	3	2	1	2.57	
	26.3	27.8	22.6	23.3	%	
	(35)	(37)	(30)	(31)		無回答(16)
(2) 専修・各種学校での学習	4	3	2	1	1.31	
	2.5	6.6	10.7	80.3	%	
	(3)	(8)	(13)	(98)		無回答(27)
(3) 通信教育（一般および高校レベル）	4	3	2	1	1.49	
	3.2	11.2	16.8	68.8	%	
	(4)	(14)	(21)	(86)		無回答(24)
(4) 通信教育（大学レベル）	4	3	2	1	1.46	
	5.6	8.0	13.6	72.8	%	
	(7)	(10)	(17)	(91)		無回答(24)
(5) 民間のカルチャー・センターや文化教室など	4	3	2	1	2.17	
	18.0	20.5	19.7	40.6	%	
	(23)	(28)	(25)	(52)		無回答(21)
(6) 大学などの公開講座	4	3	2	1	2.15	
	18.1	20.5	19.7	41.7	%	
	(23)	(26)	(25)	(53)		無回答(22)
(7) 府県や市町村の社会・生涯教育講座	4	3	2	1	2.90	
	40.2	28.0	13.6	18.2	%	
	(53)	(37)	(18)	(24)		無回答(17)
(8) 自主的な学習サークル活動	4	3	2	1	2.02	
	14.2	20.5	18.9	46.5	%	
	(18)	(26)	(24)	(59)		無回答(22)

●つぎに、今回の講座について現在の時点でのご意見やご感想をおうかがいたします。

14. あなたは今回のビデオ講座の修了認定証を最終的に受け取りましたか。

1 はい	90.5(133)
2 いいえ	9.5(14)

14-2. 前の質問で「いいえ」と答えられた方だけに質問いたします。修了しなかった理由として以下にあげた理由はどの程度あなたの場合に当てはまりますか。いちばん近い程度の番号に○をつけてください。(14-2)

	あ て は ま る	や は ま る	は あ ら な い	あ ま り な い	あ て は ま る	
(1) 受講登録後、仕事や家事など生活に変化があって、 講座に出席できなくなった ……………	4 57.1 (8)	3 21.4 (3)	2 0.0 (0)	1 21.4 (3)	平均 3.14 %	無回答(135)
(2) 自分自身が病気、けが、事故などの突発的な事態に 遭ったため学習を続けられなかった ……………	4 6.7 (1)	3 0.0 (0)	2 6.7 (1)	1 86.7 (13)	平均 1.27 %	無回答(134)
(3) 自分以外の家族のなかに変化があって学習を続ける 余裕がなくなった ……………	4 7.1 (1)	3 0.0 (0)	2 7.1 (1)	1 85.7 (12)	平均 1.29 %	無回答(135)
(4) 学習したいことが変わったため、ビデオ講座で学習する 必要がなくなった ……………	4 0.0 (0)	3 7.1 (1)	2 7.1 (1)	1 85.7 (12)	平均 1.21 %	無回答(135)
(5) ビデオによる学習という学習方法に違和感があった ……	4 14.3 (2)	3 0.0 (0)	2 14.3 (2)	1 71.2 (10)	平均 1.57 %	無回答(135)
(6) 自分の期待していたことや学びたかったこととビデオ 講座の実態が違っていたので、学習意欲がわかなかった ……	4 20.0 (3)	3 20.0 (3)	2 13.3 (2)	1 46.7 (7)	平均 2.13 %	無回答(134)
(7) 予想していたより講義が難解でついていけなかった ……	4 0.0 (0)	3 15.4 (2)	2 30.8 (4)	1 53.8 (7)	平均 1.62 %	無回答(136)
(8) おもったより仕事や生活が多忙で講座に通う時間が とれなかった ……………	4 28.6 (4)	3 21.4 (3)	2 7.1 (1)	1 42.9 (6)	平均 2.36 %	無回答(135)
(9) 先生に直接指導してもらい機会が少なく、学習意欲が 続かなかった ……………	4 7.1 (1)	3 21.4 (3)	2 21.4 (3)	1 50.0 (7)	平均 1.86 %	無回答(135)
(10) ビデオ講座が開講されている施設が利用しにくく、 学習に困難を感じた ……………	4 14.3 (2)	3 0.0 (0)	2 14.3 (2)	1 71.4 (10)	平均 1.57 %	無回答(135)
(11) 面接授業にでるのが困難で、学習を続けられなかった…	4 7.1 (1)	3 28.6 (4)	2 14.3 (2)	1 50.0 (7)	平均 1.93 %	無回答(135)

	あ て は ま る	や や は あ ま る	は あ ま ら り あ い て	あ て は ま い		
(12) 他の生涯学習講座のような雰囲気がなく、学んでいる という充実感が得られなかった .....	4	3	2	1	平均	2.23
	30.8	15.4	0.0	53.8	%	
	(4)	(2)	(0)	(7)	無回答	(136)
(13) 家族や職場の中にあなたがビデオ講座に通うことに つめたい空気があって、学習を続けにくくなった .....	4	3	2	1	平均	1.07
	0.0	0.0	7.1	92.9	%	
	(0)	(0)	(1)	(13)	無回答	
(14) 他にもっとよい学習の場があったのでそれに移ったため ビデオ講座をやめた .....	4	3	2	1	平均	1.50
	7.1	7.1	14.3	71.4	%	
	(1)	(1)	(2)	(10)	無回答	(135)

●ふたたび、すべてのみなさんにおたずねします。

15. あなたは、全15回のビデオテープのうちどの回を視聴されましたか。ご覧になった回の番号に○をつけてください。(定時視聴以外でご覧になったものも含めてください)。

「地球と宇宙」		
1	第1回	宇宙の中の地球 92.05(81)
2	第2回	地球の層圏 89.77(79)
3	第3回	地球科学の発展 84.09(74)
4	第4回	大気 86.36(76)
5	第5回	海洋 84.09(74)
6	第6回	固体地球 81.82(72)
7	第7回	岩石と鉱物 85.23(75)
8	第8回	地層 82.95(73)
9	第9回	地質時代 80.68(71)
10	第10回	固体地球の表層 76.14(67)
11	第11回	プレートテクトニクス 85.23(75)
12	第12回	地震 79.55(70)
13	第13回	火山 73.86(65)
14	第14回	地球の歴史 76.14(67)
15	第15回	(最終回) 日本列島 80.68(71)

「地域社会学」

1	第1回	地域社会学への招待	95.45(84)
2	第2回	農耕と定着	87.50(77)
3	第3回	地域と血縁	86.36(76)
4	第4回	土地の神さま	89.77(79)
5	第5回	村・町・都市	88.64(78)
6	第6回	地域と宗教	82.95(73)
7	第7回	地域と水域	80.68(71)
8	第8回	現代の農村社会	81.82(72)
9	第9回	現代の漁村社会	79.55(70)
10	第10回	現代の山村社会	84.09(74)
11	第11回	開拓地の地域社会	79.55(70)
12	第12回	都市の近隣社会	81.82(72)
13	第13回	歴史の中の地域社会	76.14(67)
14	第14回	未来への挑戦	79.55(70)
15	第15回	(最終回) 主張する地域社会	77.27(68)

16. あなたは、定時集団視聴と個別随時視聴のどちらをよく利用されましたか。  
(尼崎市で受講された方はすべて定時視聴ですので、お答えいただかなくてかまいません)

1	ほとんどすべて定時集団視聴	67.6(75)
2	定時集団視聴が主で、個別随時視聴が従	22.5(25)
3	定時視聴と随時視聴がほぼ同じ割合	5.4( 6)
4	個別視聴が主で、定時視聴が従	2.7( 3)
5	ほとんどすべて個別視聴	1.8( 2)

17. あなたは定時集団視聴と随時個別視聴を比べてみて、どちらの視聴方法があなたの学習にとって適していると思いますか。

1	定時集団視聴が非常によい	44.6(58)
2	どちらかという而定時集団視聴がよい	27.7(36)
3	どちらともいえない	15.4(20)
4	どちらかという随時個別視聴がよい	10.0(13)
5	随時個別視聴が非常によい	2.3( 3)

18. 面接講義(途中、2回行なわれたセンター主催のスクーリング)には、出席されましたか。

1	2回とも出席した	74.8(110)
2	1回目だけ出席した	19.7( 29)
3	2回とも出席しなかった	5.4( 8)

19. 講座期間中は、どのくらい予習復習をなさいましたか。

(1) 予習について

1	ほとんど毎日予習した	26.7(39)
2	予習した回の方がしなかった回よりやや多かった	21.2(31)
3	予習しなかった回の方がした回よりやや多かった	29.5(43)
4	ほとんど予習しなかった	22.6(33)

(2) 復習について

1	ほとんど毎回復習した	15.1(22)
2	復習した回の方がしなかった回よりやや多かった	20.5(30)
3	復習しなかった回の方がした回よりやや多かった	35.6(52)
4	ほとんど復習しなかった	28.8(42)

20. 今回のビデオ講座に参加している間、受講者どうしの中で、あなたが講座の内容や関連した話題などについて親しくお話しされたりする方はおられましたか。

1	いつもいた	15.8(23)
2	ときどきいた	26.0(38)
3	あまりいなかった	21.9(32)
4	まったくいなかった	36.3(53)

●つぎに、今回のビデオ講座について、あなたの率直なご意見ご批評をお聞かせください。  
あなたのご意見やお気持ちのもっとも近い答えの番号をひとつ選んでください。

そ　　や　　あ　　ま  
う　　そや　思ま　思っ  
思　　う　　わり　わた  
う　　思　　なそ　なく  
う　　いう　　い

21. ビデオ講座の事前のPRについて

(1) 今回、放送大学のビデオ講座が行なわれることは一般の市民に十分しられていた。	.....	4	3	2	1	平均	2.30
		7.1	18.8	54.1	20.0	%	
		(6)	(16)	(46)	(17)	無回答	(3)

(2) 受講生募集の広報は十分効果的だった。	.....	4	3	2	1	平均	2.51
		13.4	22.0	56.1	8.5	%	
		(11)	(18)	(46)	(7)	無回答	(6)

22. ビデオ講座が開かれた教室（定時視聴会場）は

(1) 通うのに便利だった。	.....	4	3	2	1	平均	3.55
		76.2	13.1	9.5	4.8	%	
		(61)	(11)	(8)	(4)	無回答	(4)

(2) 学習によい環境だった。	.....	4	3	2	1	平均	3.72
		76.3	16.3	5.0	2.5	%	
		(61)	(13)	(4)	(2)	無回答	(8)

23. 開講時に行なわれたオリエンテーションは、

(1) ビデオを使った学習方法を理解する上で役だった。	.....	4	3	2	1	平均	3.18
		40.0	36.3	22.5	1.3	%	
		(32)	(29)	(18)	(1)	無回答	(8)

(2) 受講する科目の内容を知る上で役にたった。	.....	4	3	2	1	平均	3.02
		38.2	28.9	28.9	3.9	%	
		(29)	(22)	(22)	(3)	無回答	(12)

(3) やる気を起こさせるのに役だった。	.....	4	3	2	1	平均	3.02
		32.5	35.1	26.0	6.5	%	
		(25)	(27)	(20)	(5)	無回答	(11)

24. ビデオ講座の開講曜日や時間帯について

(1) 開講曜日は自分にとって適切だった。	.....	4	3	2	1	平均	3.38
		54.1	27.1	15.3	3.5	%	
		(46)	(23)	(13)	(3)	無回答	(3)

(2) 開講時間帯は自分にとって適切だった。	.....	4	3	2	1	平均	3.41
		51.9	28.4	18.5	1.2	%	
		(42)	(23)	(15)	(1)	無回答	(7)

そ や あ ま  
 う そや 思ま 思っ  
 思 う わり わた  
 う 思 なそ なく  
 う いう い

25. 集団視聴のとき使用した器機や教室について

(1) 器機の画面は見やすかった。 ..... 4 3 2 1 平均 3.51  
 61.4 19.3 15.7 3.6 %  
 (51) (16) (13) (3) 無回答(5)

(2) ビデオを視聴する上で教室の座席配置は適切だった。 ..... 4 3 2 1 平均 3.23  
 46.4 31.0 17.9 4.8 %  
 (39) (26) (15) (4) 無回答(4)

26. 担当職員の対応は適切だった。 ..... 4 3 2 1 平均 3.71  
 72.9 23.5 3.5 0.0 %  
 (62) (20) (3) (0) 無回答(3)

27. あなたにとって講座を受講する最適の平日の時間帯はつぎの時間帯のどれですか。

- 1 午前 9:00~11:00 10.3(15)
- 2 午前11:00~午後1:00 5.5(8)
- 3 午後1:00~3:00 32.4(47)
- 4 午後3:00~5:00 4.8(7)
- 5 午後5:00~7:00 12.4(18)
- 6 午後7:00~9:00 34.5(50)

28. 今回の開講ビデオ講座の番組内容について、最もあなたの意見に近い段階を1つ選んでください。(あなたが受講した科目のみお答えください。)

あ や はあ あ  
 て や まま て  
 は はあ らり らは  
 ま まて なあ なま  
 る る いて い

I 「地球と宇宙」(28-1)

(1) 分かりやすい番組である。 ..... 4 3 2 1 平均 3.29  
 44.3 41.8 12.7 1.3 %  
 (35) (33) (10) (1) 無回答(9)

(2) どこが重要なポイントであるかがよく分かる。 ..... 4 3 2 1 平均 3.09  
 33.8 44.2 18.2 3.9 %  
 (26) (34) (14) (3) 無回答(11)

(3) 講義の流れに適切な緩急のリズムがある。 ..... 4 3 2 1 平均 2.87  
 26.0 40.3 28.6 5.2 %  
 (20) (31) (22) (4) 無回答(11)

(4) 視聴者が抱きそうな疑問への説明がある。 ..... 4 3 2 1 平均 2.82  
 23.4 41.6 28.6 6.5 %  
 (18) (32) (22) (5) 無回答(11)

(5) 内容が盛りだくさんである。 ..... 4 3 2 1 平均 3.08  
 32.5 45.5 19.5 2.6 %  
 (25) (35) (15) (2) 無回答(11)



	あ て は ま る	や は あ ま る	は あ ま ら り あ い て	あ て は ま ら な い		
(6) ビデオ映像というメディアの特性が活かされている。……	4	3	2	1	平均	3.28
	51.9	29.1	13.9	5.1	%	
	(41)	(23)	(11)	(4)	無回答	(11)
(7) 具体例が適当に取り入れられている。……	4	3	2	1	平均	3.27
	44.2	42.9	9.1	3.9	%	
	(34)	(33)	(7)	(3)	無回答	(11)
(8) 必要以上に専門用語が使われている。……	4	3	2	1	平均	2.48
	10.4	37.7	41.6	10.4	%	
	(8)	(29)	(32)	(8)	無回答	(11)
(9) 印刷教材と適切に関連している。……	4	3	2	1	平均	3.23
	43.0	38.0	17.7	1.3	%	
	(34)	(30)	(14)	(1)	無回答	(9)
(10) 内容が実用的である。……	4	3	2	1	平均	2.63
	20.5	28.2	44.9	6.4	%	
	(16)	(22)	(35)	(5)	無回答	(10)
(11) 中途に息抜きの時間が適度に入っている。……	4	3	2	1	平均	2.31
	8.0	26.7	53.3	12.0	%	
	(6)	(20)	(40)	(9)	無回答	(13)
(12) 興味深い番組である。……	4	3	2	1	平均	3.54
	63.3	30.4	3.8	2.5	%	
	(50)	(24)	(3)	(2)	無回答	(9)
(13) 生活に密着した題材である。……	4	3	2	1	平均	2.53
	13.2	38.2	36.8	11.8	%	
	(10)	(29)	(28)	(9)	無回答	(12)
(14) 時宜を得た素材を利用している。……	4	3	2	1	平均	2.91
	29.3	37.3	28.0	5.3	%	
	(22)	(28)	(21)	(4)	無回答	(13)
(15) 講義の進度が速い。……	4	3	2	1	平均	2.68
	12.8	48.7	32.1	6.4	%	
	(10)	(38)	(25)	(5)	無回答	(10)
(16) 印刷教材が充実している。……	4	3	2	1	平均	3.05
	32.1	43.6	21.8	2.6	%	
	(25)	(34)	(17)	(2)	無回答	(10)
(17) 印刷教材に演習などが適度に含まれている。……	4	3	2	1	平均	1.97
	7.8	14.3	45.5	32.5	%	
	(6)	(11)	(35)	(25)	無回答	(11)
(18) 毎回の講座の配分は学習のベースづくりに役立っている…	4	3	2	1	平均	2.83
	24.7	45.5	23.4	6.5	%	
	(19)	(35)	(18)	(5)	無回答	(11)
(19) 全体に満足いく番組である。……	4	3	2	1	平均	3.29
	44.9	41.0	12.8	1.3	%	
	(35)	(32)	(10)	(1)	無回答	(10)

あてはまる      やはあまらあてはまる  
 はあまらあてはまる      あてはまる

II 「地域社会学」 (28-2)					
(1) 分かりやすい番組である。	4	3	2	1	平均 3.61
	66.7	23.3	3.3	6.7	%
	(20)	(7)	(1)	(2)	無回答(58)
(2) どこが重要なポイントであるかがよく分かる。	4	3	2	1	平均 3.38
	64.3	10.7	17.9	7.1	%
	(18)	(3)	(5)	(2)	無回答(60)
(3) 講義の流れに適切な緩急のリズムがある。	4	3	2	1	平均 3.29
	42.9	42.9	7.1	7.1	%
	(12)	(12)	(2)	(2)	無回答(60)
(4) 視聴者が抱きそうな疑問への説明がある。	4	3	2	1	平均 3.04
	35.7	28.6	32.1	3.6	%
	(10)	(8)	(9)	(1)	無回答(60)
(5) 内容が盛りだくさんである。	4	3	2	1	平均 3.20
	32.1	39.3	21.4	7.1	%
	(9)	(11)	(6)	(2)	無回答(60)
(6) ビデオ映像というメディアの特性が活かされている。	4	3	2	1	平均 3.64
	67.9	25.0	3.6	3.6	%
	(19)	(7)	(1)	(1)	無回答(60)
(7) 具体例が適当に取り入れられている。	4	3	2	1	平均 3.55
	60.7	32.1	3.6	3.6	%
	(17)	(9)	(1)	(1)	無回答(60)
(8) 必要以上に専門用語が使われている。	4	3	2	1	平均 2.24
	7.1	14.3	57.1	21.4	%
	(2)	(4)	(16)	(6)	無回答(60)
(9) 印刷教材と適切に関連している。	4	3	2	1	平均 2.76
	25.0	21.4	35.7	17.9	%
	(7)	(6)	(10)	(5)	無回答(60)
(10) 内容が実用的である。	4	3	2	1	平均 2.96
	31.0	34.5	27.6	6.9	%
	(9)	(10)	(8)	(2)	無回答(59)
(11) 中途に息抜きの時間が適度に入っている。	4	3	2	1	平均 2.72
	22.2	29.6	33.3	14.8	%
	(6)	(8)	(9)	(4)	無回答(61)
(12) 興味深い番組である。	4	3	2	1	平均 3.52
	57.1	28.6	10.7	3.6	%
	(16)	(8)	(3)	(1)	無回答(60)
(13) 生活に密着した題材である。	4	3	2	1	平均 3.28
	58.6	24.1	10.3	6.9	%
	(17)	(7)	(3)	(2)	無回答(59)
(14) 時宜を得た素材を利用している。	4	3	2	1	平均 3.18
	40.7	25.9	25.9	7.4	%
	(11)	(7)	(7)	(2)	無回答(61)

	あ て は ま る	や や は あ ま て る	は あ ま ま ら り な あ い て	あ て は ま る	平均
(15) 講義の進度が速い。	4	3	2	1	2.48
	3.6	21.4	57.1	17.9	%
	(1)	(6)	(16)	(5)	無回答(60)
(16) 印刷教材が充実している。	4	3	2	1	2.89
	24.1	31.0	34.5	10.3	%
	(7)	(9)	(10)	(3)	無回答(59)
(17) 印刷教材に演習などが適度に含まれている。	4	3	2	1	2.24
	17.9	7.1	39.3	35.7	%
	(5)	(2)	(11)	(10)	無回答(60)
(18) 毎回の講座の配分は学習のペースづくりに役立っている…	4	3	2	1	3.00
	11.1	59.3	14.8	14.8	%
	(3)	(16)	(4)	(4)	無回答(61)
(19) 全体に満足のいく番組である。	4	3	2	1	3.46
	48.3	34.5	10.3	6.9	%
	(14)	(10)	(3)	(2)	無回答(59)

29. つぎに面接講義について、最もあなたの意見に近い段階を1つ選んでください。(あなたが受講した科目のみお答えください。一度でも出席された方はお答えください)

	あ て は ま る	や や は あ ま て る	は あ ま ま ら り な あ い て	あ て は ま る	平均
I「地球と宇宙」(29-1)					
(1) 1回の面接講義の時間をもっと長くした方がよかった ……	4	3	2	1	2.86
	34.2	28.8	26.0	11.0	%
	(25)	(21)	(19)	(8)	無回答(15)
(2) 面接講義の回数をもっとふやした方がよかった ……	4	3	2	1	3.33
	57.3	24.0	13.3	5.3	%
	(43)	(18)	(10)	(4)	無回答(13)
(3) 面接講義への出席を免除してほしかった ……	4	3	2	1	1.27
	1.4	1.4	19.7	77.5	%
	(1)	(1)	(14)	(55)	無回答(17)
(4) 面接講義を受けやすいよう時間帯を工夫してほしかった ……	4	3	2	1	1.73
	1.4	22.5	23.9	52.1	%
	(1)	(16)	(17)	(37)	無回答(17)
(5) 面接講義は内容がむづかしかった ……	4	3	2	1	1.71
	1.4	12.5	41.7	44.4	%
	(1)	(9)	(30)	(32)	無回答(16)
(6) 面接講義はビデオ学習を進めるために役にたった ……	4	3	2	1	3.19
	49.3	25.3	20.0	5.3	%
	(37)	(19)	(15)	(4)	無回答(13)
(7) 面接講義は内容が充実していた ……	4	3	2	1	3.32
	48.6	37.8	10.8	2.7	%
	(36)	(28)	(8)	(2)	無回答(14)

	あ て は ま る	や や は あ ま て る	は あ ま ま ら り な あ い て	あ て は ま ら な い		
II 「地域社会学」 (29-2)						
(1) 1回の面接講義の時間をもっと長くした方がよかった	4	3	2	1	平均	2.70
	33.3	33.3	14.8	18.5	%	
	(9)	(9)	(4)	(5)	無回答	(61)
(2) 面接講義の回数をもっとふやした方がよかった	4	3	2	1	平均	3.15
	52.0	24.0	16.0	8.0	%	
	(13)	(6)	(4)	(2)	無回答	(63)
(3) 面接講義への出席を免除してほしかった	4	3	2	1	平均	1.22
	0.0	0.0	11.5	88.5	%	
	(0)	(0)	(3)	(23)	無回答	(62)
(4) 面接講義を受けやすいよう時間帯を工夫してほしかった	4	3	2	1	平均	1.49
	0.0	11.5	15.4	73.1	%	
	(0)	(3)	(4)	(19)	無回答	(62)
(5) 面接講義は内容がむづかしかった	4	3	2	1	平均	1.88
	0.0	3.8	34.6	61.5	%	
	(0)	(1)	(9)	(16)	無回答	(62)
(6) 面接講義はビデオ学習を進めるために役にたった	4	3	2	1	平均	2.86
	38.5	26.9	23.1	11.5	%	
	(10)	(7)	(6)	(3)	無回答	(62)
(7) 面接講義は内容が充実していた	4	3	2	1	平均	3.01
	40.7	40.7	7.4	11.1	%	
	(11)	(11)	(2)	(3)	無回答	(61)

30. 今回のビデオ講座で学習したことであなたにどんな効用があったでしょうか。以下の項目について、あなたご自身についてあてはまると思われるものの程度をお答えください。

	あ て は ま る	や や は あ ま て る	は あ ま ま ら り な あ い て	あ て は ま ら な い		
(1) 生活に張りがでた	4	3	2	1	平均	2.85
	26.6	39.2	24.1	10.1	%	
	(21)	(31)	(19)	(8)	無回答	(9)
(2) 学習意欲が増した	4	3	2	1	平均	3.12
	32.5	45.0	15.0	7.5	%	
	(26)	(36)	(12)	(6)	無回答	(8)
(3) 知識が増加した	4	3	2	1	平均	3.47
	51.8	41.0	4.8	2.4	%	
	(43)	(34)	(4)	(2)	無回答	(5)
(4) 友人の数がふえた	4	3	2	1	平均	1.73
	5.0	12.5	26.3	56.3	%	
	(4)	(10)	(21)	(45)	無回答	(8)
(5) 家族と話す機会がふえた	4	3	2	1	平均	2.18
	10.1	21.5	31.6	36.7	%	
	(8)	(17)	(25)	(29)	無回答	(9)

	あ て は ま る	や や は あ ま て る	は あ ま ら り な あ い て	あ て は ま ら な い		
(6) 新聞や雑誌を以前より読むようになった	4	3	2	1	平均	2.17
	13.9	12.7	40.5	32.9	%	
	(11)	(10)	(32)	(26)	無回答	(9)
(7) 地球のしくみに関心を持つようになった	4	3	2	1	平均	2.90
	54.8	35.7	3.6	6.0	%	
	(46)	(30)	(3)	(5)	無回答	(4)
(8) 地域社会のことに関心を持つようになった	4	3	2	1	平均	2.89
	25.7	20.3	24.3	29.7	%	
	(19)	(15)	(18)	(22)	無回答	(14)
(9) 自分に自信をもてるようになった	4	3	2	1	平均	2.26
	8.8	26.3	37.5	27.5	%	
	(7)	(21)	(30)	(22)	無回答	(8)
(10) 幅広い教養を身に付けることができた	4	3	2	1	平均	2.93
	26.3	42.5	21.3	10.0	%	
	(21)	(34)	(17)	(8)	無回答	(8)
(11) 自分自身の新たな側面を発見できた	4	3	2	1	平均	2.24
	6.3	22.8	35.4	35.4	%	
	(5)	(18)	(28)	(28)	無回答	(9)
(12) 自分自身の鍛錬になった	4	3	2	1	平均	2.75
	23.8	40.0	20.0	16.3	%	
	(19)	(32)	(16)	(13)	無回答	(8)
(13) 精神的に余裕ができた	4	3	2	1	平均	2.29
	10.1	24.1	36.7	29.1	%	
	(8)	(19)	(29)	(23)	無回答	(9)
(14) 自分の仕事を進める上で役に立った	4	3	2	1	平均	1.77
	6.3	6.3	27.8	59.5	%	
	(5)	(5)	(22)	(47)	無回答	(9)
(15) 家庭や周囲の人の役に立つようになった	4	3	2	1	平均	1.83
	2.5	11.4	35.4	50.6	%	
	(2)	(9)	(28)	(40)	無回答	(9)
(16) 社会的な貢献ができるようになった	4	3	2	1	平均	1.75
	3.8	7.7	32.1	56.4	%	
	(3)	(6)	(25)	(44)	無回答	(10)
(17) 生活にリズムができた	4	3	2	1	平均	2.43
	8.9	34.2	30.4	26.6	%	
	(7)	(27)	(24)	(21)	無回答	(9)
(18) 学習の楽しさがわかった	4	3	2	1	平均	2.91
	20.0	48.8	18.8	12.5	%	
	(16)	(39)	(15)	(10)	無回答	(8)
(19) 体調がよくなった	4	3	2	1	平均	1.77
	7.6	6.3	31.6	54.4	%	
	(6)	(5)	(25)	(43)	無回答	(9)
(20) 生涯学習に自信がなくなった	4	3	2	1	平均	1.15
	0.0	1.3	15.2	83.5	%	
	(0)	(1)	(12)	(66)	無回答	(9)

	あ て は ま る	や は あ ま る	は あ ま ら な い	あ て ら は な い	平均	
(21) 時間的に余裕がなくなった .....	4	3	2	1	1.49	
	1.3	15.4	20.5	62.8	%	
	( 1)	(12)	(16)	(49)	無回答(10)	
(22) 周囲の人(家族・友人・職場の同僚など)との交流が 減った .....	4	3	2	1	1.22	
	0.0	1.3	21.5	77.2	%	
	( 0)	( 1)	(17)	(61)	無回答( 9)	
(23) 健康の状態が悪くなった .....	4	3	2	1	1.06	
	0.0	0.0	7.6	92.4	%	
	( 0)	( 0)	( 6)	(73)	無回答( 9)	

31. 一般の娯楽テレビ番組と放送大学を比べたとき、「放送大学の番組も同じテレビ番組なのだから娯楽番組と同様に楽しく興味を抱かせる番組にするべきだ」という意見(A)と「放送大学はあくまで大学なのだから楽しさや興味深さより講義の内容を重視し、娯楽番組とはまったく別なものと考えるべきだ」という意見(B)があります。あなたはどのように思われますか。

- 1 Aの意見に賛成する 10.4(15)
- 2 どちらかというともAの意見に賛成する 16.7(24)
- 3 どちらともいえない 4.9( 7)
- 4 どちらかというともBの意見に賛成する 31.3(45)
- 5 Bの意見に賛成する 36.8(53)

32. 今回のビデオ講座を受講してみて、全体としてあなたは満足しましたか。

- 1 満足した 43.9(65)
- 2 どちらかといえば満足した 41.9(62)
- 3 どちらかといえば不満だった 10.8(16)
- 4 不満だった 3.4( 5)

34. あなたは今回のようなビデオ講座が開講されたとき、他の人にも受講を勧めようと思いますか。

- 1 つよく勧めたい 39.0(57)
- 2 まあ勧めてもよい 52.7(77)
- 3 あまり勧めない 4.8( 7)
- 4 まったく勧めたくない 3.4( 5)

35. 将来、放送大学が関西地区で開学したとき、あなたは入学してみたいと思いますか。

- 1 大学卒業資格をめざして入学したい 18.1(26)
- 2 関心のある科目だけ正式に受講登録してみたい 62.5(90)
- 3 放送は視聴してみたいが、正式に受講登録するつもりは今のところない 17.4(25)
- 4 放送の視聴も正式に受講登録もするつもりはない 2.1( 3)

B 基礎クロス集計結果

1 性別、年齢別、職業別、学歴別、受講科目別クロス集計結果

分析対象子の特徴	性別		年齢		職業*1		年金生活者		学歴*2		科目*3		全体
	男	女	44歳以下	45～59歳以上	勤め	主婦	活者	以下	大卒	短大卒	地域社会学	地球と宇宙	
実数	103	46	39	32	52	24	64	62	83	88	88	88	149
パーセント	69.1	30.9	26.4	21.6	37.1	17.1	45.7	42.8	57.2	59.1	59.1	59.1	
非該当	0		1		9		4		4		重複 27		

[注釈]

\*1: 職業に関しては、「1 管理職」「2 専門・技術・研究・教育職」「3 販売・サービス・事務職」「4 その他の勤め」をまとめて「勤め」と、「7 専業主婦」と「9 年金生活」はそれぞれそのまま残し、「5 自営」「6 自由業（開業医、弁護士、僧侶等）」「8 学生」「10 その他」は非該当として、除外した。

\*2: 学歴に関しては、「1 小学校・旧制高等学校・新制中学校」「2 旧制中学・新制中学校卒」「3 旧制高校・師範・高専・大学卒（短大・大学院をふくむ）」を「大卒以上」にまとめた。

\*3: 科目に関しては、27人が重複して受講していた。

01. 性別

	性別		年齢		職業		年金生活者		学歴		科目		全体
	男	女	44歳以下	45～59歳以上	勤め	主婦	活者	以下	大卒	短大卒	地域社会学	地球と宇宙	
1 男	53.85	46.88	85.71	76.92	0.00	93.75	64.52	72.29	64.77	72.73	69.1(103)		
2 女	46.15	53.13	14.29	23.08	100.00	6.25	35.48	27.71	35.23	27.27	30.9(46)		

02. 年齢

	性別		年齢		職業		年金生活者		学歴		科目		全体
	男	女	44歳以下	45～59歳以上	勤め	主婦	活者	以下	大卒上	大卒下	社会学	地球と宇宙	
1 24歳以下	2.94	4.35	10.26	0.00	0.00	5.77	0.00	0.00	4.92	2.41	1.14	5.75	3.4(5)
2 25～34歳	4.90	6.52	20.51	0.00	0.00	13.46	0.00	0.00	0.00	9.64	4.55	6.90	5.4(8)
3 35～44歳	13.73	28.26	69.23	0.00	0.00	30.77	41.87	0.00	13.11	22.89	19.32	16.09	18.2(27)
4 45～54歳	8.82	23.91	0.00	62.50	0.00	25.00	29.17	0.00	13.11	14.46	14.77	13.79	13.5(20)
5 55歳以上	69.61	36.96	0.00	37.50	100.00	25.00	29.17	100.00	68.85	50.60	60.23	57.47	59.5(88)

03. あなたの受講地はどこですか。

	性別		年齢		職業		年金生活者		学歴		科目		全体
	男	女	44歳以下	45～59歳以上	勤め	主婦	活者	以下	大卒上	大卒下	社会学	地球と宇宙	
1 大阪府立文化情報センター	15.53	19.57	23.08	28.13	9.09	23.08	20.83	9.38	16.13	18.07	18.18	25.00	16.8(25)
2 池田市	53.40	58.70	58.97	68.75	48.05	65.38	58.33	46.88	41.94	65.06	55.68	51.14	55.0(82)
3 尼崎市	31.07	21.74	17.95	3.13	42.86	11.54	20.83	43.75	41.94	16.87	26.14	23.86	28.2(42)

06. あなたが今回受講した科目はどれですか。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男 %	女 %	44以下 %	45～59 60以上 %	勤め %	主婦 %	年金者 %	高卒下 %	大卒上 %	地社学 %		地と宇 %	
1 「地球と宇宙(地球編)」だけ	44.66	32.61	43.59	40.63	38.96	50.00	29.17	40.63	45.16	38.55	0.00	69.32	40.9(61)
2 「地域社会学」だけ	37.86	47.83	38.46	34.38	45.45	30.77	54.17	42.19	40.32	40.96	69.32	0.00	40.9(61)
3 両科目とも	17.48	19.57	17.95	25.00	15.58	19.23	16.67	17.19	14.52	20.48	30.68	30.68	18.1(27)

07. あなたの職業は主として次のどれに最もあてはまりますか。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男 %	女 %	44以下 %	45～59 60以上 %	勤め %	主婦 %	年金者 %	高卒下 %	大卒上 %	地社学 %		地と宇 %	
1 管理職(つとめ)	14.56	4.44	5.13	37.50	2.63	32.69	0.00	0.00	8.20	14.46	9.09	14.94	11.5(17)
2 専門・技術・研究・教育職(つとめ)	12.62	13.33	28.21	18.75	2.63	36.54	0.00	0.00	4.92	19.28	7.95	16.09	12.8(19)
3 販売・サービス・事務職(つとめ)	11.65	8.89	30.77	9.38	1.32	30.77	0.00	0.00	6.56	14.46	12.50	10.34	10.8(16)
4 その他の勤め	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0(0)
5 自営	0.97	6.67	0.00	0.00	5.26	0.00	0.00	0.00	3.28	2.41	4.55	0.00	2.7(4)
6 自由業(開業医、弁護士、僧侶等)	0.00	2.22	2.56	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.20	1.14	1.15	0.7(1)
7 専業主婦	0.00	53.33	25.64	34.38	3.95	0.00	100.00	0.00	19.67	14.46	19.32	12.64	16.2(24)
8 学生	0.97	0.00	2.56	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.20	0.00	1.15	0.7(1)
9 年金生活	58.25	8.89	0.00	0.00	84.21	0.00	0.00	100.00	55.74	31.33	43.18	42.53	43.2(64)
10 その他	0.97	2.22	5.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.64	1.20	2.27	1.15	1.4(2)

08. あなたが最後に卒業された学校はどれですか。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男 %	女 %	44以下 %	45～59 60以上 %	勤め %	主婦 %	年金者 %	高卒下 %	大卒上 %	地社学 %		地と宇 %	
1 小学校・旧制高等小学校・新制中学校	9.71	4.35	0.00	3.13	14.29	0.00	4.17	15.63	19.35	0.00	5.68	9.09	8.1(12)
2 旧制中学・新制高校卒	29.13	43.48	25.64	31.25	37.66	23.08	45.83	37.50	80.65	0.00	32.95	32.95	33.6(50)
3 旧制高校・師範・高専・大学卒(短大・大学院をふくむ)	58.25	50.00	74.36	65.63	42.86	76.92	50.00	40.63	0.00	100.00	57.95	55.68	55.7(83)
4 その他	2.91	2.17	0.00	0.00	5.19	0.00	0.00	6.25	0.00	0.00	3.41	2.27	2.7(4)

09. あなたのご家族の形態は以下のどれに最もあてはまりますか。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男 %	女 %	44以下 %	45～59 60以上 %	勤め %	主婦 %	年金者 %	高卒下 %	大卒上 %	地社学 %		地と宇 %	
1 単身	4.85	17.39	12.82	6.25	7.79	11.54	0.00	6.25	11.29	6.02	9.09	9.09	8.7(13)
2 家族と同居(配偶者なし・1世帯)	4.85	17.39	17.95	3.13	6.49	13.46	4.17	3.13	8.06	9.64	7.95	10.23	8.7(13)
3 夫婦(配偶者と2人)	38.83	15.22	5.13	18.75	50.65	7.69	20.83	56.25	38.71	27.71	30.68	31.82	31.5(47)
4 夫婦と子供	37.86	47.83	56.41	59.38	24.68	51.92	75.00	23.44	33.87	44.58	42.05	39.77	40.9(61)
5 親と夫婦と子供	10.68	0.00	7.69	12.50	5.19	13.46	0.00	6.25	6.45	8.43	7.95	5.68	7.4(11)
6 その他	2.91	2.17	0.00	0.00	5.19	1.92	0.00	4.69	1.61	3.61	2.27	3.41	2.7(4)



●つぎに、今回のビデオ講座の受講をお決めになった時点をふりかえって、以下の質問にお答えください。

10. あなたが今回ビデオ講座の受講を希望されたのは、どのような理由からですか。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体
	男 平均値	女 平均値	44以下 平均値	45～59 平均値	勤め 平均値	年金者 平均値	高卒下 平均値	大卒上 平均値	社会学 平均値	地と宇 平均値	
(1) 仕事のために必要な知識を獲得したいと思ったから	1.57	1.60	2.00	1.71	2.02	1.36	1.28	1.79	1.72	1.39	1.58
(2) 専門的な知識を身につけたいと思ったから	2.13	2.27	2.51	2.03	2.30	2.24	1.94	2.36	2.14	2.12	2.17
(3) 自分の関心ある分野の知識を深めたいと思ったから	3.30	3.44	3.44	3.39	3.44	3.48	3.22	3.42	3.31	3.31	3.34
(4) 勉強すること自体が好きだから	3.13	3.32	3.13	3.19	3.08	3.38	3.14	3.22	3.15	3.22	3.19
(5) 一般的な教養を身につけたいと思ったから	3.34	3.30	3.26	3.41	3.33	3.27	3.39	3.30	3.30	3.40	3.33
(6) 新時代に適応したいと思ったから	2.49	2.85	2.36	2.73	2.44	2.87	2.62	2.62	2.59	2.53	2.61
(7) 自分の新たな可能性を試したいと思ったから	2.31	2.56	2.44	2.50	2.36	2.57	2.47	2.37	2.48	2.35	2.39
(8) いままでの不勉強を取り戻したいと思ったから	2.26	2.22	2.36	2.20	2.24	2.22	2.41	2.16	2.27	2.19	2.25
(9) 余暇を有効に利用したいと思ったから	2.75	2.61	2.41	2.31	2.39	2.70	3.02	2.51	2.74	2.62	2.70
(10) 新しい友人を見つけないかと思ったから	1.74	1.78	1.74	1.60	1.60	1.78	1.98	1.72	1.79	1.72	1.75
(11) 一緒に学習する家族・友人・知人がいたから	1.42	1.44	1.45	1.48	1.56	1.30	1.39	1.47	1.37	1.39	1.43
(12) 放送大学というものに興味があったから	3.14	3.64	3.38	3.19	3.18	3.50	3.36	3.29	3.45	3.22	3.30
(13) 周囲(友人や職員など)からすすめられたから	1.35	1.47	1.53	1.37	1.32	1.59	1.49	1.33	1.33	1.40	1.39
(14) 生涯学習の一助としようと思ったから	3.05	3.00	2.42	3.10	2.62	3.18	3.28	2.87	3.10	2.91	3.04
(15) 今回開講された科目に興味があったから	3.53	3.49	3.38	3.58	3.57	3.43	3.38	3.63	3.47	3.56	3.52

11. 開講当初、あなたがこの講座に期待していたものは何ですか。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体
	男 平均値	女 平均値	44以下 平均値	45～59 平均値	勤め 平均値	年金者 平均値	高卒下 平均値	大卒上 平均値	社会学 平均値	地と宇 平均値	
(1) 視野の広がりが	3.55	3.74	3.59	3.55	3.57	3.63	3.73	3.54	3.69	3.56	3.61
(2) 学問的な深み	2.93	3.15	3.10	2.83	2.96	3.09	3.02	2.99	2.95	3.04	3.00
(3) 学ぶことの楽しさ	3.22	3.45	3.15	3.41	3.20	3.50	3.44	3.22	3.26	3.32	3.30
(4) 大学の講義の雰囲気	2.23	2.34	2.31	1.93	1.94	2.52	2.58	2.06	2.26	2.11	2.26
(5) モノを考えるヒント	2.91	3.00	2.87	3.10	3.00	2.91	3.00	2.91	3.00	2.81	2.94
(6) 講師や受講者同士のふれあい	2.36	2.49	2.50	2.33	2.33	2.57	2.55	2.31	2.41	2.40	2.40
(7) 新しい知識の獲得	3.60	3.81	3.69	3.52	3.52	3.83	3.69	3.67	3.73	3.63	3.67

12. この講座について何から知りましたか。あなたがこの講座を知るに至った情報源にすべて○をつけてください。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体
	男	女	44以下	45～59	60以上	勤め	主婦	年金者	高卒下	大卒上	
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	% (実数)
1 新聞	26.21	32.61	35.90	37.50	20.78	28.85	45.83	20.31	24.19	32.95	28.2(42)
2 テレビ・ラジオ	3.88	2.17	2.56	3.13	3.90	3.85	0.00	4.69	4.84	2.41	3.4(5)
3 自治体広報紙誌	46.60	52.17	43.59	56.25	46.75	53.85	50.00	42.19	45.16	51.81	48.3(72)
4 社会教育・生涯学習施設での掲示	37.86	34.78	25.64	40.63	41.56	34.62	33.33	40.63	35.48	37.95	36.9(55)
5 ビラ・ちらし	21.36	4.35	15.38	21.88	14.29	21.15	8.33	15.63	12.90	16.87	16.1(24)
6 関係自治体の職員	23.30	8.70	12.82	18.75	20.78	19.23	12.50	23.44	19.35	19.28	18.1(28)
7 友人・知人	4.85	2.17	7.69	0.00	3.90	5.77	0.00	4.69	1.61	6.02	4.0(6)

13. あなたは今回のビデオ講座を受講する以前に次に挙げるような社会・生涯学習の機会をどの程度利用されてきましたか。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体
	男	女	44以下	45～59	60以上	勤め	主婦	年金者	高卒下	大卒上	
	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値
(1) NHKなどの放送教育講座	2.93	2.67	2.77	2.34	2.59	2.49	2.67	2.65	2.46	2.65	2.61
(2) 専修・各種学校での学習	1.27	1.14	1.46	1.24	1.25	1.27	1.62	1.24	1.30	1.33	1.31
(3) 通信教育（一般および高校レベル）	1.48	1.50	1.63	1.38	1.46	1.49	1.41	1.49	1.43	1.53	1.35
(4) 通信教育（大学レベル）	1.45	1.49	1.72	1.48	1.22	1.75	1.30	1.20	1.28	1.58	1.42
(5) 民間のカルチャー・センターや文化教室など	2.10	2.32	1.92	2.11	2.35	1.92	2.45	2.29	2.34	2.04	2.14
(6) 大学などの公開講座	2.28	1.88	1.90	2.13	2.32	2.10	1.91	2.38	2.25	2.08	2.20
(7) 府県や市町村の社会・生涯教育講座	2.89	2.93	2.39	2.90	3.20	2.39	3.09	3.28	3.15	2.70	2.99
(8) 自主的な学習サークル活動	1.84	2.42	1.97	1.97	2.10	1.72	2.50	2.13	2.24	1.87	2.04

●つぎに、今回の講座について現在の時点でのご意見やご感想をおうかがいいたします。

14. あなたは今回のビデオ講座の修了認定証を最終的に受けとりましたか。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体
	男	女	44以下	45～59	60以上	勤め	主婦	年金者	高卒下	大卒上	
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	% (実数)
1 はい	94.12	82.22	84.21	90.63	94.74	90.20	82.61	98.75	88.71	93.38	93.10
2 いいえ	5.88	17.78	15.79	9.38	5.26	9.80	17.39	6.25	11.29	6.17	6.90
											89.66
											10.34
											90.5(133)
											9.5(14)

14-2. 前の質問で「いいえ」と答えられた方だけに質問いたします。修了しなかった理由として以下にあげた理由はどの程度あなただけの場合に当てはまりますか。いちばん近い程度の番号に○をつけてください。(14-2)

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男 平均値	女 平均値	44以下 平均値	45～59 平均値	60以上 平均値	勤め 平均値	主婦 平均値	年金者 平均値	高卒下 平均値	大卒上 平均値	地学 平均値	地と宇 平均値	全体 平均値
(1) 受講登録後、仕事や家事など生活に変化があって、講座に出席できなくなった	2.43	3.86	3.83	3.67	1.50	4.00	3.75	1.50	3.00	3.80	3.17	3.11	3.14
(2) 自身自身が病気が、けが、事故などの突発的な事態に遭ったため学習を続けられなかった	1.38	1.14	1.00	1.25	1.60	1.17	1.00	1.60	1.33	1.20	1.57	1.00	1.27
(3) 自分以外の家族のなかに変化があって学習を続ける余裕がなくなった	1.14	1.43	1.00	1.75	1.25	1.50	1.00	1.25	1.13	1.60	1.50	1.11	1.29
(4) 学習したいことが変わったため、ビデオ講座で学習する必要がなくなった	1.14	1.29	1.40	1.00	1.25	1.33	1.00	1.25	1.00	1.40	1.00	1.33	1.21
(5) ビデオによる学習という学習方法に違和感があった	1.57	1.57	1.00	2.00	1.75	1.33	2.00	1.75	1.50	1.20	1.17	1.78	1.57
(6) 自分の期待していたことや学びたかったこととビデオ講座の実態が違っていたので、学習意欲がわかなかった	1.86	2.38	2.67	1.75	1.75	2.17	2.25	1.75	1.88	2.17	1.86	2.44	2.13
(7) 予想していたより講義が難解でついていけなかった	1.57	1.67	2.25	1.25	1.50	1.67	1.00	1.50	1.43	1.80	1.80	1.67	1.62
(8) おもったより仕事や生活が多忙で講座に通う時間とれなかった	1.71	3.00	2.60	2.50	1.75	2.50	3.33	1.75	2.50	2.40	2.67	2.00	2.36
(9) 先生に直接指導してもらった機会が少なく、学習意欲が続かなかった	1.57	2.14	1.80	2.00	2.00	1.67	2.33	2.00	1.75	2.00	1.83	1.78	1.86
(10) ビデオ講座が開講されている施設が利用しにくく、学習に困難を感じた	1.57	1.57	2.20	1.25	1.25	1.17	2.00	1.25	1.75	1.20	1.67	1.78	1.57
(11) 面接授業にでるのが困難で、学習を続けられなかった	1.71	2.14	2.40	1.75	1.75	2.00	1.67	1.75	2.13	1.60	1.83	2.11	1.93
(12) 他の生涯学習講座のような雰囲気がなく、学んでいるという充実感が得られなかった	2.29	2.17	1.80	3.00	2.50	2.00	2.67	2.50	1.88	2.50	1.60	2.44	2.23
(13) 家族や職場の中にあなたがビデオ講座に通うことに	1.00	1.14	1.00	1.25	1.00	1.17	1.00	1.00	1.00	1.20	1.17	1.00	1.07
(14) 他にもっとよい学習の場があったのでそれに移ったためビデオ講座をやめた	1.71	1.29	1.00	1.50	2.25	1.17	1.33	2.25	1.13	1.80	1.67	1.33	1.50

●ふたたび、すべてのみなさんにおたずねします。

15. あなたは、全15回のビデオテープのうちのどの回を視聴されましたか。ご覧になった回の番号に○をつけてください。(定時視聴以外のご覧になったものも含めてください)。

「地球と宇宙」

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体	
	男 %	女 %	44以下 %	45~59 %	60以上 %	勤め %	主婦 %	年金者 %	高卒下 %	大卒上 %	地と宇 %	地と宇 %
1 第1回 宇宙の中の地球	93.75	87.50	87.50	95.24	92.86	91.67	90.91	94.59	94.59	89.80	96.30	92.05
2 第2回 地球の層圏	93.75	79.17	87.50	90.48	92.86	91.67	72.73	94.59	86.49	91.84	92.59	89.77
3 第3回 地球科学の発展	87.50	75.00	75.00	76.19	95.24	80.56	72.73	94.59	81.08	85.71	85.19	84.09
4 第4回 大気	90.63	75.00	79.17	80.95	92.86	86.11	72.73	91.89	83.78	89.80	88.89	86.36
5 第5回 海洋	85.94	79.17	70.83	85.71	90.48	80.56	90.91	89.19	83.78	85.71	92.59	84.09
6 第6回 固体地球	85.94	70.83	62.50	80.95	92.86	77.78	81.82	91.89	83.78	81.82	77.78	81.82
7 第7回 岩石と鉱物	89.06	75.00	79.17	76.19	92.86	83.33	72.73	91.89	83.78	87.76	85.19	85.23
8 第8回 地層	87.50	70.83	66.67	85.71	90.48	80.56	81.82	89.19	86.49	81.63	81.48	82.95
9 第9回 地質時代	82.81	75.00	66.67	80.95	90.48	75.00	81.82	89.19	81.08	81.63	81.48	80.68
10 第10回 固体地球の表層	79.69	66.67	62.50	71.43	88.10	66.67	72.73	86.49	72.97	79.59	85.19	76.14
11 第11回 プレートテクトニクス	85.94	83.33	75.00	85.71	92.86	77.78	90.91	91.89	86.49	85.71	88.89	85.23
12 第12回 地震	79.69	79.17	58.33	85.71	90.48	69.44	81.82	89.19	83.78	77.55	88.89	79.55
13 第13回 火山	78.13	62.50	50.00	76.19	88.10	61.11	81.82	86.49	72.97	75.51	77.78	73.86
14 第14回 地球の歴史	79.69	66.67	62.50	76.19	85.71	63.89	90.91	83.78	72.97	79.59	81.48	76.14
15 第15回 (最終回) 日本列島	84.83	70.83	70.83	85.71	85.71	75.00	90.91	86.49	81.08	81.63	85.19	80.68

「地域社会学」

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体	
	男 %	女 %	44以下 %	45~59 %	60以上 %	勤め %	主婦 %	年金者 %	高卒下 %	大卒上 %	地と宇 %	地と宇 %
1 第1回 地域社会学への招待	96.49	93.55	90.91	94.74	97.87	92.31	88.24	100.00	97.06	94.12	95.45	95.5(84)
2 第2回 農耕と定着	89.47	83.87	81.82	84.21	91.49	80.77	76.47	94.74	88.24	86.27	87.50	87.5(77)
3 第3回 地域と血縁	82.46	77.42	77.27	89.47	89.36	88.46	82.35	89.47	88.24	84.31	86.36	77.78
4 第4回 土地の神さま	89.47	67.74	86.36	84.21	93.62	92.31	76.47	94.74	94.12	86.27	89.77	88.89
5 第5回 村・町・都市	85.96	67.74	77.27	94.74	91.49	92.31	70.59	97.37	91.18	88.24	88.64	88.89
6 第6回 地域と宗教	92.98	67.74	72.73	84.21	87.23	88.46	70.59	89.47	79.41	86.27	82.95	88.89
7 第7回 地域と水域	87.72	64.52	59.09	89.47	87.23	76.92	70.59	86.84	79.41	82.35	80.68	81.48
8 第8回 現代の農村社会	89.47	67.47	72.73	84.21	85.11	88.46	70.59	84.21	79.41	84.31	81.82	81.48
9 第9回 現代の漁村社会	82.46	77.42	63.64	78.95	87.23	73.08	70.59	86.84	82.35	78.43	79.55	81.48
10 第10回 現代の山村社会	92.98	67.74	77.23	78.95	89.36	84.62	70.59	92.11	91.18	80.39	84.09	85.19
11 第11回 開拓地の地域社会	87.72	64.52	54.55	84.21	89.36	76.92	52.94	92.11	79.41	80.39	79.55	85.19
12 第12回 都市の近隣社会	84.21	77.42	72.73	89.47	82.98	84.62	76.47	81.58	79.41	84.31	81.82	85.19
13 第13回 歴史の中の地域社会	80.70	67.74	59.09	89.47	78.72	80.77	70.59	81.58	73.53	78.43	76.14	81.48
14 第14回 未来への挑戦	85.96	67.74	83.64	84.21	85.11	84.62	64.71	86.84	79.41	80.39	79.55	77.78
15 第15回 (最終回) 主張する地域社会	84.21	64.52	63.64	73.68	85.11	80.77	52.94	86.84	79.41	76.47	77.27	85.19

16. あなたは、定時集団視聴と個別随時視聴のどちらをよく利用されましたか。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男	女	44以下	45～59.60以上	勤め	主婦	高卒下	大卒上	地社学	地と字	%	% (実数)	
1 ほとんどすべて定時集団視聴	69.33	63.89	56.25	64.52	77.08	60.87	73.68	77.50	77.50	62.32	73.85	64.79	67.6 (75)
2 定時集団視聴が主で、個別随時視聴が従	21.33	25.00	28.13	25.81	16.67	23.91	21.05	17.50	15.00	27.54	16.92	22.54	22.5 (25)
3 定時視聴と随時視聴がほぼ同じ割合	4.00	8.33	12.50	3.23	2.08	10.87	0.00	0.00	2.50	7.25	6.15	7.04	5.4 (6)
4 個別視聴が主で、定時視聴が従	4.00	0.00	0.00	3.23	4.17	2.17	0.00	5.00	2.50	1.45	3.08	2.82	2.7 (3)
5 ほとんどすべて個別視聴	1.33	2.78	3.13	3.23	0.00	2.17	5.26	0.00	2.50	1.45	0.00	2.82	1.8 (2)

17. あなたは定時集団視聴と随時個別視聴を比べてみて、どちらの視聴方法があなたの学習にとって適していると思いますか。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男	女	44以下	45～59.60以上	勤め	主婦	高卒下	大卒上	地社学	地と字	%	% (実数)	
1 定時集団視聴が非常によい	41.76	51.28	29.73	43.75	54.10	30.00	54.55	55.77	54.90	37.66	44.59	44.58	44.6 (58)
2 どちらかという而定時集団視聴がよい	34.07	12.82	27.03	21.88	31.15	36.00	9.09	26.92	25.49	29.87	28.38	26.51	27.7 (36)
3 どちらともいえない	15.38	15.38	24.32	15.63	9.84	20.00	13.64	11.54	7.84	19.48	17.57	14.46	15.4 (20)
4 どちらかという随時個別視聴がよい	7.69	15.38	16.22	12.50	4.92	12.00	13.64	5.77	7.84	11.69	8.11	10.84	10.0 (13)
5 随時個別視聴が非常によい	1.10	5.13	2.70	6.25	0.00	2.00	9.09	0.00	3.92	1.30	1.35	3.61	2.3 (3)

18. 面接講義（途中、2回行なわれたセンター主催のスクーリング）には、出席されましたか。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男	女	44以下	45～59.60以上	勤め	主婦	高卒下	大卒上	地社学	地と字	%	% (実数)	
1 2回とも出席した	74.38	66.67	64.10	75.00	81.33	71.15	70.83	79.37	63.33	84.34	74.71	75.86	74.8 (110)
2 1回目だけ出席した	17.65	24.44	23.08	25.00	14.67	23.08	25.00	15.87	28.33	12.05	19.54	18.39	19.7 (29)
3 2回とも出席しなかった	3.92	8.89	12.82	0.00	4.00	5.77	4.17	4.76	8.33	3.61	5.75	5.75	5.4 (8)

19. 講座期間中は、どのくらい予習復習をなさいましたか。

(1) 予習について

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男	女	44以下	45～59.60以上	勤め	主婦	高卒下	大卒上	地社学	地と字	%	% (実数)	
1 ほとんど毎日予習した	28.71	22.22	12.82	18.75	37.84	11.54	29.17	41.94	32.20	22.89	32.56	22.99	26.7 (39)
2 予習した回の方がしなかった回よりやや多かった	19.80	24.44	23.08	15.63	22.97	15.38	20.83	19.35	20.34	21.69	20.93	19.54	21.2 (31)
3 予習しなかった回の方がしなかった回よりやや多かった	25.74	37.78	35.90	37.50	22.97	36.54	41.67	22.58	32.20	27.71	24.42	29.89	29.5 (43)
4 ほとんど予習しなかった	25.74	15.56	28.21	28.13	16.22	36.54	8.33	16.13	15.25	27.71	22.09	27.59	22.6 (33)

(2) 復習について

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男	女	44以下	45~59	60以上	勤め	主婦	年金者	高卒下	大卒上	地学	地と字	全体
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	(実数)
1 ほとんど毎回復習した	15.88	13.33	7.69	12.50	20.27	5.77	20.83	20.97	16.95	14.46	15.12	14.94	15.1(22)
2 復習した回の方がしなかった回よりやや多かった	19.80	22.22	20.51	12.50	24.32	19.23	16.67	24.19	22.03	20.48	20.93	19.54	20.5(30)
3 復習しなかった回の方がした回よりやや多かった	36.63	33.33	30.77	34.38	39.19	32.69	29.17	38.71	35.59	34.94	36.05	34.48	35.6(52)
4 ほとんど復習しなかった	27.72	31.11	41.03	40.63	16.22	42.31	33.33	16.13	25.42	30.12	27.91	31.03	28.8(42)

20. 今回のビデオ講座に参加している間、受講者どうしの中で、あなたが講座の内容や関連した話題などについて親しくお話されたりする方はおられましたか。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男	女	44以下	45~59	60以上	勤め	主婦	年金者	高卒下	大卒上	地学	地と字	全体
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	(実数)
1 いつでもいた	11.76	25.00	17.95	16.13	14.67	13.46	17.39	14.29	21.67	12.20	20.93	10.47	15.8(23)
2 とときどきいた	29.41	18.18	25.64	32.26	24.00	32.69	17.39	22.22	21.67	30.49	25.58	27.91	26.0(38)
3 あまりいなかった	21.57	22.73	7.69	22.58	29.33	9.62	30.43	31.75	26.67	19.51	19.77	22.09	21.9(32)
4 まったくいなかった	37.25	34.09	48.72	29.03	32.00	44.23	34.78	31.75	30.00	37.80	33.72	39.53	36.3(53)

●つぎに、今回のビデオ講座について、あなたの率直なご意見ご批評をお聞かせください。あなたの意見やお気持ちのものとも近い答えの番号をひとつ選んでください。

21. ビデオ講座の事前のPRについて

123.32 123.21

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男	女	44以下	45~59	60以上	勤め	主婦	年金者	高卒下	大卒上	地学	地と字	全体
	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値
(1) 今回、放送大学のビデオ講座が行なわれることは一般の市民に十分知られていた。	2.32	2.26	2.28	2.45	2.26	2.35	2.33	2.22	2.22	2.39	2.45	2.13	2.30
(2) 受講生募集の広報は十分効果的だった。	2.53	2.46	2.46	2.63	2.45	2.54	2.55	2.43	2.44	2.58	2.56	2.40	2.51

22. ビデオ講座が開かれた教室(定時視聴会場)は

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男	女	44以下	45~59	60以上	勤め	主婦	年金者	高卒下	大卒上	地学	地と字	全体
	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値
(1) 通うのに便利だった。	3.65	3.29	3.33	3.55	3.71	3.55	3.04	3.79	3.51	3.58	3.63	3.54	3.55
(2) 学習にいい環境だった。	3.75	3.63	3.53	3.61	3.88	3.69	3.57	3.85	3.65	3.77	3.70	3.66	3.72

23. 開講時に行なわれたオリエンテーションは、

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男	女	44以下	45～59	60以上	勤め	主婦	年金者	高卒下	大卒上	地と学	地と学	平均値
(1) ビデオを使った学習方法を理解する上で役だった。	3.17	3.21	3.00	3.23	3.27	3.10	3.14	3.23	3.20	3.17	3.24	3.15	3.18
(2) 受講する科目の内容を知る上で役にたった。	3.04	2.95	2.85	2.94	3.16	2.91	2.77	3.14	3.02	3.03	3.01	3.01	3.02
(3) やる気を起こさせるのに役だった。	2.97	3.14	2.85	2.93	3.16	2.87	2.86	3.14	3.12	2.96	3.08	2.94	3.02

24. ビデオ講座の開講曜日や時間帯について

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男	女	44以下	45～59	60以上	勤め	主婦	年金者	高卒下	大卒上	地と学	地と学	平均値
(1) 開講曜日は自分にとって適切だった。	3.47	3.15	3.19	3.22	3.56	3.39	3.00	3.49	3.26	3.46	3.48	3.32	3.38
(2) 開講時間帯は自分にとって適切だった。	3.41	3.38	3.24	3.43	3.50	3.35	3.19	3.50	3.30	3.52	3.53	3.31	3.41

25. 集団視聴のとき使用した器械や教室について

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男	女	44以下	45～59	60以上	勤め	主婦	年金者	高卒下	大卒上	地と学	地と学	平均値
(1) 器械の画面は見やすかった。	3.51	3.53	3.43	3.35	3.67	3.43	3.43	3.68	3.54	3.51	3.57	3.39	3.51
(2) ビデオを視聴する上で教室の座席配置は適切だった。	3.34	3.00	3.16	2.84	3.49	3.18	2.74	3.56	3.21	3.24	3.21	3.19	3.23

26. 担当職員への応対は

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男	女	44以下	45～59	60以上	勤め	主婦	年金者	高卒下	大卒上	地と学	地と学	平均値
適切だった。	3.73	3.65	3.63	3.78	3.71	3.79	3.57	3.70	3.66	3.76	3.73	3.69	3.71

27. あなたにとって講座を受講する最適の平日の時間帯は下記の時間帯のどれですか。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体			
	男	女	44以下	45～59	60以上	勤め	主婦	年金者	高卒下	大卒上	地と学	地と学	平均値	平均値
1 午前9:00～11:00	12.75	4.65	2.63	0.00	18.92	0.00	4.35	20.97	13.11	7.41	11.63	10.47	10.3	(15)
2 午前11:00～午後1:00	1.96	13.95	7.89	6.25	4.05	0.00	26.09	3.23	6.56	4.94	3.49	5.81	5.5	(8)
3 午後1:00～3:00	30.39	37.21	10.53	15.63	51.35	3.85	47.83	50.00	37.70	27.16	44.19	18.60	32.4	(47)
4 午後3:00～5:00	4.90	4.65	2.63	3.13	6.76	1.92	8.70	6.45	8.20	2.47	2.33	5.81	4.8	(7)
5 午後5:00～7:00	11.76	13.95	10.53	34.38	4.05	25.00	4.35	3.23	4.92	18.52	12.79	15.12	12.4	(18)
6 午後7:00～9:00	38.24	25.58	65.79	40.63	14.86	69.23	8.70	16.13	29.51	39.51	25.58	44.19	34.5	(50)

28. 今回の開講ビデオ講座の番組内容について、最もあなたの意見に近い段階を1つ選んでください。(あなたが受講した科目のみお答えください。)

I「地球と宇宙」(28-1)

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体	
	男 平均値	女 平均値	44以下 平均値	45～59 平均値	60以上 平均値	勤め 平均値	主婦 平均値	年金者 平均値	高卒下 平均値	大卒上 平均値	地と宇 平均値	地と宇 平均値
(1) 分かりやすい番組である。	3.23	3.45	3.00	3.50	3.41	3.26	3.30	3.40	3.20	3.36	3.41	3.29
(2) どこが重要なポイントであるかがよく分かる。	3.02	3.29	2.88	3.00	3.35	2.86	3.33	3.30	3.07	3.11	3.23	3.08
(3) 講義の流れに適当な緩急のリズムがある。	2.82	3.00	2.58	2.95	3.09	2.63	3.00	3.10	2.86	2.89	3.00	2.87
(4) 視聴者が抱きそうな疑問への説明がある。	2.80	2.86	2.58	2.95	2.97	2.71	2.78	2.93	2.66	2.93	3.00	2.82
(5) 内容が盛りだくさんである。	3.05	3.15	2.96	3.35	3.06	3.03	3.11	3.14	2.79	3.23	3.04	3.08
(6) ビデオ映像というメディアの特性が活かされている。	3.20	3.50	3.04	3.26	3.44	2.94	3.88	3.41	3.45	3.20	3.52	3.28
(7) 具体例が適当に取り入れられている。	3.18	3.52	3.17	3.26	3.39	3.14	3.78	3.34	3.28	3.28	3.32	3.27
(8) 必要以上に専門用語が使われている。	2.41	2.67	2.38	2.42	2.55	2.37	2.44	2.52	2.66	2.35	2.56	2.48
(9) 印刷教材と適切に関連している。	3.11	3.55	3.13	3.25	3.32	3.06	3.70	3.30	3.14	3.29	3.42	3.23
(10) 内容が実用的である。	2.63	2.64	2.46	2.70	2.76	2.57	2.80	2.72	2.55	2.66	2.81	2.63
(11) 中途に息抜き時間が適度に入っている。	2.34	2.21	2.25	2.22	2.44	2.15	2.33	2.48	2.37	2.28	2.32	2.31
(12) 興味深い番組である。	3.49	3.68	3.46	3.47	3.71	3.37	3.80	3.70	3.52	3.59	3.60	3.54
(13) 生活に密着した題材である。	2.45	2.71	2.50	2.55	2.58	2.57	2.60	2.57	2.46	2.57	2.73	2.53
(14) 時宜を得た素材を利用している。	2.89	2.95	2.50	3.22	3.09	2.82	3.00	3.07	2.96	2.89	2.92	2.91
(15) 講義の進度が速い。	2.67	2.71	2.46	2.47	2.94	2.51	2.44	2.93	2.70	2.65	2.64	2.68
(16) 印刷教材が充実している。	2.96	3.27	2.83	3.10	3.24	2.83	3.20	3.28	2.90	3.15	3.04	3.05
(17) 印刷教材に演習などが適度に含まれている。	1.96	2.00	1.71	1.89	2.24	1.80	1.67	2.24	2.07	1.91	1.68	1.97
(18) 毎回の講座の配分は学習のペースづくりに役立っている。	2.82	3.05	2.71	2.89	2.97	2.89	2.78	2.93	2.90	2.89	2.84	2.88
(19) 全体に満足のいく番組である。	3.23	3.45	3.08	3.40	3.42	3.14	3.50	3.41	3.24	3.34	3.54	3.29



II 「地域社会学」 (28-2)

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男 平均値	女 平均値	44以下 平均値	45~59 平均値	60以上 平均値	勤め 平均値	主婦 平均値	年金者 平均値	高卒下 平均値	大卒上 平均値	社会学 平均値	地と字 平均値	全体 平均値
(1) 分かりやすい番組である。	3.56	3.70	3.38	3.85	3.61	3.73	3.60	3.56	3.66	3.57	3.61	3.50	3.61
(2) どこが重要なポイントであるかがよく分かる。	3.31	3.50	3.00	3.79	3.38	3.58	3.36	3.29	3.43	3.36	3.38	3.32	3.38
(3) 講義の流れに適当な緩急のリズムがある。	3.26	3.35	3.14	3.47	3.27	3.42	3.43	3.19	3.25	3.32	3.27	3.21	3.29
(4) 視聴者が抱きそうな疑問への説明がある。	3.00	3.12	2.81	3.16	3.11	3.15	2.93	3.03	2.96	3.11	3.03	2.96	3.04
(5) 内容が盛りだくさんである。	3.10	3.38	3.14	3.21	3.24	3.19	3.29	3.21	3.14	3.27	3.18	2.96	3.20
(6) ビデオ映像というメディアの特性が活かされている。	3.60	3.73	3.52	3.84	3.61	3.81	3.64	3.56	3.50	3.73	3.66	3.57	3.64
(7) 具体例が適当に取り入れられている。	3.52	3.62	3.33	3.74	3.59	3.73	3.29	3.54	3.46	3.60	3.55	3.50	3.55
(8) 必要以上に専門用語が使われている。	2.33	2.08	2.14	2.11	2.38	2.00	2.21	2.50	2.43	2.13	2.25	2.07	2.24
(9) 印刷教材と適切に関連している。	2.71	2.84	2.52	2.94	2.80	2.81	2.77	2.72	2.81	2.70	2.73	2.54	2.76
(10) 内容が実用的である。	2.85	3.15	2.57	3.40	2.94	2.96	3.27	2.89	3.04	2.93	2.93	2.90	2.96
(11) 中途に息抜きの時間が適度に入っている。	2.61	2.96	2.75	2.94	2.59	2.92	2.79	2.50	2.74	2.73	2.70	2.59	2.72
(12) 興味深い番組である。	3.48	3.59	3.43	3.58	3.54	3.62	3.43	3.47	3.37	3.61	3.54	3.39	3.52
(13) 生活に密着した題材である。	3.23	3.37	2.86	3.55	3.39	3.23	3.27	3.33	3.14	3.36	3.27	3.34	3.28
(14) 時宜を得た素材を利用している。	3.09	3.35	2.71	3.53	3.28	3.23	3.14	3.23	3.14	3.21	3.22	3.00	3.18
(15) 講義の進度が速い。	2.50	2.44	2.35	2.37	2.62	2.27	2.38	2.68	2.64	2.37	2.50	2.11	2.48
(16) 印刷教材が充実している。	2.83	3.00	2.62	2.95	3.03	2.85	2.87	2.96	2.86	2.91	2.90	2.69	2.89
(17) 印刷教材に演習などが適度に含まれている。	2.15	2.40	1.95	2.42	2.31	2.35	2.07	2.26	2.15	2.32	2.17	2.07	2.24
(18) 毎回の講義の配分は学習のペースづくりに役立っている。	2.89	3.20	2.75	3.16	3.06	2.88	3.21	2.96	3.19	2.88	3.03	2.67	3.00
(19) 全体に満足のいく番組である。	3.38	3.61	3.29	3.65	3.46	3.50	3.50	3.43	3.46	3.47	3.45	3.24	3.46

29. つぎに面接講義について、最もあなたの意見に近い段階を1つ選んでください。(あなたが受講した科目のみお答えください。一度でも出席された方はお答えください)  
I「地球と宇宙」(29-1)

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男	女	44以下	45～59.60以上	勤め	主婦	年金者	高卒下	大卒上	地社会学	地と宇	平均値	
(1) 1回の面接講義の時間をもっと長くした方がよかった	2.80	2.52	2.56	2.63	2.82	2.71	2.43	2.93	2.77	2.65	2.75	2.81	2.86
(2) 面接講義の回数をもっとふやした方がよかった	3.15	3.15	3.29	2.95	3.19	3.00	3.20	3.24	3.08	3.17	3.17	3.20	3.33
(3) 面接講義への出席を免除してほしかった	1.26	1.16	1.22	1.26	1.19	1.29	1.14	1.20	1.29	1.19	1.23	1.12	1.27
(4) 面接講義を受けやすいよう時間帯を工夫してほしかった	1.47	1.52	1.44	1.42	1.55	1.38	1.43	1.68	1.29	1.60	1.51	1.38	1.73
(5) 面接講義は内容がむずかしかった	1.89	1.88	1.94	1.79	1.91	2.00	1.64	1.88	1.88	1.88	1.91	1.42	1.71
(6) 面接講義はビデオ学習を進めるために役にたった	2.83	2.92	2.56	2.95	2.97	2.76	2.79	2.93	2.85	2.84	2.87	2.92	3.19
(7) 面接講義は内容が充実していた	3.02	3.00	2.89	2.80	3.23	2.83	3.00	3.16	3.00	3.02	3.03	3.11	3.32

II「地域社会学」(29-2)

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男	女	44以下	45～59.60以上	勤め	主婦	年金者	高卒下	大卒上	地社会学	地と宇	平均値	
(1) 1回の面接講義の時間をもっと長くした方がよかった	2.93	2.68	2.95	2.53	3.03	2.85	2.22	3.07	2.81	2.91	3.00	2.86	2.70
(2) 面接講義の回数をもっとふやした方がよかった	3.24	3.60	3.50	3.16	3.39	3.18	3.70	3.38	3.29	3.38	3.52	3.33	3.15
(3) 面接講義への出席を免除してほしかった	1.21	1.42	1.50	1.26	1.10	1.38	1.33	1.08	1.28	1.27	1.17	1.27	1.22
(4) 面接講義を受けやすいよう時間帯を工夫してほしかった	1.73	1.74	2.23	1.53	1.52	1.91	1.67	1.50	1.58	1.80	1.52	1.73	1.49
(5) 面接講義は内容がむずかしかった	1.67	1.80	1.68	1.79	1.70	1.71	1.67	1.62	1.81	1.66	1.61	1.71	1.88
(6) 面接講義はビデオ学習を進めるために役にたった	3.04	3.60	3.23	3.05	3.31	2.89	3.67	3.32	3.29	3.13	3.43	3.19	2.86
(7) 面接講義は内容が充実していた	3.30	3.38	3.32	3.30	3.42	3.21	3.30	3.41	3.22	3.40	3.46	3.32	3.01

30. 今回のビデオ講座で学習したことであなたにどんな効用があったでしょうか。以下の項目についてあてはまると思われるものの程度をお答えください。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	女		44以下		勤め		高卒下		地社学		地と宇		
	平均値	%	平均値	%	平均値	%	平均値	%	平均値	%	平均値	%	
(1) 生活に張りがでた	2.81	2.95	2.68	2.90	2.96	2.78	3.00	2.90	2.84	2.87	2.97	2.82	2.85
(2) 学習意欲が増した	3.07	3.23	2.95	3.31	3.11	3.15	3.33	3.02	3.14	3.12	3.28	3.02	3.12
(4) 知識が増した	3.46	3.47	3.24	3.53	3.59	3.31	3.55	3.62	3.45	3.51	3.51	3.42	3.47
(5) 友人の数がふえた	1.69	1.82	1.68	1.56	1.88	1.57	1.67	1.85	1.80	1.71	1.92	1.66	1.73
(6) 家族と話す機会がふえた	2.10	2.34	2.03	3.23	2.27	1.94	2.55	2.26	2.33	2.09	2.34	2.05	2.18
(7) 新聞や雑誌を以前より読むようになった	2.09	2.33	1.97	2.25	2.24	1.90	2.67	2.19	2.25	2.13	2.27	2.08	2.17
(8) 地球のしくみに関心を持つようになった	2.95	2.80	2.42	2.94	3.23	2.66	2.82	3.24	3.16	2.74	2.55	3.39	2.90
(9) 地域社会のことに関心を持つようになった	2.83	3.00	2.55	3.00	3.09	2.65	2.95	3.02	2.84	2.95	3.53	2.42	2.89
(10) 自分に自信をもてるようになった	2.26	2.26	1.89	2.31	2.51	2.06	2.48	2.45	2.40	2.18	2.43	2.16	2.26
(11) 幅広い教養を身に付けることができた	3.03	2.69	2.76	2.78	3.16	2.84	2.71	3.16	2.90	2.96	2.96	2.85	2.93
(12) 自分自身の新たな側面を発見できた	2.24	2.26	2.08	2.26	2.37	2.16	2.25	2.37	2.30	2.23	2.49	2.00	2.24
(13) 自分自身の鍛錬になった	2.75	2.74	2.61	2.78	2.82	2.63	3.00	2.82	2.86	2.70	2.88	2.71	2.75
(14) 精神的に余裕ができた	2.32	2.24	2.00	2.45	2.41	2.27	2.25	2.38	2.35	2.25	2.54	2.15	2.29
(15) 自分の仕事を進める上で役に立った	1.85	1.58	1.76	1.65	1.85	1.86	1.80	1.89	1.67	1.85	1.97	1.59	1.77
(16) 家庭や周囲の人の役に立つようになった	1.86	1.74	1.61	1.81	2.00	1.73	1.80	1.98	1.90	1.79	2.01	1.66	1.83
(17) 社会的な貢献ができるようになった	1.80	1.63	1.58	1.70	1.91	1.63	1.67	1.94	1.61	1.73	1.93	1.59	1.75
(18) 生活にリズムができた	2.49	2.26	2.03	2.48	2.68	2.22	2.45	2.61	2.47	2.39	2.64	2.25	2.43
(19) 学習の楽しさがわかった	2.88	2.97	2.71	2.94	3.05	2.73	3.14	3.06	2.96	2.88	3.11	2.76	2.91
(20) 体調がよくなった	1.85	1.59	1.42	1.72	2.05	1.59	1.52	2.04	1.86	1.72	1.97	1.67	1.77
(21) 生涯学習に自信がなくなった	1.15	1.16	1.13	1.29	1.09	1.24	1.10	1.10	1.14	1.16	1.10	1.18	1.15
(22) 時間的に余裕がなくなった	1.48	1.51	1.68	1.47	1.34	1.72	1.45	1.27	1.48	1.49	1.40	1.55	1.49
(23) 周囲の人(家族・友人・職場の同僚など)との交流が減った	1.26	1.11	1.21	1.27	1.20	1.33	1.05	1.19	1.21	1.23	1.18	1.24	1.22
(24) 健康の状態が悪くなった	1.07	1.05	1.05	1.13	1.04	1.12	1.00	1.04	1.02	1.09	1.06	1.08	1.06

31. 一般の娯楽テレビ番組と放送大学を比べてとき、「放送大学の番組も同じテレビ番組なのだから娯楽番組と同様に楽しく興味を抱かせる番組にするべきだ」という意見(A)と「放送大学はあくまで大学なのだから楽しさや興味深さより講義の内容を重視し、娯楽番組とはまったく別なものと考えるべきだ」という意見(B)があります。あなたはどちらを思われますか。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	女		44以下		勤め		高卒下		地社学		地と宇		
	平均値	%	平均値	%	平均値	%	平均値	%	平均値	%	平均値	%	
1 Aの意見に賛成する	11.00	9.09	10.26	6.45	12.33	9.62	4.35	13.11	11.86	8.64	8.33	10.59	10.4(15)
2 どちらかというときAの意見に賛成する	17.00	15.91	10.26	29.03	13.70	17.31	21.74	14.75	16.95	16.05	14.29	18.82	16.7(24)
3 どちらともいえない	5.00	4.55	7.69	9.68	1.37	5.77	4.35	1.64	5.08	4.94	4.76	5.88	4.9(7)
4 どちらかというときBの意見に賛成する	25.00	45.45	48.72	25.81	24.66	36.54	39.13	22.95	35.59	29.63	32.14	28.24	31.3(45)
5 Bの意見に賛成する	42.00	25.00	23.06	29.03	47.95	30.77	30.43	47.54	30.51	40.74	40.48	36.47	36.8(53)

32. 今回のビデオ講座を受講してみて、全体としてあなたには満足しましたか。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男	女	44以下	45～59	60以上	勤め	主婦	年金者	高卒	下大卒	上	地社学	地と字
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	% (実数)
1 満足した	43.69	44.44	30.77	53.13	47.37	36.54	54.17	48.44	45.90	43.37	50.00	39.08	43.9 (65)
2 どちらかといえば満足した	40.78	44.44	48.72	40.63	39.47	50.00	33.33	35.94	39.34	44.58	36.36	47.13	41.9 (62)
3 どちらかといえば不満だった	12.62	6.67	15.38	6.25	9.21	13.46	8.33	10.94	9.84	12.05	9.09	11.49	10.8 (16)
4 不満だった	2.91	4.44	5.13	0.00	3.95	0.00	4.17	4.69	4.92	0.00	4.55	2.30	3.4 (5)

34. あなたは今回のようなビデオ講座が開講されたとき、他の人にも受講を勧めようと思いますか。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男	女	44以下	45～59	60以上	勤め	主婦	年金者	高卒	下大卒	上	地社学	地と字
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	% (実数)	
1 つよく勧めたい	39.60	37.78	25.64	37.50	47.30	34.62	37.50	45.16	46.67	34.15	43.02	37.93	39.0 (57)
2 まあ勧めてもよい	53.47	51.11	66.67	43.75	48.65	55.77	45.83	50.00	45.00	59.76	50.00	52.87	52.7 (77)
3 あまり勧めない	3.96	6.67	5.13	15.63	0.00	7.69	12.50	0.00	6.67	3.66	3.49	6.90	4.8 (7)
4 まったく勧めたくない	2.97	4.44	2.56	3.13	4.05	1.92	4.17	4.84	1.67	2.44	3.49	2.30	3.4 (5)

35. 将来、放送大学が関西地区で開学したとき、あなたは入学してみたいと思いますか。

	性別		年齢		職業		学歴		科目		全体		
	男	女	44以下	45～59	60以上	勤め	主婦	年金者	高卒	下大卒	上	地社学	地と字
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	% (実数)	
1 大学卒業資格をめざして入学したい	14.71	26.19	26.32	25.00	10.96	17.65	33.33	11.48	18.97	18.07	22.35	17.65	18.1 (26)
2 関心のある科目だけ正式に受講登録してみたい	63.73	59.52	50.00	65.63	68.49	64.71	54.17	65.57	60.34	65.06	62.35	60.00	62.5 (90)
3 放送は視聴してみたいが、正式に受講登録するつもりは今のところない	19.61	11.90	21.05	9.38	17.81	17.65	8.33	19.67	17.24	16.87	12.94	21.18	17.4 (25)
4 放送の視聴も正式に受講登録もするつもりはない	1.96	2.38	2.63	0.00	2.74	0.00	4.17	3.28	3.45	0.00	2.35	1.18	2.1 (3)

2 放送大学番組に対する指向別、実験地区別クロス集計結果

分析対象データの特徴	放送大学番組に対する指向*4 放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価		地区別		全体
	放送大学番組に対する指向*4 放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価	放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価	文化情報 センター	池田市 尼崎市	
実数	39	59	25	82	149
パーセント	42.6	57.6	16.8	55.0	28.2
非該当	57				

〔注釈〕

\*4: 設問31「一般の娯楽テレビ番組と放送大学を比べたとき、「放送大学の番組も同じテレビ番組なのだから娯楽番組と同様に楽しく興味を抱かせる番組にするべきだ」という意見(A)と「放送大学はあくまで大学なのだから楽しさや興味深さをより講義の内容を重視し、娯楽番組とはまったく別なものと考えるべきだ」という意見(B)があります。あなたはどちらかというかAの意見に賛成する」「どちからかというかBの意見に賛成する」と答えた者を「放送大学番組も他の娯楽番組と同様に評価」とまとめ、「Bの意見に賛成する」「どちからかというかBの意見に賛成する」と答えた者を「放送大学番組とは別に評価」として、二つの新しいカテゴリを構成した。したがって、非該当のサンプルは、分析から除外された。

01. 性別

	放送大学番組に対する指向 放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価		地区別		全体
	放送大学番組に対する指向 放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価	放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価	文化情報 センター	池田市 尼崎市	
1 男	71.79	68.37	64.00	67.07	76.19
2 女	28.21	31.63	36.00	32.93	23.81
	%	%	%	%	%
					%(実数)
					69.1(103)
					30.9(46)

02. 年齢

	放送大学番組に対する指向 放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価		地区別		全体
	放送大学番組に対する指向 放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価	放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価	文化情報 センター	池田市 尼崎市	
1 24歳以下	2.56	2.06	4.00	3.70	2.38
2 25～34歳	5.13	6.19	8.00	7.41	5.4(8)
3 35～44歳	15.38	20.62	24.00	17.28	18.2(27)
4 45～54歳	15.38	12.37	24.00	17.28	13.5(20)
5 55歳以上	61.54	58.76	40.00	54.32	80.95
	%	%	%	%	%
					%(実数)
					3.4(5)
					5.4(8)
					18.2(27)
					13.5(20)
					80.95(88)

03. あなたの受講地はどこですか。

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体
	放送大学番組以外の 放送番組と同様に評価 %	放送番組は大学の 講義で娯楽番組 とは別に評価 %	文化情報 センター %	池田市 %	
1 大阪府立文化情報センター	12.82	16.33	100.00	0.00	16.8(25)
2 池田市	58.97	55.10	0.00	100.00	55.0(82)
3 尼崎市	28.21	28.57	0.00	0.00	28.2(42)

06. あなたが今回受講した科目はどれですか。

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体
	放送大学番組以外の 放送番組と同様に評価 %	放送番組は大学の 講義で娯楽番組 とは別に評価 %	文化情報 センター %	池田市 %	
1 「地域社会学」だけ	51.28	37.76	36.00	40.24	45.24
2 「地球と宇宙(地球編)」だけ	35.90	43.88	12.00	45.12	50.00
3 両科目とも	12.82	18.37	52.00	14.63	4.76

07. あなたの職業は主として次のどれに最もあてはまりますか。

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体
	放送大学番組以外の 放送番組と同様に評価 %	放送番組は大学の 講義で娯楽番組 とは別に評価 %	文化情報 センター %	池田市 %	
1 管理職(つとめ)	7.69	13.27	20.00	10.98	7.32
2 専門・技術・研究・教育職(つとめ)	15.38	12.24	8.00	18.29	4.88
3 販売・サービス・事務職(つとめ)	12.82	10.20	20.00	12.20	2.44
4 その他の勤め	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0(0)
5 自営	2.56	3.06	0.00	2.44	4.88
6 自由業(開業医、弁護士、僧侶等)	0.00	1.02	4.00	0.00	0.0(0)
7 専業主婦	15.38	16.33	20.00	17.07	12.20
8 学生	0.00	0.00	0.00	1.22	0.0(0)
9 年金生活	43.59	43.88	24.00	36.59	68.29
10 その他	2.56	0.00	4.00	1.22	0.0(0)

08. あなたが最後に卒業された学校はどれですか。

	放送大学番組に対する指向 放送大学番組は他の 娯楽番組と同様に評価 に評価		放送大学番組は大学 講義で娯楽番組 とは別に評価		地区別		全体
	%	%	%	%	%	%	
1 小学校・旧制高等学校・新制中学卒	10.26	7.14	0.00	2.44	23.81	8.1(12)	
2 旧制中学・新制高校卒	33.33	32.65	40.00	29.27	38.10	33.6(50)	
3 旧制高校・師範・高専・大学卒(短大・大学院をふくむ)	51.28	58.16	60.00	65.85	33.33	55.7(83)	
4 その他	5.13	2.04	0.00	2.44	4.76	2.7(4)	

09. あなたのご家族の形態は以下のどれに最もあてはまりますか。

	放送大学番組に対する指向 放送大学番組は他の 娯楽番組と同様に評価		放送大学番組は大学 講義で娯楽番組 とは別に評価		地区別		全体
	%	%	%	%	%	%	
1 単身	7.69	8.16	12.00	6.10	11.90	8.7(13)	
2 家族と同居(配偶者なし・1世帯)	2.56	9.16	12.00	8.54	7.14	8.7(13)	
3 夫婦(配偶者と2人)	30.77	32.65	16.00	31.71	40.48	31.5(47)	
4 夫婦と子供	48.72	38.78	56.00	41.46	30.95	40.9(61)	
5 親と夫婦と子供	7.69	8.16	4.00	8.54	7.14	7.4(11)	
6 その他	2.56	3.06	0.00	3.66	2.38	2.7(4)	

●つぎに、今回のビデオ講座の受講をお決めになった時点をふりかえって、以下の質問にお答えください。

10. あなたが今回ビデオ講座の受講を希望されたのは、どのような理由からです。

	放送大学番組に対する指向 放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価		放送大学番組は大学 講義で娯楽番組 とは別に評価		地区別		全体		
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	文化情報 センター	池田市	尼崎市	平均値	標準偏差
(1) 仕事のために必要な知識を獲得したいと思ったから	1.50	0.98	1.66	0.98	1.36	1.71	1.44	1.58	0.96
(2) 専門的な知識を身につけたいと思ったから	1.97	0.94	2.28	1.14	2.05	2.18	2.24	2.17	1.09
(3) 自分の関心ある分野の知識を深めたいと思ったから	3.20	0.86	3.43	0.82	3.17	3.48	3.17	3.34	0.87
(4) 勉強すること自体が好きだから	3.18	0.86	3.17	0.82	3.43	3.15	3.11	3.19	0.83
(5) 一般的な教養を身につけたいと思ったから	3.28	0.84	3.33	0.71	3.52	3.33	3.15	3.33	0.74
(6) 新時代に適応したいと思ったから	2.64	1.07	2.58	1.03	2.48	2.59	2.74	2.61	1.03
(7) 自分の新たな可能性を試したいと思ったから	2.24	1.05	2.35	0.98	2.90	2.35	2.18	2.39	1.02
(8) いままでの不勉強を取り戻したいと思ったから	2.15	1.05	2.28	1.09	2.57	2.27	2.00	2.25	1.09
(9) 余暇を有効に利用したいと思ったから	2.38	1.17	2.80	1.13	2.86	2.58	2.86	2.70	1.15
(10) 新しい友人を見つげたいと思ったから	1.79	0.81	1.66	0.79	2.00	1.69	1.74	1.75	0.84
(11) 一緒に学習する家族・友人・知人がいたから	1.53	0.97	1.36	0.81	1.20	1.56	1.29	1.43	0.89
(12) 放送大学というものに興味があったから	3.15	0.86	3.33	0.83	3.64	3.33	3.03	3.30	0.83
(13) 周囲(友人や職員など)からすすめられたから	1.55	1.05	1.29	0.72	1.24	1.32	1.64	1.39	0.84
(14) 生涯学習の一助としようと思ったから	2.94	1.14	3.07	1.01	2.95	3.05	3.06	3.04	1.06
(15) 今回開講された科目に興味があったから	3.37	0.80	3.61	0.66	3.46	3.63	3.32	3.52	0.75

11. 開講当初、あなたがこの講座に期待していたものは何ですか。

	放送大学番組に対する指向 放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価		放送大学番組は大学 講義で娯楽番組 とは別に評価		地区別		全体		
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	文化情報 センター	池田市	尼崎市	平均値	標準偏差
(1) 視野の広がり	3.47	0.78	3.64	0.61	3.55	3.64	3.58	3.61	0.65
(2) 学問的な深み	2.82	0.87	3.10	0.91	2.95	2.97	3.09	3.00	0.91
(3) 学ぶことの楽しさ	3.21	0.87	3.33	0.87	3.39	3.30	3.24	3.30	0.84
(4) 大学の講義の雰囲気	2.27	0.99	2.30	1.12	2.19	2.20	2.44	2.26	1.10
(5) モノを考えるヒント	2.79	0.99	2.96	0.98	2.91	2.97	2.88	2.94	0.98
(6) 講師や受講者同士のふれあい	2.59	1.06	2.27	0.85	2.50	2.38	2.38	2.40	0.94
(7) 新しい知識の獲得	3.58	0.72	3.67	0.61	3.50	3.74	3.61	3.67	0.63



12. この講座について何から知りましたか。あなたがこの講座を知るに至った情報源にすべて○をつけてください。

	放送大学番組に対する指向 放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価		放送大学番組は大学 講義で娯楽番組 とは別に評価		地区別		全体
	%	%	%	%	文化情報 センター	池田市 尼崎市	
1 新聞	30.77	32.08	60.00	28.05	9.52	28.2(42)	
2 テレビ・ラジオ	2.56	3.77	4.00	1.22	7.14	3.4(5)	
3 自治体広報紙誌	64.10	41.51	8.00	63.41	42.86	48.3(72)	
4 社会教育・生涯学習施設での提示	41.03	30.19	8.00	42.68	42.86	36.9(55)	
5 ビラ・ちらし	15.38	16.98	24.00	13.41	16.67	16.1(24)	
6 関係自治体の職員	20.51	20.75	4.00	7.76	45.24	18.1(28)	
7 友人・知人	2.56	3.77	8.00	2.44	4.76	4.0(6)	

13. あなたは今回のビデオ講座を受講する以前に次に挙げるような社会・生涯学習の機会をどの程度利用されてきましたか。

	放送大学番組に対する指向 放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価		放送大学番組は大学 講義で娯楽番組 とは別に評価		地区別		全体
	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	文化情報 センター	池田市 尼崎市	
(1) NHKなどの放送教育講座	2.41	1.06	2.61	1.10	3.04	2.45	2.50
(2) 専修・各種学校での学習	1.28	0.57	1.33	0.77	1.19	1.33	1.35
(3) 通信教育(一般および高校レベル)	1.61	0.83	1.40	0.74	1.50	1.45	1.56
(4) 通信教育(大学レベル)	1.39	0.69	1.41	0.85	1.74	1.40	1.41
(5) 民間のカルチャー・センターや文化教室など	1.97	1.05	2.28	1.14	2.41	2.04	2.29
(6) 大学などの公開講座	1.59	0.82	2.30	1.18	2.74	1.76	2.56
(7) 府県や市町村の社会・生涯教育講座	2.75	1.14	2.94	1.09	2.50	2.82	3.35
(8) 自主的な学習サークル活動	2.06	1.18	2.09	1.09	1.76	1.77	2.69
							2.02
							1.11

●つぎに、今回の講座について現在の時点でのご意見やご感想をおうかがいいたします。

14. あなたは今回のビデオ講座の修了認定証を最終的に受けとりましたか。

	放送大学番組に対する指向 放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価		放送大学番組は大学 講義で娯楽番組 とは別に評価		地区別		全体
	%	%	%	%	文化情報 センター	池田市 尼崎市	
1 はい	92.31	94.23	95.83	90.12	88.10	90.5(133)	
2 いいえ	7.69	5.77	4.17	9.88	11.90	9.5(14)	

14-2. 前の質問で「いいえ」と答えられた方だけに質問いたします。修了しなかった理由として以下にあげた理由はどの程度あなたの場合に当てはまりますか。いちばん近い程度の番号に○をつけてください。(14-2)

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体	
	放送大学番組も他の娯楽番組と同様に評価	放送大学番組は大学講義で娯楽番組とは別に評価	文化情報センター	池田市	尼崎市	
	平均値	標準偏差	平均値	平均値	平均値	標準偏差
(1) 受講登録後、仕事や家事など生活に変化があって、講座に出席できなくなった	3.00	1.41	3.50	1.00	3.14	1.19
(2) 自分自身が病気、けが、事故などの突発的な事態に遭ったため学習を続けられなかった	1.00	0.00	1.38	0.99	1.27	0.77
(3) 自分以外の家族のなかに変化があって学習を続ける余裕がなくなった	1.00	0.00	1.57	1.05	1.29	0.80
(4) 学習したいことが変わったため、ビデオ講座で学習する必要がなくなった	1.33	0.47	1.29	0.70	1.21	0.56
(5) ビデオによる学習という学習方法に違和感があった	2.33	1.25	1.00	0.00	1.57	1.05
(6) 自分の期待していたことや学びたこととビデオ講座の実態が違っていたので、学習意欲がわかなかった	2.33	1.25	2.00	1.32	2.13	1.20
(7) 予想していたより講義が難解でついていけなかった	1.50	0.50	1.57	0.73	1.62	0.74
(8) おもったより仕事や生活が多忙で講座に通う時間がとれなかった	2.67	1.25	2.57	1.40	2.36	1.29
(9) 先生に直接指導してもらった機会が少なく、学習意欲が続かなかった	1.33	0.47	2.14	1.12	1.86	0.99
(10) ビデオ講座が開講されている施設が利用しにくく、学習に困難を感じた	1.33	0.47	1.43	1.05	1.57	1.05
(11) 面接授業にでるのが困難で、学習を続けられなかった	1.33	0.47	2.29	1.16	1.93	1.03
(12) 他の生涯学習講座のような雰囲気がなく、学んでいるという充実感が得られなかった	2.00	1.41	2.43	1.29	2.23	1.37
(13) 家族や職場の中にあなたがビデオ講座に通うことにつめたい空気があって、学習を続けにくくなった	1.00	0.00	1.00	0.00	1.07	0.26
(14) 他にもっとよい学習の場があったのでそれに移ったためビデオ講座をやめた	1.67	0.94	1.48	1.05	1.50	0.91

15. あなたは、全15回のビデオテープのうちどの回を視聴されましたか。ご覧になった回の番号に○をつけてください。(定時視聴以外でご覧になったものも含めてください)。

「地球と宇宙」

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体
	放送大学番組以外の 放送番組と同様に評価	放送大学番組は大学 講義で娯楽番組とは別に評価	文化情報 センター	池田市 尾崎市	
	%	%	%	%	% (実数)
1 第1回 宇宙の中の地球	92.00	93.55	90.91	95.56	92.1(81)
2 第2回 地球の層圏	84.00	96.77	86.36	95.56	89.8(79)
3 第3回 地球科学の発展	84.00	90.32	81.82	86.67	84.1(74)
4 第4回 大気	84.00	96.77	86.36	84.44	86.4(76)
5 第5回 海洋	88.00	83.87	86.36	86.67	84.1(74)
6 第6回 固体地球	92.00	87.10	72.73	80.00	81.8(72)
7 第7回 岩石と鉱物	84.00	90.32	81.82	86.67	85.2(75)
8 第8回 地層	84.00	93.55	77.27	86.67	83.0(73)
9 第9回 地質時代	80.00	90.32	77.27	82.22	80.95(71)
10 第10回 固体地球の表層	72.00	80.65	72.73	80.00	76.1(67)
11 第11回 プレートテクトニクス	84.00	93.55	86.36	88.89	85.2(75)
12 第12回 地震	68.00	90.32	81.82	84.44	79.6(70)
13 第13回 火山	68.00	87.10	72.73	80.00	73.9(66)
14 第14回 地球の歴史	72.00	83.87	68.18	82.22	76.1(67)
15 第15回 (最終回) 日本列島	72.00	90.32	86.36	75.56	80.7(71)

「地域社会学」

	放送大学番組に対する指向 放送大学番組以外の 放送番組と同様に評価 に評価		放送大学番組は大学 講義で娯楽番組 とは別に評価		地区別		全体
	%	%	%	%	%	%	
1 第1回 地域社会学への招待	94.74	97.06	93.75	93.88	100.00	95.5(84)	
2 第2回 農耕と定着	89.47	88.24	87.50	91.84	78.26	87.5(77)	
3 第3回 地域と血縁	94.74	88.24	75.00	91.84	82.61	86.4(76)	
4 第4回 土地の神さま	84.21	91.18	87.50	87.76	95.65	89.8(79)	
5 第5回 村・町・都市	94.74	82.35	81.25	91.84	86.96	88.6(78)	
6 第6回 地域と宗教	89.47	88.24	81.25	85.71	78.26	83.0(73)	
7 第7回 地域と水域	73.68	88.24	75.00	81.63	82.61	80.7(71)	
8 第8回 現代の農村社会	84.21	91.18	75.00	89.80	59.57	81.8(72)	
9 第9回 現代の山村社会	84.21	85.29	68.75	81.63	82.61	79.6(70)	
10 第10回 現代の山村社会	78.95	85.29	75.00	89.80	69.57	84.1(74)	
11 第11回 開拓地の地域社会	84.21	79.41	68.75	81.63	82.61	79.6(70)	
12 第12回 都市の近隣社会	89.47	82.35	81.25	83.57	86.96	81.8(72)	
13 第13回 歴史の中の地域社会	78.95	82.35	75.00	81.63	78.26	75.1(67)	
14 第14回 未来への挑戦	78.95	88.24	75.00	87.76	73.91	79.6(70)	
15 第15回 (最終回) 主張する地域社会	68.42	85.29	68.75	81.63	69.57	77.3(68)	

16. あなたは、定時集団視聴と個別随時視聴のどちらをよく利用されましたか。  
(尼崎市で受講された方はすべて定時視聴ですので、お答えいただけなくてかまいません)

	放送大学番組に対する指向 放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価		放送大学番組は大学 講義で娯楽番組 とは別に評価		地区別		全体
	%	%	%	%	%	%	
1 ほとんどすべて定時集団視聴	68.97	67.12	52.00	70.37	100.00	67.6(75)	
2 定時集団視聴が主で、個別随時視聴が従	24.14	21.92	32.00	20.99	0.00	22.5(25)	
3 定時視聴と随時視聴がほぼ同じ割合	0.00	6.85	8.00	4.94	0.00	5.4(6)	
4 個別視聴が主で、定時視聴が従	6.90	1.37	4.00	2.47	0.00	2.7(3)	
5 ほとんどすべて個別視聴	0.00	2.74	4.00	1.23	0.00	1.8(2)	

17. あなたは定時集団視聴と随時個別視聴を比べてみて、どちらの視聴方法があなたの学習にとって適していると思いますか。

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体
	放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価 %	放送大学番組は大学 講義で娯楽番組とは別に評価 %	文化情報センター %	池田市 尼崎市 %	
1 定時集団視聴が非常によい	34.29	49.41	52.00	39.51	44.6(58)
2 どちらかという而定時集団視聴がよい	34.29	23.53	20.00	29.63	27.7(36)
3 どちらともいえない	17.14	14.12	20.00	13.58	15.4(20)
4 どちらかという随時個別視聴がよい	14.29	9.41	8.00	13.58	10.0(13)
5 随時個別視聴が非常によい	0.00	3.53	0.00	3.70	2.3(3)

18. 面接講義(途中、2回行なわれたセンター主催のスクーリング)には、出席されましたか。

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体
	放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価 %	放送大学番組は大学 講義で娯楽番組とは別に評価 %	文化情報センター %	池田市 尼崎市 %	
1 2回とも出席した	76.92	75.26	72.00	85.37	74.8(110)
2 1回目だけ出席した	17.95	19.59	20.00	10.98	19.7(29)
3 2回とも出席しなかった	5.13	5.15	8.00	3.66	5.4(8)

19. 講座期間中は、どのくらい予習復習をなさいましたか。  
(1) 予習について

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体
	放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価 %	放送大学番組は大学 講義で娯楽番組とは別に評価 %	文化情報センター %	池田市 尼崎市 %	
1 ほとんど毎日予習した	15.38	30.21	20.00	23.17	26.7(39)
2 予習した回の方がなかった回よりやや多かった	25.64	19.79	24.00	23.17	21.2(31)
3 予習しなかった回の方が多かった	41.03	25.00	16.00	35.37	29.5(43)
4 ほとんど予習しなかった	17.95	25.00	40.00	18.29	22.6(33)

(2) 復習について

	放送大学番組に対する指向 放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価		放送大学番組は大学 講義で娯楽番組とは別に評価		地区別		全体	
	%		%		%		%	(実数)
1 ほとんど毎回復習した	10.26		15.63		8.00	14.63	20.51	15.1(22)
2 復習した回の方が多かった回よりやや多かった	17.95		21.88		16.00	19.51	25.64	20.5(30)
3 復習しなかった回の方が多かった回よりやや多かった	41.03		35.42		28.00	41.46	28.21	35.6(52)
4 ほとんど復習しなかった	30.77		27.08		48.00	24.39	25.64	28.8(42)

20. 今回のビデオ講座に参加している間、受講者どうしの中で、あなたが講座の内容や関連した話題などについて親しくお話しされたりする方はおられましたか。

	放送大学番組に対する指向 放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価		放送大学番組は大学 講義で娯楽番組とは別に評価		地区別		全体	
	%		%		%		%	(実数)
1 いったもいた	15.38		14.43		16.67	12.20	22.50	15.8(23)
2 とどききいた	25.64		25.77		12.50	30.49	25.00	26.0(38)
3 あまりいかなかった	23.08		22.68		25.00	23.17	17.50	21.9(32)
4 まったくいかなかった	35.90		37.11		45.83	34.15	35.00	36.3(53)

●つぎに、今回のビデオ講座について、あなたの率直なご意見ご批評をお聞かせください。あなたの意見やお気持ちのをもっとも近い答えの番号をひとつ選んでください。

21. ビデオ講座の事前のPRについて

	放送大学番組に対する指向 放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価		放送大学番組は大学 講義で娯楽番組とは別に評価		地区別		全体	
	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値
(1) 今回、放送大学のビデオ講座が行なわれることは一般の市民に十分知られていた。	2.22	0.96	2.29	0.82	1.88	2.44	2.27	2.30 0.87
(2) 受講生募集の広報は十分効果的だった。	2.51	0.89	2.47	0.85	2.04	2.68	2.42	2.51 0.87

22. ビデオ講座が開かれた教室（定時視聴会場）は

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体
	放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価	放送大学番組は大学 講義で娯楽番組 とは別に評価	文化情報 センター	池田市 尼崎市	
(1) 通うのに便利だった。	3.38	3.62	3.63	3.31	3.55
(2) 学習によい環境だった。	3.67	3.76	3.43	3.86	3.72
			標準偏差	標準偏差	標準偏差
			0.75	0.54	0.82
			0.58	0.73	0.61

23. 開講時に行なわれたオリエンテーションは、

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体
	放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価	放送大学番組は大学 講義で娯楽番組 とは別に評価	文化情報 センター	池田市 尼崎市	
(1) ビデオを使った学習方法を理解する上で役だった。	3.03	3.21	3.36	3.14	3.18
(2) 受講する科目の内容を知る上で役になった。	2.94	2.99	3.19	3.20	3.02
(3) やる気を起こさせるのに役だった。	3.00	2.96	2.90	3.03	3.02
			標準偏差	標準偏差	標準偏差
			0.79	0.79	0.79
			0.91	0.94	0.92
			0.84	0.96	0.92

24. ビデオ講座の開講曜日や時間帯について

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体
	放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価	放送大学番組は大学 講義で娯楽番組 とは別に評価	文化情報 センター	池田市 尼崎市	
(1) 開講曜日は自分にとって適切だった。	3.21	3.42	3.42	3.50	3.38
(2) 開講時間帯は自分にとって適切だった。	3.19	3.48	3.27	3.42	3.41
			標準偏差	標準偏差	標準偏差
			0.81	0.77	0.85

25. 集団視聴のとき使用した器械や教室について

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体
	放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価	放送大学番組は大学 講義で娯楽番組 とは別に評価	文化情報 センター	池田市 尼崎市	
(1) 器械の画面は見やすかった。	3.28	3.64	2.81	3.68	3.51
(2) ビデオを視聴する上で教室の座席配置は適切だった。	3.03	3.35	2.72	3.69	3.23
			標準偏差	標準偏差	標準偏差
			0.64	0.82	0.79
			0.96	0.82	0.89

26. 担当職員の応対は

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体				
	放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価	放送大学番組は大学 講義で娯楽番組 とは別に評価	文化情報 センター	池田市 尼崎市					
	平均値	標準偏差	平均値	平均値					
適切だった。	3.71	0.45	3.70	0.60	3.75	3.65	3.79	3.71	0.57

27. あなたにとって講座を受講する最適の平日の時間帯のどれですか。

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体	
	放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価	放送大学番組は大学 講義で娯楽番組 とは別に評価	文化情報 センター	池田市 尼崎市		
	%	%	%	%		
1 午前9:00～11:00	12.82	11.76	8.00	7.41	17.95	10.3(15)
2 午前11:00～午後1:00	7.69	3.92	12.00	3.70	5.13	5.5(8)
3 午後1:00～3:00	30.77	35.29	8.00	32.10	48.72	32.4(47)
4 午後3:00～5:00	5.13	3.92	8.00	4.94	2.56	4.8(7)
5 午後5:00～7:00	7.69	11.76	12.00	17.28	2.56	12.4(18)
6 午後7:00～9:00	35.90	33.33	52.00	34.57	23.08	34.5(50)



28. 今回の開講ビデオ講座の番組内容について、最もあなたの意見に近い段階を1つ選んでください。(あなたが受講した科目のみお答えください。)

I「地球と宇宙」(28-1)

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体	
	放送大学番組 と他の 番組に 評価 に 平均値 標準偏差	放送大学 番組は 講義で とは別 に評価 に 平均値 標準偏差	文化情報 センター 平均値	池田市 平均値	尼崎市 平均値	平均値 標準偏差
(1) 分かりやすい番組である。	3.18	0.57	3.37	3.30	3.37	3.29
(2) ところが重要なポイントであるかよく分かる。	3.00	0.76	3.16	3.05	3.17	3.09
(3) 講義の流れに適当な緩急のリズムがある。	2.81	0.85	2.86	2.95	2.85	2.87
(4) 視聴者が抱きそうな疑問への説明がある。	2.57	0.66	2.92	2.95	2.75	2.82
(5) 内容が盛りだくさんである。	2.95	0.98	3.12	2.95	3.22	3.08
(6) ビデオ映像というメディアの特性が活かされている。	3.36	0.88	3.22	3.04	3.31	3.28
(7) 具体例が適当に取り入れられている。	3.24	0.68	3.35	3.05	3.38	3.27
(8) 必要以上に専門用語が使われている。	2.38	0.72	2.49	2.32	2.45	2.48
(9) 印刷教材と適切に関連している。	3.05	0.84	3.32	3.20	3.22	3.23
(10) 内容が実用的である。	2.33	0.78	2.73	2.70	2.55	2.63
(11) 中途に息抜きの時間が適度に入っている。	2.45	0.80	2.74	2.37	2.28	2.31
(12) 興味深い番組である。	3.43	0.79	3.63	3.45	3.68	3.54
(13) 生活に密着した題材である。	2.24	0.81	2.69	2.60	2.52	2.53
(14) 時宜を得た素材を利用している。	2.81	0.96	2.96	2.74	3.05	2.91
(15) 講義の進度が速い。	2.67	0.56	2.72	2.47	2.71	2.68
(16) 印刷教材が充実している。	2.90	0.92	3.10	3.05	3.00	3.05
(17) 印刷教材に演習などが適度に含まれている。	1.90	0.75	1.96	1.84	1.82	1.97
(18) 毎回の講座の配分は学習のペースづくりに役立っている。	2.86	0.77	2.92	2.89	2.80	2.88
(19) 全体に満足のいく番組である。	3.10	0.68	3.39	3.45	3.27	3.29

II 「地域社会学」 (28-2)

	放送大学番組に対する指向 放送番組も他の 放送番組と同様 に評価 平均値 標準偏差		放送番組は大学 講義で娯楽番組 とは別に評価 平均値 標準偏差		地区別		全体	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	文化情報 センター	池田市 尼崎市		
(1) 分かりやすい番組である。	3.47	0.85	3.67	0.63	3.69	3.37	3.61	0.74
(2) どこが重要なポイントであるかがよく分かる。	3.13	0.88	3.45	0.77	3.67	3.40	3.38	0.83
(3) 講義の流れに適当な緩急のリズムがある。	3.29	0.88	3.30	0.79	3.40	3.31	3.29	0.84
(4) 視聴者が抱きそうな疑問への説明がある。	2.87	0.88	3.11	0.79	3.07	3.07	3.04	0.84
(5) 内容が盛りだくさんである。	3.07	0.96	3.28	0.66	2.93	3.16	3.20	0.79
(6) ビデオ映像というメディアの特性が活かされている。	3.71	0.80	3.66	0.51	3.67	3.79	3.64	0.65
(7) 具体例が適当に取り入れられている。	3.40	0.80	3.62	0.56	3.60	3.62	3.55	0.68
(8) 必要以上に専門用語が使われている。	2.40	0.88	2.11	0.53	2.13	2.14	2.24	0.75
(9) 印刷教材と適切に関連している。	2.75	1.03	2.73	0.92	2.67	2.67	2.76	0.96
(10) 内容が実用的である。	2.93	0.96	2.96	0.87	3.19	2.98	2.96	0.91
(11) 中途に息抜きの時間が入っている。	2.71	0.80	2.74	0.87	3.00	2.63	2.72	0.88
(12) 興味深い番組である。	3.53	0.81	3.54	0.68	3.53	3.63	3.52	0.75
(13) 生活に密着した題材である。	3.29	0.88	3.30	0.79	3.50	3.31	3.28	0.83
(14) 時宜を得た素材を利用している。	3.43	0.82	3.15	0.79	3.27	3.19	3.18	0.84
(15) 講義の進度が速い。	2.73	0.77	2.40	0.84	2.13	2.36	2.48	0.81
(16) 印刷教材が充実している。	2.93	0.88	2.85	0.87	2.81	2.83	2.89	0.89
(17) 印刷教材に演習などが適度に含まれている。	2.23	0.80	2.19	0.97	2.13	2.12	2.24	0.96
(18) 毎回の講座の配分は学習のペースづくりに役立っている。	3.14	0.83	2.94	0.83	3.14	2.95	3.00	0.83
(19) 全体に満足のいく番組である。	3.57	0.82	3.44	0.68	3.50	3.48	3.46	0.75

29. つぎに面接講義について、最もあなたの意見に近い段階を1つ選んでください。(あなたが受講した科目のみお答えください。一度でも出席された方はお答えください)  
I 「地球と宇宙」 (29-1)

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体
	放送大学番組も他の 娯楽番組と同様に評価 に評価	放送大学番組は大学 講義で娯楽番組とは別に評価 と別評価	文化情報 センター	池田市 尼崎市	
	平均値	標準偏差	平均値	平均値	平均値
(1) 1回の面接講義の時間をもっと長くした方がよかった	2.77	1.04	2.91	2.97	2.86
(2) 面接講義の回数をもっとふやした方がよかった	3.14	0.99	3.39	3.52	3.33
(3) 面接講義への出席を免除してほしかった	1.10	0.29	1.31	1.28	1.27
(4) 面接講義を受けやすいよう時間帯を工夫してほしかった	1.52	0.66	1.82	1.87	1.73
(5) 面接講義は内容がむずかしかった	1.76	0.61	1.64	1.69	1.71
(6) 面接講義はビデオ学習を進めるために役にたった	2.96	1.04	3.24	3.20	3.19
(7) 面接講義は内容が充実していた	3.24	0.81	3.37	3.28	3.32

II 「地域社会学」 (29-2)

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体
	放送大学番組も他の 娯楽番組と同様に評価 に評価	放送大学番組は大学 講義で娯楽番組とは別に評価 と別評価	文化情報 センター	池田市 尼崎市	
	平均値	標準偏差	平均値	平均値	平均値
(1) 1回の面接講義の時間をもっと長くした方がよかった	2.67	1.01	2.67	2.71	2.86
(2) 面接講義の回数をもっとふやした方がよかった	2.93	1.18	3.13	3.23	3.15
(3) 面接講義への出席を免除してほしかった	1.07	0.26	1.28	1.27	1.22
(4) 面接講義を受けやすいよう時間帯を工夫してほしかった	1.29	0.59	1.54	1.57	1.49
(5) 面接講義は内容がむずかしかった	1.73	0.77	1.90	2.07	1.88
(6) 面接講義はビデオ学習を進めるために役にたった	2.71	1.10	2.87	2.66	2.86
(7) 面接講義は内容が充実していた	3.07	0.88	2.98	2.88	3.01

30. 今回のビデオ講座で学習したことであなたにどんな効用があったでしょうか。以下の項目について、あなたご自身についてあてはまると思われるものの程度をお答えください。

	放學大學番組に対する指向				地区別				全体	
	放學大學番組も他の 娯楽番組と同様に評価		放學大學番組は大学 講義で娯楽番組とは別に評価		文化情報 センター		池田市		尼崎市	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
(1) 生活に張りがあった	2.82	0.97	2.85	0.89	2.81	0.92	2.92	0.71	2.85	0.92
(2) 学習意欲が増した	3.06	0.85	3.16	0.79	3.36	0.90	3.09	3.00	3.12	0.83
(3) 知識が増した	3.26	0.81	3.54	0.56	3.30	3.41	3.54	3.41	3.47	0.88
(4) 友人の数がふえた	1.76	0.89	1.65	0.81	1.95	1.62	1.62	1.84	1.73	0.87
(5) 家族と話す機会がふえた	2.09	0.93	2.16	0.96	2.10	2.16	2.16	2.27	2.18	0.96
(6) 新聞や雑誌を以前より読むようになった	2.30	1.09	2.08	0.91	2.18	2.11	2.29	2.17	2.17	0.97
(7) 地球のしくみに関心を持つようになった	2.91	1.04	2.88	1.23	2.96	2.83	3.03	2.90	2.90	1.17
(8) 地域社会のことに関心を持つようになった	2.61	1.25	2.99	1.08	3.10	2.86	2.81	2.89	2.89	1.13
(9) 自分に自信をもてるようになった	2.27	0.93	2.25	0.91	2.32	2.16	2.45	2.26	2.26	0.94
(10) 幅広い教養を身に付けることができた	2.82	0.94	2.96	0.82	2.73	2.95	3.03	2.93	2.93	0.86
(11) 自分自身の新たな側面を発見できた	2.21	0.98	2.25	0.92	2.38	2.18	2.31	2.24	2.24	0.95
(12) 自分自身の鍛錬になった	2.67	1.06	2.74	0.99	2.77	2.75	2.74	2.75	2.75	1.01
(13) 精神的に余裕ができた	2.24	0.95	2.31	0.99	2.48	2.22	2.35	2.29	2.29	0.98
(14) 自分の仕事を進める上で役に立った	1.82	0.97	1.73	0.93	1.67	1.71	1.97	1.77	1.77	0.94
(15) 家庭や周囲の人の役に立つようになった	1.73	0.90	1.83	0.83	1.95	1.69	2.06	1.83	1.83	0.86
(16) 社会的な貢献ができるようになった	1.84	0.92	1.68	0.80	1.90	1.58	2.06	1.75	1.75	0.87
(17) 生活にリズムができた	2.50	1.04	2.36	0.96	2.48	2.36	2.55	2.43	2.43	0.98
(18) 学習の楽しさがわかった	2.82	0.92	2.95	0.85	3.00	2.89	2.88	2.91	2.91	0.88
(19) 体調がよくなった	1.75	1.00	1.73	0.86	1.86	1.60	2.10	1.77	1.77	0.93
(20) 生涯学習に自信がなくなった	1.15	0.36	1.13	0.37	1.19	1.14	1.16	1.15	1.15	0.38
(21) 時間的に余裕がなくなった	1.59	0.86	1.45	0.73	1.43	1.51	1.48	1.49	1.49	0.77
(22) 周囲の人(家族・友人・職場の同僚など)との交流が減った	1.19	0.39	1.23	0.45	1.24	1.19	1.25	1.22	1.22	0.43
(23) 健康の状態が悪くなった	1.00	0.00	1.07	0.26	1.00	1.07	1.10	1.06	1.06	0.24

31. 一般の娯楽テレビ番組と放送大学を比べたとき、「放送大学の番組も同じテレビ番組なのだから娯楽番組と同様に楽しく興味を抱かせる番組にするべきだ」という意見(A)と「放送大学はあくまで大学なのだから楽しさや興味深さより講義の内容を重視し、娯楽番組とはまったく別なものと考えるべきだ」という意見(B)があります。あなたはどちらを思われますか。

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体
	放送大学番組に評価する	放送大学番組以外の娯楽番組と同様に評価する	文化情報センター	池田市 尼崎市	
	%	%	%	%	% (実数)
1 Aの意見に賛成する	38.46	0.00	4.35	12.35	10.4(16)
2 どちらかというともAの意見に賛成する	61.54	0.00	17.39	16.05	16.7(24)
3 どちらかというともいえない	0.00	0.00	8.70	4.94	4.9(7)
4 どちらかというともBの意見に賛成する	0.00	0.00	39.13	28.40	31.3(45)
5 Bの意見に賛成する	0.00	100.00	30.43	38.27	36.8(53)

32. 今回のビデオ講座を受講してみて、全体としてあなたは満足しましたか。

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体
	放送大学番組に評価する	放送大学番組以外の娯楽番組と同様に評価する	文化情報センター	池田市 尼崎市	
	%	%	%	%	% (実数)
1 満足した	30.77	46.94	56.00	40.24	43.9(65)
2 どちらかといえば満足した	46.15	41.82	32.00	47.56	41.9(62)
3 どちらかといえば不満だった	17.95	9.18	8.00	10.98	10.8(16)
4 不満だった	5.13	2.04	4.00	1.22	3.4(5)

34. あなたは今回のようなビデオ講座が開講されたとき、他の人にも受講を勧めようと思いますか。

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体
	放送大学番組に評価する	放送大学番組以外の娯楽番組と同様に評価する	文化情報センター	池田市 尼崎市	
	%	%	%	%	% (実数)
1 つよく勧めたい	28.21	39.58	40.00	32.93	39.0(57)
2 まあ勧めてもよい	61.54	52.08	52.00	58.54	52.7(77)
3 あまり勧めない	5.13	5.21	8.00	4.88	4.8(7)
4 まったく勧めたくない	5.13	3.13	0.00	3.66	3.4(5)

35. 将来、放送大学が関西地区で開学したとき、あなたは入学してみたいと思いますか。

	放送大学番組に対する指向		地区別		全体
	放送大学番組以外の 娯楽番組と同様に評価 %	放送番組は大学 講義で娯楽番組 とは別に評価 %	文化情報 センター %	池田市 尼崎市 %	
1 大学卒業資格をめぐり入学したい	13.16	17.89	29.17	14.81	17.95
2 関心のある科目だけ正式に受講登録してみたい	60.53	66.32	58.33	66.67	62.5(90)
3 放送は視聴してみたいが、正式に受講登録するつもりは 今のところない	21.05	15.79	12.50	18.52	17.4(25)
4 放送の視聴も正式に受講登録もするつもりはない	5.26	0.00	0.00	0.00	2.1(3)

資料：調査票

## 放送大学番組を利用した実験ビデオ講座 受講者意識調査

今回の講座についてみなさまのご意見とご批評をたまわりたいと存じます。どうぞよろしくご回答いただきますようお願い申し上げます。

みなさまがご記入になった内容や個人に関する秘密はかたく守られます。

ご回答は3月10日までに別添の封筒をご使用になり文部省放送教育開発センターまでご返送ください。

この調査に関する問い合わせは、文部省放送教育開発センター研究開発部（担当：山中）まで、お電話か書簡にてお願いいたします。

文部省放送教育開発センター 〒260千葉市若葉2-12 0472-76-1111

**記入の仕方** これから質問させていただくことからのそれぞれについて、あなたに最もあてはまると思われる項目の番号を○で囲んでください。特にことわり書きのない限り、○をつける数は1つだけです。また、自由回答欄や、「その他」の（ ）の中には、もしあてはまることながらありましたら何なりとご自由にお書きください。なお、回答結果は機械的に処理いたしますので、記入もれがありますとその他の回答もすべて無効になる可能性があります。記入もれがないようお願いいたします。

●最初に、あなたご自身についての質問にお答えください。

お名前

01. 性別

1. 男            2. 女

02. 年齢

明・大・昭            年生まれ（満            歳）

それは、以下のどの範囲に含まれますか。(02-2)

1. 24歳以下    2. 25～34歳    3. 35～44歳    4. 45～54歳    5. 55歳以上

03. あなたの受講地はどこですか。

1. 大阪府立文化情報センター    2. 池田市    3. 尼崎市

04. あなたのお住まいになっている市（大阪・神戸の場合は区も）はどこですか。

市	区
---	---

05. 講座を受講された施設まで通うのにだいたい何分くらいかかりますか。（おもに自宅からこられた方はそこからの分数、おもに職場からこられた方は職場からの分数、それ以外の場合は受講にこられる前にいた場所からの分数を教えてください。）

分
---

その分数は以下のどれに当たりますか。(05-2)

1. 15分未満    2. 15分～30分未満    3. 30分～45分未満    4. 45分～1時間未満  
5. 1時間以上





11. 開講当初、あなたがこの講座に期待していたものは何ですか

	あ て は ま る	や や は あ て ま る	は あ ま ら な い	あ て は ま ら な い
(1) 視野の広がり……………	4	3	2	1
(2) 学問的な深み……………	4	3	2	1
(3) 学ぶことの楽しさ……………	4	3	2	1
(4) 大学の講義の雰囲気……………	4	3	2	1
(5) モノを考えるヒント……………	4	3	2	1
(6) 講師や受講者同士のふれあい……………	4	3	2	1
(7) 新しい知識の獲得……………	4	3	2	1
(8) その他具体的に ( )				

12. この講座について何から知りましたか。あなたがこの講座を知るに至った情報源にすべて○をつけてください。

1. 新聞    2. テレビ・ラジオ    3. 自治体広報紙誌    4. 社会教育・生涯学習施設での掲示  
 5. ビラ・ちらし    6. 関係自治体の職員    7. 友人・知人  
 8. その他具体的に ( )

13. あなたは今回のビデオ講座を受講する以前に次に挙げるような社会・生涯学習の機会をどの程度利用されてい  
 ましたか。

	よ く 利 用 す る	利 と き ど き す る	た か こ と が 利 あ 用 し	た 一 こ も は 利 な い
(1) NHKなどの放送教育講座……………	4	3	2	1
(2) 専修・各種学校での学習……………	4	3	2	1
(3) 通信教育（一般および高校レベル）……………	4	3	2	1
(4) 通信教育（大学レベル）……………	4	3	2	1
(5) 民間のカルチャー・センターや文化教室など……………	4	3	2	1
(6) 大学などの公開講座……………	4	3	2	1
(7) 府県や市町村の社会・生涯教育講座……………	4	3	2	1
(8) 自主的な学習サークル活動……………	4	3	2	1
(9) その他具体的に ( )				

●つぎに、今回の講座について現在の時点でのご意見や感想をおうかがいたします。

14. あなたは今回のビデオ講座の修了認定証を受けることができましたか。

1. はい    2. いいえ

14-2. 前の質問で「いいえ」と答えられた方だけに質問いたします。修了しなかった理由として以下にあげた理由はどの程度あなたの場合に当てはまりますか。いちばん近い程度の番号に○をつけてください。(14-2)

	あ て は ま る	や は あ ま て る	は あ ま ら り あ い て	あ て は ま ら な い
(1) 受講登録後、仕事や家事など生活に変化があって、講座に出席できなくなった ……………	4	3	2	1
(2) 自分自身が病気、けが、事故などの突発的な事態に遭ったため学習を続けられなかった ……………	4	3	2	1
(3) 自分以外の家族のなかに変化があって学習を続ける余裕がなくなった ……………	4	3	2	1
(4) 学習したいことが変わったため、ビデオ講座で学習する必要がなくなった ……	4	3	2	1
(5) ビデオによる学習という学習方法に違和感があった ……………	4	3	2	1
(6) 自分の期待していたことや学びたかったこととビデオ講座の実態が違っていたので、学習意欲がわかなかった ……………	4	3	2	1
(7) 予想していたより講義が難解でついていけなかった ……………	4	3	2	1
(8) おもったより仕事や生活が多忙で講座に通う時間がとれなかった ……………	4	3	2	1
(9) 先生に直接指導してもらい機会が少なく、学習意欲が続かなかった ……………	4	3	2	1
(10) ビデオ講座が開講されている施設が利用しにくく学習に困難を感じた ……………	4	3	2	1
(11) 面接授業にでるのが困難で、学習を続けられなかった ……………	4	3	2	1
(12) 他の生涯学習講座のような雰囲気がなく、学んでいるという充実感が得られなかった ……………	4	3	2	1
(13) 家族や職場の中にあなたがビデオ講座に通うことにつめたい空気があって学習を続けにくくなった ……………	4	3	2	1
(14) 他にもっとよい学習の場があったのでそれに移ったためビデオ講座をやめた ……	4	3	2	1

●ふたたび、すべてのみなさんにおたずねします。

15. あなたは、全15回のビデオテープのうちどの回を視聴されましたか。ご覧になった回の番号に○をつけてください。(定時視聴以外でご覧になったものも含めてください。)

「地球と宇宙」

1. 第1回 「宇宙の中の地球」
2. 第2回 「地球の層圏」
3. 第3回 「地球科学の発展」
4. 第4回 「大気」
5. 第5回 「海洋」
6. 第6回 「固体地球」
7. 第7回 「岩石と鉱物」
8. 第8回 「地層」
9. 第9回 「地質時代」
10. 第10回 「固体地球の表層」
11. 第11回 「プレートテクトニクス」
12. 第12回 「地震」
13. 第13回 「火山」
14. 第14回 「地球の歴史」
15. 第15回 「日本列島」

「地域社会学」

1. 第1回 「地域社会学への招待」
2. 第2回 「農耕と定着」
3. 第3回 「地域と血縁」
4. 第4回 「土地の神さま」
5. 第5回 「村・町・都市」
6. 第6回 「地域と宗教」
7. 第7回 「地域と水域」
8. 第8回 「現代の農村社会」
9. 第9回 「現代の漁村社会」
10. 第10回 「現代の山村社会」
11. 第11回 「開拓地の地域社会」
12. 第12回 「都市の近隣社会」
13. 第13回 「歴史のなかの地域社会」
14. 第14回 「未来への挑戦」
15. 第15回 「主張する地域社会」

16. あなたは、定時集団視聴と個別随時視聴のどちらをよく利用されましたか。  
(尼崎市で受講された方はすべて定時視聴ですので、お答えいただくなくてかまいません)

1. ほとんどすべて定時集団視聴
2. 定時集団視聴が主で、個別随時視聴が従
3. 定時視聴と随時視聴がほぼ同じ割合
4. 個別視聴が主で、定時視聴が従
5. ほとんどすべて個別視聴

17. あなたは定時集団視聴と随時個別視聴を比べてみて、どちらの視聴方法があなたの学習にとって適していると思いますか。

1. 定時集団視聴が非常によい
2. どちらかというとき定時集団視聴がよい
3. どちらともいえない
4. どちらかというとき随時個別視聴がよい
5. 随時個別視聴が非常によい

18. 面接講義(途中、2回行なわれたセンター主催のスクーリング)には、出席されましたか。

1. 2回とも出席した      2. 1回だけ出席した      3. 2回とも出席しなかった

19. 講座期間中は、どのくらい予習復習をなさいましたか。

- (1) 予習について
1. ほとんど毎回予習した
  2. 予習した回の方がしなかった回よりやや多かった
  3. 予習しなかった回の方がした回よりやや多かった
  4. ほとんど予習しなかった

- (2) 復習について
1. ほとんど毎回復習した
  2. 復習した回の方がしなかった回よりやや多かった
  3. 復習しなかった回の方がした回よりやや多かった
  4. ほとんど復習しなかった

20. 今回のビデオ講座に参加している間、受講者どうしの中で、あなたが講座の内容や関連した話題などについて親しくお話しされたりする方はおられましたか。

1. いつもいた      2. ときどきいた      3. あまりいなかった      4. まったくいなかった

●つぎに、今回のビデオ講座について、あなたの率直なご意見ご批評をお聞かせください。  
あなたのご意見やお気持ちのもっとも近い答えの番号をひとつ選んでください。

そ	や	あ	ま
う	そ	思	思
思	う	ま	わ
う	思	わ	た
	う	な	な
		そ	く
		う	い

21. ビデオ講座の事前のPRについて

- (1) 今回、放送大学のビデオ講座が行なわれることは一般の市民に十分知られていた。…………… 4      3      2      1
- (2) 受講生募集の広報は十分効果的だった。…………… 4      3      2      1

22. ビデオ講座が開かれた教室(定時視聴会場)は

- (1) 通うのに便利だった。…………… 4      3      2      1
- (2) 学習によい環境だった。…………… 4      3      2      1

	そ う 思 う	や そ う 思 う	あ ま り な い	ま っ た く い
23. 開講時に行なわれたオリエンテーションは、				
(1) ビデオを使った学習方法を理解する上で役だった。……	4	3	2	1
(2) 受講する科目の内容を知る上で役にたった。……	4	3	2	1
(3) やる気を起こさせるのに役だった。……	4	3	2	1
24. ビデオ講座の開講曜日や時間帯について				
(1) 開講曜日は自分にとって適切だった。……	4	3	2	1
(2) 開講時間帯は自分にとって適切だった。……	4	3	2	1
25. 集団視聴のとき使用した器機や教室について				
(1) 器機の画面は見やすかった。……	4	3	2	1
(2) ビデオを視聴する上で教室の座席配置は適切だった。……	4	3	2	1
26. 担当職員の対応は適切だった。……	4	3	2	1
27. あなたにとって講座を受講する最適の平日の時間帯はつぎの時間帯のどれですか。				
1. 午前9:00～11:00				
2. 午前11:00～午後1:00				
3. 午後1:00～3:00				
4. 午後3:00～5:00				
5. 午後5:00～7:00				
6. 午後7:00～9:00				

28. 今回の開講ビデオ講座の番組内容について、最もあなたの意見に近い段階を1つ選んでください。(あなたが受講した科目のみお答えください。)

	あ て は ま る	や は あ ま て る	は あ ま ら な い	あ て は ま い
I 「地球と宇宙」(28-1)				
(1) 分かりやすい番組である。……	4	3	2	1
(2) どこが重要なポイントであるかがよく分かる。……	4	3	2	1
(3) 講義の流れに適切な緩急のリズムがある。……	4	3	2	1
(4) 視聴者が抱きそうな疑問への説明がある。……	4	3	2	1
(5) 内容が盛りだくさんである。……	4	3	2	1
(6) ビデオ映像というメディアの特性が活かされている。……	4	3	2	1
(7) 具体例が適当に取り入れられている。……	4	3	2	1
(8) 必要以上に専門用語が使われている。……	4	3	2	1
(9) 印刷教材と適切に関連している。……	4	3	2	1
(10) 内容が実用的である。……	4	3	2	1
(11) 中途に息抜きの時間が適度に入っている。……	4	3	2	1
(12) 興味深い番組である。……	4	3	2	1
(13) 生活に密着した題材である。……	4	3	2	1
(14) 時宜を得た素材を利用している。……	4	3	2	1
(15) 講義の進度が速い。……	4	3	2	1
(16) 印刷教材が充実している。……	4	3	2	1
(17) 印刷教材に演習などが適度に含まれている。……	4	3	2	1
(18) 毎回の講座の配分は学習のペースづくりに役立っている…	4	3	2	1
(19) 全体に満足 of いく番組である。……	4	3	2	1

	あ て は ま る	や や は あ て ま る	は あ ま ら な い あ て	あ て は ま い
II「地域社会学」(28-2)				
(1) 分かりやすい番組である。……………	4	3	2	1
(2) どこが重要なポイントであるかがよく分かる。……………	4	3	2	1
(3) 講義の流れに適切な緩急のリズムがある。……………	4	3	2	1
(4) 視聴者が抱きそうな疑問への説明がある。……………	4	3	2	1
(5) 内容が盛りだくさんである。……………	4	3	2	1
(6) ビデオ映像というメディアの特性が活かされている。……	4	3	2	1
(7) 具体例が適当に取り入れられている。……………	4	3	2	1
(8) 必要以上に専門用語が使われている。……………	4	3	2	1
(9) 印刷教材と適切に関連している。……………	4	3	2	1
(10) 内容が実用的である。……………	4	3	2	1
(11) 中途に息抜きの時間が適度に入っている。……………	4	3	2	1
(12) 興味深い番組である。……………	4	3	2	1
(13) 生活に密着した題材である。……………	4	3	2	1
(14) 時宜を得た素材を利用している。……………	4	3	2	1
(15) 講義の進度が速い。……………	4	3	2	1
(16) 印刷教材が充実している。……………	4	3	2	1
(17) 印刷教材に演習などが適度に含まれている。……………	4	3	2	1
(18) 毎回の講座の配分は学習のペースづくりに役立っている…	4	3	2	1
(19) 全体に満足のいく番組である。……………	4	3	2	1

29. つぎに面接講義について、最もあなたの意見に近い段階を1つ選んでください。(あなたが受講した科目のみお答えください。一度でも出席された方はお答えください)

	あ て は ま る	や や は あ て ま る	は あ ま ら な い あ て	あ て は ま い
I「地球と宇宙」(29-1)				
(1) 1回の面接講義の時間をもっと長くした方がよかった ……	4	3	2	1
(2) 面接講義の回数をもっとふやした方がよかった ……	4	3	2	1
(3) 面接講義への出席を免除してほしかった ……	4	3	2	1
(4) 面接講義を受けやすいよう時間帯を工夫してほしかった …	4	3	2	1
(5) 面接講義は内容がむずかしかった ……	4	3	2	1
(6) 面接講義はビデオ学習を進めるために役にたった ……	4	3	2	1
(7) 面接講義は内容が充実していた ……	4	3	2	1
II「地域社会学」(29-2)				
(1) 1回の面接講義の時間をもっと長くした方がよかった ……	4	3	2	1
(2) 面接講義の回数をもっとふやした方がよかった ……	4	3	2	1
(3) 面接講義への出席を免除してほしかった ……	4	3	2	1
(4) 面接講義を受けやすいよう時間帯を工夫してほしかった …	4	3	2	1
(5) 面接講義は内容がむずかしかった ……	4	3	2	1
(6) 面接講義はビデオ学習を進めるために役にたった ……	4	3	2	1
(7) 面接講義は内容が充実していた ……	4	3	2	1

30. 今回のビデオ講座で学習したことであなたにどんな効用があったでしょうか。以下の項目について、あなたご自身についてあてはまると思われるものの程度をお答えください。

	あ て は ま る	や は あ ま て る	は あ ま ら な い	あ て は ま い
(1) 生活に張りがでた	4	3	2	1
(2) 学習意欲が増した	4	3	2	1
(4) 知識が増加した	4	3	2	1
(5) 友人の数がふえた	4	3	2	1
(6) 家族と話す機会がふえた	4	3	2	1
(7) 新聞や雑誌を以前より読むようになった	4	3	2	1
(8) 地球のしくみに関心を持つようになった	4	3	2	1
(9) 地域社会のことに関心を持つようになった	4	3	2	1
(10) 自分に自信をもてるようになった	4	3	2	1
(11) 幅広い教養を身に付けることができた	4	3	2	1
(12) 自分自身の新たな側面を発見できた	4	3	2	1
(13) 自分自身の鍛錬になった	4	3	2	1
(14) 精神的に余裕ができた	4	3	2	1
(15) 自分の仕事を進める上で役に立った	4	3	2	1
(16) 家族や周囲の人の役に立つようになった	4	3	2	1
(17) 社会的な貢献ができるようになった	4	3	2	1
(18) 生活にリズムができた	4	3	2	1
(19) 学習の楽しさがわかった	4	3	2	1
(20) 体調がよくなった	4	3	2	1
(21) 生涯学習に自信がなくなった	4	3	2	1
(22) 時間的に余裕がなくなった	4	3	2	1
(23) 周囲の人(家族・友人・職場の同僚など)との交流が減った	4	3	2	1
(24) 健康の状態が悪くなった	4	3	2	1

31. 一般の娯楽テレビ番組と放送大学番組を比べたとき、「放送大学の番組も同じテレビ番組なのだから娯楽番組と同様に楽しく興味を抱かせる番組にするべきだ」という意見(A)と「放送大学はあくまで大学なのだから楽しさや興味深さより講義の内容を重視し娯楽番組とはまったく別なものと考えるべきだ」という意見(B)があります。あなたはどちらを思われますか。

1. Aの意見に賛成する
2. どちらかというともAの意見に賛成する
3. どちらともいえない
4. どちらかというともBの意見に賛成する
5. Bの意見に賛成する

32. 今回のビデオ講座を受講してみて、全体としてあなたは満足しましたか。

1. 満足した
2. どちらかといえば満足した
3. どちらかといえば不満だった
4. 不満だった

33. その理由は何ですか ( )

34. あなたは今回のようなビデオ講座が開講されたとき、他の人にも受講を勧めようと思いませんか。

1. つよく勧めたい
2. まあ勧めてもよい
3. あまり勧めない
4. まったく勧めたくない

35. 将来、放送大学が関西地区で開学したとき、あなたは入学してみたいと思いますか。

1. 大学卒業資格をめざして入学したい
2. 関心のある科目だけ正式に受講登録してみたい
3. 放送は視聴してみたいが、正式に受講登録するつもりは今のところない
4. 放送の視聴も正式に受講登録もするつもりはない

●最後にあなたのご意見ご感想を自由なことばでお聞かせください。

36. 今回受講された科目について、なにかご意見ご感想をおきかせください。  
(受講された科目に○をつけてください) 1. 「地球と宇宙」 2. 「地域社会学」

37. 講座の運営に関するご意見ご感想をお聞かせください。

38. 関西地域に将来放送大学が開校された場合、どのような科目が開講されればよいと思われますか。現在の科目にこだわらず自由にお答えください。

39. 放送大学番組科目として関西地域の地域性を反映した番組を考えたとき、あなたならどんな番組なら受講してみたいと思われますか。こんな番組があればよいと思われる番組のテーマをお聞かせください。

40. 放送大学では地域に学習センターを設けて面接授業や番組の再視聴、図書の閲覧などのサービスを行っていますが、放送大学が関西地区でも開校したとき学習センターに必要な条件はなんでしょうか。こんな学習センターならよいのと思われる希望や条件を具体的にお聞かせください。

41. あなたが生涯学習についてふだん考えていることや思っていることをお聞かせください。

どうもご協力ありがとうございました。



## Ⅳ 受講者アンケート調査関連質問・自由記述の分析結果

### A 分析の手順

分析の対象としたのは、質問項目36および37の2つである。それぞれ質問内容は以下の通りである。

項目36：「今回受講された科目について、なにかご意見ご感想をお聞かせください」

項目37：「講座の運営に関するご意見ご感想をお聞かせください」

これらの質問は、それぞれ自由記述で回答を求めた項目である。分析にあたっては、それぞれの項目ごとに受講者をわけ、カードを使ってK J法によって内容の分類を行なった。

以下はその分類結果である。

なお、受講者にはケース番号を添付し、その受講科目に応じて、「地と宇」：「地球と宇宙」受講者、「地社学」：「地域社会学」受講者の符号を付した。

### B 分析

1 項目36：「今回受講された科目について、なにかご意見ご感想をお聞かせください」に関する回答のK J法による分析

分類結果は以下のとおりである。

#### ●●01 学習内容に関する意見（放送教材・面接講義）

##### ●01-1 知識が充分得られた

○ケース：028 「地と宇」

よくまとまった教材にもとづいて美しい映像で講義をうけさせて頂いてよく理解出来て大変有効でした。又2度にわたる先生の面接講義は人柄に直接ふれる事が出来て受講を一層有意義にさせて頂きました。

○ケース：034 「地と宇」「地社学」

自然科学が好きなので地球について深く学習することができました。1回も休まずに受でき、感謝しています。

○ケース：055 「地と宇」「地社学」

地球と宇宙：平常から漠然とした興味と耳学的な知識しか持っていなかったが、今回、系統的にビデオ講座をうけ大変勉強になった。さらにチュータの秋元先生が、名解説と共に、丁寧にプリントを作成され、鉱石標本、隕石（3Kg）の実物、地質図など、多数の資料を披露して下さい、私達の興味と理解を授けて下さったのは、大変有難かった。深く感謝して居ります。

○ケース：068 「地と宇」

私は自分の専門分野（電気技術、自動車）以外に兵庫県宅地建物取引主任者資格を登録しているが、日本列島の成立ちを知る事によって土地の状態がよく判る様になりました。その地域の地殻の現状断層等は宅建講習でもとりあげたらと思います。

○ケース：099 「地と宇」

地球の生成、地震の発生原因等について知識を得ることが出来た。

エネルギー（例えば、天体、太陽、星が出来る、もとの力、或は原始気体から生物に変えるエネルギー）等につき、もっと知りたいと思います。

○ケース：112

生命体として生まれた母体を知る上で参考になった。と同時に、宇宙をもっと知れるだけ知りたい。

○ケース：002 「地と宇」

先生の講座内容（面接も含めて）わかりやすく、何も知識もない小生ですら、理解できました。

この講座は、「地球編」であるため、同時に「宇宙編」も一緒に受講したいයි。

○ケース：013 「地と宇」

全般的に広い知識が身についた。

○ケース：029 「地と宇」

始めて大学の講義を受講して大変楽しかった。新しい学説に基づいた知識を得ることが出来て、有意義でした。

○ケース：004 「地と宇」「地社学」

両科目共も全くの常識以下の知識であった事に、恥しい思いますと共に、概要を教えて頂いた事により、教育TVも関係ある事項を視聴する様になり、有難たく感謝致します。

○ケース：033 「地と宇」

ビデオ視聴して、地球について並大抵でない御調査、御研究、御苦勞の賜の結果を易そと、勉強させて頂いて有難々と存じて居ります。私達の住んでいます地球がいとおしく、問題になっています地球汚染と全世界の人1人1人が気をつけ、もっともっと大切にしていきたいと思ひます。謎に包まれています無限の宇宙について、御研究された事を勉強したいと思ひます。

○ケース：046 「地と宇」

非常に役に立った

次回宇宙編についても実施して欲しい

○ケース：075 「地と宇」

地球と宇宙を受講して特に宇宙の中の地球、大気、海洋、地震、大山について知識の修得ができた。

○ケース：066 「地と宇」

私自身が日々生活している地球についてあまりくわしく知らなかったけれど、今回学んでとても身近に考えられるようになりました。中学1年生の娘も途中から一緒に参加させて頂き、とても勉強になったと言っています。この分野に興味があったようで、本当にう

れしく思っています。

○ケース：079 「地と宇」

「地球と宇宙」についてはよくわかった。地球の寿命について考えさせられた。なーとうならされしかばどうするか、どう考えるかである。

○ケース：120 「地と宇」

新しい知識を得られ、学習意欲がわきこれからも機会があったら勉強したいと思う。とても参加して良かったと感謝しています。

○ケース：019 「地と宇」「地社学」

「地域社会学」：ビデオは実記的考察を主体とし、非常に参考になりました。地域社会との関連が良く理解されましたが、教材と鞘と離れている傾向があり、もう少し近づけていただけたらと思います。

○ケース：017 「地社学」

以前から関心をもっていた学問でありましたが、今回受講してみて、予期以上の広範な未知の新たな学習領域に進ことができ、満足すると共に、今後共、自分なりに地域社会の動向を実証学的にとらえたら学んでゆきたいと考えております。

特に閉講式の時に、加藤先生からお話のあった様に、カルチャーライフとして、とらえてゆきたいと希望しております。正式の開校を待ち望みます。

●01-2 楽しかった、興味がわいた、充実していた

○ケース：001 「地と宇」

地球も一個の生命体であるとの感を強くしました。営々とした地球のいとなみの中ほんの少し乗せていただいている人類は、決して地球の環境をこわしてはいけないと思いました。

○ケース：031 「地と宇」「地社学」

始めに「NHKの『地球大紀行』のような面白さは期待しないで下さい」というお話がありましたが、また違った面白さがありました。

○ケース：037

実社会の実生活に関係の無い問題ですので、篠々と受講できたのでそれなりに実習効果を得られたのではないかと思われる。ただし受講後テストのようなものがあればもっと苦勞するし、またそれなりに身につくものと思われそうですがいかがなものか？

○ケース：051 「地と宇」

科目を通じ未知の世界の扉を開く気持で終了した。

○ケース：056 「地と宇」

なる程、そうかな…と思っていたことが具体的に鮮明に理解でき、楽しかった。

○ケース：081 「地と宇」

これでテストでもあれば落第生だらけの筈。むずかしいけれど面白かった。ビデオはもっと長くても良い。

○ケース：107 「地と宇」

地球と宇宙では、宇宙編から学習する方が、系統だった知識が得られるのではないかと思

う。しかし、地球の知識を得るということでは十分勉強になった。

○ケース：146 「地と宇」

「地球と宇宙」約50年前に中学や高等学校で学んだ時よりずっと新しい知識が学べて、またよく整理された形で学べて大変嬉しかった。特に宇宙が原子物理学と同じ言葉で説明出来ることには驚いた。

○ケース：149 「地と宇」

地球の環境汚染の問題も勉強できるかと思ったのですが、私の感違いに終わりました。

それでも、地球や宇宙が身近に考えられ楽しかった。

○ケース：001 「地社学」

「地域社会学」

まったく未知の分野でしたが、机上の学問でなく、加藤先生のフィードバック方式の講義が大変おもしろかったです。反省点として、ビデオ内容と印刷教材の内容がほとんど異なっていましたので、つつい印刷教材に目を通すのがおざなりになってしまいました。

○ケース：006 「地社学」

テーマから受ける程、身近な内容ではなかったが、広く、知識として、興味深く受講。

(実験講座ということで、この科目しか(昼の部)選択できなかったのが、不満だが。)

○ケース：023 「地社学」

受講をきめた時点より、私自身の好奇心を満足させて顶けました。地域のなりたちや生活習慣の違い、興味を持てば多様で沢山の情報が得られる事を知りました。

○ケース：026 「地社学」

毎回ちがう地域の事例をとりあげ、その都度、関心を持って学習できた。

○ケース：090 「地社学」

講座そのものは、さすが!と思える構成でした。

33にも記しましたように受講後それを敷衍することができればなおよかったと思います。

○ケース：111 「地社学」

どのような事を勉強するのも分らずうけたが、都会育ちの私には田舎への興味がわき楽しい授業となった。グループでどこか1つでもよいが、実際にたづねてみるという企画があるとよかったが。

○ケース：115 「地社学」

地域社会学という学問の入口部分を教えてもらったと理解しており、私にとって興味のある講義だった。生活に定着した学問であるため、所詮世間話としての範囲、知識も広がった。現在私は、四国八十八カ所巡りを行っております。特に「地域と宗教」は興味をもって聴講した。

○ケース：131 「地社学」

自分が新興住宅に住み始めた頃から現在は新世代となりつつあり、地域社会がどの様に変化して行くかを大いに感じたので、日本の社会の変化も興味深く勉強出来た。(但少し奇麗事な面もあった様に思う)

○ケース：132 「地社学」

東京一極集中、関西復権（地盤沈下）といった地域に関する研究分野に興味を覚えた。そのオリジナルな映像を紹介していただき、実によかった。

○ケース：139 「地社会学」

地域社会学の講座は私にとって大変意義深く受講できた。人々の暮らしの中の生活に歴史と環境が深く関わりのある事や、教育現場で保護者や子供達の生活とも大きく関わりのあることが考えられる、園経営にあたって、参考になることがあった。

○ケース：021 「地社会学」

地域社会を学ぶ事によって、いかに歴史を知らないで、漫然と社会をみてきたかという気がします。歴史的な延長上で現在の社会をとらえる事によって奥の深いものである事がよくわかりました。

○ケース：069 「地社会学」

講座が終わってみると「地域社会学」の奥行きが深いことがよく分かった。ようやく第一歩を踏み出した感じです。

○ケース：071 「地社会学」

地域社会について再認識をした。

○ケース：031 「地と宇」「地社会学」

②以前学んだ社会学が統計学を使った理論めいたものだったので、今回のフィールドワークの実証とよく比較できました。身近かなところからいろんなことが見えてくるのだなと思いました。

○ケース：054 「地社会学」

地球社会学は始めて思わぬ知識を得て感激しました。

○ケース：080 「地社会学」

はじめて、こういう分野の学問があることを知って興味深く勉強できた。

○ケース：096 「地社会学」

この講座では地域の「知恵」といったものを学ばせて貰った。しかし、現在では、この貴重な「知恵」が伝承されにくくなっている気がする。

○ケース：125 「地社会学」

人間が生きていくための「生活」そのものから生まれた「地域社会」が、時代の変化とどうか、価値観の変化とどうか、文明の発達と共に「地域社会」の存在すら忘れられているのではないかと思わせるふしが見られる。

利害関係をこえて、地域の文化と伝統の中で「人間」が活着しているのだということをこの学習を通して、改めて強く実感させられた。

○ケース：108 「地社会学」

地域社会学は人間社会の文化をほりさげる学問で、数学のように答えを出して終りというものではないが、人間の生活の歴史が現在の生活のいとなみに連線と続いて身近な学問としての実感がある。特に信仰が人々の連帯に強く作用していることを感じとった。

○ケース：110 「地社会学」

非常によい内容で興味深く受講しましたが、もう5割位増やして載いてもよいようにも思

います。

○ケース：124 「地社会学」

丹波文雄の「蓮如」を読んだことがあったので、連如上人の出てくる第6回の「地域と宗教」は殊の外興味深く受講しました。又第13回「歴史の中の地域社会」では母の里の津山が取材されていたが、幼少の頃よく訪れた頃と比べて近代的に変貌した推移を詳細に勉強出来、一段と愛着を増しました。

○ケース：127 「地社会学」

課題に対し訪ねた地域がわかりやすく、具体例としてよかった。各地域でいろいろな暮らしがあること、昔からの伝承文化を大切にしていること、新しい地域でもそれなりの努力をしている姿など認識することが出来た。

○ケース：146 「地と宇」「地社会学」

「地域社会学」民俗学、郷土史、社会学をミックスしたような学問で、楽しく勉強出来ましたが間口が広く、もう一つ食い足りない気がした。

●01-3 わかりやすかった

○ケース：137 「地と宇」

教科書を最初にみたときは、むつかしすぎて続けられるかと心配しましたが、ビデオ視聴での講義は、わかりやすい言葉ですすめられていて、どうにか最後まで続けました。

●01-4 時宜にあっていた

○ケース：019 「地と宇」「地社会学」

「地球と宇宙」：ビデオに出てくる図面が、教材にのっていないもののがかなりありますが、理解を深めるため、両者の図面の数を一致させてほしい。数学方式の理解は困難で、理論説明を重視しましたので。ビデオの内容は時宜を得たもので、非常に有意義でした。

○ケース：058 「地と宇」

地球環境汚染の最近はグローバルな考え方、見方が要求されている時代に、今回の企画は時代にマッチしていた。

●01-5 体系的に学習できた

○ケース：103 「地と宇」

体系的に学習できたので満足しています。

●01-6 テーマの広さを感じた

○ケース：084 「地社会学」

参考文献にあたる時間、思考する余裕等々、充分にもつことが困難で、学習のむずかしさが改めて身にしみる。

テーマの間口の広さを思い知らされた。

○ケース：146 「地社会学」

「地域社会学」民俗学、郷土史、社会学をミックスしたような学問で、楽しく勉強出来ましたが間口が広く、もう一つ食い足りない気がした。

●01-7 内容を充実させてほしい

○ケース：010 「地と宇」

今迄に見たNHKテレビの「地球、創世」や公民館で受けた「宇宙と地球」の講座等と比較して予想していたよりも、内容の程度が低かったと思います。

○ケース：043 「地と宇」

初回の講義としてはよく出来ていると思います。地球と宇宙という大きな題目に対して要領よくまとめられています。地球の歴史や地球の組成等ダイジェスト的であるけれどもわかり易く説明されているのがよかった。短所としては総花的であったため深く掘り下げた説明がなされなかったのは大学の教養過程に比しやや物足りなかった。

○ケース：088 「地と宇」

「基礎科学」であったことと、時間的制約との関係からと思うが、サワリの部分をみせられたという感じがありました。もっと突っ込んだ内容の講義にしてほしかった。

○ケース：089 「地と宇」

1回の内容が広すぎて、やや深みに欠ける。

難しい言葉（専門用語）が何の解説なしに使われるので、理解しにくかった。

○ケース：117 「地と宇」

・「地球と宇宙」という科目だったため、宇宙に期待して受講したが殆ど地球だったのが残念。

・「放送ビデオ」と名が付いていたため、ビデオ画面に期待をしていたが、～NHKラジオの方がもっと素晴らしい内容のものがあるが、少々放送大学にはおそまつなのではないか。

○ケース：126 「地と宇」

印刷教材と同じ説明をする必要はないのではないかと思います。

印刷教材は非常に充実して良いと思うが、テレビの内容は少し中途半端な気がしました。

○ケース：138 「地と宇」

時間の割に内容が多く、本当に勉強するのならば図書館や、参考書、図鑑を個人で買い予習復習に相当時間を使わなければなりません。私は数回の受講で放棄しましたのでそれはしていません。ビデオの内容に失望したので。顔と言葉だけのビデオには国鉄に乗って往復2時間かかって行く必要がない。

○ケース：145

初心者向けとはっきり言ってほしかった。

○ケース：146

「地域社会学」民俗学、郷土史、社会学をミックスしたような学問で、楽しく勉強出来ましたが間口が広く、もう一つ食い足りない気がした。

●01-8 学問的な探求がほしい

○ケース：020 「地社学」

1. 地域文化特に郷土芸能の地域における発展過程や位置づけ
  2. 地名の由来と地域の消長過程
  3. 地縁、血縁に見られる豪族とか、伊賀衆、甲賀衆、雑賀衆など衆の関わり
- などの掘り下げた事柄が採用されていたらより面白く学習出来たのではと思います。

○ケース：044 「地社学」

(1) 最終段階について日本の国体（国柄）の組帯となっていると思う血縁社会（国家）の特性について（又他に比較して強ごんであると思うことに対して）史的な社会学的展開と主張のないのは残念に思った。失われつつある日本学の庶民的の高揚のためにも努力して欲しい。

(2) 「未来への挑戦」について郵政・通産各関係のユートピアづくりの解説はあるが、もっとも伸びるであろうと思う運輸（陸海空関係の交通論のないのはどうしたことかと不足感憶えていかん思った。

○ケース：051 「地社学」

- ・「地球社会学への招待」を読んで興味がわからない。（要拡充）
- ・2～5の内容が断片的で関連性必然性がうすい。
- ・何を指針として体系づけているかよくわからない。
- ・投本的（抜本的？）に共同研究しなおすべきと思う。（組立が不十分）
- ・国際比較がほとんどなかった。

○ケース：055 「地と宇」「地社学」

「地域社会学」：紹介されたビデオの様子が私達の生活にどうかかわるかを考えた。加藤先生は、終了講演でこの学問は、目的なしと云われたが、問題点を解決し、よりよい未来につなげていくための手順、手段に至らぬことの物足りなさを感じた。チュータの先生の解説も単調すぎると思った。

○ケース：079

「地域社会学」は最後まで地域社会学とは何かがよくわからなかった。いろんな事例でいろいろな集まりのあるのはよくわかったがこれが学問だとは理解し難い。

○ケース：080 「地社学」

はじめて、こういう分野の学問があることを知って興味深く勉強できた。

ただ、第一講から第十五講までを受講して始めて全体像が分かってきた感じで、最初にアウトラインが分かってから、各々のセクションを勉強したかった。つまり私にとっては皆目見当のつかない化ケ物のような学問と取り組んだ気持ちである。（因みに私は理科系である。）ただ、意外に常識的と思われる面があり、地域を外国まで拡げて学びたいと思う。

○ケース：085 「地社学」

印刷教材は面白かったが、ビデオの方は少しいくつだった。見流してしまったような感じがする。

○ケース：133 「地社学」

広範囲にわたって各地を色々な角度から紹介されており、その点ではよかったです、反



面、理論→現象、又は現象→理論の線が弱かった様に思います。つまり、一般的な法則が現象にどうあらわれているのか、又、諸々の現象からどういった法則（原理）が導かれるのか、それを地域社会の関点からもう少し強く打ち出した方がよかったのではないかと思います。

○ケース：146 「地と宇」「地社学」

「地球と宇宙」約50年前に中学や高等学校で学んだ時よりずっと新しい知識が学べて、またよく整理された形で学べて大変嬉しかった。特に宇宙が原子物理学と同じ言葉で説明出来ることには驚いた。

「地域社会学」民俗学、郷土史、社会学をミックスしたような学問で、楽しく勉強出来ましたが間口が広く、もう一つ食い足りない気がした。

●01-9 45分では短い

○ケース：003 「地と宇」「地社学」

両方共、もう少し時間的にゆとりがあった方がよかったのではないのでしょうか。（45分間というのは少し短すぎたのでは？）

○ケース：011 「地と宇」

- ・教科書がよくできていたと思う。
- ・ビデオの先生の講義が時間の制約の故か少しもの足りない。

○ケース：027 「地と宇」「地社学」

「地球と宇宙」はビデオでは、その対象範囲の大きさから時間の不足を感じた。

○ケース：038 「地と宇」

地球編について短時間に多くの項目を纏まり良く納めてありますが、欲を言えばあの2倍の時間をかけてもっと踏み込んだ講義をして欲しい。面接講座が非常に興味深く受けられました。がせめてあれに近いものが出来ればよろしいが…。

○ケース：048 「地社学」

行政側にはいろんな制約があって大変だったと思いますが、大きいテーマの講座ですから期間をもっと長くし、時間にゆとりがほしかったと思っております。

○ケース：081 「地と宇」

・これでテストでもあれば落第生だらけの筈。むずかしいけれど面白かった。ビデオはもっと長くても良い。

○ケース：110 「地社学」

非常によい内容で興味深く受講しましたが、もう5割位増やして戴いてもよいようにも思います。

○ケース：116 「地と宇」「地社学」

ビデオの時間は1回45分では短いと思います。特に「地球と宇宙」の場合。少なくとも1時間位必要ではないでしょうか。

○ケース：138 「地と宇」

時間の割に内容が多く、本当に勉強するのならば図書館や、参考書、図鑑を個人で買い予

習復習に相当時間を使わなければなりません。私は数回の受講で放棄しましたのでそれはしていません。ビデオの内容に失望したので。顔と言葉だけのビデオには国鉄に乗って往復2時間かかって行く必要がない。

○ケース：052 「地と宇」

一科目毎の受講時間が1.5時間では少し短かい様に思われた。30分長くし2.0Hぐらいはほしかった。

○ケース：039 内容のボリュームからすると、回数がやや不足と思う。相当の予復習がないとマスター出来ないのでは。

●01-10 講義（ビデオ）に関する質疑応答の時間がほしい

○ケース：104 「地と宇」「地社学」

両科目とも私にとっては、知識を教えていただき有難うございました。

ただ、止むを得ない事とは存じますが、「質疑応答の時間がもっとあったら」と思います。

○ケース：121 「地と宇」「地社学」

聞きもらしたり、よく理解できなかった時、ビデオでは質問する事ができない。

●01-11 具体例がよかった

○ケース：055 「地と宇」「地社学」

「地球と宇宙」：平常から漠然とした興味と耳学的な知識しか持っていなかったが、今回、系統的にビデオ講座をうけ大変勉強になった。さらにチュータの秋元先生が、名解説と共に、丁寧にプリントを作成され、鉱石標本、隕石（3Kg）の実物、地質図など、多数の資料を披露して下さい、私達の興味と理解を授けて下さったのは、大変有難かった。深く感謝して居ります。

○ケース：135 「地と宇」

サンアンドレアス断層etcが画面で見れたので大変わかりやすかった。

○ケース：023 「地社学」

面接は3回のうち2回受けましたが大学の講義の言葉がむづかしさに理解できないこともありましたが、ビデオを用意して頂いた漁業のは楽しく拝見しました。

○ケース：041

2. 地域ロケーションがあり、居ながらにして、各地のことが映像で見られ有意義。

○ケース：050 「地社学」

“13. 歴史のなかの地域社会”の学習の際、尼崎市歴史準備委員会の方が当日の講師として、尼崎城主戸田氏鉄の寛文4～5年にかけての城下町づくりの具体的な遷劃づくりの説明があり大層勉強になりました。

●01-12 具体例が少ない

○ケース：001 「地球と宇宙」

欲を言えば地形などの例示場所をもっとたくさん見せていただければと思いました。

○ケース：030 「地と宇」

地球編だけでなく、宇宙編もやってほしかった。具体例をもっと多く。

○ケース：082 「地と宇」

世界各国の地形をいくつかとりあげてほしかった。

○ケース：105 「地と宇」

もう少し具体的例を入れてほしかった。

○ケース：117 「地と宇」

・岩石等のサンプルは大変おそまつ。

○ケース：020 「地社学」

1、地域文化特に郷土芸能の地域における発展過程や位置づけ

2、地名の由来と地域の消長過程

3、地縁、血縁に見られる豪族とか、伊賀衆、甲賀衆、雑賀衆など衆の関わり

などの掘り下げた事柄が採用されていたらより面白く学習出来たのではと思います。

○ケース：024

「地域社会学」は、もう少しいろいろな地域のことを気軽に扱う内容にしてもらえる  
と良かった。

○ケース：128 「地社学」

より具体的な学習のポイントの明示があれば学習効果があがると思う。

#### ●01-13 専門用語の解説が足りない

○ケース：089 「地と宇」

1回の内容が広すぎて、やや深みに欠ける。

難しい言葉（専門用語）が何の解説なしに使われるので、理解しにくかった。

○ケース：023 「地社学」

面接は3回のうち2回受けましたが大学の講義の言葉がむづかしさに理解できないことも  
ありましたが、ビデオを用意して頂けた漁業のは楽しく拝見しました。

○ケース：077 「地社学」

少し専門的すぎて、わかりにくい所もありました。特に面接授業がむづかしかった。

#### ●01-14 面接講義は有意義だった

○ケース：024 「地と宇」「地社学」

「地球と宇宙」に関しては、ぜひとも宇宙編を聞きたい。また、面接講義に来られた、小  
尾先生や、藤井先生の講義をもっと聞いてみたい。

○ケース：028 「地と宇」

よくまとまった教材にもとづいて美しい映像で講義をうけさせて頂いてよく理解出来て大  
変有効でした。又2度にわたる先生の面接講義は人柄に直接ふれる事が出来て受講を一層  
有意義にさせて頂きました。

○ケース：038 「地と宇」

地球編について短時間に多くの項目を纏まり良く納めてありますが、欲を言えばあの2倍の時間をかけてもっと踏み込んだ講義をして欲しい。面接講座が非常に興味深く受けられましたがせめてそれに近いものが出来ればよろしいが…。

○ケース：041 「地と宇」「地社会学」

1. 両科目とも先生（奈須、加藤）が立派であった。とくに奈須先生の面接授業に感激した。

●01-15 面接講義はむづかしかった

○ケース：023 「地社会学」

受講をきめた時点より、私自身の好奇心を満足させて頂きました。地域のなりたちや生活習慣の違い、興味を持てば多様で沢山の情報が得られる事を知りました。

面接は3回のうち2回受けましたが大学の講義の言葉がむづかしさに理解できないこともありましたが、ビデオを用意して頂けた漁業のは楽しく拝見しました。

○ケース：077 「地社会学」

少し専門的すぎて、わかりにくい所もありました。特に面接授業がむづかしかった。

●01-16 面接講義の充実

○ケース：097 「地と宇」

面接講義は、議論に時間がとられすぎる。わずか2回で1回90分の講義では物足りない。

「テーマ」を絞って、もう少し深くやっていただきたい。年寄りの「ひまつぶし」で、貴重な時間を居眠りする様な人は度外視して、真剣に勉強する者もいるので、その様な、まじめな者を対象にしっかりした講義をしてほしい。

○ケース：095 「地と宇」

あまりにも特急講座なので、もっと面接講座をふやして、質疑応答の時間をいただきたいと思う。

○ケース：106 「地社会学」

- ・面接講義の時間は1回当たり90分は必要。
- ・ビデオ内容の更新（三全総→四全総等）
- ・放送大学の大阪での開講を早く。それまでの間ビデオの種類を多くし、受講者に選択権を！

○ケース：148 「地と宇」

今回地球編だけだったので宇宙編を学びたいと思います。

できれば面接講義の回数を増やして頂きたいと思います。

●01-17 副教材（参考文献）の紹介がほしい

○ケース：016 「地と宇」

勉強するための副教材の紹介がほしい。（例ビックバン爆発、量間物質等）

○ケース：074 「地社会学」

与えられた教科書のみでは学習が十分に出来ないので印刷教材など充実していただきたい。  
特に復習のための参考文献などの斡旋など願えれば幸いです。

●01-18 テストがあった方が身につく

○ケース：037

実社会の実生活に関係の無い問題ですので、篠々と受講できたのでそれなりに実習効果を得られたのではないかと思われる。ただし受講後テストのようなものがあればもっと苦勞するし、またそれなりに身につくものと思われそうですがいかがなものか？

●01-19 チューターの先生がとてもよかった

○ケース：008

放送前に種々細々と説明下さった講師、ビデオの中で不足をあわてて黑板に走り加えて下さり、ものすごく感謝致しております。

○ケース：056 「地球と宇宙」

ビデオを見る前に、ポイント絞って解り易い説明があったことが、ビデオ教習に役立った。

○ケース：055 「地と宇」「地社学」

「地球と宇宙」：平常から漠然とした興味と耳学的な知識しか持っていなかったが、今回、系統的にビデオ講座をうけ大変勉強になった。さらにチューターの秋元先生が、名解説と共に、丁寧にプリントを作成され、鉱石標本、隕石（3Kg）の実物、地質図など、多数の資料を披露して下さい、私達の興味と理解を授けて下さったのは、大変有難かった。深く感謝して居ります。

●01-20 チューターの先生に質疑応答の時間をもっとしてほしい

○ケース：011 「地と宇」

- ・教科書がよくできていたと思う。
- ・ビデオの先生の講義が時間の制約の故か少しもの足りない。
- ・指導された先生がよく判るように補足して下さいましたが、それも時間の不足で質疑応答が充分できなかった。

●01-21 チューターの先生の解説が単調だ

○ケース：055 「地と宇」「地社学」

「地域社会学」：紹介されたビデオの様子が私達の生活にどうかかわるかを考えた。加藤先生は、終了講演でこの学問は、目的なしと云われたが、問題点を解決し、よりよい未来につなげていくための手順、手段に至らぬことの物足りなさを感じた。チューターの先生の解説も単調すぎると思った。

●01-22 受講後、受講者同士で討議したい

○ケース：100 「地社学」

失われつつある地域独特の風習について、発生の原因と必要性、効用等について各受講者より発言を求め討議したい。

○ケース：081 「地と宇」

・ビデオのあとディスカッションの希望もあったが、専門のアドバイザーも居ないのに、ただの雑談なら不要と思う。

●01-23 現地での講義が印象的

○ケース：114 「地と宇」

現地での講義が、大変印象的であった。

●01-24 現地見学をしたい

○ケース：081 「地と宇」

・大阪に新しいプラネタリウムもできたことだし、みんなで見学に行きたかった。(個人で行ったが、超満員で半日待った)(市科学館)

○ケース：090 「地社学」

講座そのものは、さすが!と思える構成でした。

33にも記しましたように受講後それを敷衍することができればなおよかったと思います。

○ケース：111 「地社学」

どのような事を勉強するのも分からずうけたが、都会育ちの私には田舎への興味がわき楽しい授業となった。グループでどこか1つでもよいが、実際にたづねてみるという企画があるとよかったが。

●01-25 学習の困難感を感じた

○ケース：039

内容のボリュームからすると、回数がやや不足と思う。相当の予復習がないとマスターできないのでは。

○ケース：084 「地社学」

参考文献にあたる時間、思考する余裕等々、充分にもつことが困難で、学習のむずかしさが改めて身にしみる。

テーマの間口の広さを思い知らされた。

●●02 テキストに関するもの

●02-1 テキストは充実していた

○ケース：011 「地と宇」

・教科書がよくできていたと思う。

・ビデオの先生の講義が時間の制約の故か少しもの足りない。

・指導された先生がよく判るように補足して下さったが、それも時間の不足で質疑応答が

充分できなかった。

○ケース：085 「地社学」

印刷教材は面白かったが、ビデオの方は少しいくつだった。見流してしまったような感じがする。

○ケース：126 「地と宇」

印刷教材と同じ説明をする必要はないのではないかと思います。

印刷教材は非常に充実して良いと思うが、テレビの内容は少し中途半端な気がしました。

#### ●02-2 テキストと放送との関連

○ケース：083 「地と宇」「地社学」

「地域社会学」：ビデオが教材をベースにできており理解しやすかった。

○ケース：126 「地と宇」

印刷教材と同じ説明をする必要はないのではないかと思います。

印刷教材は非常に充実して良いと思うが、テレビの内容は少し中途半端な気がしました。

○ケース：098 「地と宇」

講義内容が印刷教材とほとんど同じだった事に少々不満がある。

○ケース：117 「地と宇」

・「放送ビデオ」と名が付いていたため、ビデオ画面に期待をしていたが、～NHKラジオの方がもっと素晴らしい内容のものがあるが、少々放送大学にはおそまつなのではないか。

・テキストも自学自習用だとしたら納得できるが、放送そのものとの関連は不十分のようだ。

○ケース：001 「地社学」

「地域社会学」まったく未知の分野でしたが、机上の学問でなく、加藤先生のフィードバック方式の講義が大変おもしろかったです。反省点として、ビデオ内容と印刷教材の内容がほとんど異なっていましたので、つつい印刷教材に目を通すのがおざなりになってしまいました。

○ケース：018 「地と宇」「地社学」

地域社会学の放送教材と印刷教材にあまり関連性がない。放送教材の内容について箇条かきでも紹介すべきだ。

○ケース：019 「地と宇」「地社学」

「地球と宇宙」：ビデオに出てくる図面が、教材にのっていないものがありますが、理解を深めるため、両者の図面の数を一致させてほしい。数学方式の理解は困難で、理論説明を重視しましたので。ビデオの内容は時宜を得たもので、非常に有意義でした。

「地域社会学」：ビデオは実記的考察を主体とし、非常に参考になりました。地域社会との関連が良く理解されましたが、教材と鞘と離れている傾向があり、もう少し近づけていただけたらと思います。

○ケース：042 「地と宇」

講義と教科書の結び付きを若干よくしていただければ、尚よいと思います。

○ケース：073 「地と宇」「地社学」

1, 2 共に教科書とビデオと一致しておれば勉強しやすいと思う。

○ケース：083 「地と宇」「地社学」

「地球と宇宙」：教材とビデオでの説明が必ずしも一致していない戸惑いを感じた。一回のビデオに対し教材の方が内容的に多すぎると思う。

○ケース：093

①放送内容は仲々面白く視聴出来たが、教材の内容とは余り関連がなかったので復習の際に役立っていない。

②教材の逐一な説明を主とされる方法が良く頭に残る気がした。

○ケース：113 「地社学」

手渡された教材とテレビに写し出された関係がもう少し教材に沿う様にした方がもっと判り易い様に思う。(時間に制限があるので、難しいとは思いますが)

○ケース：114 「地と宇」

テキストとビデオ内容とが、合わないので、戸惑った。

○ケース：116 「地と宇」「地社学」

ビデオの時間は1回45分では短いと思います。特に「地球と宇宙」の場合。少なくとも1時間位必要ではないでしょうか。

ビデオと印刷教材の間の脈絡が必ずしも十分ではないと思われる所がある。従って、復習の際不満をおぼえる時もありました。

○ケース：128

1、ビデオテープと印刷教材のつながりがあれば良い。

2、より具体的な学習のポイントの明示があれば学習効果があがると思う。

### ●02-3 テキストの内容を充実させてほしい

○ケース：074 「地社学」

与えられた教科書のみでは学習が十分に出来ないので印刷教材など充実していただきたい。特に復習のための参考文献などの斡旋など願えれば幸いです。

### ●●03 今後の課題

#### ●03-1 番組自体の作り方

##### ・03-1-1 視聴覚メディアの特性を生かしていない

○ケース：025

「地球と宇宙」は、私の勉強不足も手伝って、あまり楽しめませんでした。全くテキスト通りの内容(話、写真、図etc)にも、少し新鮮味に欠けた思いがしました。せっかくのビデオ講座ですから、コンピュータ画像等を取り入れてリアルな絵を見せて欲しいと思いました。



○ケース：060 「地と宇」

- ・「地球と宇宙」の宇宙編を試聴したいので御高配ください。
- ・もう少し、映像メディアの特性をいかした講義方法を考えてほしい。

○ケース：117 「地と宇」

・「地球と宇宙」という科目だったため、宇宙に期待して受講したが殆ど地球だったのが残念。

・「放送ビデオ」と名が付いていたため、ビデオ画面に期待をしていたが、～NHKラジオの方がもっと素晴らしい内容のものがあるが、少々放送大学にはおそまつなのではないか。

○ケース：122 「地と宇」

画面を通して学ぶ訳だから、模型やイラスト・コンピュータ・グラフィック等、視覚にうったえるものがもう少しあってもよかったと思う。

○ケース：138 「地と宇」

時間の割に内容が多く、本当に勉強するのならば図書館や、参考書、図鑑を個人で買い予習復習に相当時間を使わなければなりません。私は数回の受講で放棄しましたのでそれはしていません。ビデオの内容に失望したので。顔と言葉だけのビデオには国鉄に乗って往復2時間かかって行く必要がない。

・03-1-2 ビデオの種類を増やしてほしい

○ケース：006 「地社学」

テーマから受ける程、身近な内容ではなかったが、広く、知識として、興味深く受講。

(実験講座ということで、この科目しか(昼の部)選択出来なかったのが、不満だが。)

○ケース：106 「地社学」

- ・面接講義の時間は1回当たり90分は必要。
- ・ビデオ内容の更新(三全総→四全総等)
- ・放送大学の大阪での開講を早く。それまでの間ビデオの種類を多くし、受講者に選択権を!

・03-1-3 楽しいビデオも作ってほしい

○ケース：081 「地と宇」

- ・もっと「ボイジャーの旅」みたいな楽しいビデオもつくって頂きたい。
- ・大阪に新しいプラネタリウムも出来たことだし、みんなで見学に行きたかった。(個人で行ったが、超満員で半日待った)(市科学館)

○ケース：085 「地社学」

印刷教材は面白かったが、ビデオの方は少しいくつだった。見流してしまったような感じがする。

○ケース：106 「地社学」

- ・面接講義の時間は1回当たり90分は必要。

- ・ビデオ内容の更新（三全総→四全総等）
- ・放送大学の大阪での開講を早く。それまでの間ビデオの種類を多くし、受講者に選択権を！

○ケース：143 「地社学」

自分から進んで受講したのではなくて、職員に進められたので意欲がわかなかった。

- ・03-1-4 テロップは長めに出してほしい

○ケース：115 「地社学」

地域社会学という学問の入口部分を教えてもらったと理解しており、私にとって興味のある講義だった。生活に定着した学問であるため、所詮世間話としての範囲、知識も広がった。現在私は、四国八十八カ所巡りを行っております。特に「地域と宗教」は興味をもって聴講した。ただ、画面に出るテロップをもう少し長い間出しておいて欲しい。目の焦点を合わすのに時間がかかって焦点が合ったときには消えてしまっている。

- ・03-1-5 番組の作り方が対照的

○ケース：032 「地と宇」「地社学」

①は、たとえメモし忘れても、本をくまなくさがせば必ずどこかに出ていたが②は、番組がすべてで本だけ見ても、とてもむずかしい。番組の作り方がそれぞれ対照的だった。自分としては②の方が好きではあったが。

- ・03-1-6 各回の講座の内容表示を

○ケース：018 「地と宇」「地社学」

地域社会学の放送教材と印刷教材にあまり関連性がない。放送教材の内容について箇条かきでも紹介すべきだ。

### ●03-2 今後の番組制作によせる希望（希望科目）

- ・03-2-1 「宇宙編」も見たかった

○ケース：002 「地と宇」

先生の講座内容（面接も含めて）わかりやすく、何も知識もない小生ですら、理解できました。

この講座は、「地球編」であるため、同時に「宇宙編」も一緒に受講したいයි。

○ケース：024 「地と宇」「地社学」

「地球と宇宙」に関しては、ぜひとも宇宙編を聞きたい。また、面接講義に来られた、小尾先生や、藤井先生の講義をもっと聞いてみたい。

○ケース:030 「地と宇」

地球編だけでなく、宇宙編もやってほしかった。具体例をもっと多く。

○ケース:033 「地と宇」

ビデオ視聴して、地球について並大抵でない御調査、御研究、御苦勞の賜の結果を易そと、勉強させて頂いて有難々と存じて居ります。私達の住んでいます地球がいとおしく、問題になっています地球汚染と全世界の人1人1人が気をつけ、もっともっと大切にしていきたいと思ひます。謎に包まれています無限の宇宙について、御研究された事を勉強したいと思ひます。

○ケース：046 「地と宇」

非常に役に立った

次回宇宙編についても実施して欲しい

○ケース：060 「地と宇」

- ・「地球と宇宙」の宇宙編を試聴したいので御高配ください。
- ・もう少し、映像メディアの特性をいかした講義方法を考えてほしい。

○ケース：095 「地と宇」

宇宙の解明の研究が長足の進歩なので過去の学説が古くなっているとか、今後どう宇宙の研究が解明されていくか興味深い（何年生きればわかるかと楽しみ）

○ケース：099 「地と宇」

地球の生成、地震の発生原因等について知識を得ることが出来た。

エネルギー（例えば、天体、太陽、星が出来る、もとの力、或は原始気体から生物に変えるエネルギー）等につき、もっと知りたいと思ひます。

○ケース：112

生命体として生まれた母体を知る上で参考になった。と同時に、宇宙をもっと知れるだけ知りたい。

○ケース：117 「地と宇」

・「地球と宇宙」という科目だったため、宇宙に期待して受講したが殆ど地球だったのが残念。

○ケース：134 「地と宇」

地球もたいへん興味ある分野ですが、宇宙の方がより好きな分野ですので、宇宙編を受講してみたいと思ひます。

○ケース：142 「地と宇」

宇宙編に興味があったので忙しさも加わり欠席が多かった。

○ケース：148 「地と宇」

今回地球編だけだったので宇宙編を学びたいと思ひます。

できれば面接講義の回数を増やして頂きたいと思ひます。

- ・03-2-2 「宇宙」編から学習の方が系統的

○ケース：107

地球と宇宙では、宇宙編から学習の方が、系統だった知識が得られるのではないかと思ひます。しかし、地球の知識を得るということでは十分勉強になった。

・03-2-3 環境汚染等の問題も学びたかった

○ケース：102 「地と宇」

人間とのかかわり（環境問題等）について、もっと突っ込んだ話しが聞きたかった。

○ケース：149 「地と宇」

地球の環境汚染の問題も勉強できるかと思ったのですが、私の感違いに終わりました。

それでも、地球や宇宙が身近に考えられ楽しかった。

○ケース：014 「地社学」

地域社会学はとても広い分野でこれから何をくわしく勉強しようかと言うガイド的な役割の勉強だと思いました。さしあたり私はこれから環境問題を勉強してみたいと思いました。

・03-2-4 住んでいる地域との関連で学びたい

○ケース：059 「地社学」

自分の住む地域の過去を知りたいと思いますし、今後の地域発展の参考にしたいと思いません。

○ケース：064

今住んで居る自分地域社会を勉強したいと思って居ます。

○ケース：078 「地社学」

日本全体のことは、ビデオでわかるのですが、池田市、豊中市、大阪市のことを関連づけて、資料をもっと配って下さったらな、と、ずっと思っていました。

○ケース：094 「地社学」

農村、漁村、山村などの地域社会が主で、都会、都市での地域社会学が少なかった。

もっと都市、都会に於ける地域社会がほしかった。

・03-2-5 高齢化社会との関連で学びたい

○ケース：034 「地と宇」「地社学」

・「地域社会学」については、高年齢化が進むこれから、地域社会とのかかわりを、どの様に捉得ていけばいいか勉強したかったのですが、講義内容が私の希望したものでなく、今後この様な問題も取りあげて頂ければ、幸いです。

・03-2-6 企業内研修につなげるべき

○ケース：068 「地と宇」

私は自分の専門分野（電気技術、自動車）以外に兵庫県宅地建物取引主任者資格を登録しているが、日本列島の成立ちを知る事によって土地の状態がよく判る様になりました。

その地域の地殻の現状断層等は宅建講習でもとりあげたらと思います。

○ケース:092 「地と宇」

宇宙や地球ときくだけで、余りにも大きく、実生活とかけ離れた事として、見られがちであるが、人類は宇宙の中の地球の歴史の一環であることを実感していない。生活様式の変動が急速になって来ている。地球に於ける人類の生活を見直し、地球と人とのより永い保

存について考えると、今の社会が後退するかに思われる点もある。が、科学の発展は、人類の退化を早め、ひいては地球の生命まで短くすることを、切実に考えねばならぬ時である。従って、教育の場でも、経済社会に重きにする事なく、このような学科にも興味を持たせるものであってほしいが、それにそぐう社会事業の拡大に努めるべきだと感じた。

・03-2-7 今後も発展させて学び続けたい

○ケース：005 「地社学」

このたびの講座をヒントに、生まれ故郷の地域社会の移り変わりについて記録し、できればまとめてみたいと、強く思った。

○ケース：012 「地と宇」

概要の講義を受けたが更に詳細な勉強がしたい

○ケース：014 「地社学」

地域社会学はとても広い分野でこれから何をくわしく勉強しようかと言うガイド的な役割の勉強だと思いました。さしあたり私はこれから環境問題を勉強してみたいと思いました。

○ケース：015 「地社学」

これからの地域社会のあり方についてももう少し時間をかけて深く勉強したいと思った。

○ケース：017 「地社学」

以前から関心をもっていた学問でありましたが、今回受講してみて、予期以上の広範な赤知の新たな学習領域に進ことができ、満足すると共に、今後共、自分なりに地域社会の動向を実応学的にとらえたら学んでゆきたいと考えております。

特に閉講式の時に、加藤先生からお話のあった様に、カルチャーライフとして、とらえてゆきたいと希望しております。正式の開校を待ち望みます。

○ケース：059 「地社学」

自分の住む地域の過去を知りたいと思いますし、今後の地域発展の参考にしたいと思います。

○ケース：061 「地社学」

将来（未来）について更に具体的に研究してゆきたい。

○ケース：080 「地社学」

はじめて、こういう分野の学問があることを知って興味深く勉強できた。

ただ、第一講から第十五講までを受講して始めて全体像が分かってきた感じで、最初にアウトラインが分かってから、各々のセクションを勉強したかった。つまり私にとっては皆目見当のつかない化ケ物のような学問と取り組んだ気持ちである。（因みに私は理科系である。）ただ、意外に常識的と思われる面があり、地域を外国まで拡げて学びたいと思う。

○ケース：087 「地と宇」

再度、地球と宇宙（地球編）を読みなおしたいと思っています。予習、復習が必要だと思った。

○ケース：101 「地社学」

日本というのは本当に面白い国だと思いました。

あちこちの、それぞれの風土、習慣、思想（かたぎ）がもっと知りたいです。

どういう風に発展してきたかも知りたいです。

○ケース：120 「地と宇」

新しい知識を得られ、学習意欲がわきこれからも機会があったら勉強したいと思う。とても参加して良かったと感謝しています。

#### ●●04 その他

##### ●04-1 早く大阪で開校してほしい

○ケース：017 「地社学」

以前から関心をもっていた学問でありましたが、今回受講してみて、予期以上の広範な赤知の新たな学習領域に進ことが出来、満足すると共に、今後共、自分なりに地域社会の動向を実応学的にとらえたら学んでゆきたいと考えております。

特に閉遭式の時に、加藤先生からお話のあった様に、カルチャーライフとして、とらえてゆきたいと希望しております。正式の開校を待ち望みます。

○ケース：106 「地社学」

・放送大学の大阪での開講を早く。それまでの間ビデオの種類を多くし、受講者に選択権を！

##### ●04-2 平日に開講してほしい

○ケース：120 「地と宇」

日曜日だったので他の行事や用事が重なり、出席出来なくて残念だった。平日の方がよかった。新しい知識を得られ、学習意欲がわきこれからも機会があったら勉強したいと思う。とても参加して良かったと感謝しています。

##### ●04-3 雑感

○ケース：035 「地と宇」「地社学」

私の時代は、昭和19年～20年と学徒動員で軍事工場についていましたので、今あらためて勉強してみてよかったと思います。

○ケース：040 「地社学」

外国の先生が数人出てこられて日本語で講義をされました。とても熱心にお話しされていましたがその日本語が少々たどだとしかったのがとても残念。それと富山県入善町を「にゅうぜんちょう」と加藤先生が発音されていましたが、あれは「にゅうぜんまち」と富山県では言いません。私は富山県出身ですので一言。

○ケース：086 「地社学」

外国人に「日本の文化は？」と問われたとき説明出来る人が少ないと思う。民族文化の伝承、保存、地域が豊になるためにはどうあるべきか、等にこの学問の貢献されることを祈ります。

## 2 項目37：「講座の運営に関するご意見ご感想をお聞かせください」の分析

●●01 運営面に関して

●01-1 運営面はよかった

○ケース：013

充分、行きとどいたと思う。

○ケース：014

教室で黒板だけで勉強するのちがってビデオとはいえ実際に現地に行って勉強しているようで先生方は大変でしょうがとてもよかったと思います。

○ケース：015

特になし

主催者の誠意が伝わりよかったと思う

○ケース：017

当地区で初めての試みとしては運営もうまく行われていたと思います。運営に当られた市当局の方々のお気づかいは大変だったと存じ感謝の気持ちで一杯です。(唯ひとつ、全体として雰囲気堅かったと思います)特に受講者、相互の融和や、発言のこと等々。(何かと気苦労をされたことと思います。)しかし反面、これらのことが今後正式のよい資料にもなると思った次第です。

○ケース：025

山崎さんはじめ皆様に感謝致します。満足しています。ただTVの画面が小さく、席の後ろでは見えなかった事、大スクリーンでは鮮明でなかった事が少し不満です。

○ケース：026

大阪府が後援する姿勢が感じられた。(府立情報文化センターの職員の皆様に感謝します。)

○ケース：028

充分配慮頂いたと思いますが、再視聴設備だけが不十分だと思います。

○ケース：029

実験ビデオ講座につきこの程度で良かったと思う。

○ケース：031

とてもよかった。担当の方がとても親切でした。面接講義が二回ということは少ないけど、これ以上多くするとビデオ学習より直接講義を聞きたいとなるのではと思いました。

○ケース：033

とても良い環境で講座科無しで勉強させて頂き、申訳ないので、気持だけでも納めさせて頂きたいと思います。

○ケース：042

結構な運営と思います。より望みますと教室でのテレビの大型化がよい。

○ケース：043

受講者が社会人であるという点を考慮されて受講時間帯を午後6時30分以降に設けられたのは良かったと思います。又、集団視聴を種々の事情で視聴できなかった者に、個別視聴の制度を設けられたのはこの種講座では画期的な措置ではなかろうかと思います。

○ケース：046

運営は適当だったと思う

○ケース：054

講座はスムーズで感心しました。

○ケース：059

結構だったと喜んでおります。

○ケース：063

現代の方法でよい。講座の窓口が市の教育委員（中央公民館）で最適であった。

○ケース：077

はじめてということもあり、受け入れ側にも、私達の方にもいろいろと、とまどいがありました。慣れてくればとても能率の良い学習方法だと思います。

○ケース：080

運営は懇切丁寧であった。

受講者は一方交通であり、受講生と講師の間のディスカッション及びレポート提出などさらに緊密な学習方法を検討して頂きたい。

○ケース：083

適切と考える。

○ケース：099

一般的に言って良かったと思います。

○ケース：116

特にありません。池田市当局はよくやってくれたと思います。

○ケース：124

単に民間の営利目的の講座とは一線を画した格調のある姿勢を感じ、受講して本当に良かったと感謝しております。今回のように実験だけでなく、定期的の開講してほしいし、一度受講した者へはこれからも情報を提供してほしい。

○ケース：125

これらの企画は素晴らしい事と思います。急速に変化する社会の中で、それぞれの分野で行き詰まり、どうにもならない状態で長い間放置されているものがあります。例えば教育でいうならば「非行」「いじめ」「登校拒否」などがあり、教師も親も、社会もその解決の糸口をつかむまでには、「教育学」「児童・青年心理」「家庭教育」といった専門的分野の研究が必要です。放送大学という身近かで、誰でも自由に学習できる機会を設けられたことは、実に大きいと思います。

○ケース：134

満足しています。

○ケース：137

面接講義に一回欠席したと個別視聴中心だったことが理由で修了証をもらえず残念でした。

開講時には、個別視聴ではだめだという説明がなかったので大変不満です。本来の放送大学で



は、自宅で個別視聴という方法をとるわけだし、私自身の経験からグループの定時視聴より個別の方が、勉強しやすいと思います!!

○ケース：138

良かったと思う。

○ケース：139

・無理のないゆったりした雰囲気の中で進められていて、よかったと思っている。

○ケース：142

良好と思います。

○ケース：112

今のところわからない

●01-2 職員が親切でよかった

○ケース：018

地球と宇宙の講座は内容的に充実していた。地域社会学は放送教材に苦心のあとがみられた。運営について関係した方も御苦勞に謝意を表したい。受講は週2回にして2～3ヶ月で修了するのが望ましい。

○ケース：020

担当の職員が非常に懇切にお世話いただきました。

○ケース：031

とてもよかった。担当の方がとても親切でした。面接講義が二回ということは少ないけど、これ以上多くするとビデオ学習より直接講義を聞きたいとなるのではと思いました。

○ケース：034

・担当の方が毎回きちんと「今日は第○回目の講座です。唯今から始めます」と挨拶してからビデオがスタートしますので心の準備もでき、とても楽しく学ぶことができました。帰りにも「次は○日です」とおっしゃって下さいますので、再確認することで予習の時間も取れました。担当して頂きました方に心より御礼申し上げます。

○ケース：041

大阪府立文化情報センターの方々のお骨折りに感謝します。

○ケース：044

印刷教材（テキスト）と映像の関係に多少ズレが発見されたが、どのつど教材としてその日のテキストを後半になって当局が（要望に答えて）作成提供していただき大変役に立った。

（順て面位のものであった。後半には何にもなかった。（印刷教材以外））

○ケース：064

お世話して下さった方達に感謝致しております。

○ケース：110

職員の方の充分のご配慮に感謝しています。

○ケース：117

・世話役の配置、場所、TVの大きさ等視聴者に関係する。

・世話をする人の位置づけが重要。

○ケース：132

池田市の職員の方ご苦労さまでした。

(たどたどしく前後を解説しておられるのが好感あった)

○ケース：090

“係員”の人達にご配慮いただきたいと思います。

少なくとも自主的な学習グループづくりなど（できればよいと考えています）できるまでは単にビデオのスイッチを入れるひとではなく、運営そのもののリーダーシップの中継役になっていただければ。

### ●01-3 講座開講期間に関して

○ケース：018

地球と宇宙の講座は内容的に充実していた。地域社会学は放送教材に苦心のあとがみられた。運営について関係した方も御苦労に謝意を表したい。受講は週2回にして2～3ヶ月で修了するのが望ましい。

○ケース：081

・ビデオ2本をまとめて見るか、週2回にでもして期間を短くしてほしい。(単位取得が目標なら別)

○ケース：122

視聴時間が6：30からだったため、初めの10～15分位がみられない場合が多かった。1回に2度ビデオが見られればよかったと思う。(時間をずらせば45分間のテープなので可能だったと思う。)

○ケース：088

1、面接講義がすくなくすぎた。ビデオはみせっぱなしの一方通行になりがちになりますので、面接講義の時間をふやして対話の時間をもっと多くしてほしい。

2、この対策として地元の専門家の参加(講義)を考慮してほしい。

○ケース：124

単に民間の営利目的の講座とは一線を画した格調のある姿勢を感じ、受講して本当に良かったと感謝しております。

今回のように実験だけでなく、定期的の開講してほしいし、一度受講した者へはこれからも情報を提供してほしい。

○ケース：145

専門的と一般向と分けてほしい。

長く続くものであってほしい。

### ●01-4 出欠調べは簡略化を

○ケース：068

公民館の職員が、出欠プリントの配布、ビデオの操作をして頂いたが、自動改札の定期乗車券

の様なものを受講者に持たせ、出欠プリント等は機械化したらどうかと思います。

●01-5 申し込み窓口の一本化を

○ケース：069

尼崎では受講申込先は市内の各公民館となっていたが中央公民館に直接申込み様にするのが良いと思う。

●01-6 広報活動について

○ケース：010

私が出席した講座の受講者は耳成りの方が、公民館と関係のある人達の様に見えました。一般受講者が少なかったのか、この人達を集められたのか？不明ですが、もっと一般市民への前もっての情報をお願いしたいと思います。

○ケース：127

講座の学習内容が申込み前に少しでもわかっている方が有難い。

○ケース：133

最後の修了式の時、加藤先生のお話があることが事前に連絡されていなかったもので、欠席してしまい、大変おしいことをしました。

こういったこともていねいに連絡するなり事前のプリントに入れておいてほしかった。

○ケース：144

年度始めに早く予定を知らせてほしい。

●01-7 学習方法について（単位認定、質疑応答、ビデオ時間、現地見学希望等）

○ケース：004

事例を多くして頂き良かったと思いますが、やゝ進め方が無理している様に思います。

15回→20回位に願いたく思います。掘り下げて。

○ケース：011

- ・前項に記述した通りで、時間が不足していると思う。
- ・疑問ができたときに質疑応答が充分にできる工夫がほしい。
- ・知識を確実にする為の問題集及び解答集があれば尚よいと思う。

○ケース：027

「地域社会」については生徒が実態に直接触れる機会が設けられないでしょうか。将来の放送大学と関連するやも知れませんか。

○ケース：044

(2) この映像方式は今後主要都市（16万人口）にも展開し活用展開を求めて止みません。

○ケース：051

- (1) 講座補助者の質によって学習成果は大いに左右できるものの様。
- (2) ビデオのみで学習するのはむつかしいものと思う。
- (3) 他の科目（例えば基本基礎科学「宇宙と地球」の宇宙編）の印刷教材がぜひほしい。

○ケース：080

運営は懇切丁寧であった。

受講者は一方交通であり、受講生と講師の間のディスカッション及びレポート提出などさらに緊密な学習方法を検討して頂きたい。

○ケース：085

試験があってもいいから希望者には単位認定してほしい。

○ケース：095

折角の集団視聴なので地区担当職員にもう少し講座にふさわしい知識のある人をつけてほしい。結局、何の課題もなく視聴だけに終始して残念でした。

○ケース：098

ビデオの視聴時間が45分は短い。少なくとも60分ほしい。

○ケース：109

36, 37両方をお願いします。

ビデオ講座は45分間では少し短かすぎる。テキストの内容が充実している関係上か全部講義されていない様に思われた。

面接講義の回数を増してほしい。

小尾副学長の講義を魅せられた様に聴き入り感銘を受けました。二回来られる由、楽しみにして居ったが来られなくて残念でした。

○ケース：145

専門的と一般向と分けてほしい。

長く続くものであってほしい。

●01-8 チューターについて（よかった、チューターをつけてほしい等）

○ケース：005

毎回、ビデオ講座の前後にコーディネーターがいてくれてたいへんよかった。

○ケース：040

お世話して下さった係の先生はとても親切で気持ちのよい応対でスムーズに勉強できました。面接講義の際のスライドが初め正しく動きませんでした。受講者は皆、満足して15回目を終了したと思います。

○ケース：051

講座補助者の質によって学習成果は大いに左右できるものよう。

○ケース：058

視聴時間以外の補足説明の講義がよかったが、質問時間を含め、説明の時間が短かった。そこで今後補足説明に時間をとってほしい。

○ケース：073

講師に依るビデオ前の講義がよかった。

○ケース：078

ビデオの後に、担当の方がいくつかコメントを入れて下さり、よく勉強なさってるなど感心し

てたのですが、言葉尻がはっきりしなくて私は聞きとりにくく、残念でした。

○ケース：044

映像時間は2時間一杯の講義を求めて止みません。1時間30分～1時間で終り、補充として他の先生を講師とすることは内容にも格差があり、余り役に立たない感、代表的なのが景家庭研究所主任研究官（女先生）の講座は最低。今後お断わりしたい。意味ない。

○ケース：055

①面接を増して関西地域をもっと掘り下げてほしい。

②チュータの先生と懇談の機会をつくってほしい。今回は、質疑応答の時間が少なかった。

③現地見学を組込んでほしい。

○ケース：012

ビデオ受講のため質問ができない。疑問の点は表面で出し返答していただく様にしてはいかがですか？

○ケース：120

面接講義を増やしてほしい。

ビデオを見た後、質問に答えてくれる専門の方がいてほしかった。

○ケース：095

折角の集団視聴なので地区担当職員にもう少し講座にふさわしい知識のある人をつけてほしかった。結局、何の課題もなく視聴だけに終始して残念でした。

#### ●01-9 講座内容についての希望

○ケース：093

一般民間者の専門家の講座も入れてほしい。

○ケース：135

関西の漫才師、落語家ー桂米朝さんなどの出演で歴史などを語ってもらう。

#### ●●02 施設利用に関して

##### ●02-1 良かった

○ケース：007

設備も環境もよく楽しく勉強ができて非常に良かった。今後も参加したい。

##### ●02-2 施設面の配慮を（テレビの配置、大きさ等）

○ケース：023

場所によって筆記しにくい時もありました。

図書館での個別視聴は良かったと思います。

○ケース：025

山崎さんはじめ皆様に感謝致します。満足しています。ただTVの画面が小さく、席の後ろでは見えなかった事、大スクリーンでは鮮明でなかった事が少し不満です。

○ケース：030

・会場のビデオが非常に見にくかった。

○ケース：042

結構な運営と思います。より望みますと教室でのテレビの大型化がよい。

○ケース：044

映像は立派で魅力つけられるのものがあつた。ただ先生の音声は明確さを欠いて（所詮言葉にこごりが有る）低く迫力のないのが残念であつた。再生のふてぎわもあるでしょうが高齢者の多い耳の遠い人々には苦勞した。当事者の音量への関心の有無も関係あり。

○ケース：081

・ビデオ画面の見にくい席が多い（ふり向いたり、のぞきこむような）ので早めに出席していい席を確保した。

○ケース：117

- ・世話役の配置、場所、TVの大きさ等視聴者に関係する。
- ・どうしても老いた方が多いため、雰囲気は暗い。世話をする人の位置づけが重要。
- ・視聴場所について、部屋の大小、雰囲気、位置、条件等、大きく関係してくる。
- ・TVの大小は画像、スケール、迫力等大きく関係してくる。

### ●02-3 会場利用に関して

○ケース：081

・2カ所の会場、その日の都合で好きな方へ連絡なしで出席したい。出席印は各自持参のカードに押ししてもらえれば助かる。

### ●02-4 視聴形態について

○ケース：023

場所によって筆記しにくい時もありました。

図書館での個別視聴は良かったと思います。

○ケース：026

1. 定時視聴と個別視聴を併用してあり、利用しやすかつた。
2. 個別視聴したのは一度だけだつたが、定時視聴の方が私は集中できた。
3. 大阪府が後援する姿勢が感じられた。（府立情報文化センターの職員の皆様に感謝します。）

○ケース：043

受講者が社会人であるという点を考慮されて受講時間帯を午後6時30分以降に設けられたのは良かったと思います。又、集団視聴を種々の事情で視聴できなかった者に、個別視聴の制度を設けられたのはこの種講座では画期的な措置ではなかつたかと思つた。

○ケース：137

面接講義に一回欠席したと個別視聴中心だつたことが理由で修了証をもらえず残念でした。

開講時には、個別視聴ではだめだという説明がなかつたので大変不満です。本来の放送大学で

は、自宅で個別視聴という方法をとるわけだし、私自身の経験からグループの定時視聴より個別の方が、勉強しやすいと思います!!

○ケース：146

集団視聴の他に随時個別視聴ができ、やむなく欠席した時や、興味深かった箇所の復習に利用できたことは有難かった。

○ケース：028

充分配慮頂いたと思いますが、再視聴設備だけが不十分だと思います。

○ケース：030

- ・会場のビデオが非常に見にくかった。
- ・随時視聴もビデオが修理中とのことで数が少なく90分かけて出かけても、見られないことがあった。

### ●●03 開講条件について

#### ●03-1 開講時間について

○ケース：038

「地球と宇宙」講座は開講時刻が19：30となって居りますが、これがもう30分早まれば生活時間帯とうまく調整が取れたのです。尚「地球編」のみで終らせずせめて「宇宙編」のビデオなりと個別視聴希望者に見せて頂き度く思います。

○ケース：103

開始時間を30分遅らせてもらえれば、ありがたかった。

#### ●03-2 受講場所について

○ケース：037

講座の運営については初回でもあるし詳細については判らないがもっと近くの場所で（家又は勤務先より）受講できたらと思います。

○ケース：061

できるだけ居住地域と関連して運営してほしい。

#### ●03-3 その他

○ケース：066

一日も早く関西地区に放送大学が実現しますようにと希望しています。生涯をとおして学んでいく姿を多くの年配の方から教わったような気がしています。

○ケース：092

学ぶという事は、その重要な要素と摘む方法にあると思う。「青年老い易く学成りがたし」といい古された言葉を感じる時には、遅すぎた時である。頭脳の最も発達する年令に何に重点をおき学ぶかは、親や社会によりし向けられることが多いが、その時の状況と、受ける人が、社会人になる年令を計算し、いかに豊かな生活を送らせるかに重点がおかれているので、その人

が、老年になった時の変化は無関係と見なされている。このような考えが自己主体の社会を作り上げているし、又社会も同様なことしか求めていない。このような時に多忙な自己生活を終った頃、自己利益に関係なく、学ぶことができればその中から、すばらしい事実が発見されることもあると思うので期待する。

○ケース：126

関西地区でもぜひ、放送大学を受講できるよう、放送網を整備していただきたいと思います。

## ●●04 コミュニケーションに関して

### ●04-1 講師とのコミュニケーションについて

○ケース：080

受講者は一方交通であり、受講生と講師の間のディスカッション及びレポート提出などさらに緊密な学習方法を検討して頂きたい。

○ケース：088

1、面接講義がすくなくすぎた。ビデオはみせっぱなしの一方通行になりがちになりますので、面接講義の時間をふやして対話の時間をもっと多くしてほしい。

2、この対策として地元の専門家の参加（講義）を考慮してほしい。

### ●04-2 受講者どおしのコミュニケーションについて

○ケース：139

- ・無理のないゆったりした雰囲気の中で進められていて、よかったと思っている。
- ・世代の違う人々の意見や考え方の相違や個人々の見方、考え方をそれぞれが自由に話せる受け入れがあった。

○ケース：001

受講生同士、講義の内容について意見をかわしあえる時間をもうけてくれれば相互理解が深まったと思います。

○ケース：017

当地区で初めての試みとしては運営もうまく行われていたと思います。運営に当られた市当局の方々のお気づきは大変だったと存じ感謝の気持ちで一杯です。（唯ひとつ、全体として雰囲気が堅かったと思います）特に受講者、相互の融和や、発言のこと等々。（何かと気苦労をされたことと思います。）しかし反面、これらのことが今後正式（新校にて112）のよい資料にもなると思った次第です。

○ケース：019

視聴者同士の話し合いの場がなく、運営者の一工夫があったらと思います。

○ケース：024

せっかく集まっているのだから、自己紹介以外に何か交流の工夫がほしかった。

○ケース：086

職員の方が受講者同志の対話ができる様努力されてましたが、実現できなかったのは残念です。



無理なことではありましたが、大学当局と協議して工夫してみたいでしょうか。

○ケース：090

“係員”の人達にご配慮いただきたいと思います。

少なくとも自主的な学習グループづくりなど（できればよいと考えています）できるまでは単にビデオのスイッチを入れるひとはなく、運営そのもののリーダーシップの中継役になっていただければ。

○ケース：121

ビデオが終わったら、そのまま、帰宅し、話をする人は誰もいない。期待していたのに、淋しい半年でした。

○ケース：081

・初日の自己紹介や、最終日の感想など無用と思う。（時間の無駄）

○ケース：114

ビデオ視聴後、出席者で話合いが計画されていたのが、無理だと思う。講師が出席しての質疑応答ならよいが。

○ケース：097

大多数が老人で（私も老人ですが）活気がない。せっかくの機会がありながら、交流がない。できうれば若い人も一緒に学べるようになれば活気が出てよいと思う。

○ケース：117

・どうにも老いた方が多いため、雰囲気暗い。世話をする人の位置づけが重要。

○ケース：131

生涯学習の趣旨はわかるが、年齢に高い方が多いので活発な意見は出ず（居眠る人が多かった。）今少し活性化する方法がないものかと思った。

## ●●05 面接講義について

### ●05-1 楽しかった

○ケース：111

最終日の加藤先生の講義を楽しみにして参加させてもらいました。

とっても楽しい講義でうれしく思いました。

### ●05-2 早い時期に実施してほしい

○ケース：084

今回の実験ビデオ講座では、面接講座が開かれたのが遅く、もっと早い機会に受けておれば、ビデオ講座に対する、観点、視点もまた違ったものになっていたと思う。

### ●05-3 質疑応答の時間を設けて

○ケース：107

面接講義では質問時間を多くとり、それまでのビデオの疑問点を解消することや、関連した事

項の質問等に答える時間を設けてほしい。

●05-4 VTRとの関連

○ケース：141

前半のVTR、後半の交歓というネライであったようだが誰も何か期していても、生身の教員の講義でないので、VTRを見るにとどまってしまう、どうしようもなかった。

面接授業もVTRとかけはなれており、うまく機能しなかった。

●05-5 もっと増やしてほしい

○ケース：021

もう少し面接授業をゆとりを持って日数高くしてほしかったと思います。

○ケース：031

とてもよかった。担当の方がとても親切でした。面接講義が二回ということは少ないけど、これ以上多くするとビデオ学習より直接講義を聞きたいとなるのではと思いました。

○ケース：039

面接講義はもう1～2回増やした方がよいと思う。

○ケース：055

面接を増して関西地域をもっと掘り下げてほしい。

○ケース：074

月1回程度の担当講師の面接講義をいただければビデオ講座が更に充実すると思われる。

○ケース：082

面接講座の回数をふやしたらどうですか。

○ケース：087

面接講義を多くしてほしい。

○ケース：087

面接講義を多くしてほしい。

○ケース：093

面接講座の回数を多くし、一般民間者の専門家の講座も入れてほしい。

○ケース：102

面接講義の回数を増やしてほしい。

○ケース：109

面接講義の回数を増してほしい。

小尾副学長の講義を魅せられた様に聴き入り感銘を受けました。二回来られる由、楽しみにして居ったが来られなくて残念でした。

○ケース：113

面接講義を現在より2～3回程増してほしい。(定時集団視聴に際して)

○ケース：120

面接講義を増やしてほしい。

ビデオを見た後、質問に答えてくれる専門の方がいて欲しかった。

○ケース：149

面接講義の回数をできるだけ増やしてほしい。

ビデオとは、迫力が違うので力が入ります。

## ●●06 講座内容について

○ケース：050

“地域社会学”という学問は私は存じませんでした。農村社会学に対し都市社会学は考えられたが多少とまどいました。学域が漠然としてポイントが判らなかったのですが、講義が進むにつれ、漸く理解が持てました。確かに学際的学問としての意義も大きい大切な学問だと感じました。活きた学問です。これからの調査方法等を教えて下さい。

今回の衆議院選挙に当たっても、都市、農村等の段需編集も地域社会学の方法論の応用で面白い傾向を見い出されないものでしょうか。そんな夢を持つことができるだけでも私は勉強する意欲が出ます。

○ケース：057

今回の講座において、その当日講座に先きだって担当講師（秋元先生）の講座内容についての説明（講義）が大変わかりやすく、ビデオを見る上に効果がありました。また、鉱石化石の標本等もナマで見せていただき、大変参考になりました。

○ケース：060

36により了解してください。

（注：NO.36は、・「地球と宇宙」の宇宙編を視聴したいので御高配ください ・もう少し、映像メディアの特性を生かした講義方法を考えてほしい）

○ケース：071

数年前のビデオで現在との矛盾を感じた。

○ケース：101

細かく調査網を広げること（一人の先生が一人で北へ南へと走り回らなくても）民間層にこの網を広げて、センターでそれをまとめて編集しなおして放送して下さればいいと思います。時間がかかりすぎるのでしたら、第一集、第二集とできた順に出せばいいと思います。

○ケース：108

ビデオ視聴、印刷教材から学ぶので理解が早く得られる。困苦しい勉強という感覚から一歩離れて楽しく勉めるという意識をもった。ただ、ビデオ、印刷教材、面接講義と内容が三者三様で、聴講生として、それぞれの講義内容をまとめて、広い範囲の理解をしていく努力が必要である。試験があれば、何から出題があるのかなあという、学生時分のしんどい思いがよみがえる。

## 第4章 評価と議論

第4章では、これまで示してきた実験の実施過程における研究委員会の議論を報告すると同時に、そのもとに行なわれた各種評価調査の分析評価に関する分析評価委員会の議論がまとめられている。また、分析評価に関して、放送教育開発センターでの分析と並行して関西学院大学社会学部立木研究室が行なった分析も併せて報告されている。

### I 分析評価委員会報告

高坂健次 (関西学院大学教授)  
柳原佳子 (吉備国際大学助教授)  
立木茂雄 (関西学院大学助教授)

#### A 分析評価委員会の目的

分析評価委員会の目的は、①実験講座の評価を多面的に明らかにすると同時に、②大阪地区のニーズ特性を集まったデータからよみとることの2点であった。

#### B 構成・組織

委員会は本研究の研究委員会の下に、以下のような構成をもって組織された。

高坂健次 (関西学院大学教授・統括)  
柳原佳子 (吉備国際大学助教授)  
立木茂雄 (関西学院大学助教授)

以上に加えて、放送教育開発センターからは研究代表の山中速人(助教授)が加わった。

#### C まとめ

委員会は90年7月20日と10月30日の2回開催された。以下、委員会で討議検討された内容を要約し、報告したい。

##### 1 第1回分析評価委員会・報告(7月20日)

###### ① 「関西地区が発信機能を持つこと」「関西の特徴を生かした科目の開設」に関して

調査結果からは、首都圏と同格の発信機能を関西でも持ちたいという意見が強く表わされた。ただし、東京に対抗する関西中心のエゴイズムにのっとって主張するべきではなく、新しいメディアを通じた教育をする上でどれだけ全国的な立場から貢献するかという視点が大切であると判断された。

また、一方、関西の特徴を生かした講座を開くことについても、強い要望が認められた。

## ②分析の進め方

このような質的なニーズ調査の結果の傾向を考慮し、受講者質問紙調査の分析にあたっては、テレビの特性についての理解のあり方の差をもとにして、分析を進めるのが有効であろう。

設問中「テレビ番組なのだからもう少しおもしろくすべきだ」と回答した2割半の人達の基本的な特徴について分析をすすめ、さらに、それらの回答者が自由記述でどのように述べているか明らかにすることが必要であるという分析の方向性が与えられた。

さらに、今回の実験の対象者のかたよりを考慮して全体のニーズを推し量る必要がある。というのも、放送大学がつかみたい層とは、在職者（：在職訓練等をしたいため）と新卒者（：高校・大学卒業者）であるが、実際の日本の社会教育の現状がお年寄りのためのものに終わっているためにそこにしかアプローチできないでいる。また、電波が流れていないところでは放送大学に対して興味ももっていないという調査結果もでている。そのため放送大学がアプローチしたい層のニーズがつかみきれないでいるからである

その他、以下のような項目について分析を進めることが確認された。

- 年齢で切ってアイテム別にどのような意見を持っているかをみていくのもおもしろい
- 年齢と職業をクロスして、二重クロスの分類をするのもおもしろい
- 強制比較分類論：特定のアイテムを従属変数にして、そこにおける反応の差を最大にしてみる ;ex. 性差が最大になるようなオプションを導き出す
- 地区別のデータで必要なものはサービス・スタンダードの評価だけ
- 高いウエイトを与えられた反応パターンとその人の自由回答とを対照するとおもしろい

## ③ 放送大学の特徴について

さらに、委員会では、以下のような放送大学の特徴についても討議が行なわれた。

- 学位を出せることは意味が大きい。
- 中央集権的な体制を放送大学がもっているとしても、それを逆に利用してしまうような心構えがあれば地方での開校も問題はない。
- そのためには、就学年限、または単位の取り方をフレキシブルにすることが望ましい。

## 2 第2回分析評価委員会・報告（10月30日）

第2回では、別項にまとめた評価分析結果について、山中から報告が行なわれた。（内容については、別項に詳説しているのでここでは省略）

つぎに、立木委員から、双対尺度法を用いた分析の結果が報告された。

以下、立木委員の報告の内容を要約する。

### ① 立木委員の報告－双対尺度法による分析

特徴的なポイントを整理すると以下ようになる。

受講者の回答から受講者の放送大学の番組に対する2つの意見「放送大学も娯楽番組と同じと考える」と「放送大学はあくまで大学であり、娯楽番組とは違うと考える」に対応する2つのグループを双対尺度法を用いて析出した。以下は、それら2つのグループの特徴である。

	娯楽番組派 (39人)	大学講義派 (98人)
プロフィール	55歳以上 管理職 池田・尼崎に多い 通学時間は30分～1時間 「地域社会学」だけの人	20～40代 管理職 高学歴者 府立情報センターの受講者に多い 通学時間は30分以下 「地球と宇宙」或は両科目を受講
受講後の感想	番組が堅すぎて期待はずれ	肯定的
受講理由	視野を広げたり新しい知識を獲得したいとは思っていなかった	専門的な知識を身につけたい 日頃の不勉強を取り戻して新時代に 適応したい ：ニーズが先鋭で主体的な学習者
どこで知ったか	たまたま新聞や折込の広報紙を見て、 来てみようかという気持ちになった	私大から？教えられて参加した
生涯教育の経験	公民館などの講座にも参加したことはあまりない	積極的に大学の通信講座や公開講座 に参加している
関西に放送大学が開校したとき	自分とは関係ない	入学したい

これらの項目のなかでも、RJT値が高い項目は、24番の「教養を身につけたい」(0.5程度)であった。

したがって、結論としては、以下のような特徴を指摘することができる。

- ・満足した人は大学講義派である
- ・関西圏の人達の特性は娯楽講義派であり、関西で学習センターを造るときにはひとつの軸であるという仮説をたてたが、少なくともこの149名のデータから言えることは、番組の内容を娯楽番組に近づけるといことが、放送大学への参加や学習意欲を高めるモチベーションにつながらないということである。
- ・通学時間は30分以内であることが重要。
- ・今までにもこのような生涯教育の講座を受講したことがある人は、専門知識を身につけたいというような、強い動機をもっている人が多く、放送大学を肯定的に捉える傾向にある。

## ② 全体討論1－分析結果の検討

立木委員の報告のあと、全体での討議を行なった。以下は、その要約である。

- ・通学時間も満足度に影響するのだろうか。結果的には、大阪の情報センターの受講生は、職場から30分以内でこれる人が多かったようで、満足度も高かった大学講義派であった。自分の

仕事に役立てたいとか、専門の知識を得たいというようなキャリア志向が強い。一方、尼崎や池田の場合には通学には住まいからバスで、30分から1時間かかる人が多かったようで、不満を持っていた人が多く、娯楽番組派であった。

- ・府立情報センターでは大学の公開講座などが行われることが多く、いわゆる都心型の受講者が集まったようである。

- ・教育に対するニーズが高いのは40代の半ばまでの人達で、高学歴の人達がさらに継続教育のようなことをしたいという意向が見えてきた。そういう意味では、ターミナル都市、たとえば大阪北とか、南とか、神戸などの近いところに重点的に配置することが、ある意味で放送大学が求めている人達をピックアップする方策になると思う。

- ・やはり動機づけがもともと低い層は意識も低く、このデータからは教育に対するニーズも出てこない。

- ・不満足だった場合では、内容そのものよりも物理的な、「遠かった」とか「テレビが見にくかった」「時間帯が都合が悪かった」というようなこともかなりインパクトを与えている。ただ、この結果を普遍化できるかどうかは疑問である。

- ・娯楽志向の人達はどちらかという、情報志向ではなくて、人間志向。大学講義派は、知識と出会いに来ているが、娯楽志向の人達は、知識とうまくコンタクトできなかった結果かもしれないが、どちらかといえば人間に執着する傾向がある。

- ・しかし娯楽派でも、受講理由の中で新しい友人に出会いたいというような志向はあまりみられない。

- ・広報紙を見てきた人達の中に、娯楽派が多く、ビラとかチラシを見てきた人達は、講義派タイプが多かったが、情報源というのは、あまり関係ないようだ。

- ・主婦や管理職には、大学講義派が多いという傾向がみられる。主婦の学歴は大卒が50パーセントで、かなり高学歴であった。

- ・教育が何をするかというと、ひとつは教育ニーズを活性化するということである。今までの知識に補完したいというときに、単なるカルチャーセンターとか市民大学とかそういう所ではなくて、資格とか、単位を正式に認定してもらえるところを求めている。

- ・だから放送大学では、「教養学士」というレベルではなくて、もっと専門科目をやるべきであるのかもしれない。というのは、今回の受講者には、あきらかに専門的な知識を身につけて、学問を深めたいという意向がみられたからである。

- ・したがって、その方法は二つに分かれる。一つは映像を使った専門教育で、企業研修や大学院のゼミに組み込んでいく実験が可能だろう。もう一つは、これからはもっとニーズが高くなって、高年齢者に対する生涯学習や生きがいを見いだすための情報提供である。放送大学としてはどちらの方向をとるのか。

### ③ 全体討議2－その他の意見

分析結果の検討をうけて、今後の関西地域における放送大学の展開について、さまざまな意見が出された。以下は、その要約である。

・どの学問でもそうだが、学習には積み重ねが必要である。単に専門性とか、教養とか、情報とかの問題ではない。年齢的な問題ではなく、積み重ねが必要であることを認識してもらうことが大切であろう。それは過去の教育経験の中でおそらく得られなかったものである。しかし、現在の最大の問題はカリキュラムが整備されていないことだろう。たとえば、「発達心理学」という科目があったとしても、その先生にきいてもどんな科目がどういう順番で学習される必要があるのかということはわからないといわれる。こういう研究は少なく、今後の課題であろう。認識の段階として何を積み上げていかなくはいけないかということが、いちばん大切なのである。ある意味で、学習において最も大切なことは、「おもしろいか、おもしろくないか」ではなくて、ある学問をするために、その前段階として何が必要かということ、学習を提供する方も受ける方もきちっと押えておくことだ。そうしないと、おそらく学習の効果は大きくは伸びないだろう。教育というものは、ある程度我慢を強いるような部分がないことには理解できないものでもある。たとえば現役の学生に放送大学の科目を受けてもらって、効果がどういうふうに現われてくるのかを調査できるといい。映像を使うことの意義や効果を純粋に測る方法を開発する必要があるのではないだろうか。

・関西でのやり方として、単位互換のような形で、大学の一般教育にプラスして放送大学のビデオを買うようないき方が、ひとつの方法だろう。

・極端に言えば、在宅大学教育ということで、ビデオをダビングして、自宅で学習できるようにするといいのかもしれない。アウトプットがしっかりしていれば、貸し出しも可能になるはずである。

・提供できる教育の質の問題に関係するから、放送大学のビデオを使うかどうかの判断は大学側に任せ、可能なところからやっていってはどうか。

・単位を認めるという方向で、初めは小規模で始めてみたらどうか。

・一般の人に広くあまねく、というのはターゲットが違うと思う。少なくともこのデータでは、放送大学が存在する意味を生かせないように思う。

・普通の大学と単位を互換するというような交流をして、その交流によって大学を開いていければいいと思う。

・放送大学がやるべきことは、地域にある場所を使って資源みたいなものを提供すること。地域の人々に開いていくかどうかはその大学に任せていい。

・私立の大学でも、非常勤を雇わずにビデオを買いたいところもあるだろう。

・ビデオメディアで単位を取る学生のために、コーディネーターのような人をひとり雇って、この人が学生のためのアドバイザーとかアテンダントのような役割を果たしていけるといい。今は一科目にひとりの講師をつけているが、そういうアドバイザー的な人をひとり雇えば、もっと広がると思う。

・放送大学では、別の大学で取った単位を認めていて、短大を卒業してきた人が放送大学で残りの単位を取って、四年制の大学生として卒業していく人もいる。単位の互換が可能になれば、お互いにメリットがあると思う。

・むしろ国立よりも私立でそういう試みをする方が意味があるし、問題が切実だと思う。



## Ⅱ 学習者の放送教育に対する意識による学習行動および評価の構造

——大阪地区実験ビデオ講座受講者に対する評価調査の双対尺度法による分析——

立木茂雄（関西学院大学社会学部助教授・放送教育開発センター客員教官）

### A 分析のねらいと手法

149名の番組評価者のうち、質問31で放送大学の番組評価を、娯楽番組と同様の基準で行うと答えた者（A意見、娯楽番組派）と、講義なのだから娯楽番組とは別の基準を用いると答えた者（B意見、大学講義派）の2群について、その態度差の判別に関連する項目について単変量および多変量の探索的分析を行った。

「娯楽番組派」、は質問31で「A意見に賛成」および「どちらかといえばA意見に賛成」と答えた39名、「大学講義派」は同じ質問で「B意見に賛成」および「どちらかといえばB意見に賛成」と答えた98名である。なお、本分析では「大学講義派」に「どちらかといえばB意見に賛成」の者も加えている。

分析はまず第一に質問31の回答を基準変数として、単変量のクロス集計を行った。続いて、同様のデザインで双対尺度法による多変量解析を行った。この際、質問31の反応差が最大となるように項目および受講者のウェイトを求めた（i.e., 強制企画分類法を実行した）。なお双対尺度法の分析では、質問31で「どちらともいえない」と答えた7名と未回答の5名の合計12名は、質問31の回答に関してのみ欠損値扱いにしている。

### B 分析結果の概要

「大学講義派」の特徴をまとめると、年齢は20代・30代、地域比較をあえてすれば尼崎市よりは大阪府立文化情報センター受講者に特有に見られ、会場まで来るのに要する時間は30分以下である。受講科目としては、「地球と宇宙」あるいはそれと「地域社会学」の両方を受講した。職業では、管理職が典型で、いわゆる高学歴者である。この人達は、おしなべて、今回のビデオ講座に対して肯定的な感想を持っている。受講理由では、むろん教養を身につけたり余暇の有効利用といったこともないではないが、むしろこの分野の専門的知識を身につけ、日頃の不勉強を取り戻して、新時代に適応したいといった動機の方が強い。そのため、ビデオ講座とはいえあくまで「大学の講義」らしい深みのある内容の授業を期待しており、そこから自分なりに考えるヒントでも得られればと思っていた。今回の講座は、知り合いから教えられて参加したのだが、テレビ・ラジオやビラ・ちらしの類で知り参加した人もいる。また、これまでも積極的に大学の公開講座や通信教育、あるいは専門学校などを利用したことがあるのも「大学講義派」の特色である。最後に、もし、放送大学が関西にも進出したら、入学してみたいという気持ちはある。

「娯楽番組派」が特徴的に見られるのは、年齢でいうと55才以上で、今回の会場でいうと

大阪府立文化情報センターではあまり見かけるタイプではない。会場までの距離でいうと、1時間もかかることはないが、30分では来られない地域から来ている。受講科目としては、「地域社会学」のみの受講者に目だつ。職業的にはあまり大差はない。今回のビデオ講座であるが、基本的には番組が「お固く」で少々期待がはずれたという感じだ。教養だとかこの分野の専門的知識を勉強したいといった気持ちは薄かった。視野を広げたり、新しい知識を獲得したりといったことははなから考えていなかった。たまたま新聞や折込の広報誌を読んでいて、来てみようかという気になったのだ。これまで、公民館などでやっている講座に参加したこともあまりない。結論として、今回のビデオ講座には満足しなかった。そのうち、会場が通うのに不便であったり、時間帯が自分にとって都合が悪かったり、テレビの画面が見にくかったといった理由もかなり不満の原因としては大きい。ともかくこのような講座は、ひとに勧めようとは思わない。最後に、もし放送大学が関西にも進出したからといって、それがなんやねんという気持ちである。

C 分析データの詳細

1 クロス集計による単変量解析

基準変数	Q31	Frequency	Percent	Cumulative Frequency	Cumulative Percent
A 意見：娯楽派	1	39	27.1	39	27.1
?	2	7	4.9	46	31.9
B 意見：講義派	3	98	68.1	144	100.0

Frequency Missing = 5

TABLE OF SEX BY Q 31

SEX	Q 31			Total	
	A 娯楽派	1	2		B 講義派
Frequency					
Percent					
Row Pct					
Col Pct					
1	28	5	67	100	
	19.44	3.47	46.53	69.44	
	28.00	5.00	67.00		
男	71.79	71.43	68.37		
2	11	2	31	44	
	7.64	1.39	21.53	30.56	
	25.00	4.55	70.45		
女	28.21	28.57	31.63		
Total	39	7	98	144	
	27.08	4.86	68.06	100.00	

Frequency Missing = 5

TABLE OF AGE BY Q 31

AGE	Q 31			Total
	A		B	
Frequency	1	2	3	
Percent				
Row Pct				
Col Pct	娛樂派		講義派	
1	1	2	2	5
	0.70	1.40	1.40	3.50
	20.00	40.00	40.00	
2 4才以下	2.56	28.57	2.06	
2	2	0	6	8
	1.40	0.00	4.20	5.59
	25.00	0.00	75.00	
2 5 ~ 3 4才	5.13	0.00	6.19	
3	6	1	20	27
	4.20	0.70	13.99	18.88
	22.22	3.70	74.07	
3 5 ~ 4 4才	15.38	14.29	20.62	
4	6	2	12	20
	4.20	1.40	8.39	13.99
	30.00	10.00	60.00	
4 5 ~ 5 4才	15.38	28.57	12.37	
5	24	2	57	83
	16.78	1.40	39.86	58.04
	28.92	2.41	68.67	
5 5才以上	61.54	28.57	58.76	
Total	39	7	97	143
	27.27	4.90	67.83	100.00

Frequency Missing = 6

TABLE OF AREA BY Q 31

AREA	Q 31			Total	
	A		B		
Frequency	1	2	3		
Percent					
Row Pct					
Col Pct	娯楽派		講義派		
大阪府府立文化情報センター	1	5	2	16	23
		3.47	1.39	11.11	15.97
		21.74	8.70	69.57	
		12.82	28.57	16.33	
池田市	2	23	4	54	81
		15.97	2.78	37.50	56.25
		28.40	4.94	66.67	
		58.97	57.14	55.10	
尼崎市	3	11	1	28	40
		7.64	0.69	19.44	27.78
		27.50	2.50	70.00	
		28.21	14.29	28.57	
Total	39	7	98	144	
	27.08	4.86	68.06	100.00	

Frequency Missing = 5

TABLE OF DSTNC BY Q 31

DSTNC		Q 31					
Frequency		A		B			
Percent							
Row Pct							
Col Pct		娯楽派	1	2	講義派	3	Total
1		11		1	31		43
		7.75		0.70	21.83		30.28
		25.58		2.33	72.09		
1 5分未満		28.95		14.29	31.96		
2		8		3	27		38
		5.63		2.11	19.01		26.76
		21.05		7.89	71.05		
1 5 ~ 3 0分未満		21.05		42.86	27.84		
3		11		0	21		32
		7.75		0.00	14.79		22.54
		34.38		0.00	65.62		
3 0 ~ 4 5分未満		28.95		0.00	21.65		
4		4		2	9		15
		2.82		1.41	6.34		10.56
		26.67		13.33	60.00		
4 5 ~ 1時間未満		10.53		28.57	9.28		
5		4		1	9		14
		2.28		0.70	6.34		9.86
		28.57		7.14	64.29		
1時間以上		10.53		14.29	9.28		
Total		38		7	97		142
		26.76		4.93	68.31		100.00

Frequency Missing = 7

TABLE OF SUBJECTS BY Q 31

SUBJECTS	Q 31			Total
	A		B	
Frequency	1	2	3	
Percent				
Row Pct				
Col Pct	娯楽派		講義派	
1	20	3	37	60
	13.89	2.08	26.69	41.67
	33.33	5.00	61.67	
「地域社会学」だけ	51.28	42.86	37.76	
2	14	2	43	59
	9.72	1.39	29.86	40.97
	23.73	3.39	72.88	
「地球と宇宙」だけ	35.90	28.57	43.88	
3	5	2	18	25
	3.47	1.39	12.50	17.36
	20.00	8.00	72.00	
両科目とも	12.82	28.57	18.37	
Total	39	7	98	144
	27.08	4.86	68.06	100.00

Frequency Missing = 5

TABLE OF JOB BY Q 31

JOB	Q 31			Total	
	Frequency	Percent			
Row Pct	A		B		
Col Pct	娯楽派	1	2	講義派	3
管理職	1	3	1	13	17
		2.08	0.69	9.03	11.81
		17.65	5.88	76.47	
		7.69	14.29	13.27	
専門職	2	6	1	12	19
		4.17	0.69	8.33	11.11
		31.58	5.26	63.16	
		15.38	14.29	12.24	
販売 サービス 事務	3	5	1	10	16
		3.47	0.69	6.94	11.11
		31.25	6.25	62.50	
		12.87	14.29	10.20	
自営	5	1	0	3	4
		0.69	0.00	2.08	2.78
		25.00	0.00	75.00	
		2.56	0.00	3.06	
自由業	6	0	0	1	1
		0.00	0.00	0.69	0.69
		0.00	0.00	100.00	
		0.00	0.00	1.02	
専業主婦	7	6	1	16	23
		4.17	0.69	11.11	15.97
		26.09	4.35	69.57	
		15.38	14.29	16.33	
学生	8	0	1	0	1
		0.00	0.69	0.00	0.69
		0.00	100.00	0.00	
		0.00	14.29	0.00	
年金生活者	9	17	1	43	61
		11.81	0.69	29.86	42.39
		27.87	1.64	70.49	
		43.59	14.29	43.88	
その他	10	1	1	0	2
		0.69	0.69	0.00	1.39
		50.00	50.00	0.00	
		2.56	14.29	0.00	
Total		39	7	98	144
		27.08	4.86	68.06	100.00

Frequency Missing = 5



TABLE OF EDUCAT BY Q 31

EDUCAT		Q 31			
Frequency		A		B	
Percent		1	2	3	
Row Pct					
Col Pct		娯楽派		講義派	Total
1		4	0	7	11
		2.78	0.00	4.86	7.64
		36.36	0.00	63.64	
小学校・新制中卒		10.26	0.00	7.14	
2		13	3	32	48
		9.03	2108	22.22	33.33
		27.08	6.25	66.67	
旧制中学・新制高		33.33	42.86	32.65	
3		20	4	57	81
		13.89	2.78	39.58	56.25
		24.69	4.94	70.37	
旧制高校・大卒		51.28	57.14	58.16	
4		2	0	2	4
		1.39	0.00	1.39	2.78
		50.00	0.00	50.00	
その他		5.13	0.00	2.04	
Total		39	7	98	144
		27.08	4.86	68.06	100.00

Frequency Missing = 5

TABLE OF Q 32 BY Q 31

Q 32  
ビデオ講座の満足度

Q 31

Frequency Percent Row Pct Col Pct	A		B		Total
	娯楽派 1	2	講義派 3		
1	30	6	87		123
	20.83	4.17	60.42		85.42
	24.39	4.88	70.73		
不満足	76.92	85.71	88.78		
2	9	1	11		21
	6.25	0.69	7.64		14.58
	42.86	4.76	52.38		
満足	23.08	14.29	11.22		
Total	39	7	98		144
	27.08	4.86	68.06		100.00

Frequency Missing = 5

TABLE OF Q 34 BY Q 31

Q 34  
他人にも勧めるか

Q 31

Frequency Percent Row Pct Col Pct	A		B		Total
	娯楽派 1	2	講義派 3		
1	35	7	90		132
	24.31	4.86	62.50		91.67
	26.52	5.30	68.18		
勧めない	89.74	100.00	91.84		
2	4	0	8		12
	2.78	0.00	5.56		8.33
	33.33	0.00	66.67		
勧める	10.26	0.00	8.16		
Total	39	7	98		144
	27.08	4.86	68.06		100.00

Frequency Missing = 5

TABLE OF Q 35 BY Q 31

Q 35		Q 31				
放送大学への入学希望		A		B		
Frequency	Percent	1	2	3	Total	
Row Pct	Col Pct	娯楽派		講義派		
1	5	2	17	24		
	3.57	1.43	12.14	17.14		
卒業資格めざして入学	20.83	8.33	70.83			
	13.16	28.57	17.89			
2	23	4	63	90		
	16.43	2.86	45.00	64.29		
関心ある科目だけ正式に受講	25.56	4.44	70.00			
	60.53	57.14	66.32			
3	8	1	15	24		
	5.71	0.71	10.71	17.14		
正式に受講登録のつもりなし	33.33	4.17	62.50			
	21.05	14.29	15.79			
4	2	0	0	2		
	1.43	0.00	0.00	1.43		
視聴も登録もしない	100.00	0.00	0.00			
	5.26	0.00	0.00			
Total	38	7	95	140		
	27.14	5.00	67.86	100.00		

Frequency Missing = 9

2 双対尺度法による多変量解析分析結果

SQUARED CORRELATION RATIO = 0.1798

MAXIMUM PRODUCT-MOMENT CORRELATION = 0.4240

DELTA (RATIO OF THE ETA SQUARE TO THE TRACE) :

PARTIAL = 12.99 ; CUMULATIVE = 12.99

NUMBER OF ITERATIONS = 32

RELIABILITY COEFFICIENT ALPHA = 0.9227

PERCENTAGE CONSISTENCY = 17.98

分類基準となる項目の番号 : 1(Q 31)

強制企画分類のための重みづけ : 10.

		NORMED WEIGHTS				
Q 3 1.	1 1	3.0623	1.2985		「面白くてためになる」	
	1 2	0.0	0.0			
	1 3	-1.2712	-0.5390		「内容重視」	
性別	2 1	0.0666	0.0283		男	
	2 2	-0.1190	-0.0504		女	
年齢	3 1	-0.1500	-0.0636		2 4 才以下	
	3 2	-0.7245	-0.3072		2 5 ~ 3 4 才	
	3 3	-0.4815	-0.2042		3 5 ~ 4 4 才	
	3 4	-0.2184	-0.0926		4 5 ~ 5 4 才	
	3 5	0.2852	0.1209		5 5 才以上	
地区	4 1	-0.2443	-0.1036		大阪府府立文化情報センター	
	4 2	-0.0327	-0.0139		池田市	
	4 3	0.2308	0.0979		尼崎市	
距離	5 1	-0.4205	-0.1783		1 5 分未満	
	5 2	-0.3560	-0.1509		1 5 ~ 3 0 分未満	
	5 3	0.4692	0.1990		3 0 ~ 4 5 分未満	
	5 4	0.0911	0.0386		4 5 ~ 1 時間未満	
	5 5	0.7372	0.3126		1 時間以上	
科目	6 1	0.3387	0.1436		「地域社会学」だけ	
	6 2	-0.1809	-0.0767		「地球と宇宙」だけ	
	6 3	-0.3069	-0.1301		両科目とも	
職業	7 1	-0.7196	-0.3051		管理職	
	7 2	-0.0147	-0.0062			
	7 3	-0.2181	-0.0925			

	7	4	0.0	0.0	
	7	5	0.0374	0.0158	
	<7	6	-2.7567	-1.1689	自由業>
	7	7	-0.2454	-0.1041	専業主婦
	7	8	0.0	0.0	
	7	9	0.2746	0.1164	年金生活者
	<7	10	3.7410	1.5863	その他（1ケース）>
学歴	8	1	0.5871	0.2490	小学校・新制中卒
	8	2	0.1599	0.0678	旧制中学・新制高卒
	8	3	-0.3237	-0.1373	旧制高校・大卒
	8	4	3.0773	1.3048	その他
Q 2 1.	9	1	0.3068	0.1301	
事前 P R	9	2	-0.6326	-0.2682	P R 十分
	10	1	0.1804	0.0765	
	10	2	-0.2785	-0.1181	広報効果的
Q 2 2.	11	1	1.6122	0.6836	
教室	11	2	-0.3673	-0.1557	通うのに便利
	12	1	1.6815	0.7130	
	12	2	-0.2650	-0.1124	学習によい環境
Q 2 3.	13	1	0.7757	0.3289	
オリエンテーション	13	2	-0.3238	-0.1373	学習方法理解に役立つ
	14	1	0.7111	0.3015	
	14	2	-0.5349	-0.2268	科目内容理解に役立つ
	15	1	0.8437	0.3577	
	15	2	-0.5841	-0.2477	やる気を起こさせるのに役立つ
Q 2 4.	16	1	0.7381	0.3130	
曜日・時間帯	16	2	-0.1861	-0.0789	曜日適切
	17	1	1.5144	0.6421	
	17	2	-0.4833	-0.2049	時間適切
Q 2 5.	18	1	1.2614	0.5349	
集団視聴教室	18	2	-0.2985	-0.1266	画面見やすい
	19	1	1.4973	0.6349	
	19	2	-0.4963	-0.2104	座席配置適切
Q 1 0.	20	1	0.1379	0.0585	
受講理由	20	2	-0.5938	-0.2518	仕事のため
	21	1	0.7391	0.3134	
	21	2	-1.3340	-0.5656	専門的知識
	22	1	1.7035	0.7223	

	22	2	-0.4641	-0.1968	自分の関心のある分野
	23	1	1.4053	0.5959	
	23	2	-0.4650	-0.1972	勉強が好き
	24	1	1.9748	0.8373	
	24	2	-0.7091	-0.3007	教養を身につけたい
	25	1	0.7750	0.3286	
	25	2	-0.9243	-0.3919	新時代に適応したい
	26	1	0.5220	0.2213	
	26	2	-0.8785	-0.3725	新たな可能性の挑戦
	27	1	0.6116	0.2593	
	27	2	-1.0994	-0.4662	不勉強をとりもどしたい
	28	1	0.8355	0.3543	
	28	2	-0.7943	-0.3368	余暇を有効に利用
	29	1	0.1188	0.0504	
	29	2	-0.6601	-0.2799	新しい友人
	30	1	0.0656	0.0278	
	30	2	-0.3799	-0.1611	一緒に学習する人がいた
	31	1	1.6728	0.7093	
	31	2	-0.5987	-0.2539	放送大学に興味があった
	32	1	0.0216	0.0092	
	32	2	-0.0893	-0.0379	周囲からすすめられた
	33	1	1.2029	0.5100	
	33	2	-0.6198	-0.2628	生涯学習の一助
	34	1	1.8209	0.7721	
	34	2	-0.4163	-0.1765	科目への興味
Q 1 1.	35	1	2.8054	1.1895	
期待したもの	35	2	-0.5035	-0.2135	視野の広がり
	36	1	1.6634	0.7053	
	36	2	-0.8625	-0.3657	学問的な深み
	37	1	1.9878	0.8429	
	37	2	-0.6381	-0.2706	学ぶことの楽しさ
	38	1	0.5911	0.2506	
	38	2	-0.9393	-0.3983	大学の講義の雰囲気
	39	1	1.4457	0.6130	
	39	2	-0.8464	-0.3589	モノを考えるヒント
	40	1	0.4195	0.1779	
	40	2	-0.6212	-0.2634	ふれあい
	41	1	2.3787	1.0086	

	41	2	-0.4021	-0.1705	新しい知識の獲得
Q 1 2.	42	1	0.1122	0.0476	新聞
情報源	43	1	-0.1679	-0.0712	テレビ・ラジオ
	44	1	0.1685	0.0715	広報誌
	45	1	-0.0705	-0.0299	掲示版
	46	1	-0.1618	-0.0686	ビラ・ちらし
	47	1	-0.0920	-0.0390	職員
	48	1	-1.1849	-0.5024	友人・知人
	49	1	1.6966	0.7194	その他
Q 1 3.	50	1	0.5996	0.2542	
他の学習機会	50	2	-0.6335	-0.2686	NHKなどの放送教育講座
	51	1	0.1626	0.0690	
	51	2	-1.8189	-0.7713	専修・各種学校
	52	1	0.1218	0.0516	
	52	2	-0.8191	-0.3473	通信教育(高校レベル)
	53	1	0.1700	0.0721	
	53	2	-1.3527	-0.5736	通信教育(大学レベル)
	54	1	0.3613	0.1532	
	54	2	-0.6389	-0.2709	カルチャー・センター
	55	1	0.5419	0.2298	
	55	2	-1.1028	-0.4676	大学公開講座
	56	1	0.7360	0.3121	
	56	2	-0.4642	-0.1968	自治体社会・生涯教育講座
	57	1	0.3087	0.1309	
	57	2	-0.6582	-0.2791	自主的学習サークル
Q 3 2.	58	1	-0.2225	-0.0943	満足した
満足	58	2	1.4218	0.6029	
Q 3 4.	59	1	-0.1381	-0.0586	はい
受講勧めるか	59	2	1.6042	0.6802	
Q 3 5.	60	1	-0.6791	-0.2879	卒業資格めざして入学
拡大入学	60	2	-0.2461	-0.1043	関心ある科目だけ正式に受講
	60	3	0.5202	0.2206	正式に受講登録のつもりなし
	<60	4	3.4684	1.4707>	視聴も登録もしない

3 アイテム・トータル相関：R(JT)は、当該の項目が質問3 1のA意見(娯楽番組派)対B意見(大学講義派)の判別にどの程度関連しているかを示す。

ITEM(J)	SS(J)	R2(JT)	R(JT)	ITEM(J)	SS(J)	R2(JT)	R(JT)
1	524.08	0.6683	0.8175	31	143.61	0.1831	0.4279
2	1.06	0.0013	0.0367	32	0.19	0.0002	0.0154
3	18.16	0.0232	0.1522	33	106.63	0.1360	0.3687
4	3.64	0.0046	0.0681	34	109.45	0.1396	0.3736
5	27.95	0.0356	0.1888	35	203.57	0.2596	0.5095
6	10.94	0.0139	0.1181	36	204.76	0.2611	0.5110
7	36.83	0.0470	0.2167	37	181.86	0.2319	0.4815
8	51.50	0.0657	0.2562	38	78.39	0.1000	0.3162
9	27.14	0.0346	0.1860	39	174.52	0.2225	0.4717
10	7.01	0.0089	0.0945	40	36.74	0.0469	0.2165
11	85.69	0.1093	0.3306	41	138.38	0.1765	0.4201
12	65.12	0.0830	0.2882	42	17.29	0.0221	0.1485
13	36.26	0.0462	0.2150	43	1.87	0.0024	0.0488
14	54.24	0.0692	0.2630	44	4.02	0.0051	0.0716
15	70.31	0.0897	0.2994	45	2.79	0.0036	0.0597
16	20.23	0.0258	0.1606	46	1.19	0.0015	0.0390
17	105.26	0.1342	0.3664	47	3.24	0.0041	0.0643
18	54.71	0.0698	0.2641	48	9.57	0.0122	0.1105
19	106.81	0.1362	0.3691	49	208.22	0.2655	0.5153
20	11.04	0.0141	0.1186	50	53.89	0.0687	0.2621
21	139.22	0.1775	0.4213	51	39.86	0.0508	0.2254
22	113.87	0.1452	0.3810	52	13.26	0.0169	0.1300
23	94.02	0.1199	0.3462	53	31.12	0.0397	0.1992
24	200.48	0.2556	0.5056	54	32.42	0.0413	0.2033
25	101.52	0.1295	0.3598	55	84.14	0.1073	0.3276
26	64.65	0.0824	0.2871	56	48.86	0.0623	0.2496
27	94.84	0.1209	0.3478	57	28.40	0.0362	0.1903
28	94.29	0.1202	0.3467	58	46.47	0.0593	0.2434
29	10.44	0.0133	0.1154	59	33.36	0.0425	0.2063
30	3.13	0.0040	0.0632	60	71.73	0.0915	0.3024



- 4 受講者スコア：正の方向は「放送大学の番組も他の娯楽と同様に評価」、負の方向は「放送大学は講義で娯楽番組とは別に評価」を示す。

1	1.6388	0.6909	51	-0.9337	-0.3937	101	0.5533	0.2333
2	-0.7962	-0.3357	52	-0.7549	-0.3183	102	1.6459	0.6940
3	-1.1470	-0.4836	53	0.4688	0.1976	103	-0.4695	-0.1980
4	-0.3938	-0.1660	54	-0.3719	-0.1568	104	0.9096	0.3835
5	0.5060	0.2133	55	-0.6469	-0.2727	105	-0.3284	-0.1385
6	-0.3172	-0.1337	56	0.9703	0.4091	106	-0.6219	-0.2622
7	-1.2069	-0.5088	57	0.6580	0.2774	107	1.5920	0.6712
8	2.7718	1.1686	58	-0.9568	-0.4034	108	-0.6350	-0.2677
9	0.9008	0.3798	59	0.8879	0.3743	109	0.5312	0.2240
10	-0.3578	-0.1508	60	-0.0428	-0.0180	110	-0.7245	-0.3055
11	-0.7799	-0.3288	61	-0.8087	-0.3409	111	-0.3039	-0.1281
12	0.9076	0.3827	62	-0.9201	-0.3879	112	2.1513	0.9070
13	0.4202	0.1771	63	-1.1130	-0.4693	113	1.3275	0.5597
14	-0.5686	-0.2397	64	-0.9500	-0.4005	114	-0.2697	-0.1137
15	0.7948	0.3351	65	-0.7993	-0.3370	115	-0.5509	-0.2323
16	-1.1603	-0.4892	66	-1.2669	-0.5341	116	-0.4172	-0.1759
17	-0.4796	-0.2022	67	1.3535	0.5707	117	1.7668	0.7449
18	0.0168	0.0071	68	-1.1008	-0.4641	118	0.3325	0.1402
19	-1.1205	-0.4724	69	-0.4428	-0.1867	119	-0.5263	-0.2219
20	-0.7267	-0.3064	70	1.6225	0.6841	120	0.8529	0.3596
21	1.1596	0.4889	71	2.2397	0.9443	121	-0.7081	-0.2985
22	-0.6346	-0.2676	72	-0.7836	-0.3304	122	-0.5955	-0.2511
23	-0.8427	-0.3553	73	-0.7115	-0.3000	123	2.3477	0.9898
24	-0.5014	-0.2114	74	-0.9936	-0.4189	124	-0.7699	-0.3246
25	0.0283	0.0119	75	-0.6161	-0.2597	125	-0.7089	-0.2989
26	-1.1939	-0.5034	76	-0.6627	-0.2794	126	-0.8479	-0.3575
27	-0.2962	-0.1249	77	-1.1375	-0.4796	127	-0.7801	-0.3289
28	-1.0848	-0.4574	78	1.6089	0.6784	128	0.5083	0.2143
29	0.4907	0.2069	79	-0.0795	-0.0335	129	1.9248	0.8115
30	1.9958	0.8414	80	1.0028	0.4228	130	1.0107	0.4261
31	-1.1712	-0.4938	81	1.2083	0.5094	131	-0.8217	-0.3464
32	-0.7885	-0.3324	82	-1.0333	-0.4357	132	-0.4452	-0.1877
33	-0.6435	-0.2713	83	-0.6152	-0.2594	133	-0.9226	-0.3890
34	-0.3931	-0.1657	84	-0.6850	-0.2888	134	-0.9532	-0.4019
35	0.6689	0.2820	85	-1.0990	-0.4633	135	-0.5405	-0.2279

36	-0.4684	-0.1975	86	0.7896	0.3329	136	1.5382	0.6485
37	-0.0211	-0.0089	87	0.9131	0.3850	137	-0.1366	-0.0576
38	0.1608	0.0678	88	-0.6525	-0.2751	138	2.3402	0.9867
39	-0.6880	-0.2901	89	0.9493	0.4002	139	-1.1353	-0.4786
40	-1.0382	-0.4377	90	-1.0482	-0.4419	140	0.5594	0.2359
41	1.5752	0.6641	91	2.2576	0.9518	141	-0.3582	-0.1510
42	1.0823	0.4563	92	0.9236	0.3894	142	-0.7854	-0.3311
43	1.0108	0.4262	93	1.1415	0.4813	143	2.5497	1.0750
44	0.3030	0.1278	94	-0.2373	-0.1001	144	-1.0262	-0.4327
45	0.4842	0.2042	95	-0.7101	-0.2994	145	1.2283	0.5179
46	-0.3974	-0.1676	96	-0.2008	-0.0847	146	-0.6529	-0.2753
47	-0.1449	-0.0611	97	-0.9988	-0.4211	147	-0.2969	-0.1252
48	-0.5227	-0.2204	98	-0.4480	-0.1889	148	-0.8164	-0.3442
49	1.4177	0.5977	99	-0.5466	-0.2305	149	-0.0242	-0.0102
50	0.6447	0.2718	100	-0.8773	-0.3699			

#### D 受講者スコアにもとづく自由記述回答の内容

1 受講者スコアが(+)側で最も高かった受講者(つまり「放送大学の番組も他の娯楽と同様に評価」する傾向が高い)4人に関する自由回答の内容

質問36:「今回受講された科目について、なにかご意見ご感想をおきかせください。」に対する回答

008

放送前に種々細々と説明下さった講師、ビデオの中で不足をあわてて黒板に走り加えて下さり、ものすごく感謝致しております。

143 「地社学」受講

自分から進んで受講したのではなくて、職員に進められたので意欲がわかなかった。

123は記述なし

138 「地と宇」受講

時間の割に内容が多く、本当に勉強するのならば図書館や、参考書、図鑑を個人で買い予習復習に相当時間を使わなければなりません。私は数回の受講で放棄しましたのでそれはしていません。ビデオの内容に失望したので。顔と言葉だけのビデオには国鉄に乗って往復2時間かかって行く必要がない。

質問37:「講座の運営に関するご意見ご感想をお聞かせください。」に対する回答

008は記述なし

143は記述なし

123は記述なし

138

良かったと思う。

質問38：「関西地域に将来放送大学が開校された場合、どのような科目が開講されればよいと思われますか。現在の科目にこだわらず自由にお答えください。」に対する回答

008

1. 明治も含め以前の作家、古典等。
2. 宇宙の星々のこと
3. 化学でもあまりむつかしくないもの

143

地域社会学はおもしろくなかった。

123

・一般教養関係及び専門教養関係

138

受講の意志無し。

質問39：「放送大学番組科目として関西地域の地域性を反映した番組を考えたとき、あなたならどんな番組なら受講してみたいと思われますか。こんな番組があればよいと思われる番組のテーマをお聞かせください。」に対する回答

008

1. 明治も含め以前の作家、古典等。
2. 宇宙の星々の事
3. 化学でも余りむつかしくないもの

143は記述なし

123

一般教養関係及び専門教育関係

138

受講の意志無し。

質問40：「放送大学では地域に学習センターを設けて面接授業や番組の再視聴、図書の閲覧などのサービスを行っていますが、放送大学が関西地区でも開校したとき学習センターに必要な条件はなんでしょうか。こんな学習センターならよいのと思われる希望や条件を具体的にお聞かせください。」に対する回答

008

自宅に近く。帰りが晩になるのは困る。新聞何かに出ているNHK等も聞きに出るには遠く受講料も高くとちょっと考えます。

143は記述なし

123

参考になるような書類をそなえたセンター。

138

放送大学の内容が一般によく知られていない。

質問4 1：「あなたが生涯学習についてふだん考えていることや思っていることをお聞かせください。」に対する回答

008

私達年寄の話で恐縮ですが、やはりボケず、昔もっと勉強しといたらの後悔と懐かしさ、又今の勉強のほんのカスただけでも皆様と御勉強できた懐かしさは口に云い表わせぬ位い喜びと感謝で一杯でございます。私の方こそどうも有難うございました。

143

同和問題について学びたい。

差別のないみんなが生きていて良かったと思う社会にしたい。

123

関東と同じような教育を受けたい。

138

これからは余暇時間を如何に使用するかは個人にとっても社会にとっても大切な事柄だと思う。生涯学習は前進という意味があるからです。手軽なのは地域の公民館を利用することです。立派な学習センターでも私鉄、国鉄にのって往復数時間もかかるというのは続きません。よほど魅力的な内容及講師であれば別ですが。

2 受講者スコアが(一)側で最も高かった受講者(つまり「放送大学は講義で娯楽番組とは別に評価」が強い)4人に関する自由回答の内容

質問3 6：「今回受講された科目について、なにかご意見ご感想をおきかせください。」に対する回答

066

「地と宇」受講

私自身が日々生活している地球についてあまりくわしく知らなかったけれど、今回学んでとても身近に考えられるようになりました。中学1年生の娘も途中から一緒に参加させて頂き、とても勉強になったと言っています。この分野に興味があったようで、本当にうれしく思ってい

ます。

007

「地社学」受講

近接した市町村の地域社会学を学んだ。

026

「地社学」受講

毎回ちがう地域の事例をとりあげ、その都度、関心を持って学習できた。

031

「地と宇」「地社学」受講

始めに「NHKの『地球大紀行』のような面白さは期待しないで下さい」というお話がありましたが、また違った面白さがありました。

以前学んだ社会学が統計学を使った理論めいたものだったので、今回のフィールドワークの実証とよく比較できました。身近かなところからいろんなことが見えてくるのだなと思いました。

質問37：「講座の運営に関するご意見ご感想をお聞かせください。」に対する回答

066

一日も早く関西地区に放送大学が実現しますようにと希望しています。生涯をとおして学んでいく姿を多くの年配の方から教わったような気がしています。

007

設備も環境もよく楽しく勉強ができて非常によかった。今後も参加したい。

026

1. 定時視聴と個別視聴を併用してあり、利用しやすかった。
2. 個別視聴したのは一度だけだったが、定時視聴の方が私は集中できた。
3. 大阪府が後援する姿勢が感じられた。(府立情報文化センターの職員の皆様に感謝します。)

031

とてもよかった。担当の方がとても親切でした。面接講義が二回ということは少ないけど、これ以上多くするとビデオ学習より直接講義を聞きたいとなるのではと思いました。

質問38：「関西地域に将来放送大学が開校された場合、どのような科目が開講されればよいと思われますか。現在の科目にこだわらず自由にお答えください。」に対する回答

066

文学、環境汚染などの問題をテーマにしたもの。語学

007

都市の改造。水の利用。公害の問題等。

026

1. 市民向け経済講座

2. 時事問題を考える講座
3. やさしい民法講座
4. 現代史の講座
5. 健康講座
6. 中国問題の講座
7. 環境問題講座

031

- ・文化人類学
- ・心理学
- ・美学
- ・女性学

質問39：「放送大学番組科目として関西地域の地域性を反映した番組を考えたとき、あなたならどんな番組なら受講してみたいと思われませんか。こんな番組があればよいと思われる番組のテーマをお聞かせください。」に対する回答

066

その他方の文化や歴史を学ぶような番組など。

今回は貴重な時間を体験させていただきありがとうございました。

007は記述なし

026

1. 住宅産業紹介番組（プレハブ住宅メーカーの本社が関西に多いから）
2. 繊維産業とアパレルメーカーの関連（関西地域の特性のひとつだから）
3. 関西地域のウォーターフロント開発

031

- ・社会学～地域社会学

関西を基本にしたいろいろな地域との比較。

質問40：「放送大学では地域に学習センターを設けて面接授業や番組の再視聴、図書の閲覧などのサービスを行っていますが、放送大学が関西地区でも開校したとき学習センターに必要な条件はなんでしょうか。こんな学習センターならよいのと思われる希望や条件を具体的にお聞かせください。」に対する回答

066

交通の便利な場所が良い。

007は記述なし

026

夜9時まで利用可能にしていきたい。（仕事帰りに利用する予定の為）

031

学習相談のできる場、受講生の交流の場

自宅でビデオを見ながらだと、どうしても通信教育という感じになりがちなので、面接授業の時以外にも、ふれあいの場が必要ではと思います。その点、今回の定時集団視聴は仲のよい友人ができ、とてもよかったです。

質問4 1：「あなたが生涯学習についてふだん考えていることや思っていることをお聞かせください。」に対する回答

066

今は子育て中ですが、子供たちが社会に巣立った後の自分をふと思いかべた時、きっと淋しくぼんやり日々を過ごすだろうと思った。今からそうならない様に適度に頭を使い、手・足を動かし、又地域の内・外へも出かけなくてはと考え、行動を起こしました。どの場所でも老人が多いのにはびっくりしました。その人達は、いつも生き生きとし、笑顔にあふれています。その姿は、見習いたいものです。私も少しずつ努力を重ね美しく（せめて心の内面は）老いていけたらと願うのです。

007

社会の種々なしくみとか若者の考え方など巾広く勉強したいと思います。

026

1. 学習の前提に自己啓発の意欲があること
2. 無理なく学習できること
3. 学習の成果を問わないこと

031

女性の生涯学習について、グループで勉強していますが、これからの高学歴社会、高齢化社会を考えると、放送大学にはたす役割はとて大きいと思います。

「目的があるから」でなく「楽しいから」「好きだから」と気軽に学習できる場が日本中に広がってほしいものです。

### Ⅲ 研究委員会における討議・議論

—— 関西圏における遠隔高等教育の特性および地方自治体との連携の可能性 ——

麻生 誠	(大阪大学教授、座長)
小尾信弥	(放送大学副学長)
塩原 勉	(大阪大学人間科学部長)
井上忠司	(甲南大学教授)
高田康孝	(愛知学泉大学教授)
端 信行	(国立民族学博物館助教授)
園田英弘	(日本文化研究センター助教授)
池田 寛	(大阪大学助教授)
柳原佳子	(吉備国際大学助教授)
立木茂雄	(関西学院大学助教授)
山本敏秀	(大阪府教育委員会社会教育課主幹)
正田益嗣	(池田市生涯学習大学事務局長)
小巖恕久	(尼崎市立中央公民館長)
八十田和正	(元尼崎市立中央公民館長)
岩永雅也	(放送大学助教授)

#### A 第1回研究委員会における議論

第1回研究委員会において、行なわれら関西地区における遠隔高等教育の可能性と展望に関する議論を報告する。第1回では議論に先だって、放送大学の岩永助教授より、「衛星放送を使った放送大学の番組に対する評価調査」をもとにして、その調査結果から読み取れる大阪地域の特徴を分析していただいた。

#### [内容]

- 1 特別報告： 岩永雅也（放送大学助教授）「衛星放送を使った放送大学の番組に対する評価調査」
- 2 資料報告： 大阪のテレビ視聴傾向
- 3 ディスカッション：
  - ①大阪の特性をどう調べるか
  - ②どのような受講システムにするか
  - ③大学の授業の延長では地域特性は出せない
  - ④地域性を明らかにするには
  - ⑤自治体に期待すること



## 1 特別報告： 岩永雅也「衛星放送を使った放送大学の番組に対する評価調査」

山中 最初に、岩永先生の方から、大阪に住んでいる人たちが、衛星放送を使った放送大学の番組に対し、どの程度の関心を示しているのかについて、これまでに実施された調査結果に基づいて報告していただきたいと思います。では岩永先生、お願い致します。

岩永 私たちの調査は、外側から数の上で他の大都市と比べてみたもので、大まかに説明させていただきます。この調査は、衛星放送を使って放送大学を全国化することを前提として、その予備調査として昨年半年間ぐらいかけて行なったものです。柱は2本ありまして、その1つは放送衛星、あるいは衛星放送に関してどの程度の認知があるのか、またどの程度の興味、関心があるのか、どの程度適応性があるのかということを探ることでした。もう1つは、放送による大学教育、高等教育にどれだけ興味、関心があるのか、どれだけの期待感があるのかということです。つまり放送遠隔高等教育についての関心と需要をたずねるということでした。

以上を同一人に聞くことによって、この2つの対応関係を知ろうと考えたわけです。2つの関係の接合は必ずしもうまくいかなかったので、今日発表致しますのは、むしろそれぞれから出された結果です。全体で5,000サンプルぐらいとりまして、有効回答率70%。面接法で行ないましたので、かなり信頼性が高いと思います。ただ、この調査は大阪市内の住民だけを対象にしておりまして、今回の実験の池田、尼崎は入っていないことを御留意下さい。

調査報告書では、調査票プラス単純集計と基礎クロス集計から構成されています。基礎クロス集計では、基本的な属性が表側にあり、表頭に各質問事項があります。この基礎クロス集計に、札幌から那覇についての調査があり、これを見ていただくと、大阪の地域特性がわかると思います。

まず、衛星放送を今見られるか、パラボラアンテナを持っているかという質問です。那覇が非常に低いというのが特徴ですが、大阪も決して高い方ではありません。全国平均は4.6なんです、大阪は4.4で、東京よりやや高いです。大都市東京でもやや低いことが特徴です。ただ、これは1988年11月現在の調査です。その後イベントもあり、中国での天安門事件での影響などで普及しまして、これは非公式の調査ですが、全国レベルで10%近くまで普及率が上がっているということです。1年足らずで2倍水準になっていることがわかります。また、当時、受信装置は12万円ぐらいでしたが、現在は10万円を切っており、経済的な理由もあるかと思われます。

つぎは、放送衛星の受信システムを今後設置する意向があるかという質問ですが、これは大阪の特性がはっきり出ているところなんです。「設置するつもりはない」という項目に非常に高い値が出ています。たとえば札幌39.2%に対し、大阪は62.5%で、受信システムに興味、関心がないということになるかと思えます。つぎにその理由ですが、ここにも大阪らしさが出ているのではないかと思います。大阪で一番多いのは、「テレビをあまり見ない」というもので、札幌とはかなり違います。それから2つ目としましては、「従来のテレビ番組で充分である」というものにも高い数字が出ています。「設置費用がかかる」というものはあまり高くありませんでした。これは東京、大阪、広島は、10万円そこそこで購入でき、20万円近くかかる札幌仙台とは異なるためかとも思われます。以上の理由については、もう少し研究したいと考えて

います。

今度はいよいよ柱の2本目の、放送を利用した大学教育の実行意識です。これは放送大学に限ってはいないのですが、「放送メディアを使って大学教育を受講できるとしたら…」という質問に対する回答をみてみましょう。大阪は「受けない」人の小計、つまり「受けない」と「ぜひ受けない」を足したものは、全国平均よりやや低くなっています。「受けるつもりはない」を見てみますと、全国平均62.9%に対し、68.8%で、やや高くなっています。これは東京と非常によく似た傾向でありまして、大都市や中都市に共通したセンチメントがあるのかもしれない。

さて、つぎに、放送大学のことになると、ちょっと事情が変わってきます。大阪では、放送大学での勉強意向は必ずしも低くなくて、全国平均よりもほんのわずかに高いぐらいです。全国並にはやってみたいということのようです。ただ、「勉強意向がない」もやや高く、「全くない」という強烈なものが非常に高いのも特徴で、一つの意志の現れかなと思います。この「全くない」のが非常に高いのは、大阪、広島、福岡に共通した特徴です。

最後に注目しておきたいのは、「放送大学で勉強したい人の理由は何ですか」という質問です。大阪で肯定的な答をした148人のうち、「関心のある分野の知識を深める」というのが非常に低いのが特徴です。「余暇を有効に利用する」も、東京、大阪、那覇では低くなっています。大阪で一番特徴的なのは、「不明」というものが他より10倍水準で高くなっていることです。またそのすぐ右側の「総回答数」も、非常に低いんですね。

この辺のところを考えますと、全体としてまとめるのは非常にむずかしいのですが、大阪は非常に醒めた眼で、この放送による遠隔高等教育と衛星放送を見ていて、「何か良いものがあったらやりまひょ」という感じで静観しているようです。七つの都市を比べてみて、那覇、東京と並んで、特徴のある都市であるということは、はっきりしたようです。

山中 ありがとうございます。私も大阪人ですが、大阪人には一方では東京にあるものは皆ほしいという気持ちがあるんですが、一方ではそれが来たらそれを本当に使うかどうかわからないところもあって、大阪人のメンタリティはわかりにくいと自らも思います。今回の研究会も大阪的なものをどこまで発見し、実際の提案という形で組み込むことができるのか、その辺が一つのポイントであるかと思います。

## 2 資料報告： 大阪のテレビ視聴傾向

山中 ここで、ひとつの参考資料として、「大阪人とテレビ」という論文の説明をしておきたいと思います。これは『NHK文研月報』に掲載されたNHK放送世論調査所の杉山明子さんによる調査研究です。大阪でのテレビ視聴をNHK、民放を含めて調査していて、首都圏及び日本人全体との比較をした調査結果なんです。結果を要約すると、まず、NHK的なものはあまり好かれていないというのが一つの結論なんです。もう一つは、日本人全体の視聴パターンとしては、スポーツ番組型だとか、ニュース番組型だとか、ジャンル別に見る傾向があるのですが、大阪人は、民放のみ、NHKのみといったような、放送局単位の視聴行動が見られるということです。これ以外にはあまり資料がないので、この論文をここにあげました。大阪人は

NHK的なものに対してあまり反応をしないのではないかとここから読めるようです。衛星放送もNHK的、放送大学の番組も東京の3チャンネル風（注：NHK教育テレビのことで、大阪では12チャンネル）に作られているということで、冷やかな反応を示したのかなとも思われます。大阪人の風土には若干合わないのかもしれませんが。

これで今日のプログラムの報告の部分は終わります。これから討議の部分に入りますが、フリーディスカッションをしていただいて、大阪の地域性と遠隔高等教育の条件といった点について、皆さんが思っておられることを自由にお話し合いいただきたいと思います。では、座長に口火を切っていただいて、あとは自由をお願い致します。座長、采配を宜しくお願い致します。

### 3 ディスカッション

#### ① 大阪の特性をどう調べるか

麻生 衛星放送の需要調査でここにある諸都市を選んだというのは、やっぱりなにか全国化のブロック構成みたいなものとの関係があるんですか。

岩永 いや、全然ありません。さしあたり2ヶ年計画ということで、今年は郡部をやります。つまり非大都市ということで、周辺の地域について行います。

麻生 そうすると池田市とかは抜けちゃうんですか。そういうのはおかしいと思う。いきなり郡部というのはおかしいのではないのでしょうか。全国化を視野に入れて調査をやるんだったら、やっぱりブロック構想みたいなものを位置づけてやった方がはっきりでるんじゃないかな。だいたい学生数の比率ってどの位になったんですか。たとえば、東京だったら首都圏と周辺部との比率みたいなものは。だいたい人口に比例するのでしょうか。

岩永 ただこれですと、第1学習センターに来ている人が世田谷よりも西側から来ているのか、東側から来ているのか、わからないんですね。

山中 だいたいこれで読みますと、1万1千人ぐらいが東京都下で、残りが1万1千人ぐらいですか。ですからちょうど半々ぐらいですね。

園田 よろしいですか。あのう、研究計画書に「大阪の特性」といっているんですね。しかし、大阪の区部だけをとりあげても大阪の特性は出てこないと思うんですね。たとえば、東京の場合ですと、下町から西の方の教育志向の住宅地までみんな含めてやっているわけですね。大阪の区部だけだったら、そういう住宅地はみんな外側の方に出てしまっているわけなんですね。だから隣接の都市もみんなセットにしてやらないと、東京とはちょっと対比できないんじゃないかと思うんですね。それが一つと、今、麻生先生がおっしゃったようにもう少しこう、ブロック的な発想を入れるんだったら、京阪神、奈良をひっくるめたところのですね、視聴行動の予測とか需要を調査する必要があると思います。あまり大阪にこだわると、ちょっと話が偏るんじゃないですか。たまたま今回、池田、それから尼崎、大阪と切っているわけですけども、京都も実験に含めることはできませんか。

山中 今回は大阪に絞ってみました。尼崎はどちらかといえば、商工都市です。住宅地域もありますが、むしろ商工隣接地域で、それこそ、下町っぽい雰囲気のところ。それに対して、池

田は大阪ではかなりいい住宅地域ですから、そういう風な下町的な部分と住宅地帯的な部分とで、分けることができると思います。大阪の中心部については、高速の環状線の中の中之島を押さえています。

## ② どのような受講システムにするか

山本 まあどちらかといえば北高南低のようで、北の方は高学歴の人が多く、勉強や教養に対する関心が高いけれども、南部の人はどちらかといえば田舎の方で、そういうようなものに対する関心は低いという感覚が、一般的にはあります。こういう中で、岸和田で放送教育開発センターの授業のプロジェクトの取り組みをしようという方向で進めたのですが、現場の担当者としては、どうも、大阪南部でやる場合は受講生の確保がしんどいと経験的に思います。もしやるとすれば、面接授業の回数を極端に増やすということが望まれます。今回の実験では、動機づけのために1回だけやるということですが、それを3回なり4回なり開いてもらわないと受講生が集まらないだろうという心配が、受け入れ側としてはあります。まあ、一般的には南の方では関心が薄いのではないかと担当者の方が思っている状態です。実際にそうであるということではないんですが。

麻生 大阪もNHKの教育番組を利用して暮らしに生かす放送番組講座を昔やっていたよね。これもやっぱり大阪市では、全国に比べるとあまり広がらなかったとみていいんですかね。社会教育の中では。

山本 そのことはちょっとわからないのですが。

麻生 僕の感じではあんまり広がらなかったような気がするんですがね。かえて周辺都市の方が広がったようですね。正田先生、いかがでいらっしゃいますか。

正田 まあ、池田全域だけではなく、周辺の北接地域をひっくり返して考えないといかんと思うのですがね。ここはわりかた学習意欲が強いところですからね。

山中 ところで、尼崎は阪神間にありますが、おかしなことに電話番号は06で大阪なんですね。もともと阪神間でも、商圏なんかで大阪との関係の方が強いということなんでしょうか。

八十田 そうですね。経済での交流は、かなり大阪圏の影響を受けておりますね。市民の生涯学習に対する意識ですがね、私も昭和57年に大阪大学さんの協力を得まして生涯教育に関する基本調査をやったんですが、その数字を見る限りでは、生涯教育についての関心が非常に高かったような気がします。96%が生涯において、「なんらかの形で学び続ける必要があると思う」と回答しています。もう一つには、長い間、学習機会を追求してきているので、最近さらには学習志向が多様化してきて、高度なものを求めるような傾向も見られます。以前、「宗教哲学講座」を計画したとき、当初はこれは集まるかなと思ったのですが、思った以上に市内全域から集まったような経験もあるんですよ。今回の講座の内容のビデオ(10分ずつ、オリエンテリング用に編集したもの)を拝見させていただいて、これだったらかなりいけるのではないかなという感じは持っています。ただ先ほど中之島の山本さんもおっしゃっておられたように、45分のテレビ視聴だけで帰ってしまうのでは15回続くのかなあと思っています。30分見たあと感想などを自由に話し合うとか、何らかの手だてが必要ではないかなという気がしています。

麻生 実験ではチューターを入れるんでしょ。

山中 いえ、それぞれのものに関しては、入れないんです。

麻生 視聴するだけなのですか。

山中 そうです。広島での学習センター実験でも同じです。

麻生 広島は、放送利用に関しては広島アカデミーといいまして、伝統的に放送利用がさかんで、社会教育の中にあるんですよね。けれど、大阪は逆なんです。大阪は「暮らしに生かす放送利用」ってむずかしかったんですよ。

山中 そうですか。

麻生 それからビデオの貸し出しができないんですよね。このビデオはセンターでしか見れないわけですからチューターを入れるような工夫がないと最後まで続けて来てもらえないのではないのでしょうか。

山中 毎回、チューターを入れる計画にはなっていないんですが、少し予算のこともあってだいぶ厳しいんです。地元でチューターをつけていただけるのであれば、面接授業の回数を全体で2回に増やそうかなとも考えています。講師を東京から派遣すると大変なのですが、地元で先生を捜すことができれば、それは可能だと思います。まず最初にオリエンテーションがありまして、そこで動機づけが行なわれます。そしていちばん最後に修了証の授与を行なっています。そこでできれば主任講師の先生か、放送大学、もしくはうちのセンターの著名な先生に講演をお願いして、受講生のみなさんに参加していただくというような形も考えています。それなりにインセンティブは考えているんですが。

麻生 ビデオの貸出はできないのですね。

中村 できません。法的に決まっているようです。

麻生 ビデオセンターは何を一番の目的としているのかよくわかりません。スクーリングを強化かするのならばわかるのだけれど、貸出もしないわけで、そこへ行って見るだけですね。個人視聴はできますが、遠隔高等教育の中でのビデオセンターの機能って何なのかとよく考えていくと、実験の場合はこれはよくわかるわけです。一つは番組のPRです。もう一つはやっぱり番組っていうのをいろいろ見て評価する、つまり潜在的な放送大学への進学者が見て評価することです。それからもう一つは、学習のライフスタイルみたいなものの追求ですね。

山中 そうですね。

麻生 「暮らしに生かす放送利用」っていうのは、池田の場合うまくいったときもあると思うんですが、大阪市ではあまりうまくいかなかったんですよ。それで正田先生、受講生は確保できますか。

正田 いま、少しあたっているんですがね。しかし今、ここにあげられているような方法でそのまま実施すべきなのか、迷っているんです。このままやれば、ご期待にそえるような成果が得られるかどうか自信がないので、大阪的な、あるいは池田的な要素を入れて、これを一つの中心にしたプログラムをこさえていって講習していくのか、どちらにした方がいいのか迷っているんです。僕の場合としては、このセンターの番組を中心にして大阪的な、あるいは地域社会的な一つの番組をこさえていって、それを活用していきたいという気持ちがあるんですよね。

麻生 つまり、ソフトは池田市なら池田市で、それをどういう風に利用していくかを決めて、池田方式のようなものを強く打ち出すということですね。

正田 そういう方法は、許されるんですか。

山中 基本的な視聴の期間ですね、インターバルといいますか、1週間おきというのを守っていただければ、こちらの方としても参加者が多くて最後まで見ていただければそれだけ評価調査の回収もよくなるので、それはかまいません。たとえば、前にチューターをつけていただくこともいいと思います。番組を映している最中に止めて、解説を入れるというのは若干、問題があると思いますが、前後でインセンティブをつけていただくのはそれは自由だと思います。

正田 45分番組を見て15分話合う、またもう1-2時間でもう1科目やり、1日で2科目ほど学習する。その間にはチューターを入れて、時にはお茶を飲みながら雑談などしながらね。センターから提示されたスケジュールには従っていきますが、グループ視聴と当日来れない人にはいつでも個人視聴ができるようなシステムにしてやっていこうと思っています。

山中 視聴したあと懇談する場所があるんですか。

正田 それはあります。

若松 学生同士が話合う場がほしいという声は、広島でも聞かれたんですが、場所が確保できなかったんです。しかし場所があれば、システムとして考えなくても、自然発生的にそういう学習会（話し合い）というのはできるんですよ。

山中 それは一つの実験なんですよ。

麻生 それはある程度、しかけてみないと無理ですよ。でも、点火ソフトみたいなものは、それぞれの実験をお願いしたところにお任せした方がいいんじゃないですか。

山中 はい、そのつもりです。基本的な骨組みのところだけはセンターの方で提供するという形で、あとの運用はそれぞれの自治体で工夫していただいて、できるだけ面白く展開していただければ、こちらの今後の参考にもなります。新しい、現在進行中のビデオ学習センターのための提案にもなると思いますので、それはぜひやっていただけるとありがたいと思います。あとの事務的なことについては、これが終わったあとに、30分位時間をいただいて、詰めたと思います。

### ③ 大学の授業の延長では地域特性は出せない

園田 大阪プロジェクトの本当のねらいが少しわからないんですが。既存のやり方にちょっと新しい試みをしたいというねらいがあるんでしたら、大阪の自治体をより社会科学的に調べなければ。要するに、グレーター（greater）大阪を調べなければいけないと思いますね。そうするとたぶん、東京と同じ傾向になるんだと思います。大阪の首府ってすごく面積が狭いんですね。江戸時代以来の首府とそんなに変わらないわけです。だいたい、ホワイトカラー層は大阪の外へ出ていってしまうので、それをカバーする形で調べれば、たぶん東京都と同じようになると思うんです。だけど、それをモデルにしてやると、面白くないんじゃないか。大阪に対する偏ったイメージがありますよね。つまり銭儲けが好き、教養はあまり大事にしない、という大阪的な雰囲気を母体にして、考えた方がいいと思いますね。それで、放送教育は何の延長なのか、ということです。大学の授業の延長としてそれをエレクトロニクスを使ってやるものなのか、いろいろある放送番組の延長として放送教育はあるのか、どっちなのか。私は放送番組の延長にした方がよいと思いますね。大学の授業の延長と考えると、大阪大学の先生が二人

おられますが、東京で講義されるのと別に変わらないと思います。大学の授業における地域的特性ってあり得ないと思います。たとえば、福岡の九州大学でやっている講義も、福岡の特性がでるかどうか。まあ少しは九州の人が多だろうから九州弁でやるだろうけれど、地域的な特性ってないと思う。アカデミズムってやっぱりそういうものだと思います。でも、テレビを見る方の側だと、先ほども出ましたように「大阪人が民放を好きや」ということ、なるほど、そういう感じがするわけですよね。大阪人がもしそういうことを望んでいるとすると、放送大学が、NHKの教育番組風でないビデオをやっぱり作るべきなんだと思います。そうすると、新しい放送大学の教育が、質的に少しずつ変わっていくんじゃないかという気がします。高田公理さんなんか、いかにもしゃべくり上手で、関西風の人間で、しかも現代風俗を分析する第一人者ですよね。そういう人に番組を作ってもらって、従来の番組とちがうものをやるっていうのがおもしろいんじゃないかな。

麻生 番組から見るとね。ただ、今回の実験は、放送大学のPRもあるわけでしょ。

園田 だけど麻生さんが言った、「画一的になったらいかん」ということで、地域特性を出そうというのが基本的な方法だと思うんですよ。

? 科目の問題になるのではないのでしょうか。

若松 実学的で、何の役に立つかわかりやすく、すぐお金になるような科目だったら、相当ニーズがあるのではないのでしょうか。

麻生 ただね、教養学部なんですよ。教養学部っていうのは、設置基準に書いてあるわけです。「研究は従来の学部が単独で発揮することが困難な領域を研究、開拓し、教育は、専門的に分化した学問を新しい観点から総合し、日本の社会、自然、諸科学にわたる総合的認識と課題のために供する」と。けれども大阪は、NHKぎらいと同じように、教養学部がぎらいという傾向が出てくるかもしれなませんね。放送大学の教養学部はこれでやっていくしかないとしたら、普通課程がわりと普職接近で職業課程に近いものを入れてるように、ワクの中で、実学的なものを入れていいと思います。

園田 いや、僕はそんなことはないと思いますよ。実態としては、豊中とか高槻とかの普通の郊外住宅地へ行くと、東京の三多摩の人口構成とそんなに変わらないと思いますよ。ただ僕らがいう大阪というと、環状線の中で、東京でいう下町ですよ。その人達は落語を見て笑って、松竹新喜劇を見て泣く人間がいっぱいいるんですよ。そういう人達が、大阪の街の中心に比較的たくさんいるんですよ。だけど、もう少し、ちゃんとした社会科学的な都市圏という広がりを見て平均化すれば、東京と変わらないと思うし、番組も従来の作り方でいいということになる。だけどそうだからといって東京と同じように、比較的教養が好きで、学習意欲を持った人のニーズに合わせた番組を作ってしまうと、新しいタイプの放送教育っていうものは、ちょっと出てこないし、客層拡大というものはないんじゃないか。

若松 所詮、学習はテキストなんですよ、印刷物なんです。放送は何のためにあるかということ、一つはペースメーカーであり、一つは学習の動機づけなんです。興味を起こさせるものです。ビデオセンターの生徒を見ていても、放送を繰り返し見るということはあまりなくて、画像を見るということは学習の動機づけというウェイトが非常に高いんじゃないかと思われま。学習の最終的な詰めはテキストで行なっているようですね。

園田 そういうことならなおさら、画面の方はおもしろおかしさをぐっと強調する方がいい。それがないと、わざわざテレビというメディアを使ってやるおもしろさはないんじゃないかと思います。

麻生 だけど、番組そのものはもう、できちゃっているんですよ。

園田 え、できてるんですか。

山中 ええ、今回は一応、「生活と芸術」「地球と宇宙」「文化人類学」「地域社会学」、この4つの中から2つを選んでやるという方針です。

#### ④ 地域性を明らかにするには

岩永 すみません、全く別なことをひとこと言っておきたいのですが。

山中 はい、どうぞ。

岩永 先ほど、若松さんもちらっと言われていましたように、広島ではもうすでにビデオセンターが進行しているんですね。実際に行なわれているところが、どういう状態になっているかということ聞いた方がずっと生産的だと思うんですが。

山中 経験から学んでいくことは、ずっとやっていきたいと思うんですが、今回ははむしろ、大阪の地域性を明らかにしていくことを調査の目的に置いているので、成功したからよかったとか、成功しなかったから悪かったという形のデータではないんです。今回の実験センターのことが成功するかしないかということは、戦術的な問題だと考えております。

岩永 でもね、プロジェクト全体から見ると、失敗も重要な情報ですから。ただ、先ほど、正田さんの方からもありましたように、何かここでやるからには、「池田でやってこれだけのものが出た！」といえるように、現場の力を最大限に発揮していただいた方が実験としてもいい結果が出ると思います。あちこちに種を蒔き、全体としてもりあげるということを考えると、地域、地域の試みがどうしたら少しでも成功するかということに力点を置いた方がいいと思います。

麻生 それから何を成功とみるかということもあるでしょ。広島の場合は、大学がタッチしているでしょ。大学がタッチするかしないかは決定的な違いですよ。ここでは放送大学の延長という形でしょ。関西の場合はひとつはやはり放送大学のPRですよ。「池田市でこういうのが始まる」というようなことを市の広報や新聞にも出してもらおうということが、ひとつの実験の目的でもあるわけでしょ。しかしソフトをどう活用していくかは、その地域にお任せしてもいいわけですか。

山中 はい。我々としては、提示した骨組みだけのものに、地元でどれだけおもしろい肉をつけてくださるか、地元化していくかということが、将来放送大学が全国化していったとき、それぞれの地域でどう活用されていくかの試金石になるんだと考えています。結果としてその方がたくさんの視聴者がとれるということになれば、最終的な評価も、いいものが出てきますし、私の方もサンプルがたくさん集まっていいんです。

麻生 あんまり無理をして人をかき集めるよりも、「これは、あきまへん」というものがあったとしても、それはひとつ、おもしろいなという気がするんだけどな。ひとつはやはりPRがあるので、卒業生が500人いて、その人たちの属性がきわめて多様だというようなことを放送大学と



してPRすべきだし、そういうものが口コミみたいにして伝わっていくといいですよ。PR関係の資料を受講者にさしあげるために、実験地に置いていただく必要があるんじゃないですか。

塩原 実際、放送大学が本格的に始まれば、話し方のへたな先生も出ておいでになるわけです。今回、せっかく実験をやるというのであれば、話が上手で、最後の回まで人をひきつけられるような先生ばかりをそろえていいのでしょうか。話のおもしろさで集まるか、内容で集まるか、15回通うことや、アフターケアのことなど、形式としてはどうか、というようなインフォメーションを得にくいのではないのでしょうか。

麻生 ただ「実験」ということなのに、つまらない番組を提示するのは、自治体の責任者としてはしんどいんじゃないですか。

山中 そうなると科目も特定しにくいですし、どんなしゃべりがいいのか判断しにくくなります。ご意見については、よくわかるのですが。今回は2科目選ぶんですが、もうすでに放送大学の学生に評価していただいています。全体の評価のマトリックスもとってあるんです。この見本をサンプルとして、これから出る大阪の人たちの評価のパターンとを比べることによって、他の科目についてもある程度類推することができるんじゃないでしょうか。大阪は全体としてどういう方向に向いているのか、話の内容なのか、パフォーマンスなのか、いくつかの軸を取り出せば、大阪の傾向をそこから読み取れるのではないかと思います。とりあえず2本でも、比較対照できるたくさんの調査資料がありますので、何とかいけるのではないかと考えています。関西にも馴染みの深い先生を選んで4科目の番組を構成してみたのですが。

麻生 非常にいい番組を出しているわけですね。

山中 はい、学生調査でもわりとポイントの高かったものです。大学の関係者と一般学生と両方に調査しているのですが、それぞれでポイントの高かった番組です。

今回の実験について議論が集中したのですが、次回はもう少し、大阪の中で放送大学が展開していく上に、どういう風な課題があるのか、先程園田先生からも御指摘がありましたけれども、大阪の番組視聴の傾向のようなものがどういう形であるのか、といった問題をもっと掘り下げていただいて、今後の方針への提案も含めてお話しいただきたいと思います。このあと、この話は4時までということで、自治体関係者の方には、少しお残りいただいて、具体的な作業の事務的なつめをさせていただきます。そんなところでよろしいでしょうか。

#### ⑤ 自治体に期待すること

若松 それでいいんですが、自治体関係者の方に、我々の期待するところをお話しておいた方がいいんじゃないでしょうか。先程、正田さんがおっしゃいましたが、「主体は池田市の生涯教育ということでやりたい」ということに全く賛成です。それぞれの自治体の方が最も良いと思われる方法を考えてやっていただければ、それでよいと思います。放送大学のPRについては、あまり意識しなくてよいのではないのでしょうか。結果的にPRになるのかもしれませんが、PRは目的ではないんです。ちなみに、大学の放送公開講座というものを長い間やっていますが、このスクーリングの状況をみますと、各地の自治体での自主的な活動の中で、その大学の放送公開講座をとりあげるというスタイルの方が長続きしているようです。そういう場合はそ

の自治体で独自にチューターも依頼して、何回か並行してやるというケースが一番うまくいっているように思います。大学側が押しつけるという場合は、うまくいっていないケースもあります。スクーリングは、大学が深く関与するのがいいのか、自治体の自主的な活動にお任せするのがいいのか、必ずしも結論は出せない。広島の場合は、広島大学が関与してうまくいっていますが、こういうことは、それぞれ地域特性ということなのではないでしょうか。

？ 今度のプロジェクトは運営をかなり自治体にお任せすると考えてよいのでしょうか。

若松 こちらで出した骨子に従って、かなり自由な裁量でやっていただくことには、大賛成なんです。先程麻生先生がおっしゃった、「放送大学のキャンパスとは地域社会である」というお言葉は、名言だと思います。放送メディアから出てくる情報を浸透させるためには、やはり自治体のしかるべき機関の力が大きいと思います。実際大阪の民衆生活をめくっていくと、意外にやっぱり学問を好むところがあったりするかもしれませんね。生活者と自治体の機関と放送大学とがうまく作用し合えるといいと思います。

山中 有難うございました。次回のことなんですけれども。今回は、大阪から遠路はるばるお越しいただきまして、ここの設備もいろいろ見ていただきましたので、次回は大阪地区で持ちたいと思っております。ご協力お願い致します。

## B 第2回研究委員会における議論

[内容]

- 1 受講生の募集方法—放送大学の潜在的利用者になりうるか
- 2 社会教育の受講生とのちがい
- 3 ビデオ実験の修了者を調査対象としてとらえていいのか—関西地区の一般的なニーズと考えていいのか
- 4 実験地の地域状況
- 5 評価調査について—関東の放送大学との受講形態は考慮しなくてよいのか
- 6 「教育」が成立する条件—「教育とは芝居小屋」
- 7 今回の実験はアクションリサーチである

### 1 受講生の募集方法——放送大学の潜在的利用者になりうるか

麻生 この受講者の方たちが本当に放送大学の潜在的利用者の代表かどうか考えています。池田では社会教育でやってきた層とは違うというようなお話でしたね。

山中 平均年齢が50代位にでるというのは、若干放送大学の受講生の方が若い、受講パターンです。キッチンダーラー、要するに台所で学習しておられるような方は今回は入っていないと思います。

麻生 郵送で調査をするということですが、それを社会教育に来ている方にも広げられないですか。

山中 そうですね、やっぱり放送を見ていただくということを前提にしていますし、放送大学の学生を対象にした調査と比較しようとも考えています。今回選びました番組は、放送大学の

番組の中でも比較的評価調査の結果がよかったものを選んでいきます。前回、放送衛星を使った大学学習についての対応調査をしましたが、そこでは放送大学についての一般的イメージが関西ではほとんどないようでした。それなのに、被験者にこういう放送大学の番組を学習する機会があるかと聞いても、ほんとうに仮定の上での話になってしまいますし、その答が返ってきても仮定の上での答になってしまうので、潜在的な需要を掴みにくいと思ったわけです。そこで今回は実際に見ていただいて、それを評価してもらおうという形になりました。

麻生 池田の場合は何か特別なPRをなさったのですか。

正田 特別にやってはおりません。大阪府さんで毎日新聞に記者レクをしてくださった他に、毎日、産経、朝日あたりに記事を載せてもらったことと、市の広報に載せた程度で、特にやっていないんです。PTAとか、公聴会とか、そういうところでは、参加して下さいといいましたが。むしろ、あえてほっておいてどんな反応が出てくるか、待っていたような状況です。けれども、「いったいこれはどうやって、住民にPRをしたか」というたいへんきびしいご意見をいただきました。新聞にはだしたわけですが、これでは足りないということなんですね。もっと多くの住民にPRをすれば、もっと多くの人達が参加したはずだといわれました。私の方ではこれに関連させまして、補正予算を組んで、二回会議にのせたんです。二回目の文教委員会の際は、他の議案もあったので、半日これにかかりました。この中で、単に公民館とかにかたよるのではなくて、市内にたくさんある、いろいろな施設を使ってこういうものをやれないのかという意見がありました。また、ビデオの貸出も考えられないのかとか。このように、こういうものをもっと利用していくべきであるという意向は強いんですね。ですから、私は関西でももっともっとPRをしていったら、関心を持っている方もたくさんいるし、たくさん参加して下さいと思います。もうひとつは、今回の放送大学の授業の特色は何かという問題です。放送大学の特色は、単位の交換ができるということです。つまりそこで取った単位はどこでも活用できますよ、という説明があったわけです。しかし今回はテストもありませんし、したがって認定されるだけで単位にならないわけです。ということは、いわゆる教養番組と同じような見方をしているわけです。ところが、それは違いますということで、相当むずかしい議論をしました。この放送大学は、生涯学習とはいっても四年制の大学と同じで、しかも学歴なしで入れて学習センターにいつも行かなくても学べるし、単位そのものは互換性があるというようにだいぶ説明をしました。まだこの辺の説明が不十分という感じがします。ですから今回の場合も、もし希望者がいて千葉の学習センターなりに行って試験を受けることができれば、もっと効果があるという感じがしますね。それだけ意欲がある人がいると思います。

麻生 池田市というのは、潜在的に生涯教育に関心があるように思えます。また池田跡地問題を放送大学に結びつける考え方もあるようですね。今までの社会教育で、基盤ができていないんですか。池田市の人口はどのくらいですか。

正田 池田市は人口は10万くらいです。しかしもう、地域が狭いですから、池田市という行政単位の枠組みをはずして考えて、広く募集したほうがいいですね。

## 2 社会教育の受講生とのちがい

山中 実際開いてみて、池田市ではこれまでの社会教育のマニアみたいな人とは若干違った層の人が来ておられるのではないかというお話でしたし、大阪府の方では、サラリーマンの人が来ておられるのではないかというお話ですね。

山本 そうですね。実際の数字を把握しているわけではありませんが、このセンターの場所の適性と開講時間から推測しますと、サラリーマンが帰りに寄ることも多いのではないかと考えています。

杉田 尼崎の場合は確かに今回の場合は18人くらいで、各講座は10人に満たないのですが、ほとんど初めての人のようです。ただ調査によりますと、ひとつの特徴は西は神戸の方からの申し込みもあり、阪神間に渡っているということです。それから広報は、塩釜、尼崎という広報版に、わずか数行で載せただけで、あとはチラシを作って公民館などに置いていただきました。しかしこれについて、遠くは高知からも問い合わせがありました。学校の先生から聞いたとか、NHKの放送で朝聞いたからとか、そういう具合で問い合わせは結構よそからもきています。マニアの人が少ないという感じもしています。

山本 新聞発表の時期というのは丁度募集期間中だったんです。毎日、産経、朝日と載りましたが、募集のためには新聞はかなり有効のようです。

## 3 ビデオ実験の修了者を調査対象としてとらえていいのか—関西地区の一般的なニーズと考えていいのか

小尾 受講生はどんな方なんでしょうね。番組によりますが、たとえば僕の「地球と宇宙」では、前半は奈須先生の地球編で45分づつ15回受け持ち、僕が後半の宇宙編で45分づつ15回受け持っていますが、普通の大学の講義とほぼ同じです。ただ大学の講義の90分乃至100分の講義の中で、実際は黒板に書くようなところはひとつのパターンにして示してしまったり、あるいは式はテキストの何ページの第何式というだけですから、時間的には1回の45分の中に普通の大学の90分乃至100分位のものを入れてしまうわけです。だからそれがいい点であり、悪い点であるということもできます。大学の場合ではある程度繰り返しも入りますし、式なり何なりを書いていく間でそれを頭の中に入れて消化しながら追いかけていくということが可能ですけれど、この放送大学の授業の中ではそれをかなりコンデンスして、45分の中に入れるということは、図でも式でもできあがったものがばんばんできて、ちょっと頭でついていけないということはあります。ただ、ここにあるように、池田、尼崎の場合に「地域社会学」は午後の1時半から午後の3時、「地球と宇宙」も午後の7時から午後の8時半と、つまり1時間半あるわけです。1時間半で番組というか講義そのものは45分ですから、残りの45分はチューターの方が説明をするということになるわけですか。たとえば尼崎の場合はどうですか。

杉田 はい、チューターが質問を受け付けますとか、テレビの中のわかりにくいと思われる部分を補足説明するとかしています。

小尾 そうですか、それはとてもわかりやすくいいと思うのですが、ただ参加する人にする

とですね、なんといっても45分の講義と解説ないし、補足説明を受けるために、午後なり夜なり1時間半、通う時間を合わせると2時間から2時間半をかけて、(2)週間に一度ずつ15週にわたって続けるということは、かなり努力というか、熱意というか、必要だと思うんですね。たとえば、大阪に数百万人の方がいるとして、その中でこの実験に40人なり50人なりの特別な熱意のある方が聞かれるとして、それを特別な熱意のある方が15回聞かれるとして、15回でなくても、途中の5回目なり、7回目なり、10回目なりに、先ほどのお話のように、初めの40人がひとり減り、二人減り…という状況の中で、ずっと続けた意志の強固な方に調査をすることになって、講義の内容についてその人が意見をいうわけです。それから大阪府の関西地区における生涯学習についての意識が調査できるのかどうかという点は、僕はもう社会調査とか意識調査とは全く門外漢ですからそういうことができるのかなあと思うだけなんですけれど、個人的には、それで関西地区なり大阪地区のそういう生涯学習への動向というようなものが測れるのかという点については疑わしいと思うんですね。

麻生 先行の視聴者の人を調べるといことにはなりますね。

山中 そうですね、第一次需要者というか、もっといえばイノベーターといいますか、「飛びつく人」というような人たちへの調査だとは思っています。

小尾？ そういう点では大坂の方は人口の割には少ないんですよね。59人…両方合わせても、120-130人でしょうか。

山本 これは「地域社会学」は38人で、「地球と宇宙」は39人、合わせれば77人なんですけど、だぶって二科目受けて入る方もいますので、58人ということです。やはり遠くから来る人がありまして、45分の授業だけで帰らなくてはいけないのでは来ない可能性もあるので、「二科目受けていただいても結構ですよ」という言い方の募集になっています。それで、二科目受ける方が多いのだと思います。

小尾？ 単純人口比からいきますと、先ほどの池田市が10万人くらいで140人くらいですよ。これは非常に多いんですよ、人数比としては、だいたい0.1%くらいですよ。今の放送大学の初期の平均的な学生数は0.1%だったんですよ。そうすると、大阪の場合は人口からいうと、もっともあっていいんですよ。

山本 それは募集の定員の関係もありますよね。

小尾？ 定員は初めから、足切りをやったんですか。

山本 最初は別に足切りをするというのではなくて、もともと35人、35人、70人で、募集をしたんです。応募者は足切りはしていません。だから、これは実人数がこれだけということです。

小尾？ そうですか。どうも少ないという気がしますね。

正田 けれど、希望者に聞いてみますと、なぜ、関西で放送大学をやるのかという疑問があるようですね。また、通信衛星を利用して、早く放送をやってもらえないかという声もありますよね。それと受講者を集めるもうひとつのポイントにもなるわけなんですけど、科目を今回二科目に押さえておりますが、もっとたくさん科目を設定してほしいという声もありますね。そのように、選択肢がたくさんあればある程、参加しやすいでしょうね。

小尾？ 確かに科目としては特殊というか、要するに一般的でないということはありますね。たとえば英語であるとか心理学であるとか、教育問題とかであれば、もっと需要があるかもし

れませんね。または二科目ということで、チョイスが厳しいのかもしれませんがね。

山中 実際ボリュームによる効果みたいなものがあると思いますね。10科目まとめてやるのと、2科目だけとではインパクトが違うんじゃないかと思いました。

? 先生、広島の場合はあれは7科目でね、350人くらいでしたね。

若松? 広島の場合には本年度の一学期は、初め7科目でやったわけです。その場合には広島地区の新聞とそれから広島地区のNHKや民放で、若干こういうモニターを募集しているということを通して。それでかなり知名度というか、ある程度放送大学の存在が知れ渡ったと思いますね。三百数十人に対してその周辺の人が数倍いたとすれば、千数百人になりますから。そして第二回目は今度は50科目でやったんです。50科目というとかかなり科目数が多いわけですね。テレビに限りますと、150科目弱ありますから。それでそのテレビの150科目を全部印刷して、それを新聞の折込にして地域に撒きました。その中で自分が聞きたい科目をいくつか列挙してもらい、自分が参加できる時間帯を月曜日から土曜日の間で選んでその時間帯を指定するというような方法で、希望の多いものから4科目をとったわけですね。そうしましたら、54科目の中で英語とか心理学、教育心理のようなものが圧倒的に多かったので、英語は週に三回、心理は二回持つというようにウェイトをつけて、全体で50科目を選んで募集したわけです。そうしましたら、10日とか二週間とかのごく短期間で540人の募集枠のところに1300人くらい集まりまして、ちょっと枠を増やして、560人くらいのをふたつにして、来週二回目の放送を始めるわけです。

山中 今のことを補足的に説明致しますと、広島地区では、将来に向けて、ビデオ学習センターを実際の放送大学の授業の一環としてほとんど恒久的にやるという形で今実験段階に入ったところです。けれども、関西地区の場合はそういうビデオ学習センターを設置するということは今のところはまだ決定されていないので、学習センター自体の位置があくまでも実験でして、将来それを実際に恒久的な形でセンターを設置するかどうかという政策決定は今のところまだありません。

若松? ですから、条件自体が全く違いますし、広島地区の場合は、広島大学のキャンパスの中で行っています。科目も広島では一学期が7科目、二学期が50科目ですから。50科目あれば、この中でいろいろなニーズに応えられると思います。いずれにしても二科目では特別な要求にしか合わないということはありませんね。

? 大阪と池田の同じ二科目で同じ条件でありながら、応募者の桁が違うというのは印象的です。

山中 あの、大阪には伝統的に南北問題というのがあっておりますが…。

? ええ、地域特性があるんです。

山中 前回もその話が少し出まして大阪の生涯学習のニーズとは何か、つまり大阪人は何を学びたいのかという話を致しました。そのとき、国際日本文化研究センターの園田先生が、広く関西圏をとれば、東京とそれほど違わない需要の構造になるだろうけれど、しかし大阪的なものというものは、大阪の中ではきちっと踏んでおかないといけないのではないかと。だから、関西は関西的なものを、それからそれぞれの地方の文化みたいなものをある程度放送大学の番組の内容に、またシステムの中に上手に反映させることができれば、中央から一元的に情報を提

供するという形にならなくていいのではないかというご指摘もありました。

小尾？ 番組の内容としては先生が出てきてお話されるだけのものでは意味がないように思います。たとえば実験して5人減ったとき、来なくなった方に何故来なくなったかということを知ったら、いろいろおもしろい問題が出る可能性がありそうな感じがするんです。特に今までのように「社会教育」ということで、ひょいと出かけてくる人とは違う人が出てきていて、何か別の期待があったんだろうと思うんです。そういう人がこぼれていったとしたら、その人達に、番組に対してどういうところが不満なのかと聞けば、割合ストレートにその不満が出てくる可能性はあるかなと思うんです。量的に関東と関西の比較はできないかもしれませんが、  
？ 番組自体への不満ですか。

小尾？ ええ、僕も番組をいくつか見たことがあるんですけども、たとえば小沢昭一さんの「芸能と社会」は、あれはマンガみたいなものですから、45分が瞬く間に過ぎていくんです。実にきれいにまとめていらして、話を伺っても、その45分はあっという間です。僕の場合はここで90分、講義しているわけですが、聞いている人はかなりしんどいだろうと思うわけです。テレビだと余計なことはいわないですから。普通、テレビというとお茶を飲んだり、お菓子を食べたりしながら見るものですからね。今、講義でも学生もだいたいそういう感じですよ。テレビと違って、授業が始まったら、チャンネルを変えられないので、おしゃべりをするということになるんでしょう。だから僕が見た印象ではもう少しいろいろな工夫が必要というか、たとえば生物学だったら、先生の話ばかりではなくて映像がでてくるとかね。

？ だからそういう意味ではね、大阪なら大阪の文化に合わせた番組を放送大学で作るんですか。そういう地域の特性がわかったとしたら。

山中 実は、既に関西圏の先生もずいぶん番組を担当されておられるわけです。

？ 関西向けの番組ですか。

山中 いや、関西向けというわけではないのですが。

？ 今のシステムでいけば、どっちみち放送大学でやることは、ひとつなんですよ。それがどう受け入れられるかという形での地域性がでてくるんですよ、結果的には。だから、「地域のニーズ云々」という話がちょっとよく解らないですね。ニーズを把握してそれに合わせて番組を作っていくのだったら話が解るけれども、「どういう経験の仕方をするか」ということを調査しているわけですよ。

？ 問題点はこのプロジェクトで何を明らかにしたいかということですよ。

？ そうですね。

？ たとえば、インスタントラーメンでも同じパッケージのものを関西と関東で食べたら味が違くと。だから、関西で受けるような味付けのスープを作るにはどうしたらいいのかというような話をするのか、あるいはもう、関西は関西だけにしか売っていないような「好きやねん」というようなインスタントラーメンを作るのか、ということで提言をするということではなかったのですか。

？ マーケティングの結果が出てきたらそのあと、そのマーケティング便りをちゃんとやるのかということですよ。

若松？ この研究プロジェクトで考えております地域特性というのは、当面は看板には挙げて

おりますが、学習センターモデルなんですね。学習センターを各地域でどう組織していったらいいのかということ、そしてその内容、機能的なもの、つまりその役割ですね、つまり学習指導の面で研究ができないかということで、番組の内容まで立ち入ったものというのは、実は現在のところあまり考えていないのです。

山中 その辺は、実験研究に携わる者としても、若干わからない部分なんです。たとえば、まだ全国化はかなり先の話でどんな形になるのか、我々でもわからないところがあるんです。その辺は、小尾先生の方から見通しのようなものを差障りがなければあとでまたお伺いしたいと思っていますんですが。

#### 4 実験地の地域的状況

山本 先ほどの大阪府と池田の場合ですけれども、このデータを見る限りでは、たとえば池田は市内は85人ですね。つまり周辺からかなり来ているということがひとつと、それから三ヶ所で、個人で図書室を借りてでも見られるということも入れての人数でしょ。ですから、そういう意味ではちょっと比較がしにくいのではないかなと思うんです。それと、文化情報センターの位置自身が大阪市民にとっては地方公民館的な位置にあるのかどうかということがありますよね。ここはいつ来てもだいたいサラリーマンの方が多いいから、そういう意味ではビジネスセンターにおけるサラリーマンの余暇活動をするところという色彩をかなり強くもっています。従って、主婦層とか老人層というのは全然別のところへ行っているようです。だからそういう意味ではちょっと情報センターといきなり池田の中央公民館と比較するということはしんどいなという感想を先ほどのご意見に関しては持っています。

小尾？ いや、ただ余りにも違うので…10倍違ってもおかしくないですよ。

山本 それとですね、ちょっと言い忘れたんですが、池田市さんにしろ尼崎市さんにしろ、各戸に配布されている市の広報紙の方に多く載っているのですが、大阪府の場合は丁度9月号がお休みで、それに載せることができなかつたんですね。それも影響しているかなという感じはするのですが。

？ それとそもそも大阪市というのは、昼間はものすごく人口が多いのですが、夜は少ないのです。それにましてやこの辺は深夜人口の過疎地域でしょ。この辺は要するにマンションがあつたり、住宅があつたりという地区では全くないわけです。

？ それで、池田市や尼崎市がやっているところは比較的、住宅の多い地域なのですか。

杉田 そうですね。池田市はベッドタウンですが、尼崎市も昼間の方が多いい地域ですので、先ほどのことは一概には言えないと思います。先ほどの話で、うちの方は5人ほど減ったというところで、誤解のないようにお話しておきたいのですが。実は2回目に10人休んだということであつてやめたわけではないということと、もうひとつは5人休んだ中で、3人は確かに6日休みましたところで落ちこぼれたようですが、前回2回目は雨が降りました。やっぱり雨が降りますと、欠席率が高くなりますね。ですからこのように、ただ5人、5人と落ちていったのではなくて、事前に用事があつて休みますという連絡もあつたと聞いています。ただたまたまその時に限っては休んだということですので、誤解のないように。



## 5 評価調査について—関東の放送大学との受講形態は考慮しなくてよいのか

？ これは最後はアンケート調査みたいなものですくいとろうというわけですか。

山中 ええ、そう考えております。郵送調査をする予定です。

？ よくしゃべれる人も多くおられるでしょうから、しゃべってもらった方がおもしろいのではないのでしょうか。たとえばグループインタビューみたいなものをことをやった方が、そこはおもしろかったとか、あのへんはおもしろくなかったというような意見がでてくるような感じがします。

？ その比較のことなんですが、結局、関西の地域性ということがターゲットで、放送大学の方の、つまり関東の方のデータと比較したいということが心積もりとしてあるわけですね。しかしそうなる形態がまず違うわけです。放送大学は自宅でするけれど、今回は出て行って聴くか、あるいは出て行って個別に聴くわけです。それから、クレディテーションというか、関東の場合には単位になるけれど、関西の場合は修了証であると。それに、科目数が違いますよね。サンプルが果して本当に代表性を持っているのか、あるいは内的な妥当性があるのかどうかというところでも、非常にいろいろ要因が違うと思うんです。いくつかの形態とかアクレディテーションの問題ではですね、たとえば関東と関西、それから広島を使うことで、広島の場合も学習センターのところへ出て行くわけですよ、そういう家から出ていかななくてはいけないという意味では一緒です。それと自宅で聴くのと、果して出てきたものの差が形態の差なのか地域差なのか、というところで、かなり実験の計画を巧妙にしないと、出て来る差がどういう意味を持つかわからないのではないかとちょっと危惧しているわけです。

山中 細かい調査計画の話になってしまいましたが、それはちょっとここでは割愛したいのですが。テクニカルな問題については事前にかなり大きなデータをとってやっているんですね。そしてそれを基にして今回はできるだけ質的な問題を集めようとしているわけです。たとえばこちらで被験者群をコントロールしてその人達に強制的に見せるということとはできないわけですから、できる範囲である程度のコントロールグループと今回の対象集団との間でもしずれるとかということがあれば、できるだけ統計的に補正をしながらやっとうと。ただその地域性の問題か、それとも実際に受講した集団の属性的な特性による差なのかわかりにくいということは、もちろん初めからあるわけですが、とにかく一遍ずつと見てもらわないと評価のしようがないです。

？ ドロップアウトした方を集中的に詳しくフォローするというのは、いいアイデアで、是非やった方がいいですね。

？ 実際には関東の放送大学の場合でも、やめた人はたくさんいるんですよ。

山中 ええ、非常にたくさんいます。

？ だから、ドロップアウトした人だけではなくて、残った人にもどうだったかは聞くわけですね。

？ そのときに今問題にしているのは、番組の中味の問題ですよ。その番組がわかりやすかつ

たとか、よかったとか、感激したとか、そういう番組の内容についてのアプローチの問題ですよ。

山中 番組の内容についても、もちろん聞くわけです。番組評価をしてもらいます。そして同じ番組について放送大学の学生を対象にしてやった調査があるのですが、こんどまた違うチームでもあるんですが、それと比較します。

？ 中味の評価だったら、形態をそんなに気にしなくてもできると思います。

山中 ですから、今回の実験の目的は、学習センターのあり方を考えるということに関しては、あくまでも今後関西にどういう学習センターをつくるのかという具体的なプランが今のところないわけですから、広島みたいにこの積み重ねが将来の学習センターの整備につながっていくという見通しがないので、むしろその番組評価にどちらかといえば研究のウエイトは置いています。つまり、こういうビデオ学習センターのあり方を細かく聞くことは、つまり、夜開講した方がいいのか、昼に開講した方がいいのかという問題は、実際ビデオ学習センターを関西に設けるといふ計画が今のところないので、そのところをどんなに一生懸命やっても将来につながってこないのです。

若松 今我々同じ研究班でちょっとニュアンスが違うように受けとめられているようですが、私が先ほど申し上げたのは、学習センターのあり方にポイントを置きたいと。ひとつは確かにそれがあまして、番組に対する受講者の受けとめ方、理解の仕方の違いということがありますけれど、このプロジェクトは第一義的には私は学習センターの問題にポイントを置きたいと思っています。それでいちばん関東と違うのはこちらは社会教育が中心で実験を進めていただいていることです。広島は先ほど小尾先生からお話がありましたが、広島大学にお願いして進めていて、遠隔教育といえども、大学の雰囲気を感じていただけるということです。この大学の雰囲気にあこがれて来ている方もあるようで、厭わずに通ってきている点もあるわけですね。完全に社会教育リードの形態になりますと、また違った面が出てくるのではないかと、そこがひとつの実験なんですね。

？ 大きな目標があるわけですね。

麻生 広島大学というのがエイジェントとなっているわけで、大阪ではこれが自治体ですよ。それで大学の支援体制はまだゼロですね。ただ、大学が支援体制をひいてくれること自体がいいかどうかは将来的にはわかりませんから、放送大学が社会教育のリードの中でやっていくということは、新しい試みとして評価できます。

山中 私が実験計画をつくりました時になかなか難しいと思いましたのは、放送大学を関西でどれだけ続けていかれるのかなということでした、そのところをある程度予測しないといけないわけです。もっとかなり大きなものを考えておられるのか、それともビデオ学習センターなのか。最初、ビデオ学習センターの実験として出しましたら、関西地区では、今広島でやっているような形のものは考えていないので、関西でビデオ学習センターが定着する可能性があるという形では実験はしない方がいいというように指示されましたので、こういうかたちのかかなり簡易な実験になっているわけなんです。小尾先生、いかがなんでしょうか、私学でやっているような通信教育では首都圏と近畿圏というところで、だいたい全体の8割くらいをカバーしておりまして、あとの県においてはもうほとんど落穂拾いのような状態のようですが、そう

いう意味では関西地区についての学習センターは将来、放送大学としてはどういう見通しを持っておられるのでしょうか。

小尾 いずれにしましても放送大学は国全体の予算で運営しているわけですから、全国からの税金でやっているものを、関東地区だけにその利益を得る人がいるということはどこからどう考えてもおかしいから、自分のところにもつくれということで、受ける受けないは構わないけれど、どこでも同じような施設をつくって誰でも受けられるようにしろというような要求はいろいろな地域から当然あるわけです。そうなった場合に日本全国どこでも受講者が受けられるということにするには、印刷教材の方はもう、今でも買うつもりさえあれば、どこでも買うことができるわけですが、放送の場合にはそれを受け入れようとする、もう放送衛星を使うしか、日本全国、同時に聞けないわけです。そうすると、今使っている分ではなくて、来年使う分というのはPS-3-Aというもので、その翌年、1991年にはPS-3-Bというものを打ち上げることが決まっています、もうユーザーも決っているような状況です。そうするとそのあとは、宇宙開発審議会の方でも正式には計画が決まっていないうわけです。またいずれにしましても、来年ないし再来年にかけて打ち上げる放送衛星は、耐用年限が10年も20年もあるわけではないので、数年の内にはもっと能力の優れたものを打ち上げなければならないということは確実なのですが、それがいつかということはまだ政府は決めてはいません。たとえばNHKとかそういうところで暗黙に考えているのは、だいたい平成9年くらいでPS-4というのを上げると、それは現在上げる計画になっているPS-3よりもはるかに能力があるようです。ですから、もし放送大学が全国放送をするということになれば、それを使うということになるでしょう。しかしそれを使うには非常に大きなお金がいるわけだから、本当に使うかどうかということは、大学が決めることでも、どこが決めることでもなくて、国民全体のコンセンサスで決まるものであると思います。しかしまたそれを国全体としてはそれを使って、多少お金はかかるけれどもやるとしても、それまでの8年くらいの間は何もしないでいるのか。たとえば放送は流れないけれども、ビデオにいれれば日本中どこへだって、300科目全部でも持って行けるのだからなんとかしろという、そういう要求が一方ではあるわけです。それではビデオで学習するということがどの程度実際に可能かどうか、有効かどうか、あるいはそういう時に選科生なり、科目履修生という形で一応試験をするなり、面接授業をするなりして単位をあげるためには、実際にスムーズにいくのかどうか、というような観点で実験をしようということになったわけです。それではそういうものを共同で実験するには、相手としては、国立大学とか私立大学でも可能であるけれど、一方ではいろいろな地方の自治体というものであっても構わないのではないかという構想をもちました。さしあたって最初いくつかは国立大学でやるのがいろいろな意味でやりやすい。施設という意味でも多少の余裕は有り得るし、それから面接授業でお願いする先生もいらっしやると。そういうことで、一回目は広島大学ということになりまして、実験をしているところです。先ほども申しましたように、一学期は7科目で、二学期は50科目でやっています。そして今予算申請しているのは、来年の一学期に、教育学部の一階のかなり面積の広いところでビデオ学習ができる場所として利用させていただいて、二学期から選科と科目履修生の学生をとるということを計画しています。それと同時に北海道地区と名古屋地区、四国の高松と九州と沖縄の5地区で広島と同じようなビデオ学習センターの

構想をたてています。スケジュールにのっているものはこういったところです。

## 6 「教育」が成立する条件——「教育とは芝居小屋」

高田？ だいぶ問題ははっきりしてきたんじゃないですか。これは学習センターというものをどういうところにつくるかという問題ですが、教育一般に関わる問題だと思います。教育というのはそこへ行ったら先生に直に会える、芝居小屋みたいなものですよ。もうひとつはさっき言ったクレジットの問題で、ある種の脅迫作用が働く。そのふたつを抜きにして教育というものはたぶん成立しないだろうと思います。学習センターというものはそこへ行ったらテレビに出てきている先生に直に会える。これは朝日カルチャーセンターにしても、百貨店がやっているカルチャーセンターにしても、そこは大衆芝居小屋みたいなメリットがある、しかもたくさんのお客がいて社交が楽しめる、そういうことでしょうね。ふたつめには学習センターで試験を受けなかったら、単位をもらえないという脅迫作用。そのふたつが作用して放送大学にしても一般の大学にしても、教育というものが成り立っているんだらうと僕は思うわけです。そういう意味でいうと、東京の周辺にある学習センターと広島は大学の中になんともなくありがたそうな感じがある、ここは公民館みたいなところでやっていると、その間にどういう差があるだろうか。ただこれは比較はできないですよ、聞いても。このところを知らない人ばかりですから。ここに来ている人は大学でやったらどういう感じがするかということはいくつかはわからない。

？ だから単純に言えば、さっき山中さんがいったように内容チェックについてはかなり比較ができるような資料ができるでしょうが、ただ若松先生がおっしゃった話が非常に重要なのですが、こういう社会教育のレベルでこれを動かし始めて、いったいどういう展開をするか。これが実はおもしろいことなんです。

高田？ そうなんです。それが第一点なんです。第二点は内容の問題ですけれど、関西に地域性というものがあるとしたら、本当におもしろいと思うかどうかということなんです。それからふたつめには社会学を専攻したらいつも同じ先生ではないかと。これは全国20万人くらい大学教員がいるわけで、そういう意味でいうと多様性というのは保障されています。けれども放送大学で、ごく限定された人の講義の電波が全国に流れるということになると、かなりいろんな反応が庶民の間から出てくる可能性が僕はあると思います。さらに、今もう民間のビデオの貸出センターというものはすごいわけです。ビデオを借りることなど全然抵抗がない。別に決まった日に見なくてもこの学習センターさえできれば、あとはビデオの貸出で単位ももらえる、試験だけ受ければOK。そういう実験は比較的早い時期にできるんじゃないですか。だから、どこかに集めるといのはなんとなく「しんきくさい」という感じになりますね。そうすると飛び級ではないけれど、毎日借りて15日間で一科目マスターする人がでてきたりね、そういう競争や、おもしろい現象がいろいろ起こりそうです。

？ そういうことを考えた方がおもしろそうです。

？ 形態としては長崎で有線テレビとかを考えたりにしているでしょう。そういったように、ケーブルテレビで流すということは、ちょっと脱線していますかね。

小尾 いわゆる学習センターというものは、東京に二ヶ所、あとは千葉、神奈川、埼玉、群馬と6ヶ所あるわけですね。そのほかにケーブルテレビを使っているのが二ヶ所あるわけです。それは山梨大学の甲府地区の学習センターで、山梨大学の中に部屋があって、そこで学生が集まって学習しています。甲府はケーブルテレビが発達していますからね。それからもう一ヶ所は諏訪地区ですね。上諏訪で、これは唯一大学との関係ではなくて、上諏訪市が持っている公民館というような施設で、諏訪地区のケーブルテレビで授業を受けています。面接授業も市の公民館に来て受けています。だから、この二ヶ所ではCATVを使っているわけです。ただなぜこのCATVの使用が可能かという点、甲府地区では一般の家庭には電波が入らないのですが、甲府地区の一ヶ所位の、少し高いところでは直接東京からの電波が届いてくるんですね。諏訪の場合も電波が届いているので、CATVではあるのだけれども、同時性を保ってやれるわけです。

？ 先ほどお話が出ました貸し出すということは順々にいろいろなことをクリアーできるという点だけけど、今の段階だと著作権その他の問題があります。

？ 著作権はどこにあるんですか。

小尾？ いろいろなところにあります。たとえば英会話の45分の中に、アメリカのテレビドラマが入って、この写真を使って…、とかいうと、出演している先生以外にいろいろな権利者がいて、それは要するに「何人の学生でどうやってやる」という条件でそれぞれビデオを貸しているらしいですね、どうもくわしいことはよくわからないのです。

山中 今度放送大学のビデオが一般に販売されますね。

小尾？ いやそれをやっている科目はテレビだと10科目だけです。その10科目というのは、僕の科目もその中のひとつですけど、著作権のようなものには全くひっかからないようなものです。つまり、僕だけが全部しゃべっているような。そういうようなことで、比較的簡単に著作権の処理をできるものを、その手続きをとって販売しているわけです。

山中 ですから、現実的には同時再送信ができるCATVの条件がないと、CATVはむずかしいと。それで、神戸の学園都市でも一回やろうとしたんですが、結局センターが持っている独自開発したものとは全然別の番組を流して実験しただけで、放送大学のビデオを流すとなるとものすごく著作権の問題があって、結局できなかつたんです。

高田 それはお金を払ったらできるという話なんですよ。

山中 そうなんです、たとえば地元の関西財界同友会なんかがボーンと出してくれるんだっただけなんです。

高田 いやそういうことではなくて、たとえば借り出すときに200円払うと、その200円を著作権に比例配分してね、ちゃんとそれぞれのところに行くようなシステムにしたらどうですか。今ビデオの貸し出して全部それですよ。貸し出し料の何円分はどこに払わなければいけないということは全部決まっているわけですよ。そんなシステムはごく簡単にできると思う。

麻生 ひと昔前の放送大学のブロック化構想は、その重装備が反対されたわけです。関東地区は重装備でやったわけですよ。あれを全国にやられてはかなわないという発想が大蔵省にあるわけです。だけど僕はそれは反対で、ブロック化構想をギブアップすると豊かな多様化はできないんですよ。多様化ではなくて、すごい格差のある放送大学の全国化になります。

山中 そのブロック構想というものを少し説明していただけますか。

麻生 やっぱりJRではないけれど、関西、関東というようにブロックをつくっていくわけですよ。それは金がかかることは確かですが、金をかけないでやろうとしても可能ですよ。ハードな面はできますよ。だってこれからは高校の進学率が減るでしょ、どこでも高校ががらがらに空きますよ。ビデオセンターの構想でも、自治体に協力してもらって、国立大学の先生を客員教授として招いてやればできます。だがそれではやっぱり、放送大学の本当の意味がないんじゃないかと思うんですね。だから衛星打上げまでの方が案外大事なんで、どうせ8年もがくのならば、建設的なものがき方をしたいですよ。ただ確かにおもしろいですよ。たとえば大阪は自治体がリードしてやり、広島は大学でやる。だがそれらが全体のポリシーの中でね、どう生きるかということを考えないとやっていく意味がないわけですね。ビデオの貸し出しとはだいぶ違う話になってしまいました。それで結局はビデオの貸し出しはできないわけですね。

若松 ビデオを無制限に、全く自由にいつでも借りられるということになりますと、今度は学習が継続しないという現象が起こるんですね。一週間に一度だけ、その場所できり講義を受けられないというシステムには、ペースメーカーという役割があるんですね。これは小尾先生が先ほど説明された広島での話ですが、そこでは圧倒的にというか、80%くらいは定時視聴の方がいい、自分自身の動機づけに役立つというんです。日程をたてられるわけです。完全に自由でいつでもというのは、むずかしいことのようにです。

麻生 なるほど、わかりました。

山中 放送大学というんですけれどね、実際に放送大学の学生にいろいろな調査をしてみますと、放送大学というよりも、学習センター大学という感じなんです。学習センターに足しげく通ってそこでビデオをじっくり見て、そこに通うのに一定のペースを自分で作って勉強していかれる人が残っていくという、そういうことのようなので、やはりメディアの一番美しい部分は放送なんですけれども、みんなが学習を継続する努力というのは学習センターを中心に営まれているなあということが、だいたいの今までの調査の結果だったんです。だからそういう意味では平成9年に星が上がったとして、それではどういうタイプの学習センターならば、関西に根付くのかというような議論をしていただくといいんじゃないかなと思います。

## 7 今回の実験はアクションリサーチである

高田？ ただね、そのときにね、最初にこう、放送大学に対するニーズ調査みたいなことがあるんだとおっしゃいましたけれどね、教育とか情報とかに対しては基本的にはニーズはないと思う。供給されたときに初めてニーズが発生するとすれば万々歳、発生しなかったらそれはもう、なかったのと同じことになってしまうんです。

山中 おっしゃるとおりです。

高田？ だからその放送が始まった時点でね、初めてどういうニーズがあるのかなのかということがわかる。それを先取りした時に、こういう番組を放映してみんなが喜んで見るだろかということの評価は今度のプロジェクトでもできるだろうけれど、ニーズ調査ということでしたら、たぶんニーズはないという結論きりでないですよ。放映された時点でね、しかもそ

のあとちゃんと学習センターへ行けば、テレビに出ている先生に会えるかもしれないわけですよ。毎週そこへ行けば仲間がいてそのリズムができてきて、そこで初めて、教育に対するニーズというものが発生してくるんだらうと思うのです。

塩原 そのニーズがあるかないかというものはわかりませんが、最初山中さんや広瀬さんからこの件に関して伺ったときに、これは厳密な意味でリサーチでもないし、実験でもない。ましてやマーケティングの動向予測調査なんてことはできないんで、これはもう最初からアクションリサーチです。これをやりながらどういうタイプの学習センターが必要かということを探求して、学習センターをつくる方向に働きかけていくというのが、このリサーチの正体であると僕は最初から受けとめていましたね。ですから、山中さんが放送大学の学生に対する調査と受講生に対する調査とを比較するとおっしゃっても、その辺は僕はあまり期待していません。そういうことよりも、お金がありしだい、京都でも、神戸の西の方へでも働きかけて、エリアをひろげてほしいと思います。おそらくだいたいの受講生の方々は放送大学が動き出せば、かなりそれに対していろいろな形で関わってしてくれるんじゃないですか。コミュニティーのリーダーが来てくれたりね。だいたい、大阪の紀ノ国屋のような大手の本屋でも、放送大学のテキストのコーナーはありませんでしょ。また関西の大学生に放送大学を流すといっても何のことかわからないでしょう。ましてや一般の、大学をはなれて何年も経っている人達にはわかりませんよ。それから広島のようにはっきり放送大学のビデオセンターが目の前にあればまたそれなりの、今高田先生がおっしゃったようにニーズも出てくるんでしょうが、今はニーズなんていえないような状態ですよ。だから、アクションリサーチですよ。

高田？ そうですね、それでどういう戦略をたてていくかですね。僕がおもしろいと思うのは、大阪だったかな、そのセンターの常連さんが今回のプロジェクトの実験講座に応募しているということですが。

山本 ある程度いるということですがね。

高田？ だからこの機会に、そういう日頃の公民館なりがどういう使われ方をしているかということと、この実験を発表したときにどういう反応があったのかを、かなりきめ細かく調べたらいいと思うんです。池田市の場合は男性が多くて、日頃の活動とはだいぶ違うんだというご指摘がありましたね、そういうところをかなり細かく見てみれば、ひとつの実験結果ということからいうと、おもしろいことが読み取れるかもしれない。今回の実験は丁寧に実態をほごしてみるとおもしろいかもしれないですよ。

山中 ちょっと気になっていますのはね、放送大学のビデオ学習センターとして、広島、北海道…とあがっていましたが、関西地区が抜けていますでしょ。それで公共教育、特に通信教育なんかを考える時には、東京と関西というところがそのニーズですよ。だいたいこのふたつを押さえていないと日本の全体を考えたときに片手落ちになるのに、それがここでは片方が抜けているというのは、そこに別の構想があるのかなあというふうに思えるのですが。

高田 ちょっと無理したら行けるところに、学習センターがあって、放送センターもあって、番組もそこで見れると、そういうような方向を考えてほしいですね。

山中 話の方向は、関西としてはどういう学習センターを求めるのかということにどんどん収斂してきましたが、そろそろ時間になりました。では次回は、関西としてはどういう学習セン

ターが望ましいのかということで、みなさんのご意見を頂戴したいと思います。また、各実験地を回りたいと思いますので、今度は池田市でお願いしたいのですが、今日はどうもありがとうございました。

### C 第3回研究委員会における議論

[内容]

- 1 関西地域の特性と学習センター像—その財源について
- 2 地元のニーズをつかんだ学習センターはどうすれば可能か
- 3 関西の特性を活かした番組作り

#### 1 関西地域の特性と学習センター像—その財源について

山中 では、最後の話題に参りたいと思います。前回後半部分でどういうふうな学習センターを関西は求めているのか、その具体的なイメージといったところに話が進みましたので、今日はその続きで、関西地区のニーズを組み入れた学習センター像のようなものを、是非聞かせていただきたいと思います。

麻生 一人当たりのコストはどのくらいかかっているのですか。

正田 私の方は市費で240～250万くらいになると思うんです。それに対して150万くらいです。平成二年度になりますと、だいたい今120～130万を要求しています。

山中 センター側ではだいたいどのくらいかかったんでしょうか。

篠田 ビデオのダビング料とかビデオ代が約30万くらいです。50巻までは研究として無料で使えるのでその範囲でダビングしております。その他に教科書が平均2000円前後が280冊です。あとは通信費とかの郵送費で、全部で100万前後になると思います。面接講師の旅費とかを加えともう少しかかります。目に見えないものがかかりかさんでいます。

山中 ありがとうございます。遠隔教育一般の話をしましても、かなりかかるということですね。衛星を使って放送を流しますと、一人当たりの学生に対して国立大学の工学部並に経費がかかるという試算も出ています。それに比べるとビデオ学習センターはどうなのでしょう。

篠田 ちなみに放送大学が使っているビデオブースは一人分が30万です。ですから、10人いれば、ブースだけで300万かかります。大型テレビを使っても約20～30万です。広島の場合は15台あるので、ブースだけで450万かかっています。それから放送大学のビデオ学習センターの場合は実験研究ではありませんので、実際にそこに置いてビデオを見るだけで著作権料がかかります。金額は今ちょっとわかりませんが。

若松 池田ではどのようになさっているんですか。

正田 池田の場合は図書館にブースが10台あります。

#### 2 地元のニーズをつかんだ学習センターはどうすれば可能か

麻生 実際におやりになって自治体としてはどうお考えですか。



正田 今さまざまな社会教育活動をやっておりますが、池田の考え方としてはできれば放送大学を独立させたいということがあります。ここでも各種大学講座をやっておりますが、それをこの放送大学とドッキングさせて移行して、ある程度学習すればセンターへ行って受験して単位が取れるという形にしたいわけです。そういうふうにしなれば、学習そのものが果てしなくなってしまうわけです。ですから相当な経費を投入してでもそうやっていきたいと思っています。ただかなりの経費がかかるようですから、対象の自治体を府や区が補助金等でバックアップするような制度があればと考えています。それから面接講義の講師、教授陣を大学とタイアップしていかなければこういうものはできない。自治体単位のものではなくて、いろいろな学術機関、あるいは国、府、区などの行政が一体となってやれないかなと考えています。

麻生 ネットワーク作りということですね。

正田 今回、センターの方から派遣していただきました講師の方がおられますし、館内にもたくさん専門のソフトの用意もありますので、今後もこの基盤を活用したいと思います。それからもうひとつは、平成9年の打ち上げまでは待てられないということがあります。これは単に池田市だけのことでなくて、近隣都市も含めて、なぜこういうことをするのかという姿勢をもっともっと多くの区民の人達に知っていただいたら、もっと多くの利用があったのではないかと思うんですね。我々が想像している以上にいろいろな方が関心を持っていらっしゃるし、参加しようという意欲があるんです。私たち個人としましては、今回の受講者がきて来年度もやるのならば、広島でも千葉でも行って、テキストを揃えて単位を取れるようにしなければ、住民は満足しないだろうと思います。

麻生 極力ご希望に添えるようにしたいと思います。

正田 もうひとつは、今回の実験には池田の現職の小中学校の先生が熱心に参加しておられるんです。これはある意味では先生の研修のカバーをしているという側面があります。ですからこういう機会は大事なことだという気がします。

麻生 確かに初任者研修の問題でも、退職した先生に教えてもらえばかりでは、遅れてしまいますものね。

正田 男女に関係なく、若い先生も校長先生も教頭先生も、机を並べているわけです。

山中 池田市の方から、地元の学習ニーズがかなり高いというお話をいただきました。平成9年度はかなり先の話になるんですが、関西地区のニーズがどういうふうにあるのかということは考えていきたいと思っています。イメージはそれぞれの有識者の方々からも伺いましたし、受講生の方々からもこんなものが欲しいということは伺うんですが、この委員会の先生方にも少しご討議いただきたいと思っています。では、塩原先生は放送大学の方に既に講座を持っておられますので具体的なイメージを伺えましたら。

塩原 やはり放送大学の受け皿になる学習センターのベースは“コミュニティ”になると思うんです。ただし今、コミュニティはずいぶん広がって開放的になっていますから、ひとつの自治体だけが市民をうまく吸い上げて学習センターに引きつけるということはたいへんむずかしくなっていると思います。おまけに視聴者の方がきわめて高度な選択性を持っていて動機もますます差異化しています。池田市の場合のように自治体の行政が核になって人を集める形はひとつのパターンとして重要です。しかしそれとは別にもうちょっとボランタリーなネットワー

キングが今は非常にたくさん存在していると思いますね。そういう非常にたくさんのネットワークキングは誰からも指図されたわけではなく、自発的にたくさん登場したわけです。そういったようなところに学習センターとか放送大学の情報が広くゆきわたれば、そういうネットワークキングそのものがまとまって学習センターと結びつく可能性があると思います。女性の場合はそういうことです。最近サラリーマンの世界では「勉強会」というものがはやりになっていて、勉強会に行かなければ乗り遅れるといわんばかりの勢いです。「最近のサラリーマンは親友がいなくて、勉強会の知り合いばかりいる」という皮肉もいわれているくらいです。しかしそういう勉強会にはボランティアな部分がたくさんあります。先ほども企業内教育と結びつけたプログラムがあるといいという有識者のご意見もありましたけれど、そういう自発的な勉強会みたいなものが学習センターとタイアップするということも大いにあり得ると考えています。だから自治体と放送大学をネットにする、かなり制度的なネットワークの話と、きわめてボランティアなネットワークの話と二重の可能性があるのではないかと思います。

山中 ボランティアなネットワークというのは「市民の自発的な」ということですね。

塩原 ええ。1983年でしたか、国民生活審議会の総合政策部会というのが「自発的社会参加活動について」という報告書を出しています。それを見ますと信じられないくらいたくさんものが現に動いていますね。その中には単に学習とか教育とかいうことではなくて、保健とか生活とかいろいろなことがあると思いますが、そういう課題は当然、放送大学が提供しているものと重なってくると思います。ですから参加意欲を刺激して、それを学習センターの方へ誘発していけないかと思います。全般に社会的なそういう意味での参加意欲は上昇していつている時代ですので、割と楽観できると思います。

山中 ありがとうございます。お話は自治体・大学・放送大学という制度的なネットワーク以外にボランティアなネットワークがあって、これをどういうふうシステムの中にビルドインしていくのかということがひとつの課題になるということになるかと思います。こういうボランティアなネットワークというか、「自然発生的な学びの群れ」という言い方をしている方もおられるのですが、具体的にイメージを描くとすると関西ではどういうことになるのでしょうか。たとえば池田先生、こういう市民的な学習や活動におくわしいように伺っておりますが。

池田 女性問題なんかでは今たくさんグループができてきていて、関西でもここ1～2年行動計画を把握するというので調査もしていますが、個別にあったものがネットワーク化されつつありますね。

高田 大阪の市民大学センターというものは全く南の方にあって、喫茶店か酒場のようになっていますよ。そこでは連続講演会みたいなものをやっていますが、終わったらどんちゃん騒ぎです。そういうグループがありますね、全くボランティアですが。

山中 どういった方が来ておられるんですか。

高田 それはいろいろです。サラリーマン、ビジネスマン、奥さん、OL…。だいたい50～60歳くらいですね。

池田 一般教養的な講座にサラリーマンの参加が非常に多くなってきています。200人くらいの規模でやっても結構、商業ベースに乗せられます。また、カルチャーセンター的な趣味の学

習とか教養の学習とは違って、課題学習のようなものは現職教育との接点があると思います。こういう話があるんです。大阪府下に解放運動の方が建てた青少年会館がたくさんあるんですが、そこの指導員の研修をする機会がほとんどないので、青少年心理とか社会教育法に関する勉強をしたいという要望があるんです。講演では一回限りで終わってしまうし、一年に一回か二回くらいのもので、そういう人達が継続して学べる機会がないだろうかということなんです。10人から20人くらいの人達なんです。あるいは保母さんが、幼児心理とかこどもの料理とかを学ぶ機会がほしいということです。テレビで捜せばあるのですが、こういったプログラムのようにまとまったものがなくて、継続学習にならない。あるいは学校のPTAでも家庭教育学級で部落問題などもやるんですが、一回限りのことで終わってしまうので、毎年同じような話を繰り返し聞くことになってしまうのです。ですから部落問題学習でもこういう20回くらいのプログラムがあって、誰でも利用できるようなになれば、継続性がでてくると思うのです。こういうふうに課題学習というか、そういった面でもビデオを揃えておくというのは重要なのではないかと思います。

山中 具体的なニーズに対応した形のプログラムを用意しておく、マスのニーズというのではなく、個別化されたニーズをしっかり押えておくという、そういう形ですね。先ほど女性学の話が出たんですが、私は昨年、ニュージーランドのマッセイ大学へ行って参りました。ここも国立の遠隔教育の通信教育制度を持っていて、放送も行っています。子育てを終わってこれからもういっぺん社会へ出ていこうとする女性が、女性学講座をまず取ることによって、社会化のプロセスをもう一回歩むという、つまりこの講座を聞いてから社会に出ていくというふうな受講者が非常に多くて、遠隔科目の中に女性学が入ったということを知りました。それからニュージーランドはマオリ族が人口の10%いるんですが、そういった人達は辺境に住んでいる方が多くて、遠隔教育で学んでおられるので、マオリ学の講座もできたという話を聞いています。ですから放送大学がマス志向ではなくて、むしろ、はっきりとしたターゲットを決めて、たとえば遠隔地に届けるといような、出てこれない人達のための遠隔教育としての機能がまた別にあるのではないかと考えています。広瀬さんは障害者にとっての遠隔教育とは何かということをごのこのところずっと研究しておられるので、ここでちょっとご意見を伺えますか。

広瀬 私は去年あたりからなんですけれども、視覚障害者の方達を中心に個別にインタビューをして、どういうふうになっているのかということ調べてきたんです。たまたま去年イギリスに行きましたときに、オープンユニバーシティを見学してきました。ここは非常にたくさん障害者を受け入れていて、たとえば視覚障害者にはテレビをすごく活用しているのです。日本でもいわれていることなのですが、視覚障害者にはテレビは音というメディアですのでとてもいいのです。印刷教材は全部BBCとタイアップしてテープ化して送っています。それから聴覚障害者にはテレビの台本を印刷して送っています。そういう意味で社会的にも社会構造的にも今まで高等教育に届くことができなかった人達に対して非常にいい配慮をしています。日本でも音声多重とか手話を入れるとかといいますと非常にお金がかかるようですが、たとえば学習センターごとにテープを置いておくとか、台本を置いておくとかすれば、放送大学は4年に一度の教材作りですので、4年間はそれを回してずいぶん使えるし、ダビングすることなんかは今は非常に簡単なことですので、ほんの少しの眼差しの変化だけで、だいぶそういった層に

もくいこめて、日本の障害を持っている人達が高等教育に達するのに非常にいいアクセスだと思えます。

山中 ありがとうございます。関西、特に大阪圏で考える場合にマイノリティーの問題をどうしても考えておかないといけないと僕は強く思っているんです。この間他の用事で部落解放研究所の友永先生にお話を伺ったのですが、先生のお話ではまだ高等教育を考える段階ではなくて、今のところは中等教育の充実ということをメインにしているということでした。それでも高等教育に向かって今取り組み中ということで、遠隔教育についてはまだ具体的な意見は持っていないけれど、注目しているというお話でした。池田先生はご専門の関係上いろいろくわしいと思えますので、何かコメントをいただけますか。

池田 一般的にいつて放送大学でやっている講義の内容を理解できる人がどれだけいるかということになりますと、ちょっと少ないだろうと思えます。たとえば「被差別の歴史」とか「被差別の生活」というシリーズで二時間くらいのビデオがあるとするとすごく利用し得ると思えます。そういうものであれば彼らの生活に身近なわけですから。

山中 そうなりますと、どうも東京発信のね、東京に制作機能を全部集中させて、それを全国的に試験的に流すという、何かこう第三世界の国民国家のモデルをこの多様性の社会の中でもういっぺんやろうというような今のやり方はちょっと違うかなと私の中では思うわけです。その点、関西文化にくわしい高田先生はどのようにお考えですか。

高田 別に詳しいことはないんですが。番組を関西で作るのは僕もあまり見ていないのですが、かなりタイプの違ったものができるだろうと、そういう感じはありますね。僕らでいつてもそうですし、団地の奥さん方でもそうなんですが、その人達の生活に近いものを、今自分達の生活で感じているようなものを作れば、最初は受講者は少ないでしょうが、その人達にとっては非常に身近な問題であるし、利用価値が高いものであるわけです。本格的なものを作ろうとすると金もかかるでしょうが、講演風なもので、30分くらいのビデオでいいと思えます。図や絵を時々写しながらね。そういうものでも一日一回で20回あるような内容を設定して系統的なものにしていけば、利用価値はあると思えます。

山中 そうしますと関西での学習センターというように個別化しなくても、関西での放送大学の機能の中には「発信」の部分が必要という位置づけになるのでしょうか。麻生先生、今までの経過に詳しいので、先生からコメントをいただけますか。

麻生 同じ公共的な放送大学でも基盤が違うわけです。それから文化の問題。特に関西では人権の問題は重要です。そういうことだけでもひとつの番組ができるでしょう。

高田 それからこれはこの前も多少言ったと思いますが、もうひとつの問題は放送大学の先生の数もものすごく限定されているということです。これで全国放送をすると、たとえば「政治学」だったら誰かの政治学だけが放映される。しかも教科書のことを考えると巨大なる利権が集中するわけです。これはNHKでも同じ問題があるでしょうが、そういうところを政策的に分散させていくということがどうしても必要だと思います。その場合学術的なものでは悪花が良花を駆逐するという面もなきにしもあらずなんですけれども、長期的にみればちゃんといいいものが残っていくということを考えると、一ヶ所で非常に限定された人が作っていくということは、学術的であればある程よけい危険です。他方でこの前も言いましたように、なぜ学校と

同じように人が出てきてしゃべるのだろうと思っては、内容的なおもしろさみたいなものも問われていると考えているんです。制作面では多様性を生かせるように、制度的に保障する必要がどうしてもあるという感じがしますね。そういうものとセットにしないことには、長期的には非常にゆゆしき問題が起こってくる。これは内需拡大、プラスになるわけですから、さしあたって関西、京阪神ということになるのかもしれないけれども、できれば福岡とか九州でも。ここにもたいへんおもしろい人がたくさんいるし。現に僕もいくつか番組に参加したことがあるんですが、プロジェクト方式で作るということができるでしょう。毎回出てくる先生が違うという講座だって作れると思うんです。そういうやり方は対談という形で行っている方もいらっしゃるようですが、そういう可能性を作りあげていく方法がどうしても必要でしょうね。

山中 伝統的に関西は民間との提携がうまくいって、株式会社方式で行っているということもあります。よかったかどうかは別として関西新空港もそうですし。東京は全く文部省に負ぶさっているわけなんです、そういう民間活力の導入のようなことはどういうふうにお考えでしょうか。

立木 何かテレビ番組を作るといってスタジオという器があって、カメラマンとか専任のスタッフがいないとできないというような先入観があるようなのですが、実際には東京とか関西で誰が作っているのかということ、プロダクション・カンパニーというものがあつて、スタジオは時間で貸しているわけです。その時にカメラマンとか調整の人とか照明の人とかは時間契約です。そうするともっと身軽に、地域ベースでも基本的にはプロダクション・カンパニーのようなものがあればいいんじゃないでしょうか。どの地域にも放送局というのはあるわけですから。学習センターの中にそういうプロダクション・カンパニー的なプロデューサーとか、機材を調整するとか時間や人員を調整するとかそういうような機能を持たせるといいと思います。それから先ほど自治体単位で講師を捜すのは大変であるというお話も出ましたが、タレント・エイジェンシーというような場所を作って、電話すればそこで要望に添ったタレントさんを派遣してくれるようにできるといいと思います。もうひとつは、できればプレイガイドのようなもので、どの地域に行けばどういうようなものを行っているかということがわかるといいと思います。関西圏というところはどこにいても一時間半あれば行ける地域なので、そうすれば身軽に動けるんじゃないかと思えます。このように器というものにあまりこだわらずにまず企業としてそういうグループを作って、時間契約で場所を借りてやっていくようにすればいいのではないかと思います。それからコミュニティーベースという時に、社会教育との関係で地理的なこともでてきたんですけど、継続教育というと先生方はほとんど継続教育なんです、専門職能集団というイメージです。そうなると同じ放送教育でも先ほどおっしゃったように、本当に先生方用のインサービス・エデュケーションのようになるとか、保母さん達のための社会福祉講座のようなものとか、そういった対象を限定したインサービス・エデュケーションといったものが是非必要でしょう。そうすると、タレントの質は各自治体でどれだけのタレントのプールを持っているのかということにかかってきますし、どれだけ質のいい講座が開けるかということは、質のいいタレントさんをどれだけたくさんかかえているのかにかかってくると思います。そういう意味でも、何かそういうタレント・エイジェンシー

みたいなものがひとつあってそれが情報センターになってリードしていけるとおもしろいと思います。

山中 関東地区で考えてみましても、放送大学に登録している人は、人口二千万人に対して二万人ですので、ほんの0.1%なんです。ですからこれはマスマーケットではなくて、非常にセグメントされたマイノリティマーケットではないかと思います。そうすると、ある特定の科目についてもマスというものを考えないで特定のマーケットにぴちっと当てはめれば、そこだけで全員受講するかもしれない。そして地域的な広がりがあるので、ある一定の受講生がカバーできる。それが遠隔教育のもうひとつの使い道ではないかなと思います。特に遠隔地にある、たとえば老人ホームというのは山の中にあったりしますが、そういうところの職員とか老人に向けての「生きがい講座」とか「老人介護の講座」をやっていくとか。そういうところでマーケットを拾ってたくさん集めていけば、それだけで200から300の受講生が集まるのではないのでしょうか。そういう形のマーケットリサーチは前例がなく、伝統的な教養学士として、現代の教養を得るにはというところから発想されているのですが、そうではなくてマイノリティマーケティングみたいな発想こそが必要なのではないかと思います。特に関西は地域的に多様性が高いのでそういうものがより必要になってくると考えています。

### 3 関西の特性を活かした番組作り

高田 それから番組の作り方が、今はどちらかという日本では印刷バイタリィーの著者がものすごく偉いわけです。実はそういうことではなくなっていると思います。この人とこの人とこの人とを組み合わせたらそれぞれの人の言っているのとは全然別の意味がそこに生じてくる、そういう番組の作り方というのを編集者の方はまだやっていないんですよね。作り方についてはそういうふうなことも充分これからは考えられるのではないかな。編集者というのは自分で書かないですけれども、人の組み合わせを考えて、全然別の意味をそこから引き出すみたいなことができるでしょう。テレビ番組の場合はものすごくそれが大事だと感じています。

山中 アンソロジーというような、そういう技ということですね。

立木 講師の役割というのはプロデューサーというか、本当は製作するときがいちばん大事なんですね。

高田 そうですね。そこで受講生のニーズとも一致させられますしね。なぜ関西で、東京の山奥から新宿までをヘリコプターで追っていくシーンを見ていかななくてはならないのか、沖縄の住民が東京を見なくてはいけないのかというような意見もありましたから。その後にある程度の生活関連情報を入れないと、いわゆる教養主義ではない人達は受け入れないということですよ。

立木 小回りが利く地域内で、たとえばユーザーがこんな感じのものを作りたいという全体の構想を出して、それを実現してくれるような形でプロのスタッフがかちっと捉えて構成して、あとはカメラマンがいれば、だんだん地元ペースでできていくと思います。

高田 プロデューサーはいるんですか。プロデューサーシステムをとっているんですか。

山中 主任講師がプロデューサーだというイデオロギーなんです。

高田 そこがもう根本的な間違いですね。

麻生 しかし、教養学部としての設置基準が明確にあるわけですから、自由化には自ずから限度があるでしょう。ですから、さっきのご意見は、現在の放送大学に関する限り、無理なのではないかと思います。つまり、どうしても主任講師が主導するというシステムは避けられないのではないのでしょうか。ただ、教養学部しかない放送大学では、一般大学の補完的な役割も担えるよう、少し性格を変えてやることは必要でしょう。日本の大学というのは文化系が多くて、職業訓練もあまりやっていないのですから。それから現在のもうひとつの問題は、18歳人口の減少期に放送大学がどう対応するかということでしょう。

山中 先生はその辺のトレンドをどういうふうによんでおられますでしょうか。

麻生 今より5%くらい進学率があがれば、18歳人口の減少期でもわが国の高等教育制度は対応できると思いますが、そうでなければ、ステューデント・コンシューマリズムが強まり、カリキュラムで人気のない大学は進学希望者が減るでしょう。そこで、これからは一般大学も成人学生をどんどん入れる方向に進むでしょうから、放送大学は強敵を迎えることになるでしょう。ですから、現在の教養学部の設置基準を変えて、もっとプラクティカルな科目も教養学部で認めるように変えていくべきだと思います。

山中 放送大学の設置基準の枠組み論にまで話がきてしまいました。そういう制度的な制限をどう開くかというような、関西地区の問題を考える以上の問題が出てきたように思うのですが、他の先生はどうお考えになりますか。

若松 第一印象的にいいますと、関西地区はプラクティカルな、実学的な志向がかなり強いのではないかと思います。従って今のような教養学部の放送大学のプログラムでは満足できないようなことになるのだと思います。その場合にはすぐに変えるわけにはいかないでしょうから、個人的なものです。折衷案としまして、全国的なネットになった際に、教養学部的なものは全国一斉に流し、各地域の特性のある番組というのは各地域で自由に作って、放送大学の番組と互いに補い合う形で独自に特別講義として流すことができるんじゃないでしょうか。あるサブジェクトの内容そのものについては、番組の作り方はモノポリーにならないように気をつけて、多様にすべきですから。そうできるようなシステムになるといいと思います。教養的な番組の合間の時間的な隙間を埋めていくということで補っていかれると思います。先ほど話にしましたが、地域社会を巻き込んだ形での学習センターのネットワークというのは、やはり社会教育なしにはできないだろうと思います。特に池田市は非常に熱心で驚きました。関東のいくつかの社会教育に接する機会がありましたが、必ずしも放送大学と協調していないのです。放送大学は放送大学である。「県民大学」と称するものが知事の肝入りでこの頃できていますが、その県民大学は、ライバルとして放送大学を捉えているようで、放送大学のいろいろな情報が流れていってもどこかに積まれたままなのです。放送大学が発足する前に学習センターの所長になる予定の人が東京都下の全図書館を回ったそうですが、放送大学の資料をほとんどのところで掲示していないそうです。ですからライバルとして捉えているようではネットワークは進まないんですね。池田市のように放送大学の番組を利用して自分達の社会教育をふくらましていくというような捉え方で協調できれば、発展していくと思います。ただやっぱりそこがむずかしいところで頭ごなしに言ってこれを使えということで行くと、中には必ず反発が起こりま

すしね。

塩原 教養的な科目だけを全国一律に提供するという行き方もありますが、長期的にはやはり大阪あたりをひとつの拠点にして自主的に番組を作ることも必要でしょう。当面は、設置時のいろいろな制約がありますから、先ほど私が言ったようなボランタリーなネットワークとミックスする可能性はないかと思います。つまり、今日の学習者の特徴として、音声と映像だけをその通り受け取るという気分は希薄だと思うんです。そのような一方向のやり方ではそれを聞いた方が押し返すというのはなかなかむずかしい。押し返すためには押し返すだけの、受講生同士のサイドのインターアクションが必要です。最近、いろいろなセミナーを商品化してそれを提供して若い人を集めるというのがおおはやりなわけですね。それは自分自身を発見するなどといった、いくらか宗教的なファンクションもあるみたいです。そこでは、チューターと受講生が絶えずインターアクションしていて、それが活力になって人を引きつけているわけです。放送大学にはそれがないわけで、ただ音声と映像だけに頼るといのは弱い。受けるサイドが積極的に参加する体制を作るためには、やっぱりネットワーク、つまり仲間のインターアクションがいるんじゃないかと思います。

山中 有識者インタビューの中で、「出前をするくらいのつもりでないと入らないのではないか」という意見をおっしゃっている方もおられました。つまり、ある特定のグループがに合ったものを提供できるような、そこまでアウトリーチをしっかりとしないといけないのではないかと、開けていていつでもおいでというのではだめなのではないかと、そういう趣旨だったと思います。はやりのことばではネットワークングというのでしょうかけれども、なかなか市民の生々流転のニーズというのは捉えにくいと一方では思ったりもします。学習サークルでは非常に長期間続いているところもありまして、そういうものがやっぱり行政の持っている講座でも歴史があつたりする。先ほど高田先生がおっしゃった「飲み屋の大学」というのもそういうものになっていくのではないかと思います。そういう関西ならではの土着のネットワークがあると思いますので、そういうものをうまく放送大学が吸収できればと考えているわけです。8時までと申し上げましたのに、先生方のご厚意で議論を長引かせていただきました。ありがとうございます。最後に、次回のスケジューリングをさせていただきたいと思います。今回は提言をまとめていただくという形にしたいと思います。それまでにインタビュー調査と、今までに出ましたいろいろなご意見もまとめておきます。そうしましたら、一応3月の30日ということでお時間をいただいております。よろしくお願ひします。

#### D 第4回研究委員会における議論

[内容]

- 1 放送大学は地方自治体とどう連携していくべきか
- 2 運営体制はどうあるべきか
- 3 地方自治体が運営主体となる場合、単位の認定はどうするか
- 4 地域の図書館をもっと活用できないか

- 1 放送大学は地方自治体とどう連携していくべきか



山中 さて、次に資料1を見て下さい。資料1・2・3はそれぞれ「研究委員会の議事録」、「有識者インタビュー」、それから今回の受講生に対する「意識調査の自由記述」の部分です。これは関西地区に放送大学が設置される場合のセンターに必要な条件、願望等、出されたものを全部拾いだして、少しまとめたものです。ちょっとご覧になっていただけますでしょうか。これについてご意見とかご質問とかございますか。立木先生、いかがですか。

立木 非常に参考になりました。

麻生 資料は非常に参考になりました。しかしいちばん大事なことは、これは一種のアクションリサーチだったので、実際に携わった方のご意見が非常に重要で、われわれの意見とか有識者の意見とかよりも大事なものが含まれていると思います。たとえば池田、尼崎、大阪府と、同じ関西といっても状況が全然違うところでやってみて、どういう条件が揃うかとか、どういう支援体制ができるかとかいろいろ感じていらっしゃると思いますので、そういうところをきちっと把握して今回の報告書に入れて残していくことが必要だと思います。実際に担当された方のご意見が少なすぎるということを感じました。それから放送大学の場合でも、エクステンションを全国化する前にやる場合、特別なカテゴリーを整えて、たとえば社会教育の中でやるような気があるのかという問題です。ですから文部省というか放送大学自身のポリシーの問題が大事だと思います。それからブロック構想ができたり、実際に放送センターができた場合、自治体のものと併存していくのかというような問題も担当する人たちの意識によってずいぶん違ってくるのではないのでしょうか。

山中 地方自治体との連携の中で放送大学の全国化を考えて行くというような方向は、まだ打ち出されているわけではないのです。現在、地方の学習センターでは、ビデオセンターという形で行っていますが、全部、国立大学との連携です。これまで地方自治体との連携で行ったものは、甲府と諏訪ですが、どちらもCATVで電波が入りまして、同時再視聴ができます。ですからビデオを搬送する必要が全くなくて、会場だけお借りするという形をとっています。面接講師の確保は山梨大学と信州大学のご協力で行っています。地方自治体との連携という形のアプローチが、今後実験で留まるのか、それとも正式に根付いていくのかということに関しては、今回のこの実験での報告に負うところもかなりあります。今回のビデオセンターは、初めて放送大学とは直接関係なく行ったわけです。ですから今回の報告もひとつは関西のニーズを調査するということがあります。もうひとつはそれぞれの自治体で実際に運営を担当された方々に費用、人手等、細かい項目についてもお伺いしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。90年度は今回の関西地区の実験を行いました、この三ヶ所の分析のための予算を計上しています。

若松 今回のアンケート調査では「交通の便のよいところにセンターを設けてほしい」という意見が多かったようですが、去年広島で行った調査の施設に対する感想とは違うようです。その時は都心から多少遠くても、「学問的な雰囲気のあるところがいい」という方が8割くらいでした。都心のショッピングセンターに近いような所に学習センターを設けるという構想に対して否定的な方のほうが多かったですね。ですから地域的にそういうことの受けとめ方が違うのではないかと思います。今回三ヶ所でやりましたが、それぞれの地域でこのような結果がで

たのですか。

山中 まだ全員の集計を出していないので、全体を反映しているとは断言できませんが。

## 2 運営体制はどうあるべきか

若松 みなさんいろいろな議論があると思いますが、本音のところでお伺いしたいのですが。地域の自主的な運営による生涯学習講座と放送大学とがどうかかわりあいを持っていけるのかということです。

山中 今までもすでに本音の発言をみなさんなさっておられると思いますが、さらに突っ込んだ話し合いをしたいと思います。今回の半年間の講座をやっておられて、大変だった点とか、こんな意外なこともあったとか、運営上こんなポイントで大変だったとかいろいろあると思いますが、その辺をお話いただきたいと思います。

杉田 今までの社会教育の経験からでは、15回もつかどうかということがとても心配でした。ところが今回の実験は、案外最後までつづいたなという感じです。私どもではチューターをつけたからかなとも考えています。でも他のところでも続いているようでしたら、チューターをつけただけの成果でもなさそうですし、その辺をどう考えたらいいのかまだ分析していません。それから夜の講座ですが、ここでも冬場という最悪の条件にもかかわらず、最後まで続けました。この辺もまだどういふふうにかえたらいいのかわかりません。案外最後まで続いたというのが本音の感想です。

山中 運営体制の方は、今回はこれ限りということではじめはお考えになっていたでしょうが、もし継続するという事になった場合はかなり無理があるとお考えですか、それともこの程度ならやれますか。

杉田 受講者の方に聞いてみますと、「今回は地球編だったけれど、次は宇宙編もやってほしい」というような、続きをやってほしいという要望があるんです。それから一般の社会教育を受けにこられる方と層が違うのではないかという思いがあります。年齢だけで分けてみますと、高齢者ということになるんですが、その中でもやっぱり層があるんじゃないかと思います。

若松 チューターをつけられたということはどういうお考えからですか。

杉田 それはデモテープを見せていただいたときに、その限りでは15回続くかどうか不安だったからです。ここまで毎回通うのは大変なことだと思ひまして。内容的に興味をひかせるようにチューターにもっていってもらえば、15回なんとかもつのではないかというように考えたからです。

若松 チューターの方は時々解説を加えたのでしょうか。

杉田 毎回入れていただきました。「地域社会」の方は終ってから、「地球と宇宙編」は案外専門的なことばがありますので、最初の15分くらい時間をとりまして、はじめにその日の内容と専門用語の説明をしてから見ていただいて、最後にもう一度解説を入れるというような形をとりました。

山中 「地球と宇宙」の方の「地球編」では、ビデオで那須先生がお話になっている横で、先生がおっしゃっていることを絵に描いて説明をしたりしておられました。私は一回目を傍聴さ

せていただきましたが、元高校の地学を教えていらした先生で、非常にわかりやすく、ひとつのモデルになるようなチュータリングでした。

若松 非常にすばらしいことだと思います。

山中 他にはどうですか。体制としては尼崎市さんとしては無理があったでしょうか。

杉田 体制的には無理というほどでもないです。

山中 町内の反応としてはいかがですか。

杉田 これは口だけかもしれませんが、「一度見てみたかった」とか、「途中からでも見にいけるか」というようなことも聞かれました。

山中 そうですか。それでは大阪府の山本さんの方はいかがでしたか。

山本 特に運営上困ったというようなことはありませんでした。職員だけでは足りない場合は社会教育課の方から一時応援にいくというようなことでやりました。ただこの実験の始まる時が年度当初からとか、この実験に関する取り組みについての話が一年半前くらいからきていれば、もっと本格的な体制もとれたはずで、すこし残念です。広報にしてもそうですが、急に決って話が進んでしまいますと、予算的にも体制的にもむずかしい面があります。具体的にいちばん苦労したのは、部屋の予約でした。私どもでは年間契約というかたちで部屋を借りているからです。結果的には比較的うまくいきまして、「来年度もまたやりましょう」というような声も聞かれました。それから受講生は、文化情報センターで行っている他の講座と比べまして若干若い層の人が多かったようです。放送大学という名前の雰囲気につられてやってきた人が多いのではないかとも思います。

山中 今回のように出席率がいい状態でずっと続くということは新しい傾向だと感じています。

山本 こちらでは尼崎さんのようにチューターをつけるわけでもなく、ただ単に見せるだけという形で行ってきました。ただ、ここの場合は6時半から8時半の2時間の間に2科目見たい人は2科目続けてみても結構ですよという形で行ってきましたので、2科目とった人の方が遠くから来ている方でも長く続いたようです。広報的な問題としては、不十分な面もありましたが、結果的には募集定員を満たしましたので、よかったと思っています。

山中 池田の方はいかがでしたでしょうか。

正田 池田でもPR不足ということもありました。学習形態としてはチューターをつけるかどうか最後までもめたのですが、結果的にはつけませんでした。ここの場合は、個人視聴が非常に人気がありました。それから単位をとれるような制度がなければ、他の社会教育の活動とやら変わりが無いわけです。ですから今後、二年、三年と続けるのであれば、東京や千葉へ行って、試験を受けられるようにしてあげたいと思っています。ですから、学習センターのような施設を早く創ってほしいということです。ただ本年度の授業に限って言えば、これは非常に成功だったといえると思います。ただ、このまま二年も三年も続けていくということはむずかしいでしょう。これを発展させていくような社会活動への展望がなければ、市民は納得しないでしょうね。たとえば単位をとれるというようなことが必要になってくると思います。

### 3 地方自治体が運営主体となる場合、単位の認定はどうするか

山中 現在、保健体育の実技科目におきましては、一般の公共団体の社会教育の受講で単位を認定しているんです。ですから突破口は開かれていると考えた方がいいかと思います。それから実際東京学習センターに九州の人が登録されていて、知り合いの人にビデオを撮ってもらって試験だけ受けにくる人もいます。ですからそれは認めているわけです。

立木 そうしますと、関西とか各地域で地域的に展開して行って、地域特性を重視していきたいというようなことを話し合ってきたはずなのに、最終的に本音のところではやはり中央の国の施設が単位とか資格を認定するという、お墨付きがあるかないかが学生さんの意識に影響を与えるということになってしまいそうです。本音の部分では中央集権的に東京の放送大学というものでスクーリングを受けることによって初めて意味があるような印象を受けまして、なにかおかしいような気がします。地域ベースで考えていくのであれば、たとえば各自治体に大学があるのですから、地域の資源を活用するというよりはむしろ、放送大学で受講した単位が、各地域の大学でも活用できるような、「単位の互換」ということをもっと積極的に進めていくべきだと思います。私学の場合も含めて、地域の既存の大学との相互乗入れとか交流ということをもっと進めてほしいと思います。

端 今回の実験での成果は、自治体が運営主体で行ってみて、かなりの成功を納めたということだと思います。これで今後、自治体を中心になってやっていける見通しがたったわけです。評価調査を拝見しますと、受講生の方のご意見が一番説得力があると思います。ただ、最後の方の中に否定的な意見がありますね。つまり、「放送大学として自分は受講したのだから、関西の番組などなくてもよい」ということでしたよね。やっぱりこういうことは、東京に放送大学があったら、基本的には第二放送大学というものがローカルというものの中で意味をもつのかもしませんね。日本の教育体系の中では放送大学というものはナショナルな形で放送して、それを受けて各自治体がそれぞれの背景の中で第二放送大学というものを設けるといいと思います。たとえば関西では、公民館、地域の大学、産業界などが一緒になった連合体でできれば、もっと威力を発揮すると思います。たぶん、そういうものと競合して、やっていくべきではないでしょうか。一本筋で考えようというのはたいへんなことだと思います。きょうのお話を伺ってこのことを実感しました。今回の実験の成果としてあげるならば、それぞれの自治体にやっていただいたことだと思います。これでどんな効果が上がるかが見えたからです。今までとは違う実験として、非常におもしろいアイデアだと思います。しかもこれは、生涯学習社会ということからいえば、そうとう大きな道が開かれる可能性があるからです。そうして、中央と地域という問題を考えたときに、今度は自主番組を作るという方向がでてくるのかもしれませんね。それでこれを単位として認定しようか、という話になるので、やっぱりそこは二本立てになるでしょう。こういう形をとらなければ、関西風の番組はできないと思います。

若松 卒業資格としてではなくて、あくまでも単位なのでしょうか。

正田 単位を取りたいという人は少ないと思いますが、何人かいます。たとえばボランティア活動が盛んですが、そういうような時に単位が必要になってくるようですね。

端 公民館などでこういうビデオを見る場合は、チューターをつけるというのは非常にいいことだと思います。

木村 「地域社会」を受けられた方の中には、こういうフィールド調査を近畿圏で考えたらどうなるのかという話がでていました。町と村ということでフィールド調査をしていましたが、ここは町ばかりですからね。身近に比べるものがあれば、理解が深まると思います。

麻生 都道府県と市町村の関係はどういうふうに考えたらいいでしょうか。つまり、密着して行うのは市町村の方がいいですね。

杉田 一般的に、地域に密着した形で行うのであれば、市町村の行政の方がいいと思います。

麻生 チューターの問題はどうでしょうか。設備や人件費等の費用の支援として、国や県のバックアップが必要です。また、日本中に広げていくことになったら、国や県、市町村の分担方法を考えていく必要がありますね。

#### 4 地域の図書館をもっと活用できないか

立木 たとえば番組を見て、もっと深く知りたいというような興味が出てきた場合、各自治体の図書館というものをもっと積極的に利用していただくようなことも考えられると思いますが。

山中 放送大学は電波によって流される放送番組とテキストで勉強していくようなシステムをとっていますが、それだけではないわけで、インフラストラクチャーとして、日本中に書店のネットワークがあり、図書館があるということが前提となっているわけです。ですから参考書とか、関係する近接領域の入門書のようなものは全部自分でアクセスできるという前提で作られているんです。ところがこれは暗黙の前提で、実際に制度として放送大学がバックアップするかというと、それは全くないのです。ただ、学習センターには参考図書は一通り揃えています。

立木 できましたら、それぞれの地域のセンターで、その地域の図書館に受講科目と関連する図書はどんなものがあるか、そのコード番号まで資料として添えてあげたら、受講者が調べるためのサポートができていいと思います。

山中 それはそうでしょうね。東京圏では東京学習センターには放送大学のテキストに揚げられている参考文献は全部学習センターで揃うことになっているんですが、それでも実際には需要に追いつけないことが多いのです。ですから、学習センターが全国化した場合に、どんなところの人へも供給できるかということはまだ検討の対象になっていないわけです。ひとつの解決の仕方としては、ニュージーランドやオーストラリアでやっているんですが、周りには全く図書館がないような僻地で聞いている人達のために、参考資料を全部コピーして送るというような方法もあると思います。

? 日本だと著作権の問題がでてきてしまいそうですね。

山中 ビデオでもそうで、ビデオで学習センターをやっていくという場合は、全部著作権をクリアしていかなくてはならなくて、大変な作業になってしまいます。時間が迫ってしまいました。今の三つの自治体の方から指摘していただいた問題点を、90年度に入ってから分析していく過程でもう少しくわしい話をお伺いしたいと思います。そうすることが今後、自治体との連携協力で放送大学が本当に地域に展開できるのかどうかの大事な試金石になろうかと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。